行政評価結果の活用状況

令和5年5月

北九州市総務局

| 行政評価の概要

本市は、平成20年12月に北九州市基本構想・基本計画である「元気発進!北九州」プラン (以下「プラン」という。)を策定しており、プランを着実に推進する仕組みの一つとして、平成 22年度に「行政評価システム」を導入した。

これは、「計画(Plan)→ 実行(Do)→ 評価(Check)→ 改善(Action)」のPDCAサイクルに沿って、行政自ら事業等を検証し、不断の見直しを行うものである。

令和4年8月に、令和3年度実施事業の評価を行い「行政評価の取組結果(令和3年度実績)」 (Do→Check→Action)を報告したところである。これに対し、本報告書では、この取組結果を踏まえた見直し・改善内容等の令和5年度予算や事業計画における活用状況(Action→Plan)を総括的に示すものである。

なお、行政評価は、プランを構成する主な事業(以下「主要事業」という。)を評価の対象としている。

「元気発進!北九州」プランの柱	大項目	取り組みの方針	主要施策	事 業
I 人を育てる	3	10	37	111
Ⅱ きずなを結ぶ	3	1.1	4 1	133
Ⅲ 暮らしを彩る	3	9	29	78
IV いきいきと働く	4	1.1	39	96
V 街を支える	3	9	2 4	5 5
VI 環境を未来に引き継ぐ	4	9	28	5 2
VII アジアの中で成長する	3	8	20	29
合 計	23	67	218	554

2 行政評価結果(令和3年度実績)の令和5年度予算などへの活用状況

(1)行政評価結果を踏まえた事業の方向性

「【Check】評価/【Action】改善」欄に令和3年度の評価結果を踏まえた令和5年度の課題や 見直し内容を、「【Plan】計画/【Do】実施」欄に課題解決のための活動内容及び成果目標をそれぞれ記載している。

(2)「成果の方向性」と「事業費」の関係

令和3年度実績に基づく令和5年度主要事業における成果の方向性と、令和4年度対比の令和5年度事業費との関係は以下のとおりである。

(事業数)

事業費 成果の 方向性	増額	維持	減額	その他		計
拡大	9	9	3	0	0	2 1
継続	77	243	157	9	15	5 O I
縮小	0	0	1	0	0	1
_	3	1	1	2	2 4	3 1
計	8 9	253	162	1.1	3 9	554

*事業数は再掲を含む

① 成果の方向性

ア 拡大(2|事業)

成果を現在の水準より高めようとするものであり、成果目標を達成したうえで更に高い成果 目標を目指すものなど。

イ 継続(501事業)

現在の成果水準を維持しようとするものであり、そのために継続して取組を必要とするものなど。

ウ 縮小(|事業)

成果目標を引き下げるものであり、既に目標を達成したものや、事業の見直しや社会経済状況などにより目標を下げるものなど。

エ 一(3|事業)

新たに主要事業に選定された事業や令和3年度に行政評価の対象でなかった事業、及び予算 事務事業を伴わない取組など。

② 事業費の増減

- ア 増額(89事業):前年度対比+5%より大きい場合。
- イ 維持(253事業):前年度対比±5%以内の場合。
- ウ 減額(162事業):前年度対比-5%より小さい場合。
- エ その他(11事業):事業を統合・分割したため事業規模の比較が困難な場合。
- オ ― (39事業): 令和5年度の新規事業や予算事務事業を伴わない場合。

3 SDGs の I 7 の目標 (ゴール) について

「SDGs ゴール番号」欄には、事業と関連のあるゴール番号(Iつ以上)を表記。事業が主に目指しているゴール番号(Iつ)を白抜きで表記。各ゴール番号の内容は以下の通り。

(所管:企画調整局)

- ① 貧困をなくそう
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ① 住み続けられる まちづくりを
- ③ 気候変動に具体的な対策を
- ⑤ 陸の豊かさも守ろう
- (f) パートナーシップで目標を達成しよう

- ② 飢餓をゼロに
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に
- ⑧ 働きがいも 経済成長も
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ② つくる責任 つかう責任
- (4) 海の豊かさを守ろう
- (6) 平和と公正をすべての人に

- CIAL	理写	_				[Plan]	計	画	/ [Do】 実施	į						(【Check】 評価 /	/ [<i>H</i>	Action】 改善
施策番号	s	SDGs Ž	基本計画の施第	主要事業	** TO 40 101 T		事業	評価	の成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No. □	ゴール 書号 三	基本計画の施領 を構成する 主な事業・取約	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
Ⅱ-I- (4)-① 危機管		0	防災訓練の実		風水害、地震等 の大規模災害時に おける防災体制に		2,738人	目標実	3,000 人		3,000 人	3,000人							各区の災害特性に応じた訓練を実施するほか、危機管理能力を向上させるため、近年の災害事例や過去訓練等を踏		災害時の防災活動の円滑な 実施を図るため、市民、防災 関係機関、各種団体及び民間 企業等、多様な主体と連携し
理がかの			施	管理 課	ついて万全を期す ため、災害に対す る各種訓練を実施 する。	防災訓練参加人数	(H26年 度)	(績 達成率	25.6 %			度)	継続	10,697	10, 256	維持	11,050	遅れ	まえ、多様な防災訓練を継続して実施する。 新型コロナウイルス感染症防止対策を講じたうえで、例 年通り訓練を実施する。	順調	た防災訓練を実施する。 また訓練実施後は、分析及び検証を行い、地域防災計画 等に反映させるよう努める。
						地域コミュニティ が主体となって防 災ネットワークを	4地区	目標	15 坯	. IS 区	10 地区	8地区							人材育成事業について、令		
					過去の大規模災 害の教訓から、 自助・共助の力を向 上させることが 「減災」対策を推	構築し、作成した 地区防災計画策定 数 ※中期目標改訂	(H26年 度)	実績 達成	2 地区			(R5年度 以降毎 年度)							和5年度も引き続き市内の大学と連携を行い、地域防災を担う新たな人材の育成に努める。 地域で開催される防災会議		
					進する上でも必要 不可欠である。 また、「北九州 市地域防災計画見 直し検討会」の中	防災学習サポート		率目標			5 地								地域、開催される防火会職 の支援については、実施単位 を固定せずに柔軟に支援する ことで、地域の特性がより反 映された計画の策定を目指 す。		
Ⅱ-I- (4)-② 災害に	2 (みんな de Bousai まち づくり推進す 業	危機管理課	でも、イン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		0地区 (R5年 度)	実績 達成率				4地区 (R5年度 以降毎 年度)	継続	11,443	10,724	減額	8,050	順調	、。 【指標追加の理由】 地域防災力の向上を図る観 点から、地域コミュニティで の防災学習会の実施回数を指 標に加えた。		「みんな de Bousaiまちつくり推進事業」の取組を継続して実施し、令和3年度から
関情供助助る提自共意					「命を守りぬく」 ことができる自 助・共助の力を向 上させるととも に、地域防災力の			目標	60 人	. 60 人	60 人								【中期目標の変更理由】 地域防災力の向上を図る観 点から、地域コミュニティで の防災学習サポート事業の実	順調	開始した「SDGs防災サポート事業」についても、引き続き 市の広報媒体の活用を参画 等と連携して知名度を高 め、多様な主体(マンショ
識づく り					育成及び活性化を 推進する。	地域防災の新たな 担い手を育成した 人数	67人 (H26年 度)	実績達	104 人			60人 (毎年 度)							施回数を指標に加えたため、 中期目標地区数の内訳につい て変更したもの。		ン、町内会等)での防災活動の活発化を図る。
								足成率	173.3 %											-	
					大雨や台風など によって災害が発 生するおそれが高			目標	14 所		40 箇 所								事業に参加する校区数が増 加しており、地域における防		
	3 ((3)	地域と連携し た避難所開 設・運営事業	管理	まり、予定避難所	営を住民と連携し	I4箇所 (R3年 度)	実績	14 筋			98箇所 (R8年 度)	継続	12, 100	12,500	維持	11,050	順調	災意識の向上が図られている ものと感じる。 事業に対する地域の意向を 踏まえ、事業内容を検討し、		
					て行う事業を実施する。			達成率	100.0 %										更なる校区数の増加を目指 す。		

デジタル市役所推進室

						[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施	i						+		【Check】 評価	/	[A	action】 改善
施策番号	No.	SDGs 1	基本計画の施第 を構成する		事業・取組概要			評価	の成果指標((目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	_	年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO.	番号	主な事業・取終	所管 課名	事業 机粗帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法		施策 平価	(課題に対する改善方法等)
				-* . *	北九州市DX推進 計画のミッデジョタなで快まで、 で快まち、全球に向けいる。			目標		計画の着実 な推進	計画の着実な推進								各現場で自律的にDXに 組むことができるようD			
			(itaQ DX推進 事業	タル 市役 所推	でスピード感を もってDXを推盤と なる全庁的なDX人 材の育成や、DX推 進計画の着実な進	「北九州市DX推進 計画」に基づく取 組の推進	_	実績				計画の 着実な 推進	継続	30,000	5,000	減額	6,400	_	に必要なデジタル技術等 得機会の強化を図る。 民間の高度かつ専門的 先端の知見とノウハウを に反映する仕組みの構築 り組む。	な最 施策		
					捗管理、民間の知 見やノウハウを施 策に反映する仕組 みの構築などに取 り組む。			達成率)			
II-3- (2)-② 7-					本市職員の業務効率化及び新しい			目標	テレワーク の実施	テレワーク の実施	テレワーク の実施	本庁部										北九州市DX推進計画のミッションである「デジタルで快 適・便利な幸せなまち」の実
クイバス事活のという。	2		市職員のテレ フーク推進	デタ市所進	生活様式に対応した多様な働き方の能にするだった。 必要なモバイーテンの本格実施であるため、端末を調達し、テレフークの本格実施	テレワーク実施率 (各職員が月1回 以上実施)		実績	テレワーク の実施			署 け り り り り 実 80% (R7年	継続	91,527	90,977	維持	6,400	順調	時間と場所を有効活用 柔軟な働き方を実現でき 「働き方の一つ」として にむけた市役所内部での の強化を図る。	る 定着 川	頁調	現に向け、DX推進計画に基づき、市民サービスの向上、業務効率化、職員の働き方改革を三位一体で進める。 令和7年度までを集中取組期間として、全庁一体で、ま
和)の推進					に向けた環境整備 を進めるもの。			達成率	_			度)										がは市役所のDXを推進し、地域のDXにつなげていく。
					効率的で働きや すい職場環境の実			目標		ペーパーレ ス化推進	ペーパーレ ス化推進								デジタル市役所推進室	での		
	3	(U)	ペーパーレ ス・オフィス 改革推進事業	タル 市役 所推	現にむけて、モギ イルパソコンキ 活用化やフット レスパーア ドレスススレオファ オフィ直 トを見しオフィ	ペーパーレス化の 推進	_	実績				無の使 用量50% (R7年 度・R2 年比)	_	8,000	30,000	増額	5,400	_	モデル実施を踏まえたオス改革の横展開を行う。 モバイルパソコンデルした働き方によるななど、 ウペーパーレス化など、 方改革の取組の市役所内	フィ 活用化きで		
					ス改革を推進する もの。			達成率											の広報の強化に取り組む	0		

					[Plan]	計	画	/ [0	o】 実施	i						_		[Check]	評価	/	[Action]	改善
施策番号 ·施策名	No. SDG: 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業管名	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価の	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性		R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に 強化・見直 (課題に対する	亘した内容	R3年月 局施領 評価	竜 強化・見	きに向けて 見直した内容 ける改善方法等)
Ⅱ-3- (2)-④ 女性の 活躍推 進	4 8 (0)	市職員のテレ	デジタル	本本化様式側側が大きない。 本本化様式側が対き方を可能をするがある。 本本化様式側が対き方をでいます。 本本化様式側が対き方をでいます。 が表する。 が表する。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	テレワーク実施率 (各職員が月1回 以上実施)	_	標	テレワーク の実施 テレワーク の実施	テレワーク の実施	テレワークの実施	本署けレク率 80%	継続	91,527	90,977	維持	6,400	順調	時間と場所を柔軟のされている。	実現できる)」として定れ	順調	基づき、モバ 活用したテレ 柔軟な働きだ オフィス改革	5DX推進計画」に ボイル端末を徹底 ・ワー実現に向け、 5のペーレス で、働き方改革 で、働き方改革を
1			236	ワークの本格実施 に向けた環境整備 を進めるもの。			達成率	_			(R7年 度)							7,32,10 € 🖂 01			進める。	
				北九州市DX推進 計画のミッジタョンで快適・便利なまち」の実現 に向け、全庁一体			目標		計画の着実 な推進	計画の着実 な推進								各現場で自律 組むことができ				
		KitaQ DX推進 事業	タル 市役 所推	でスピード感を進盤 もためない なるで 育成 が 計 計 管理 、 、 、 い な り な り な り た り 、 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 、 り 、 、 り 、 、 り 、 、 り 、	「北九州市DX推進 計画」に基づく取 組の推進	_	実績				計画の 着実な 推進	継続	30,000	5,000	減額	6,400	_	組の必要の強高というがとなる。 一般に対している。 一般に対している。 一般に対している。 に対している。 になっている。 にな。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になって、 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 になっている。 にな	ル技術等の習 図る。 つ専門的な聞 ウハウを施第			
				見せ、いつかん 見かりついつを施策に反映する仕組みの構築などに取り組む。			達成率															
Ⅲ-I- (3)-④ 高度情	6 (1)	AI・RPAによ る業務改革事 業	タル 市役 所推	業務の抜本的改 革に取り組むた め、AIやRPA、ロー コードツール等の 新たなデジタル技	事務作業時間の削 減	_	目標実績		事務作業時間の削減	事務作業時間の削減	事務作 業時間 100,000 時間削 減	_	50,000	125,000)増額	15, 400	_	市全体の業務 にあたり、業務 問い合わせや相 を見える化し件 化を行う。 また、多くの	所管課からの 目談の進捗管理 全走型支援の引	i i	ションである 適・便利な幸 現に向け、Di き、市民サー	X推進計画のミッ ら「デジタルでた をせなまち」の写 X推進計画に基づけ ではなの働き方改き は買の働き方改き
報社会 への対 応			進課	術を積極的活用する。			達成率				(R7年 度)							る事務の集約化の作業時間の削	により市全体		を三位一体で 令和7年度 期間として、	ご進める。 までを集中取組 全庁一体で、ま
	7 0	デジタルデバ イド対策事業	タル 市役	デジタル機器の 操作に不慣れな方 であっても、デジ タル技術の活用に よる恩恵を享受で	市民のインター ネット利用率	75% (R2年 度調	標	単年度目標 なし 一	単年度目標なし	単年度目標なし	85% (R6年 度)	継続	8,000	62,400	増額	6,400	順調	デジタル・テ 強化を図るため 施してきた「テ 座」及び「デシ 会」 について、)、従来から写 『ジタル活用詞 『タル活用相詞	£	ずは市役所の 域のDXにつな	DDXを推進し、地 にげていく。
				きるよう、啓発等の取組を進める。		査)	達成率	_										助金を活用し、て実施する。				
		T4+ + -	デジ	市民サービスの向上、市役所業務			標		手続きオン ライン化の 着実な推進		対象となるでは							手続きガイトか、マイナンバ	ベーカードを			
	8 0	手続きオンラ イン化推進事 業		の効率化に向け て、行政手続きの オンライン化を推 進する。	行政手続きのオン ライン化	_	美績達	手続きオン ライン化の 着実な推進			手続き を原り オン化 (R7年度		6,000	12,500	増額	20, 950	順調	使った電子申請所の支援窓口の 民がよりオンラ 利用しやすい環 組んでいく。	開設など、市 イン手続きを	ī		
							成率	_			末)							//ai/ C V V 0				

広報室

ム報至																		
					【Plan】 言	十画	/ [Do] §	尾施						-		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
拖策番号 N	No. 3	GS 基本計画の施 ・ル を構成する ド号 主な事業・取	第 主要	事業・取組概要			の成果指標(目標・実		中期	成果の	R4年度	R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施東名	番	主な事業・取	組 所管課名		指標名等 現状値 (基準値	直)	R3年度 R4年月	E R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等
				必要な人に迅		目標	70.0 % 70.0	%										
				必要な情報を探し やすい環境づくり を進めるため、	市公式LINE配信 メッセージの開封 率 — ※指標廃止	実績	62.0 %		70%以 上 (毎年 度)									
I-I- 3)-④ 5度情		情報発信デ りタル化推進	ジェ広報	「北九州市ホーム ページ及び市立公式 LINE」、「市政だよりWeb版」等によりWeb版」 りDXを推進し、情報発信機能を強化		達成率	88.6 %				20, 000	20,000	維持	16, 725		情報の受け手に応じたタイムリーな発信と、見やすく探しやすい環境づくりを進めるため、市ホームページの改善や公式LINEの機能追加を行う。		社会・経済活動における ジタル化の動きが急速に進 する中、変化する市民ニー を的確に把握し、より積極
社会の対		業	課	する。 高齢者等 インターをない方 活用できな細かな情		目標		前年度比增			20,000	20,000	小庄] 勺	10,723		/。 【指標廃止・追加の理由】 効果分析に馴染まない指標 が設定されていたため、より 現実的な指標へ変更する。		的・効果的に情報発信する の、市広報媒体の機能充分 図る。
				用した旧釈症所で	市公式LINEの友だ ち登録者数 ※指標追加 35,34 人(R3 度)				前年度 比増 (毎年度)									
				行う。		達成率												

技術監理局

					[Plan]	計	画	/	[Do]	実力	拖							+		【Check】 評価 /	/ [<i>H</i>	Action】 改善
施策番号,	SDG	s 基本計画の施策	主要事業	** ** ***		事業	評価	の成果指標	! (目	標・実績)		成果	R4年	度 R5:	年度	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度		R3年度	R5年度に向けて
施策番号・施策名	10. ゴー番を	s 基本計画の施策 ル を構成する ・ 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度		方向票	列性 予算 (千F	額 予:		の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
I -2-				建設業の若年就 業者の減少によ り、インフラの維 持管理に関する。			目標	80	%	80 %	6 80	%								建設業の仕事体験イベント などの内容の充実を図ること で、より多くの方々に建設業 の魅力を伝え、建設業の人材		
(3)-② 技術を 技継承 る人材	1 9	明日の公共事 業を支える人 材確保・育成 事業	技術企画課	作の触もたび仕	建設業に対する関 心度 (イベント参 加者アンケートに よる)	97% (H27年 度)	実績	91	%			80% 上 (RI年 以降 年度	- 度 継 毎	続 1,9	57 1,	967	維持	5,400		確保につながるよう、地元建 設業団体と連携しながら、継 続して事業を進めていく。 加えて、市技術職が「働き	順調	建設業の魅力アップに向け、引き続き、建設業の魅力 を伝える地道な広報活動が必要であり、令和5年度も継続して実施する。
の育成				ことで、将来にわたる建設業の人材確保・育成を図る。			達成率	113.8	%											たい」仕事として選択される よう、そのイメージアップに つながる情報発信や職員の能 力開発を行う。		

					[Plan])o】 実施	i						+		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標 ((目標・実績)			成果の			事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	76.0 0 - 1 6 6 -
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事来 机恒帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					「公共工事関係部		目標	策定	「公共工事 関係部署の DX推進プラン」を い い い い い に 設定												
					署のDX推進プラン」(公表案)の 策定 ※指標廃止	_	実績	策定済			_							令和4年4月に 共工事関係部署	のDX推進プラ		
							達成率	_										ン」で設定した 成するため、以 む。 (I) インフラ[Construction)	下に取り組 DX (i- 研修につい		
					インフラDX (i- Construction) 研 修の受講者数(市 内建設業及び市技 術職員)	330人 (R3年 度)	目標実績		420 人	500 人	660人 (R7年 度末)							て、市職員・市 れぞれのニーズ 内容を検討する (2) 技術監理 研修について、	に合った開催 。 局が主催する 原則、オンラ	1	
					※指標追加		達成率目											インや動画配信 (3)技術関係所 議環境貸出依頼 よう、Web会議取 維持管理を行う	局からのWeb会 [に対応できる 環境の適切な		「公共工事関係部署のDX推 進プラン」に掲げる成果目標 を達成するため、各局が取組
Ⅲ-I- (3)-④ 高度情 報社会 への対	2 9	公共工事関係 部署のDX推進 事業	技術企課	係する部署の発 注・契約・検査等	技術研修のWeb活 用率 ※指標追加	19% (R3年 度)	口標 実績 達		27 %	35 %	50% (R7年 度末)	_	9,300	7,200	減額	8,900	順調	Web会議マニュ 行う。 (4) 令和4年度 を対象に実施し クに関するアン	アルの更新を に技術関係局 た「テレワー ケート調査」	順調	を確実に実施できるよう、「公共工事関係部署DX検討会議」にて以下のとおり取り組む。 (1) 本プランでの各取組項目の進捗状況について、ロー
応				の様々な業務のデ ジタル化をより一 層推進する。	オンライン会議の 実施率(技術関係	19%	成率目標実		32 %	45 %	70%							の結果を踏まえ果 の方に (5)技術関係 パーレスブレル う、****	的に行うためる。 る。 局でのペー 対応できるよ 端末等の適り		ドマップに基づいたフォローアップを行う。 (2) 各部署でのDX推進に係る取組について発表してもらい、公共工事関係部署にて先進的な事例を共有する。
					局) ※指標追加	(R3年 度)	(績達成率目				(R7年 度末)	-						な維持管理を行っている。 の更新になる。 なの構築が令れる なのするため、令	議マニュアル 報共有システ 14年度末に完 和5年度の事		
					テレワーク実施率 (月1回以上実 施) ※指標追加	I6% (R3年 度)	1標 実績 達		32 %	48 %	80% (R7年 度末)							業費については 【指標廃止・追 令和4年4月に 共工事関係部署 ン」において、	加の理由】 策定した「公 のDX推進プラ		
					紙の使用量(技術	10005	成率目標		1,700 万枚	1,400 万枚	R2年度	_						果目標を新規での。			
					減の使用量(IXM 関係局) ※指標追加	枚 (R2年 度)	実績 達成率				比50%削 減(R6 年度 末)										

技術監理局

抆衕監	生人	,																				
					[Plan]	計	画	/	[Do	」 実施	施							+		【Check】 評価 /	< [/	Action】 改善
施策番号	No 3	Gs 基本計画の施策	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(E	目標・実績)		L Hr	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	₩.	AGS 基本計画の施策 ・ル を構成する 主な事業・取組	所管 課名	李米 机阻帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ē	R4年度	R5	年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				【施策の内容】 本市の物品等供	【施策の指標】		目標	29	%	29 9	% 29	· %										
				給契約や建設工事 における競争入札 参加資格におい	本市の物品等供給 契約入札参加資格 業者総数に対する 評価対象事業者数	27% (H28年 度)	実績	30	%				29% (R5年 度)									
Ⅲ-3- (3)-③ 企業の 地域活	3	【施策評価のみ】	契約	て、地元企業の地 域での社会貢献活 動(子育て支援、 男女共同参画、障	の割合		達成率	103.4	%					継続	_	_	_	_	_	_	順調	引き続き加点制度を実施す
地域の多画促進	3	資格業者に対する加点制度	課	害者雇用、環境配 慮、防災活動な ど)を評価し、格	【施策の指標】		目標	49	%	49 9	% 49	1 %		NE 796							川只山川	3 .
				付けの際に加点することにより、契 約制度の面からも本市重要施策の推	本市の建設工事入 札参加資格業者総 数に対する評価対	38% (H28年 度)	実績	50	%				49% (R5年 度)									
				進を図る。	象事業者数の割合		達成率	102.0	%													
V-3-				市が実施する公	- = 4/4×1-1-1		目標	75	点以上	75 J	点 以 75 上	点 i 以 上								建設工事従事者の不注意や 確認不足等を原因とする公衆		公共工事における重大事故
(I)-①基施 盤設 正な整 を	4	3 公共工事安全 対策強化事業	検査 課	共工事の安全対策 強化のため、安全 指導を専門とする 公共工事パトロー ル隊を設置し、事	工事成績評定点の 評価項目の内、 「安全対策」について100点満点に 換算した点数	74.6点 (RI年 度)	実績	74.7	点				75点以 上 (R5年 度)	継続	953	926	維持	28, 400	順調	災害が多く発生しており、エ 事関係者の安全意識の向上を 図るため、公共工事パトロー ル時の安全指導や出前講演等	順調	の発生を抑制し、市民と建設 工事従事者の安全と健康を確 保するため、市発注工事関係 者への指導や安全研修を引き
備				故の抑制を図る。	探昇した点数		達成率	99.6	%											の安全研修を引き続き積極的 に行う。		続き実施する。
VI-3-				【施策の内容】 北九州市発注の 公共工事を対象			目標	98	%	98 9	% 98	8 %										
(3)-② 建設リ サイク ルの推	5	【施策評価の み】 建設リサイク ルの推進	支援	に、建設副産物の 発生抑制や建設廃 棄物の再資源化の 徹底、再資源化さ		99.9% (H28年 度)	実績	99.3	%				98% (毎年 度)	継続	_	_	_	_	_	_	順調	令和4年度に引き続き、建 設廃棄物の再資源化率の目標 達成を目指す。
進				れた建設リサイクル資材の利用促進に取り組む。			達成率	101.3	%													

	整局			(Plan)	計	画	/ [D	o】 実施						+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号・施策名	No. 雪·		事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	5の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性 予算額 (千円	頁 予算額	□ 争業質	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				公立大学法人北九		目標	A (計画どお り)	A (計画どお り)	A (計画どお り)									
			_\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	州市立大学評価委 員会における各事 業年度に係る業務 に対する評価	A (RI年 度)	実績	A (計画どお り)			A (毎年 度)								
I-2- (I)-② 大学な どの教	1 6	公立大学法人 北九州市立大 課	公立大学法人の 設立団体として、 地方独立行政法人 法第42条に基づ き、業務運営に必			達成率	_				- 継続 2,665,0	3, 144, 00	00 増額	13, 200	順調	第四期中期計画の実施に向 け、引き続き公立大学法人北 九州市立大学の健全な業務運 営と教育研究の高度化、地域	順調	引き続き公立大学法人北九 州市立大学の健全な業務運営 と教育研究の高度化、地域へ
育研究 機能の 充実		步運営事業 課	要な経費を交付 し、法人の業務運 営の健全性を確保 する。	公立大学法人北九		目標	単年度目標 設定なし	A (計画どお り)	A (計画どお り)							への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等 施設整備を支援する。		の貢献などの支援に努めていく。
				州市立大学評価委 員会における中期 目標期間に係る業 務に対する評価	A (H28年 度)	実績	_			A (R6年 度)								
I -2-						達成率	_										順調	引き続き公立大学法人北九
(I)-④ シンク タンク を活用				公立大学法人北九		目標	A (計画どお り)	A (計画どお り)	A (計画どお り)								門只可	州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域へ の貢献などの支援に努めてい く。
した調査・研究機能 の強化				州市立大学評価委 員会における各事 業年度に係る業務 に対する評価	A (RI年 度)	実績	A (計画どお り)			A (毎年 度)								アジア成長研究所について は、市民・企業向けの講座に 関して、リモート会議のさら なる改善と定着に取り組み、 認知度と貢献度の向上を目指
	2		北九州市立大学 地域戦略研究所で の地域研究プロ ジェクト、受託調 査を通じて、地域			達成率	_				継続 2,665,0	3, 144, 00	00 増額	13, 200	順調	第四期中期計画の実施に向 け、引き続き公立大学法人北 九州市立大学の健全な業務運 営と教育研究の高度化、地域 への貢献などを支援する。		し、引き続き「地元貢献」に 重点を置いて活動するように 求める。 また、研究活動についても 引き続き、外部資金を獲得す
		丁 座 西 尹 来	研究の高度化を推 進する。	公立大学法人北九		目標	単年度目標 設定なし	A (計画どお り)	A (計画どお り)							また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。		るための努力を行うととも に、「国際水準の知的基盤の 強化」を推進するように求め る。
				州市立大学評価委 員会における中期 目標期間に係る業 務に対する評価	A (H28年 度)	実績	_			A (R6年 度)								
						達成率	_											

				1	[Plan]				o】 実施							•		【Check】 評価 /		ction】 改善
施策番号・施策名	SDGs No. ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業管	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
							目標	5 本	5 本	5 本										
				地元貢献を重視 した日本を代表す	著名な学術雑誌へ の論文掲載数	_	実績	5 本			5本 (毎年 度)							行政・企業をサポートする 「地元貢献」に重点的に取り 組むとともに、これまで培っ		
	4 3 Q	(公財)アジ ア成長研究所		るアジア研究機関 を実現するため、 地域への知的貢献 と国際水準の知的			達成率	100.0 %				継続	140, 000	140,000	維持	4,650	順調	てきた調査研究能力で高度な 学術水準の維持に努める。 また、引き続き通信技術等 の積極的な活用に努め、コロ		
				基盤の強化を目的 とする活動を行う (公財) アジア成			目標	6 件	6 件	6 件		NCL N/L	1 10,000	110,000	V#10	1,000	rige diej	ナ禍を機に始まったオンラインでの環境づくりを推進する。		
				長研究所へ補助金 を交付する。	科学研究費を含む 外部資金獲得数	_	実績	5 件			6件 (毎年 度)							さらに、科学研究費など外 部資金の獲得に注力し、財政 基盤の安定化に努める。		
							達成率	83.3 %												
							目標	A (計画どお り)	A (計画どお り)	A (計画どお り)										
					公立大学法人北九 州市立大学評価委 員会における各事 業年度に係る業務 に対する評価	A (RI年 度)	実績	A (計画どお り)			A (毎年 度)									
[-2- 2)-③ マジア この架 け橋と	4 4	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務	公立大学法人の 設立団体として、 地方独立行政法人 法第42条に基づ き、業務運営に必			達成率	_				継続	2, 665, 000	3,144,000	増額	13, 200	順調	第四期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域	順調	引き続き公立大学法人北 州市立大学の健全な業務運 と教育研究の高度化、地域
でる人 すの育	9	北九州市立大 学運営事業		要な経費を交付 し、法人の業務運 営の健全性を確保 する。			目標	単年度目標 設定なし	A (計画どお り)	A (計画どお り)								への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等 施設整備を支援する。		の貢献などの支援に努めて く。
					公立大学法人北九 州市立大学評価委 員会における中期 目標期間に係る業 務に対する評価	A (H28年 度)	実績				A (R6年 度)									
							達成率	_												

企画調		<u>-</u>					[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							+		【Check】 評価 /	/ [<i>I</i>	Action】 改善
施策番号	N.	SDGs	基本計画 を構成 主な事業	の施第	主要事業	古世 取如椰西		事業	評価	iの成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	番号	主な事業	くする 美・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						外国人市民が安 心して暮らすこと			目標	54.0 %	61.0 %	61.0 %										
	5	4 (1) (1) (1)	多文化 推進	共生の		ができるを文化り、名をでいます。 生進本では、 生後に、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	市民の「多文化共 生」という言葉の 認知度		実績	59.9 %			62% (R6年 度)	継続	42,803	43, 921	維持	3,075	順調	多様なニーズを把握し、多 文化共生施策をより効果的に 行うため、幅広い層(在留資 格、年齢、居住年数など)の 外国人市民に参加を促す。		外国人市民が日本で生活す る上での課題やニーズを把握
Ⅱ-3- (3)-① 3)-① 3 3 3 4 4 5 5 5 5 5 7 6 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7						7 (7) (3) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4			達成率	110.9 %											順調	では、一次には、一次には、一次には、一次には、一次になった。、ディスカッションの場を継続して設け、積極的に意見を聴取し効果的な施策の実施に努める。また、相談窓口においては具体的な課題の解決を目指
制の構築			多文化	## 17		外国人市民が安 心して生活できる ための情報提供や	外国人市民の生活		目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								外国人市民が抱える様々な		し、関係機関との連携をより 強化し、外国人市民が安心し て住み続けられるよう継続し て支援を行う。
	6	(4) (1) (1) (1) (1)	シンンショク した オンフョラ アンファラ	ップイ メー セン	国際 政策 課	相談に多言語で一 元的に対応する文化 大生ワンストップ インフォメーショ シセンター」の運	環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	実績	_			80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24, 715	維持	2, 325	順調	問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整 備に努める。		
П-3-						営を行う。			達成率	_											順調	今後も(公財)北九州国際交
13)-② (3)-②人の環充 (3)-②人の環充						日本語の不得の な外国人市とへの サポートとして 行政機関(健康診査)に 通訳ボランティア			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								外国人市民が安心して生活	까 다 라이	ではないな利力が加速に 流協会と緊密に連携し、多様的 化する外国人市民ニーズを移 確にとらえ、外国人市民が安 心して住み続けられるよう、 さらにきめ細やかな情報提供 や伴走型支援を行う。
		4 0 1	多文化 推進	共生の	国際政策課	に、災害時通訳も 含めた通訳スタッ フのスキル向上を 図る。 また、多言語等 でわかりやすい生	外国人市民の生活 環境の向上 (多文化・基の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	実績	_			80%以 上 (R6年 度)	継続	42,803	43, 921	維持	3,075	順調	できるう、引き続き行政機関や医療機関への通訳派遣を 実施する。また、外国人市民 が必要な情報を得られるよ う、やさしい日本語や多言語 で情報を発信する。		
						活情報の提供をすることにより、外国人市民の安全・安心な生活環境の整備を推進する。			達成率	_												

					(Plan)	計	画	/ [Do】 実施	i						-		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
施策番号	No.	SDGs 基本計画の施	主要事業				評価	の成果指標	(目標・実績)	1		成果の	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に向けて 品体第 強化・見直した内容
・施策名	NO.	が がった。 を構成する 番号 主な事業・取	祖 課名		指標名等	現状値(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 強化・見直した内容 評価 (課題に対する改善方法等
				外国人市民が安 心して生活できる ための情報提供や			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								外国人市民が抱える様々な	
	8	④ 多文化共生で② シストップ・シフォメージ・ションセンター運営事業	政策課	相談に多言語で一	外国人市民の生活 環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)		_			80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24,715	維持	2, 325	順調	問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整 備に努める。	
				ンセンター」を設置し運営を行う。			達成率	_										1181-7757 50	
				日本人市民に対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会			目標	54.0 %	61.0 %	61.0 %									
I-3- 3)-③ 市民の 国際理 解の推 進	9	④ ⑩ 多文化共生の ⑪ 推進 ⑰	国際政策課	や場の提供を行う ことで、外国人を 受け入れる地域づ	生」という言葉の			59.9 %			62% (R6年 度)	継続	42,803	43, 921	維持	3,075	順調	外国人市民を受け入れる地 域の土壌づくりを行うため、 やさしい日本語の普及や防災 に関する事業を実施する。	外国人市民に対する働き けだけではなく、日本人市 に対する多文化共生に関す 意識啓発についても継続し 実施し、多文化共生のまち くりを目指す。
				発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。			達成率	110.9 %											
II-I- (1)-② 定住地 進活た 比のた				北九州市まち・ ひと・しごと創生 総合戦略に人口減 少対策の重要な柱			目標	100 人	. 150 人	200 人								アフターコロナになりつつ ある中で、テレワーク等の場 所を選ばない柔軟な働き方に より、移住に関心を持つ若年	順調 テレワーク等の場所を選ない柔軟な働き方への関心 高まっていることに対応す ため、移住検討者のニース 沿った提案と効果的な情報 信を図る。
めの環 境づく り	10	③ ⑧ 定住・移住化 進事業	足 企画 課	の一つとして位置づける「字位・移位	20歳代〜30歳代の 社会動態の増加数		実績	362 人			450人 (R3~R5 年)	i 継続	46, 190	44,090	維持	30, 750	大変順調	層が増加している。この好機を逃さず、20~30歳代の社会動態の改善を図るため、移住 促進のホームページの運営 や、新たなPRツールの作成、 SNSの活性化、オンラインに	
				ち」の推進等に向けて取り組むもの。			達成率	362.0 %										よるセミナーの開催等、若年 層に届きやすいツールを用い て本市の魅力や住みよさを発 信する。	

					[Plan]	計	画	/	[Do	】 実施	i						+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号		基本計画の施策 を構成する	爭業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	票(目	標・実績)	1	l. U n		R4年度	R5年度	于木具	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	事未 机配帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					SE-386 36 316 -	0件	目標実	10	件	20 件	30 件	累計60										
				KitaQフェス等を	複業・兼業のマッ チング件数	(R2年 度)	績達	10				件 (R5年 度)										
				通じて得た首都圏の関係人口(KitaQ サポーター等)を 本市への移住・就			率目	2,700		2,900 人	3,100 人								複業・兼業の数については、からの自走化を目まり、複業人材向	令和6年度か 指すため、企		
		複業・兼保事市は、大都をおり、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは	東京事務	職に結びつけるた め、市内の仕事を	KitaQサポーター 登録者数	2,032人 (RI年	標実	2,961		2, 100 %	0,100 /(登録者 数計 3,100人	継続	9,000	9,000	維持	20,700	順調	学生版セミナー、ネットワーク等事業周知を図った。東京事また、東京事	、金融機関 を駆使して、 た。		
		都圏を結ぶ人 材マッチング ~	所	仕組みを構築する。 加えて、本市の暮らしや食等を体		度)	達成率	109.7	%			(R5年 度)							新規移住相談者は、更なる相談けて、首都圏でで ナーを企画、主	数について 者数増加に向 の独自セミ		
				験してもらうワー クショップを実施 する。			目標	200	人	200 人	200 人	新規移住相談							関係機関と調整る。	を行ってい		
					東京事務所におけ る新規移住相談者 数	149人 (RI年 度)	実績	179	人			者数200 人 (毎年										
Ш-2-							達成率	89.5		- >	- >	度)									順調	世界遺産登録資産の保全を
- (I)-① 近代化 遺産な どの文						現状把	標	ユネスコ [・] の報告書 [・] 成	作(ユネスコへ の報告書作 成		ユネス									70023	行うとともに、関係機関と連携して世界遺産の理解増進・情報発信の取組を進め、文化の保存・継承とにぎわいづく
化財で保存・継承					登録資産の保全	握のための調査継続	実績	ユネスコ [・] の報告書 [・] 成				報告書作成年度)										りの資源としての魅力向上を図る。
	12 1	世界遺産維持活用保全事業	総務	国や関係自治 体、所有者等との 連携のもと、遺産			達成率	_				127	継続	27, 132	26, 245	維持	5,800	順調	新型コロナウの影響により実施 やイベントについ 議や書面開催を活	施困難な会議 いて、Web会 活用するとと		
		ルロ川 小工 ず未	<u>υ</u> γ.	価値の保全につと める。			目標	2	件	2 件	2 件								もに、コロナ禍 施可能なPRイベ ていく。			
					まつり起業祭等、 地元の祭り等に出 展	2件 (RI年 度)	実績	2	件			2件 (毎年 度)										
							達成率	100.0	%													

					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施							+		【Check】 評	洒	/ [/	Action】 改善
拖策番号	SDGs No 2'-1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(目標・実績)		#n	成果の	R4年度	R5年度	ず未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直したF		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八世所文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	隻	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善)		戸価	(課題に対する改善方法等
							目標	160	人	180 人	120 人								新型コロナウイルスの影響により休止してスツアーを再開するが有者と継続して協議・実施に向けた当めていく。	ているバ こめ、所 調整を		
	13	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	総務課	旧本事務所見学 バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	者数	64人	実績	0	人			I20人 (R5年 度)	継続	1,400	1,280	減額	5,800	遅れ	また、ツアーの内容 て、世界遺産をPRする に東田地区のにぎわい につながるような効別 施方法を検討し、ルー 数の見直しを行った。	るととも いづくり 見的な実 - トや回		
							達成率	0.0	%										【中期目標の変更内容 見学先の旧本事務所 2年度に復原工事を終 かりであり、その保全 ためツアーの参加人奏 したもの。	fは令和 えたば Èを図る		
							目標	90.0	%	90.0 %	90.0 %								事業の成果指標に ⁻ は、令和3年度時点で			事業の成果指標について は、令和3年度時点でいずオ
				市民自らがまち	本市への愛着があ ると答えた(肯定 的な回答をした) 市民の割合	79.3% (H25年 度)	** I	83. I	%			90.0% (R6年 度)							も達成率が90%以上とはあるが、引き続きE成に向けて、(I)ウェブサイト「市時と風の博物館」	・順調で 目標の達・北九州		も達成率が90%以上と順調はあるが、引き続き目標の成に向けて、(I)ウェブサイト「北九月市 時と風の博物館」を通
/-4- I)-① 公九州		北九州市魅力	企画	の魅力を発信する ウェブサイト 風じ 博物館」を通じ て、本市の魅力を 発掘・再発見し、			達成率	92.3	%				- 継続	4, 221	3,799	減額	8,700	順調	たシビックプライドの 地域情報の効果的な別 (2) 「北九州市応援 の戦略的な情報発信等 たシティプロモーショ)向上や 曼透 団」へ 手を通じ	順調	たシビックプライドの向上 地域情報の効果的な浸透 (2)「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通 たシティプロモーション
が魅力 がくり	14 0	発信事業	課	れた。 さら補足等を行う源と を補足等域効果の をでするが、 をできるができるができるが、 をできるができるができるができるができるができるができるができるができるができるが			目標	90.0	%	90.0 %	90.0 %		· 和性 邓近	4,221	3, 111	<i>师</i> 及 登兵	8,700	川東部	(3) 首都圏や福岡市 世代をターゲットとし 的なシティプロモーシ に取り組んでいく。 一方、課題としてに	ンた効果 /ョン は、「北	川共都	(3) 首都圏や福岡市、若君世代をターゲットとした効的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「
				する。	本市が好きだと答 えた(肯定的な回 答をした)市民の 割合	78.5% (H25年 度)	'王	87.2	%			90.0% (R6年 度)							九州市 時と風の博物 既存の利用者がある利 されていることから、 用者の発掘につながる に、 他事業とのコラカ	程度固定 新規利 よう ばや市制		九州市 時と風の博物館」 既存の利用者がある程度固されていることから、新規 用者の発掘につながるよう に、他事業とのコラボや市
							達成率	96.9	%										60周年特別企画などの 企画の検討を行う。)新たな		60周年特別企画などの新た 企画の検討を行う。

企画語					(Plan)	計	画	/	[Do]	実が	<u> </u>						+		【Check】 評价	6 /	[/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標	票(目标	漂・実績)				R4年度	R5年度	ず未貝	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内		3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	No. ゴー/ 番号	主な事業・取組	所管 課名	事業 机恒佩安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方	14/11/19	品施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					本市への愛着があ ると答えた(肯定	79.3%	宇		ı	70.0 %	90.0 9	90.0%							事業の成果指標につ は、令和3年度時点でい も達成率が90%以上と はあるが、引き続き目 成に向けて、	ずれ 順調で		事業の成果指標について は、令和3年度時点でいずれ も達成率が90%以上と順調で はあるが、引き続き目標の達 成に向けて、
				市民自らがまちの魅力な発信する	的な回答をした) 市民の割合	(H25年 度)	績	83.1	%			(R6年 度)							(I) ウェブサイト「1 市 時と風の博物館」			(I) ウェブサイト「北九州 市 時と風の博物館」を通じ
IV-4- (2)-① 戦略的 なシ		北九州市魅力	企画	の魅力を発信する ウェブササ時と風じ する は物館」を通じ で、本本の魅力を 発掘・再発見し、			達成率	92.3	%				- 継続	4, 221	3,799	減額	8,700	順調	たシビックプライドの 地域情報の効果的な浸 (2) 「北九州市応援E の戦略的な情報発信等 たシティプロモーショ	透]」へ を通じ ン	順調	たシビックプライドの向上や 地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通じ たシティプロモーション
ティプ ロモー ション の展開	13 10	発信事業	課	ただい では にに 等を で、 で、 を で、 で、 で、 が が が が が が が が で、 が が が が が が が が が が が が が			目標	90.0	% 9	70.0 %	90.0 9	6	WEEL WALL	7,221	3,777	IPA DR	0,700	rijet gjelj	(3) 首都圏や福岡市、 世代をターゲットとし 的なシティプロモーシ に取り組んでいく。 一方、課題としては	若者 た効果 ョン 、「北	· 마루 다리	(3) 首都圏や福岡市、若者 世代をターゲットとした効果 的なシティプロモーション に取り組んでいく。 一方、課題としては、「北
				する。	本市が好きだと答えた(肯定的な回答をした)市民の割合	78.5% (H25年 度)	実績	87.2	%			90.0% (R6年 度)							九州市 時と風の博物 既存の利用者がある程 されていることから、 用者の発掘につながる に、他事業とのコラボ	度固定 新規利 よう や市制		九州市 時と風の博物館」の 既存の利用者がある程度固定 されていることから、新規利 用者の発掘につながるよう に、他事業とのコラボや市制
IV-4-							達成率	96.9	%										60周年特別企画などの企画の検討を行う。		順調	60周年特別企画などの新たな 企画の検討を行う。 北九州市魅力発信事業につ
(2)-② 北九州							目標	90.0	% 9	70.0 %	90.0 9	6									門只司	いては、「北九州市が好き」 「北九州市が誇り」「北九州
を応援 するネットワー					本市が好きだと答 えた(肯定的な回 答をした)市民の 割合	78.5% (H25年 度)	実績	87.2	%			90.0% (R6年 度)							事業の成果指標につ は、令和3年度時点でい も達成率が70%以上と はあるが、引き続き目	ずれ 順調で		市と関わりたい」と思い、市 民や市出身者が自ら北九州市 の魅力を発信していく輪を広 げ、北九州市への愛着・自
クによ る情報 発信				市民自らがまち			達成率	96.9	%										成に向けて、 (I) ウェブサイト「± 市 時と風の博物館」			信・誇りを高めていくため に、 (I) ウェブサイト「北九州
7015				の魅力を発信する ウェブサイト「北 九州市 時と風の 博物館」を通り	本市への誇りや自	54 504	目標	75.0	% 7	75.0 %	5 75.0 9								たシビックプライドの 地域情報の効果的な浸 (2)「北九州市応援E の戦略的な情報発信等	透]」へ		市 時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透を図
	16 ®	北九州市魅力 発信事業	企画 課	て、本市の魅力を 発掘・再発見し、 さらに情報の共有	信があると答えた (肯定的な回答を した)市民の割合	56.7% (H25年 度)	実績	55.2	%			80.0% (R6年 度)	継続	4,221	3, 799	減額	8,700	順調	たシティプロモーショ (3) 首都圏や福岡市、 世代をターゲットとし	ン 若者		る。 (2)「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通し
				や補足等を行うことで、地域資源を 磨きあげ、効果的な情報発信を展開	0/2) 17 10/0/81		達成率	73.6	%										的なシティプロモーシ に取り組んでいく。 一方、課題としては	ョン		で、本市の魅力を市内外で共 有し、ロコミなどを活用した シティプロモーションを図
				する。	市外からの来訪者 に対し、「北九州 市の魅力をいくつ		棕	95.0	% 9	75.0 %	95.0 9								九州市 時と風の博物 既存の利用者がある程 されていることから、	度固定 新規利		る。 また、コロナ禍の影響による「地方回帰」の流れを活か
					伝えることができ ますか」との質問 に対し、「Iつ」	83.2% (H23年 度)	(主)	87.1	%			95.0% (R6年 度)							用者の発掘につながる に、他事業とのコラボ 60周年特別企画などの 企画の検討を行う。	や市制		すためにも、首都圏や福岡 市、若者世代をターゲット に、引き続き効果的なシティ プロモーションを図る。
					以上あると答えた 市民の割合		達成率	91.7	%													首都圏応援ネットワーク拡 大事業については、新規サポーターの獲得を進めるとと

					[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							+		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
施策番号 ・施策名	o. si	DGs 上 計号 主		管 争耒・収組恢安	指標名等	現状値	T	西の成果指標(R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
			な争乗・収組 講	首都圏において 新たなネットワー ク構築のために、 サポーターの組織 化を進める。さら		(基準値)	目標	2 500		3,100 人	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価		評価	もに、興味・関心の深地でする。 もに、興味・関心の深地でする。 発信するイベントにおける。 発信するイベントにおける。 ふるさと寄附金については、引き続き魅力ある返礼が、 を開発し、寄附金額の増加が、
1	7	X) I	都圏応援 東ットワーク 事 大事業 所		登録者数	2,032人 (RI年 度)	· *	2,961 人			登録者 数計 3,100人 (R5年 度)	継続	4,050	3, 645	減額	4, 900	順調	これまで構築したネット ワーク(応援ショップ等)を 通した情報発信だけでなく、 企業や他都市との連携による イベント開催を行うことで、信 を行い、更なるKitoQサポー ターの獲得につなげていく。		図 る。
				の認知度向上や北 九州ファン層の拡 大、人・店舗・企 業のつながりを作 る。			達成率	109.7 %												
							目標		前年度比增	前年度比增										
				「ふるさと北九 州市応援寄附金」		46件 (H24年 度)	実績	96,953 件			_									
	(るさと寄附 企				達成率	150.0 %				扩大	1 110 000	1,837,000) 増額	21,450	大変	ふるさと寄附金について は、引き続き魅力ある返礼品 を開発し、寄附金額の増加を 図る。		
		少 3 ① ⑦	促進事業 課	選択できる仕組み と一定額以上の寄 附者に対する地元 特産品等の贈呈を 通じ、本市の魅力			目標		前年度比增	前年度比增		1/4/	1,110,000	1,037,000	PERM	21,430	順調	加えて、首都圏で開催されるイベントに出展するなど本市のふるさと納税返礼品の魅力発信を強化する。		
				を全国に発信する。	寄附金額	約450万 円 (H24年 度)	実				_									
							達成率	161.4 %												

					[Plan]	計	画	/ (D	o】 実施							+		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	No	SDGs ゴール を構成する 音号 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標(目標・実績)	ı	l- Hn	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名		主な事業・取組	所管 課名	李来 "八起帆女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	10位以内	10位以内	10位以内											
				ナナの辺に座し	北九州市の認知度 (地域ブランド調 査によるもの)	19位 (H25年 度)	実績	17 位			10位以 内 (毎年 度)										
IV-4- (2)-③ 都市イ		⑧ 情報発信・取					達成率	_				- 継続	18, 322	16, 490	減額	20, 950	やや	市制60周年を り、大型番組等	の誘致や60周		各媒体の特性を生かして、 本市の事業やイベント等をPF することにより、引き続き本
メージ の向上	.,	● 材協力事業	課	ビ、インターネット等のマスメディアを通じた本市の PRに取り組む。	北九州市の情報接		目標	10位以内	10位以内	10位以内	10位以	WELVIL	10,022	10, 170	<i>11-1</i> (1)X	20, 700	遅れ	年関連イベント に重点的に取り		遅れ	市の認知度向上やイメージアップを図る。
					地域ブランド調査によるもの)	15位 (H25年 度)	実績	16 位			内 (毎年										
							達成率	_													
V-3-			±a ±	「公共施設マネ			目標	_	_	_								「 /	· 		計画の推進にあたっては、
(2)-② 公共施 設の転 活用な どの検	20	⑧⑤⑤①IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	都マジン政市ネメト策	ジメント実行計 画」に基づき、公 共施設に関する将 来的な財政負担を 軽減するための取	公共施設保有量の 縮減	全公共 施設 (H26年 度)	実績	_			約20% 削減 (R37年 度)	継続	8, 256	7, 434	減額	54,000	順調	「公共施設マ 4ヶ年行動計画」 実行計画の進捗 把握し、評価を めていくなどの	」に基づき、 状況を的確に 行いながら進		今後も「公共施設マネジメント4ヶ年行動計画」により進 捗状況の的確な把握及び評価を行い、公共施設マネジメントの取組を継続的に進めてい
討			課	り組みを進める。			達成率	_										に努める。			「「マクスを担こを発売がよりもこうをはり(しく。
V-3- (2)-③ 近代化 遺産な							目標	ユネスコへ の報告書作 成	ユネスコへ の報告書作 成	ユネスコへ の報告書作 成	ユネス									順調	世界遺産登録資産の保全を 行うとともに、関係機関と連 携して世界遺産の理解増進・ 情報発信の取組を進め、文化
どの文 化財の 活用					登録資産の保全	現状把 握のの調 査継続	績	ユネスコへ の報告書作 成			コへの 報告書 作成 (毎年										の保存・継承とにぎわいづく りの資源としての魅力向上を 図る。
	21	⋒ 世界遺産維持	総務	国や関係自治 体、所有者等との 連携のもと、遺産			達成率	_			度)	- 継続	27. 132	26, 245	維持	5,800	順調	新型コロナウ の影響により実 やイベントにつ 議や書面開催を	Z施困難な会議 のいて、Web会		
	-	◆ 活用保全事業	課	価値の保全につとめる。			目標	2 件	2 件	2 件		74.7/6		25, 215	report d	5,500	∙ प्रत्यं द्वान्त	もに、コロナ禍 施可能なPRイベ ていく。	よいても実		
					まつり起業祭等、 地元の祭り等に出 展	2件 (RI年 度)	実績	2 件			2件 (毎年 度)										
							達成率	100.0 %													

				[Plan]	計	画	/	【Do】 匀	実施							+		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
施策番号・施策名	lo. st	Gs 基本計画の施策 主を構成する 主な事業・取組 主要業所に	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	の成果指標 R3年度	(目標・実 R4年度		R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						目標	160 .	人 180	人	120 人								新型コロナウイルス感染症 の影響により休止していめ、バスツアーを再開するため、所 有者と継続して協議・調整を 図り、実施に向けた準備を進 めていく。		
:	22 (世界遺産集客総務にぎわい創造課	スツァーにおける	バスツアーの参加 者数 ※中期目標改訂	64人	実績	0 .	۸			I20人 (R5年 度)	継続	1,400	1,280	減額	5,800	遅れ	また、ツアーの内容について、世界遺産をPRするとともに東田地区のにぎわいづくりにつながるような効果的な実施方法を検討し、ルートや回数の見直しを行った。		
						達成率	0.0	%										【中期目標の変更内容】 見学先の旧本事務所は令和 2年度に復原工事を終えたば かりであり、その保全を図る ためツアーの参加人数を見直 したもの。		
				会員都市間ネット		目標	2 1	牛 2	件	2 件										
			平成16年11月に	ワークの活用によ る共同プロジェク トの件数	4件 (H26年 度)	実績	I 1	4			2件以上 (毎年 度)							会員都市の意向を踏まえ、 従来の固定した分野であかった 活動方法を廃止し、各都市が 紹介したい案件、連携を希望 する案件などを提案し、参加		
VII-I- (I)-① 「東ア ジア経	(東アジア(環 (国際策 ・ (連載機構推 ・ ・ ・ (連載機構推 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	設立した「東アジ ア経済交流推進機 構(以下「機 構」)」の共同事 務局として、会員	※中期目標改訂		達成率	50.0	%							La der	050		希望の都市間でワーキンググループ的な活動を行えるよう部会活動方法を改め、機構活動の活性化を図っていく。		固定した分野での部会活動 からワーキンググループ的な
済交流 推進機 構」事 進 進	23	流推進機構推 進事業 課	都市との連絡調整、各会議の窓口調整や開催支援を 行うとともに、機 構活動の管理運営			目標	4 1	4 4	件	7 件		- 継続	4,871	4, 371	減額	11,050	順調	【中期目標の変更内容】 これまで固定された4分野 の部会での活動数を目標数に 掲げていたが、今回の見直し により4部会が廃止された。	順調	活動へと部会活動方法を見直し、機構活動の活性化を図っていく。
			にあたる。	東アジア経済交流 推進機構における 会議数	24件 (H26~ H30年 度)	実績	7 1	4			19件 (R2~R6 年度)							見直しに伴い、今後は各都市間で情報交換を行いながら、 共通の希望があった分野で活動を行っていくこととなるため数値目標を変更する。		
						達成率	175.0	%										3327 50		

					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No.	SDGs 基本計画の施第	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指	標(目標・実績)		.L.#n	成果の		R5年度	事未見	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	74 /1. 日十 1 4 4 中
・施策名	,	SDGs ゴール を構成する 番号 主な事業・取組	所管課名	子术 机加州女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	复	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				姉妹・友好都市 を中心とした海外			目標	330	人	330 人	330 人								国際的な人の れる中、必要に ンツールも活用	応じオンライ しながら、姉	i	
	24	● 国際交流事業		諸都市との様々な 分野での交流推進 を図るため、訪問 団の受入れや本市 からの訪問団派遣	姉妹・友好都市を 中心とした海外諸 都市との交流事業 参加者延べ人数	343人 (H26年 度)	実績	300	人			330人以 上 (毎年 度)	継続	9,338	8, 401	減額	14, 950	順調	妹・友好都市を 国諸都市と可能 の交流事業を実 加えて行政間 流の枠を超え、	な限り対面で 施していく。 交流や市民交		
				等の交流事業を行う。			達成率	90.9	%										本市の双方にメ 分野について情 がら交流を推進	報交換をしな		
				成長するアジア			目標	50	人	50 人	50 人								再のります。 国開る、大いののりのりなてナボなにカーのりますがなれた。 本で、カーのででは、 ののりででは、 ののりででは、 ののりででは、 ののりでは、 のののりでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のので	、姉妹都市で ハイフォン・プノンペン 対面での交流 いく。必まに ツールも活用		
VII-I- (1)-② 都充流携 連携の		ASEAN新都市 間連携促進事業		の活力を本市に取 り込むたるであるフォート が、ベトンホン・ ルンカーンペンが都ない ファン・ ファン・ ファン・ であるファン・ アン・ アン・ アン・ アン・ アン・ アン・ アン・ アン・ アン・ ア	アジアの新興国と の交流事業参加者 延べ人数	_	実績	19	人			50人(毎年度)	継続	3, 960	3, 561	減額	7, 955	遅れ	く。 また、その他と とながら関る。 「中期目標の変中 これまでの 「100人(毎年別	ける交流機会 係構築を図 更内容】 期目標は	7	姉妹・友好都市をはじめ、 アセアン地域やオセアニア 等、様々な国・地域との交流 強化や関係構築に引き続き取
推進							達成率	38.0	%										きたが来が制度しています。 とから人」とも、 である人」とも、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	禍において、 されていたこ 標は50%の きた。その経 たコロナ禍の われることが	<u> </u>	り組む。
					各種SNSによる発		目標	288	件	288 件	288 件								引き続き、各		,	
				海外での本市の 知名度向上、及び	信件数 ※中期目標改訂	-	実績	358	件			288件 (R5年 度)							SNSを活用し効気信を行い、本市らなる向上を目	の認知度のさ		
	26			海外各都市との ネットワーク強化 を図るため、より			達成率	124.3	%				- 継続	4,700	4, 300	減額	3,075	大変	【中期目標の変 発信件数及び 和5年度目標数値	閲覧件数を令		
		事業	課	効果的で戦略的な 情報発信、シティ プロモーションを	各種SNSの閲覧件		目標	15,000	件	15,000 件	1,500,000 件	1,500,0					·	順調	修正。 閲覧件数目標 国、韓国、英語	については中 向け各SNSの		
				実施する。	数 ※中期目標改訂	_	稹	7,386,517	' 件			00件 (R5年 度)							フォロワーも順 おり、令和4年原 ベースに数値目 いる。	隻の実績を		
							達成率	49,243.4	· %										v · · • 3 · 0			

					[Plan]	計	画	/	[Do	0】 実	施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要				の成果指	標 (目標・実績	()			成果の	R4年度	R5年度	ず未貝	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	7/1 0 - 1 / 1 -
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	事未	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ē_	R4年度	R	5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				姉妹・友好都市			目標	330	人	330	人 33	60 人								国際的な人の れる中、必要に	0往来が再開さ こ応じオンライ		
VII-1- (2)-② 文化・ スポー ツ拡大	27 🕦	国際交流事業		を中部では、大海の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の	姉妹・友好都市を 中心とした海外諸 都市との交流事業 参加者延べ人数	343人 (H26年 度)	実績	300	人				330人以 上 (毎年 度)	継続	9, 338	8, 401	減額	14, 950	順調	ンツ・技術市を国際では、	中心とした名 を取り対面で 関施していて。 で流や市民交 相手の都すと はリットとなる	順調	行政間交流や文化交流の枠を超え、姉妹・友好都市と本市の双方にメリットとなる分野について情報交換をしながら交流を推進していく。
				,,			達成率	90.9	%											がら交流を推進			
							目標	80	%	80	% 81	0 %											
				駐中国北九州市 経済事務所を設	海外事務所の本市 地域企業への貢献 度	_	実績	91.6	%				80% (R5年 度)										
VII-2- (2)-② 海外の	28 8		国際	置・運営し、地元 企業のビジネスサ ポートや進出支援			達成率	114.5	%					4N4 6±	20 544	35, 544	減額	3,075	順調	ゼロコロナ政 り中国国内での 発化する中、必 ラインツールも	必要に応じオン	i,	引き続き市内企業のビジネ スサポート及び北九州市の魅
経済事 務所の 活用	20 0	整備事業	課	を行うとともに、本市と中国の都市とのネットワーク			目標	200	社	200 :	社 20	0 社		- 和生物化	37, 344	33, 344	小风谷只	3,075	川只和	ら、地元企業等 ポートやインバ つながる活動を	Fのビジネスサ ベウンド誘致に	-	力発信に努めていく。
				を形成・強化する。	海外事務所を利用 した企業数	_	実績	187	社				200社 (R5年 度)							<.			
							達成率	93.5	%														
VII-2- (3)-② 国際都 市にわし いまち				日本人市民に対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会 や場の提供を行う			目標	54.0	%	61.0	% 61.	.0 %										順調	今後も、(公財)北九州国際 交流協会と緊密に連携し、多様化する外国人市民のニーズ を的確にとらえ、外国人市民 が安心して住み続けられるよ う、きめ細やかな情報提供か
づくり		多文化共生の 推進	国際政策課	もに、すべての市 民が安心して暮ら	生」という言葉の			59.9	%				62% (R6年 度)	継続	42,803	43, 921	維持	3,075	順調	外国人市民に けではなく、地 るやささしい日本 ど、多文化共生 ための施策を実	地域住民に対す 語の普及な Eの意識醸成の	-	伴走型支援を行っていく。 また、外国人市民だけではなく、地域において更なる多文化共生の意識啓発を促し、 多文化共生の地域づくりを進
				し、自己の能力を 発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。			達成率	110.9	%														める。

						[Plan]				o】 実施									【Check】 評価 /		Action】 改善
施策番号 ・施策名	No.	SDGs	基本記	計画の施策 構成する 事業・取組 事業・取組	事業・取組概要		事業現状値	評価	5の成果指標(中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・他來石		番号	主な	事業・取組課名		指標名等	(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	万円生	(千円)	(千円)	の追減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
		(多文	化共生ワ	外国人市民が安 心して生活できる ための情報提供や	外国人市民の生活		目標	1 1 1/2 1/4	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	000/11/							外国人市民が抱える様々な		
	30	(I)	ンス	トップイ ォメー ンセン 運営事業 国際 課	元的に対応する 「北九州市多文化 共生ワンストップ	環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)					80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24,715	維持	2, 325	順調	問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整		
				廷百ず未	インフォメーショ ンセンター」の運 営を行う。) いと回答)		達成率	_										備に努める。		
V II−3−					本市を含めた18 市町で形成され			目標	現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興プラ ンの数値を踏ま え、令和5年度 中に設定予定	現観光 振興プ							連携事業の企画検討を行		北九州都市圏域での連携場
(1)-① 県内町では、10年のは10年のは、10年のは、10年のは、10年のは10年のは、10年のは10年のは、10年のは10年のは、10年のは10年のは10年のは10年のは10年のは10年のは10年	31			州都市圏 総務 携事業 課	た、連携中枢都市 圏「北九州都市圏	北九州都市圏域内 の宿泊者数	177.4万 人 (H27年)	结	155.4 万人			ランの 数値ま え、な	継続	4,000	2,820	減額	17, 400	やや 遅れ	い、圏域市町の意見を取り入れたブランディング化を図る。 また、ホームページの積極	順調	業について、これまでのプリ モーション活動の経験を活けしつ、随時見直し等を行い、連携をより一層強化して
広域連 携推進					ション事業を行う。			達成率	_			和5年度 中に設 定予定							的な活用を図り、圏域の魅力 発信を強化する。		w<.
VII-3- (1)-② 近隣主 市都 で間連								目標	関門地域の活 性化に資する 連携会議等で の取組の協 議・検討			関門地域連携								順調	今後も近隣都市との連携: 一層強化していく。
港方					下関市との連携	本市と下関市両市 の企画部門等所両で会議を開催し、両経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討	_	実績	関門地域の活 性化に資する 連携会議等で の取組の協 議・検討			推議そ伴市部進会れう企門が									
	32	0	広域事業	行政推進 総務	については、県境 を越えて両市の経 済成長・文化交流 に繋がる取組を行			達成率	_			の会議の開催	継続	3,972	4,011	維持	13, 300	順調	下関市や福岡市など近隣の 主要都市との連携について、 担当部門の各連携事業の推進		
)			の連携について は、福岡県内の政 令市同士として共	本市と下関市両市		目標		40 事業	40 事業	40事業							を図り、より一層強化していく。		
					同施策を推進する。	の行政間における 連携事業数	40事業	実績 達成率				(毎年度)									
								目標		26 事業	26 事業										
						本市と福岡市両市の行政間における連携事業数	26事業	実績達成				26事業 (毎年度)									

企画語	<u> </u>	<u>, </u>			[Plan]	計	画	/ [0	o】 実施						4		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号	S	SDGs	基本計画の施策事業	古坐 亚加斯五		事業	評価	iの成果指標(〔目標・実績〕			成果の R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて 26.44、 Bました内容
・施策名	No.	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				関門地域魅力向 上事業を発展させ	行政間における関 門連携事業数	40事業	目標 実績 達	40 事業			40事業 (毎年 度)								
		8 (1) (7)	関門連携推進 総務 事業 課	た形で、新しい生 活様式が定着した 「Afterコロナ期」 を見据え、国内外	関門エリア(下関	80, 400	成率目標	100.0 %	現観光振興プラン更新時に設定	現観光振興プラン更新を踏まえ、令和5年度中に設定予定	現観光プラン更	継続 2,000	1,320	減額	20, 750	順調	引き続き、関門エリアの魁カをブラッシュアップし、受入れ態勢のさらなる強化に取り組む。	,	
				図る事業を実施する。	関リエケット 市・北九州市)の 観光客・宿泊客に よる観光消費額	百万円 (R2 年)	実績 達成率				新ま令度設 をえの5年 を を を を を を を を を を を を を と 定 定 定 た の た の た の た の た の た の た の た の た								
				【西州特線 自治線 に 市、能の「福田士進 の政共同間 で共同間 で 大共同師を の 大 の は 後 り を の は り る は り る は る り る り る り る り る り る り る	連携事業の実施 (西九州軸での活動)	I回 (H28年 度)	目標 実績 達成率	I 回 I 回 I00.0 %	l o	l e	回 (毎年 度)								
VII-3- (2)-② 九州域な 世 、 連携			広域行政推進 無業 課	北連携」を核に加え を核に加え で、市と開発しまれる で、市と推り島東市間の が推りので推り が、カース が、カース が、大田のの は連り はいのが、発 いのが、発 いのでは はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はい	連携事業の実施 (東九州軸での活動)	I回 (H28年 度)	目標 実績 達成率	2 回 200.0 %	l 0	1 0	回 (毎年 度)	継続 3,972	4,011	維持	3, 075	順調	新型コロナウイルス感染症 の拡大を考慮して各連絡会議 を書面開催するなど、適時、 適切に対応している。令和5 年度以降も、状況に応じて書 面開催やWEB会議など柔軟な 対応を取りつつ連携の質を高 めていく。	順調	今後も交流・連携の枠組み を維持・継続し、九州の各地 域との連携を強化していく。
				【東九州軸連携】 東九州軸では東 九州自動車道全、・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	四都市間にて市民 割引料金を適用す る市施設数(動物 園、美術館、博物 館など)	52施設	目標 実績 達成率	52 施設 52 施設 100.0 %	52 施設	52 施設	52施設 (毎年度)								

松伤问																					
						[Plan]	】計	画	/ [D	o】 実施							-		【Check】 評価	/ [<i>t</i>	Action】 改善
施策番号 ・施策名	No. ₃	基本計画の施 ・ル を構成する ・号 主な事業・取	第 事第 所管	音 一 尹 耒	・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)		の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	方向性	予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
I - I - (1) - ① 仕事と	1	⑦ ワーク・ラ⑦ フ・バラン① 推進事業	女ののくれる人	- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ともに、企	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5%	目標 実績 達成率	RI年度比 增加 66.3 %	RI年度比 増加	RI年度比增加	RI年度比增加(R6年度)		7,475	6,911	减額	8,400	順調	仕事と生活の両立が図られたいると感じる人の制定の人の性活表がでいた。なったいでは、アークラインスでいるのでは、でいって、でいって、でいって、では、でいって、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、		企業については、意識なものでは、意識なものでは、意識なものでは、意識なものではを重してくとまえ、対して一変を効果を対しては、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では
子育て の両立 支援				たい希望の個人に	女性・働き 性が、じ、そ に応じを十 を を を と に に に に に に に に た り に た り た き と に た り た り た り た り た り た り た り た り た り た			目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	73 %								働く女性や働きたい女性 が、各々の希望に応じ、その 個性や能力を十分に発揮して		カを十分に発揮して活躍で るよう、引き続きウーマン ワークカフェ北九州での したワンストップでの就代 接を行うとともに、 ニーズを踏まえたスキルア
	2	全 女性輝き! 選 進事業	女のく会進	王軍士住宅ア業の広支ウッ支両く援っ	『や就職、創 ま、 ま、 ま、 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	女性の就業率(25 〜44歳)	70% (H27年 国勢調 査)		_			73% (R5年 度)	継続	11,092	10,248	減額	9,300	順調	活躍できるよう、、引き続き幅の大変援を行う。子育では大変を行う。子育では大変を行う。子育では、大変を大変を大変を支援や女性のなど、常にない、常にのよってない。大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、		プ支援など、女性に寄り添た幅広い支援を行う。
				る周知	公九州の更な 京広報と新規 京の獲得を図			達成率	_										な方法を工夫して行う。		

						(Plan)	計	画	/ [D	o】 実施						•		【Check】 評価	<u> </u>	Action】 改善 ————————————————————————————————————
番号 No)] ' -	基本計画を構成		主要事業所管	事業・取組概要	此馬力が	事業言現状値	評価の	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性 予算		年度 事業 の増) K3#/3	強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
3- -① 〔・ 十決		主な事業	・収組	課名		指標名等	(基準値)	目達標	単年度目標なし	単年度目標なし	23 %	目標	(1 F	円)(-	千円)	" ["] (千月) 評価	(課題に対する改善方法等)	評価 順調	(課題に対する改善方法等 市職員の女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推 については、令和元年5月9 定の「北九州市職員女性活
程り男に同の					女性職員の活躍 とワーク・ライ フ・バランスの推 進は一体的に取組	8617 F) FF 36	17.6% (H30年 度)	実績	21.2 %			23% (R5年 度)								躍・ワークライフバランス 進プログラム」を着実にま していく。特に、女性役職 の長期的・計画的な育成に
					みを推進すること により相乗効果が 高まるため、女性 活躍推進法に基づ			達成率	_											する研修等を通じて、女 活躍推進を加速させる。 男女共同参画社会の形 推進にあたって効果的ない を実施するため、市民の
					く特定事業主行動 計画「女性活躍推 進アクションプラ ン(第2期:平成26 年度〜30年度)」	소사 설치 TRR ROS (스田 트		目標	単年度目標 なし	単年度目標なし	15 %									ズ等を踏まえながら講座 の事業内容の見直しに取 む。 「男女共同参画フォー in北九州」や「男女共同
				:	と次世代育成支援 対策推進法に基づ く特定事業主行動 計画「北九州市職 員ダイバーシティ		13.6% (H30年 度)	額	14.5 %			15% (R5年 度)						女性職員を対象としたキャ リア研修やメンター研修を通	i	に関する広報啓発事業」 進により、市民に対する 活動を効果的に実施する コロナ禍での事業実施
3	5 8	リワークラ	星・ロックス ガース 大推進し	女性)輝 、社	員ティハーシティ 推進プログラム (平成27年度〜3Ⅰ 年度)」を整理・ 統合し、令和元年5			達成率	_				継続 4,5	20 4,	,340 維持	持 10,4	75 順調	1 . 14 /		機に取り入れたオンラーによる講義を積極的に対これまで参加していなが若年層等を含めた幅広い見据えた事業を実施する
	(1)	プログ ⁻ 進事業		甚至	月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」	部課長級の多面評		目達標	単年度目標なし			ara/						また、女性役職者の長期 的・計画的な育成のため、係 長級及び課長級を対象に研修 等を実施し、女性管理職等の 比率向上を目指す。		元店んに事業を 天他する
					を策定した。組織 の持続的な成長 多様化する市民 ニーズへ対応する ため、性別にかか	価コイクボフロかし	88.0% (H27年 度)	実績達	94.0 %			95% (R5年 度)								
				:	わらず活躍できる 組織風土を醸成 し、全ての職員が 育児や介護等のラ			成率												
					イフスタイルの変化に応じている。 化に方を選択するではいいででいる。 ないではいいではいいでいる。 と働きがいを持っ		14.8%	標	単年度目標なし			30%								
						男性職員の育児休 業取得率	(H29年 度)	実績達	60.3 %			(R4年 度)								
								成率	_											

				4 m		(Plan)				Do】 実施	i						人件費		[Check]	評価		Action】 改善
後番号 施策名	No. SDGs	基本計を構	画の施策 成する 業・取組	王要 事業 所管	事業・取組概要	指標名等	現状値	評価	の成果指標(R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	(目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直	[した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
		土な争	業・収組	課名		性別による固定的	(基準値)	目標	単年度目標なし	H29年度 (26.7%)の水 準より減少	労任庶日堙	目標 R4年度		(千円)	(千円)		(千円)		(課題に対する 男女共同参画 推進に向けたイ の開催、就業・	社会の形成のベントや講座	評価	(課題に対する改善方法
					男女共同参画セ ンター・ムーブに おいて、施設の運 営をはじめ、地域	役割分担意識に肯定的な人の割合※中期目標改訂	17.0% (R4年 度)	実績	_			の水準 より 少 (R9年 度)							プ支援、 相談事 きょう 大装 には 単二 は 単二 で ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま	実施し、市民 げていく。 社会の形成を め、より多く って参加でき		
	4 8	男女共 センタ 運営事	~管理 業	女のく会進性輝社推室	に根を画推き、 した男女女に した男女女 、 向の が の が の が の が の が の が の が の が の が の			成率 目標	一 単年度目標 なし	80 %	単年度目標なし		- 継続	244,088	244,088	維持	8,950	順調	継続的にテートマーマーマーマーマース でいます は 中期目標の で 意識目標の 見 重 標 の 見 直 し い ま い ま か に か に	や事業手法の る。 更内容】 実施した市民 を踏まえ、中		
					ど、様々な事業を 展開し、男女共同 参画社会の形成を 推進する。	男女共同参画社会 という言葉の認知 度 ※中期目標改訂	78.4% (R4年 度)	実績	_			R4年水り加 (R9度)							刑 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	定的役割分担 人の割合 より減少(R4 の水準より減		
_								達成率	_										80%(R4年度) 準より増加(R94		_	
					地域における男			目標	単年度目標なし	H29年度 (26.7%)の水 準より減少	単年度目標なし								「男人」 「男人」 「別人」 「一、 「一、 「一、 「一、 「一、 「一、 「一、 「一、	啓発事業」を れぞれに対 容や参加対象 夫を行うよう		
	5 (0)	推進啓 【男女	(同参画) 発事業 共同参	女のく会進性輝社推室	女夫同参画の推進域団が広場画の推進域団が広で中華を発男女・一郎を発男女・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・	性別による固定的 役割分担意識に肯 定的な人の割合 ※中期目標改訂	17.0% (R4年 度)	実績	_			R4年度 の水り より (R9年 度)	継続	3,421	3,508	維持	5,050		意識改革に繋げ	ていく。 式を取り入れ に進め、啓発 ていく。 更内容】		
					に関する理解を深める。			達成率	_										意識調査の結果し 期間標の見る的な 開しました はに肯定の水準。 年度)→R4年度 少(R9年度)	を踏まえ、中 を行う。 的役割分担意 の割合 より減少(R4		

						[Plan]	計	画	/ [Do]	】 実施									【Check】 評価	<u> </u>	Action】 改善
号 No	SDGs	基本計画の施を構成する	第 主要	美	事業・取組概要			評価	iの成果指標(目	標・実績)		-h #n	成果の	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
	番号	基本計画の施 を構成する 主な事業・取	組課名	5	子来 "八仙"说文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
,				き 択	誰もが多様な働 方や生き方を選 でき、活力ある かな社会を実現			目標	RI 年度比 増加	RI年度比 増加	RI 年度比 増加								仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合が上 昇するように、女性活躍・ ワークライフバランス表彰の		企業については、引き 各種支援を通じて意識さ 一層推進していくとと 企業のニーズを踏まえ、 的な事業実施や効果的な 検討していく。
6	8		イ の輝 ス く社 会推	すの行業な	るため、企業等 取組支援などを うとともに、企	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合		実績	66.3 %			RI年度 比增加 (R6年 度)	継続	7,475	6,911	減額	8,400	順調	実施や、企業へのアドバイザー・研修講師の派遣等、企業への支援を継続して実施するとともに、東美の効果が的なアを図る。また、市内企業に女性活躍やワーク・ライフ・		市内企業等のイクボスについては、当該同盟のが大を目指すとともいった。 市全体の機運醸成を図る。 市職員の女性活躍やワク・ライフ・バランスの
				1	和(ワーク・ラ フ・バランス) 推進を図る。			達成率	96.8 %										バランスの推進に係る情報を 広く周知することで、取組へ の着手を促す。		については、令和元年5 定の「北九州市職員女性 躍・ワークライフバラン 進プログラム」を着実し していく。
								目標	RI 年度比 増加	RI年度比 増加	RI年度比 増加										
						仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合		実績	66.3 %			RI年度 比增加 (R6年 度)									
7		北九州イクス同盟推進		上がるち	産性・業績の向 、人材確保に繋 、り、その先にあ 「働きやすいま 北九州」を目指			達成率	96.8 %				- 継続	9,455	5, 955	減額	9,550	順調	経営者・管理職の意識改革 を図るための研修会等を引き 続き実施するとともに、「イ		
		業	会推	1 年 同	ために、平成29 度に設立した 北九州イクボス 盟」を推進し、 営者・管理職の			目標	単年度目標なし	単年度目標 なし	単年度目標なし		WEL NO.	7,433	3, 733	1194 B.R	1, 330		クボス」及び「北九州イクボス同盟」の認知度向上や、働き方改革の機運のさらなる醸成を図る。	,	
				意		ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業(累計)		実績	1,523 社			I,600社 (R6年 度)									
								達成率	_												

					[Plan]				0】 実施							—		[Check]	評価	/ [A	ction】 改善
養番号 No	SDG:	基本計画の施第 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	III III A M	事業:	評価	の成果指標(中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
вжа	香生	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	刀闪任	(千円)	(千円)	の項が	(千円)	評価	(課題に対する改	(善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等
				女性職員の活躍			目標	単年度目標なし	単年度目標なし	80 %											
				進は一体的に取組 みを推進すること により相乗効果が 高まるため、女性	両立しながら新た な業務等にチャレ ンジしたいと思う 職員の割合	69.9% (H26年 度)	実績	_			80% (R5年 度)										
				活躍推進法に基づ く特定事業主行動 計画「女性活躍推 進アクションプラン(第2期:平成26 年度~30年度)」			達成率	_				_									
		北九州市職員		と次世代育成支基 対策推進基主行市 は特定・北九十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十			目標	単年度目標 なし	30 %	単年度目標 なし	次期計							ワーク・ライフ 推進関連研修等の			
8	8	又任心唯・	の輝く社	(平成27年度~31 年度)」を整理・ 統合し、令和元年5 月に「北九州市職 員女性活躍・ワー		14.8% (H29年 度)	実績	60.3 %			八画け度策 知にR5年に 定 定	継続	4,520	4,340	維持	10, 475	順調	て、イクボス実践 ジメント力強化と 育児参画をともに ていくことで、市 る女性活躍とワー	によるマネ 男性職員の 発員の かな りって		
				クライプバランム 推策定した。成長 の持続的なる市民 の様化でへ対応 を展して、 を成した。 を成立 の様の がある。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき			達成率	_										フ・バランスの推	進を図る。		
				ため、性別にかかわらず活躍できる 組織風土を醸成し、全ての職員が 育児や介護等のラ			目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	95 %											
				イフスタイルの変化に応じて柔軟することで、いいたととでないます。	部課長級の多面評価「イクボスIOか条を実践できている管理職の割合」	88.0% (H27年 度)	実績	94.0 %			95% (R5年 度)										
				て活躍できる職場 を目指す。			達成率	_													

心伤人	,																				
						[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施	i						—		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号	. No S	SDGs 基	本計画の施策 を構成する な事業・取組	主要	事業・取組概要			評価	の成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	(日女)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	
・施策名	NO.	番号主	な事業・取組	所管 課名	尹未	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
								目標	単年度目標 なし	80 %	単年度目標なし								若年時からの意識改革は重要であり、令和3年度改訂の小・中学生向け男女共同参うと関する。 ともの頃からの男女共同参うの意識の醸成を図る取組や、	ā 2- ā	
Ⅱ-3- (2)-③ 性よる侵為に 人害の 根絶	9	5 基	本計画推進 業(配偶者	女のく会進性輝社推室	ある人からの暴力	つ」について、暴 カと認識する人の 割合	76.8% (R4年 度)	実績				R4年度 の水 より 加 (R9年 度)	継続	5,853	5,288	減額	5,050	順調	高校・大学などでのデートD、 予防都室、DV啓発リートレ、 ト配布の取組などを継続していく。 「中期目標の変更内容了 令調調査のを実施したする、に 東を踏行う。 意識目標の発しを行う。 配偶者等との間における「3	順調	若年時からの意識改革は重要であり、男女共同参画の意識の醸成を図る取組や、高校・大学などでのデートDV予防教室開催などを継続していく。
								達成率											記[64号と) (RO 18	£	

						(Plan)	計i	<u> </u>	[D	o】 実施									【Check】 評価		(Action) 改善
番号 N	SDGs	基本計画の施 を構成する	手	業	事業・取組概要			平価の成果	指標(目標・実績)		l. Hn	风米の	R4年度	R5年度	- 尹耒貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	76.0 0 - 1 6 6 -
€策名 ^N	番号	主な事業・取	on Pr	f管 果名	学 未:	指標名等	現状値 (基準値)	R3£	F度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法		(課題に対する改善方法等
·3- -④ 生の 翟推								目 単年原標 な	度目標し	単年度目標 なし	23 %									順調	市職員の女性活躍やワーク・ライフ・バランスの打については、令和元年5月定の「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス
					女性職員の活躍 とワーク・ライ フ・バランスの推 進は一体的に取組	女性役職者(係長級以上)比率 (教職員・消防職員を除く)	I7.6% (H30年 度)	実 績 21.2	. %			23% (R5年 度)									進プログラム」を着といいます。 していく。特に女性役成に 長期的・計画的な育成に る研修等を通じて、女性
					みを推進すること により相乗効果が 高まるため、女性 活躍推進法に基づ			達 成 - 率													躍推進を加速させる。 市内企業等のイクボス については、当該同盟の の拡大を目指すとともに
				:	く特定事業主行動 計画「女性活躍推 進アクションプラ ン(第2期:平成26 年度~30年度)」	<i>1.</i> № 70 TM (28 E		目 単年原標 な	度目標し	単年度目標なし	15 %										市全体の機運醸成を図る 女性個人については、 女性・働きたい女性が、 の希望に応じ、その個性 力を十分に発揮して活路
				1	と次世代育成支援 対策推進法に基づ く特定事業主行動 計画「北九州市職 員ダイバーシティ	女性管理職(課長級以上)比率 (教職員・消防職員を除く)	13.6% (H30年 度)	額	%			15% (R5年 度)							女性職員を対象とした リア研修やメンター研修		るよう、引き続きウーワークカフェ北九州を打したワンストップでの記録を行うとともに、オ
ı	0 8	北九州市職 女性活躍・ ワークライ バランス推:	女のく	性輝社	貝ッイハーンティ 推進プログラム (平成27年度〜31 年度)」を整理・ 統合し、令和元年5			達 成 - 率	-				- 継続	4,520	4, 340	維持	10,475		して、女性職員のキャリ 成の意識付けを行うとと に、能力不安・両立不安 和に向けた支援を行う。	もの緩	ニーズを踏まえたスキープ支援など、女性に寄た幅広い支援を行う。 次世代活躍応援事業して、社会において女性:
		プログラム: 進事業	性進	推室	月に「北九州市職 員女性活躍・ワー クライフバランス 推進プログラム」	部課長級の多面評		目 単年原標 な				9504							また、女性役職者の長 的・計画的な育成のため 長級及び課長級を対象に 等を実施し、女性管理職 比率向上を目指す。	、係 研修	の個性・能力を十分にて活躍するためには、代から性別によるし、定
					を策定した。組織 の持続的な成長と 多様化する市民 ニーズへ対応する ため、性別にかか	価「イクボス10か 条を実践できてい る管理職の割合」	88.0% (H27年 度)	実 績 ²	%			95% (R5年 度)									野など多様な進路に興 を持てるようにするこ 要である。 今後とも、女性の活 んでいない分野を中心
				i	わらず活躍できる 組織風土を醸成 し、全ての職員が 育児や介護等のラ			成 -	_												内の大学や理工系企業 しながら、出張講義や 業務体験の提供等により 学生の進路選択を支援
					イフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いき持ちでいいを持ったとしている。			目 単年原標 な				次期計 画に向									< ∘
					て活躍できる職場を目指す。	男性職員の育児休 業取得率	(H29年 度)	利	%			けR5年 度中に 策定予 定									
								達 成 - 率	-												

						(Plan)	計	画	/ [[o】 実施	i						+		[Check]	評価	/ [Action]	改善
策番号	No.	SDGs 基石	本計画の施領 を構成する な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価		(目標・実績)		中期	成果の		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策		ほに向けて 見直した内容
施策名		番号 主な	な事業・取締	祖課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	万冋性	予算額 (千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価		る改善方法
								目標	RI年度比 増加	RI年度比 増加	RI年度比 増加												
					働く人の幸せ、	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% (RI年 度)	実績	66.3 %			RI年度 比增加 (R6年 度)											
	11	⑤ 北:	九州イクは同明推進国	女性がの輝く社	生産性・業績の向 上、人材確保に繋 がり、その先にあ る「働きやすいま ち北九州」を目指			達成率	96.8 %				- 継続	9,455	5,955	減額	9,550	順調	経営者・管理 を図るための研 続き実施すると	修会等を引き ともに、「イ			
		II ③ ス同盟推進事 ⑦ 業	会推進室	すために、平成29 年度に設立した 「北九州イクボス 同盟」を推進し、 経営者・管理職の			目標	単年度目標 なし	単年度目標なし	単年度目標なし		#EE #7L	7,400	3, 733	<i>1194</i> , 454	1, 330		クボス」及び「 ス同盟」の認知 き方改革の機運 成を図る。	度向上や、働	1			
				意識改革を図る。	ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業(累計)		実績	1,523 社			I,600社 (R6年 度)												
								達成率	_														
-					働く女性・働き たい女性が、各々 の希望に応じ、そ の個性と能力を十 分に発揮し輝ける			目標	単年度目標 なし	単年度目標なし	73 %								働く女性や働 が、各々の希望 個性や能力を十	!に応じ、その			
	4 5 後 (1)	5 女(⑧ 進	性輝き!排 事業	女のく会進	よう、キャオステンプでは、また、サイスを表している。これでは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、ま	女性の就業率(25 ~44歳)	70% (H27年 国勢調 査))		_			73% (R5年 度)	継続	11,092	10,248	減額	9,300	順調	活躍できるよう 広い支援を行う 女性の就業支援 リアアップ、起 ついては、常に	、引き続き幅 。子育て中の や女性のキャ 業支援などに 最新の社会情			
					ウーマンワークカフェ北九州の更なる周知広報と新規利用者の獲得を図る。			達成率	_										勢や女性特有の えた企画を行い な方法を工夫し	、より効果的			

				(Plan)	計		Do】 実施							, p+ 45			評価		Action】 改善
番号 No. SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価の成果指標			中期	」		R5年度		人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	76.0
長名 番号	主な事業・取組	課名		指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	予算額 (千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法
					70%	目 単年度目標標 なし	単年度目標 なし	73 %	500 /										
				女性の就業率(25 ~44歳)	国勢調				73% (R5年 度)										
					查)	達成 —													
						目 3,380 人										引き続きウー		-	
			女性の就職・	ウーマンワークカ フェ北九州新規利 用者数	_	実 1,797 人			3,500人 (R6年 度)							フェ北九州を拠 ストップでの女 を行ううえで、	性の就業支援	爰	
		の輝	キャリアアップ・ 創業などをワンス			達 成 53.2 % 率			,	/ml/ /-+	22 (1)	22 252	~44.1+		やや	用促進に向け、 を行う。また、 の女性の就業意	特に子育て中	Þ	
	グガフェ北九 州運営事業	会推	カフェ北九州」を			目標	33 %	34 %		- 継続	32,616	32, 278	維持	6,800	遅れ	するよう、オン 拡充や未就業女 なキャリアカウ	ライン相談の 性への定期的	5	
			運営する。	ウーマンワークカ フェ北九州利用者 の就職決定率		実績			35% (R6年 度)							新規実施を通し の両立など女性	て、子育てと の抱える不安	2	
				77%相以人 足干		達成率			(文)							や悩みに寄り添 化を図る。	った支援の領	Ē.	
						目標	6,300 人	6,400 人											
				ウーマンワークカ フェ北九州相談者 数	_	実績			6,500人 (R6年 度)										
				XX		達成率			反)										
						目 単年度目標 なし													
				女性の就業率(25 ~44歳)	70% (H27年 国勢調	実			73% (R5年										
			女性の就職促進 を目指し、性別に		查)	達			度)							女性の活躍が 分野への若年層 動機づけを行う	の進路選択の	כ	
			よる固定的な価値 観や生き方を払拭 するため、学生の			国 標	300 人									等教育機関と市して、子ども・階に合わせた研	内企業が連携 学生の成長科	馬	
14 5	いち は 小いて 四十	の輝	頃から「多様な働き方」などの啓発 に取り組む。	研究・職業体験プ ログラム参加者数		実			500人 (R6年	継続	2,200	2,200	維持	4,825	順調	プログラムの提 ルモデル提供な	供や女性ロー どに取り組む	-	
(0)	次世代 活 雄 於 接 事 業	会推	また、子ども・ 学生の成長段階に あわせた研究・職	※指標廃止		達成			度)							ことを支援する 【指標廃止・追	加の理由】		
			業体験プログラムの提供に取り組む			率目		80 %								本事業の成果 して、研究・職 ラム参加者への	業体験プロク	7"	
			尚寺教育機関を文 援する。	研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果		標実		80 %	R5年度 の水準 より増							果の満足度の方 あると考えるた		C"	
				の満足度	_	績達			加 (R9年										
				※指標追加		成率			度)										

						[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号 ・施策名	No.	SDGs 基本 ゴール を 番号 主な	本計画の施策 を構成する な事業・取組	主要業	事業・取組概要	指標名等	事業: 現状値 (基準値)	評価	iの成果指標(R3年度	目標·実績) R4年度	R5年度	中期		R4年度 予算額	予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				詸 名			(泰华祖)		建築工事・ 外構工事・ 展示製作等 の実施			目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(precion) (subjust)	評価	(MCC) 1 3 WE 1/1/47
					「北九州市平和 のまちミュージアム」の運営にかか る受付監視、施設 保守・保安業務、	(仮称) 平和資料 館の建設	_	実績	建築工事・ 外構工事・ 展示製作等 の実施			(仮称) 平和資 料館の 建設									
	15	A =	和のまち ュージアム 理・運営事	のま ち	光熱水費等の各種 経費を計上し、円 滑な館の運営に取			達成率	_				- 継続	42,000	39, 185	減額	30,050	順調	引き続き、ミュージアムの 円滑な運営に努めるほか、 様々な企画展・講座等を実施		
		業	T Æ67	ァム 事務 局	たい、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で			目標		50,000 人	50,000 人	50,000							し、来場促進を図る。		ミュージアムの円滑な運営
Ⅱ-3- (4)-①	① の へ 解				戦争体験や戦時資料の保存・継承に 務める。	平和のまちミュージアム年間来館者 数	_	実績				(毎年 度)									に加え、様々な企画展を実施するなど、来場促進に務める。 また、引き続き「嘉代子
平和の 尊さ の 理解 の 促進								達成率												順調	桜・親子桜」の植樹や長崎。 が主催する「青少年ピース フォーラム」への小時で の派遣、親子で平和の尊さ。 考えるための「長崎市平和」
	へ 解 進 			T-1-	本市の平和に対する基本的の平和に対する基本的が開かれた宣言」核平和都市宣言」に込められた平和			目標	_	_	_								長崎市が主催する「青少年 ピースフォーラム」への小中 高校生の派遣、親子で平和の		遺事業」等に取り組み、戦争の記憶を後世に伝えていく。
		● 非村進事	核・平和推 事業	平のちミーア事局和ま ユジム務	への願いため で た、態を た、態を に 、 に を を の る た り を を 他 化 次 め、戦 せ 世 世 と 、 た め て と の る た た と の る た た り て と て た る く て く て く て く て く て く て く て く く く く く		_	実績	_			市平尊理るがのをすと	継続	10,000	10,000	維持	13, 950	順調	尊さを考えるための「長崎市 平和派遣事業」等についつウ は、引き続きの感染防ロロナウウ ・ が底したうえで実施する。 「嘉代子桜・親子桜」については、私立の中学校・高校		
					桜」の植樹や長崎 市への市民派遣な ど、平和に関連し た様々な事業を実 施する。			達成率	_										への植樹を進めるほか、植樹 済の学校についても、生育調 査・補植を実施する。		

					[Plan]				0 実施							+		[Check]	評価	/	[Act		改善
施策番号 ・施策名	No z'-	s 基本計画の施策 を構成する	T-X	事業・取組概要		事業現状値	評価	の成果指標(中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年 局が			Eに向けて 見直した内容
* 他來石	番号	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	力问性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する	る改善方法等			果題に対す	る改善方法等
				本市の自治の基 本的ルールを定め た「北九州市自治 基本条例」(平成 22年10月1日施行) の意義や理念など			目標	_	-	_								引き続き、市 活動や職員に対 実施する。また	付する研修等 ∈、特に市政	を			
	17 (f	北九州市自治 基本条例推進 事業	総務課	を多くの市民に理解している。 解し、周たに行った。 は、周たに子を報の、また住民参画の は、または、 を住民参画の視点がら がら、また、 を主に、 を主に、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を、これで、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、	市民が主役の自治 (市民自治)の確 立	_	実績	_			市民自 治の確 立	継続	1,110	2,510	増額	4,650	順調	の関心が低い老 知を消滅などに取 また、令和6の 会で必要となる	大学等への 双り組む。 年度開催予算 側評価検討委	出			
Ⅲ-3- (3)-①				い、条例の目指す まちづくりができ るよう、職員向け の研修を行う。			達成率	_										識調査を実施す		1/6	治) 条位 民(の確立に 削に対する)市政への	での自治(住民 に向け、自治基: 理解を深め、で の の の の の も で も は に の は に の は の は の は の は の は の は の は の
市国働めの が が が が が が が が が が が が が				厳しい財政状況 の中から持続的か	民間事業者からの		目標実		5 件	10 件	20件 (R4~							令和5年度か	△ 未权宝体:	· 順	調活動では	かを継続実 きた、公民 は、公民連	、後も条例の周 を施していく。 は連携推進につい 携アドバイザ・ 日部の意識醸成、
くり				つ安定的な財源を 確保するため、 「提案型ネーミン グライツ制度」を	提案受付件数(累計)	_	績達				R6年 度)							る、公民連携総にあたり、公民 ザーを活用した	総合窓口の運 発連携アドバ 内部の意識	営 イ 醸	「± 度」	是案型ネー における	おり 思誠酸成、 ・ミングライツ パートナー代 化を行う。
	18 1	公民連携推進事業		導入する。 さらに、公民連 携窓口を設置し、			成率					継続	6,100	5,000	減額	4,775	_	た公民連携の指 業者からより良	ŧ進を図り、 ₹質な提案を	事			
		7.	課	民間の知見を活用した地域課題業機会の創出を図る取			標		10,000 千円	10,000 千円	新たな							けられるよう取また、「提案 ライツ制度」に パートナー代理	受型ネーミン ついては、 型店との連携	ıc			
				組を推進するとともに、効率的な事業運営を図る。	新規獲得分の命名 権料(年額)	_	実績				税外収 入の確 保							より、導入施設る。	设の拡大を図				
				**EBCE 00			達成率																
Ⅲ-3 -				誰もが多様な優 き方や生、活力を選 状でさ、社会を現			目標	RI 年度比 増加	RI年度比 増加	RI年度比 増加								仕事と生活の ていると感じる 昇するように、 ワークライフ/	人の割合が 女性活躍・	'上	各和 一原 企 動 的	重支援を通 質推進して 美のニース	へては、引き続 記じて意識改革 いくともに、 で踏まえ、効 るや効果的なPR 。
(3)-③ 企 地域へ 動 を 進 後 進	19 8	ローク・ライ フ・バランス 推進事業	の輝 く社 会推	するため、企業等 の取組支援などを 行うとともに様や地域での様しな な活動と連携しな がら仕事と生活の	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% (RI年 度)	実績	66.3 %			RI年度 比增加 (R6年 度)	継続	7,475	6,911	減額	8,400	順調	実施や、研支になるというでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	Fの派遣等、 継続して実施 ■業の効果的 =、市内企業	企 す 順 な に	女性 初 の わ る る	生・働きた 合望に応発 と十分に発 こう、引き	ついては、、働いてはが、、のない、で性が個性でではが一個になっていまででは、 はないではないでは、、 は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
				調和 (ワーク・ラ イフ・バランス) の推進を図る。			達成率	96.8 %										バランスの推進 広く周知するこ の着手を促す。			援る ニー プラ	そ行うとと -ズを踏ま	ップでの就業 もに、時代の えたスキルア 女性に寄り添 きを行う。

総務局					[Plan]	計	画	【Do】 実が	Ē						4		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	主要事業	-t- W4 - 75- 40 100 TE		事業	評価の成果指	票(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度		に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No. ゴール 番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価		直した内容 る改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					女性の就業率(25	70% (H27年		標		73% (R5年										
IV-3-				女性の就職促進 を目指し、性別に よる固定的な価値	~44歳)	国勢調 査)	達 成 一			度)							分野への若年原 動機づけを行っ	うため、市内高) 5	社会において女性が自らの 個性・能力を十分に発揮して 活躍するためには、学生時代
(2)-① 若の 意識の き発や	20 5	次世代活躍応援事業	- MED	観や生き方を払拭 するため、学生の 頃から「多様な働 き方」などの啓発	研究・職業体験プ ログラム参加者数	_	目標実は	300 人		500人 (R6年	継続	2,200	2,200	維持	4,825	順調	等教育機関とする。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・学生の成長月 开究・職業体駅 是供や女性ロー よどに取り組む	₹ -	から性別による固定的の投資的分型意識をなくし、理味関心を必要様な進路に興味関心を持てることが重要持てることが重要である。
能か 発活が を 後	(1)	抜争系	工作	学生の成長段階に あわせた研究・職 業体験プログラム の提供に取り組む	※指標廃止		達成率			度)	_						ことを支援する 【指標業の成界 日本事 研究・服力 日本 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	追加の理由】 果の効果測定と 哉業体験プロク	r*	今後とも、女性の活躍が進んでいない分野を中心に、市内の大学や理工系企業と連携しながら、出張講義や実験・業務体験の提供等による女子
				高等教育機関を支援する。	研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果 の満足度	_	目標 実績		80 %	R5年度 の水準 より増 加 (R9年							果の満足度のためると考えるが	ちがより適切っ		学生の進路選択を支援していく。
IV-3- (2)-(2)					※指標追加		達成率	H29年度		度)									順調	男女共同参画社会の形成の 推進にあたって効果的な取組
(女活る都く)がす業づの					性別による固定的 役割分担意識に肯	17.0%	目単年度目標なし	標 (26.7%)の水準より減少	単年度目標なし	- R4年度 の水準							男女共同参呼 推進に向けたでの開催、就談明 で支援、相談等 業計画に基づる	・キャリアアッ 事業などを、事	<u>Z</u> ,	推進にのだって効果的な収解 を実施するため、市民のニー ズ等を踏まえながら講座なと の事業内容の見直しに取り組 む。 コロナ禍での事業実施を契
推進				男女共同参画セ ンター・ムーブに おいて、施設の運 営をはじめ、地域	定的な人の割合 ※中期目標改訂	(R4年 度)	実			より減 少 (R9年 度)							の意識改革に繋	繋げていく。 画社会の形成を もめ、より多く きって参加でき		はいる はよる講義を積極的とかった による講義を積極的とから による はなかった若年層等を含めた にない層を見据えた事業を実 を
	21 8	男女共同参画 センター管理 運営事業	の輝く社 会推				成 — 率		N/ for the second		- 継続	244, 088	3 244, 088	維持	8, 950	順調	継続的にテーマ 見直しを検討る 【中期目標の多	マや事業手法の する。		施する。 次世代活躍応援事業について、社会において女性が自らして活躍するためには、学生時で活躍するためには、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、学生時では、大学生時では、学生時では、大学生時では、大学生時では、大学生時では、大学生時では、大学生時では、大学生時では、大学生のいいは、大学生のでは、大学生のいいは、大学生のいいは、大学生のいいは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、大学生のいきないは、またいは、大学生のいまないは、大学生のいまないは、またいは、生のいまないは、生のいまないは、生にないましまりますがままります。
	0		進室	いは相談事業な ど、様々な事業を 展開し、男女共同 参画社会の形成を	男女共同参画社会という言葉の認知	78.4%	目単年度目標なし	標 80 %	単年度目標なし	- R4年度 の水準							意識調査の結果 期目標の見直し ①性別による 意識に肯定的な H29年度の水準	果を踏まえ、中 しを行う。 固定的役割分割 よ人の割合	3	代から性別による固定的では、チェル 行から性別による固定的役割 分担意識をなくし、理工集関 野など多様な進路に興味関心 を持てるようにすることが重 要である。
				推進する。	度 ※中期目標改訂	(R4年 度)	実			より増 加 (R9年 度)							年度)⇒R4年度 少(R9年度) ②男女共同参画 葉の認知度	度の水準より減 画社会という言		今後とも、女性の活躍が進んでいない分野を中心に、市内の大学や理工系企業と連携しながら、出張講義や実験・
							成 — 率										80%(R4年度) 準より増加(R9			業務体験の提供等による女子 学生の進路選択を支援してい く。 女性個人については、働く

			十五	1	(Plan)		画		Do】 実施	<u> </u>						人件費		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
连番号 No	SD コ' 番	DGs 基本計画の で構成す 主な事業・	施策 取組 工事所課	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		の成果指標 R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性		R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	金額(千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 R5年度に向けて 局施策 強化・見直した内容 評価 (課題に対する改善方法
				働く女性・働き々 たい女望にが、じな のの個性と能し輝 分に発揮した				単年度目標なし	単年度目標なし	73 %	H 120						2 1 (m	働く女性や働きたい女性 が、各々の希望に応じ、その	女性・働きたい女性が、 の希望に応じ、その個性 力を十分に発揮した活躍 るよう、引き続きウーマ ワークカフェ北九州を拠 したワンストップでの就
2	2	④ 女性輝き 選 進事業	生推 女の く 会進 全	は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	女性の就業率(25 〜44歳)	70% (H27年 国勢調 査)		_			73% (R5年 度)	継続	11,092	10,248	減額	9,300	順調	個性や能力を十分に発揮して活躍できるよう、引き続きのよう、引き続きのなった。子質を持ちている。子質を対している。というでは、常に最新の社会に、対していては、常に最新の社会は、対していては、対していては、対していては、対していては、対していては、対している。	援を行うとともに、時代 ニーズを踏まえたスキリプ支援など、女性に寄りた幅広い支援等のイクボスにの企業等のイクボスについては、当該同盟のが太を目指すとともに
				リーマンリーラ ガフェ北九州の更なる周知広報と新規利用者の獲得を図る。			達成率	_										えた企画を行い、より効果的な方法を工夫して行う。	市全体の機運醸成を図る
							目標	RI年度比 増加	RI年度比 増加	RI年度比 増加									
				働く人の幸せ、	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合		実績	66.3 %			RI年度 比增加 (R6年 度)								
2		5 北九州イ 3 ス同盟推:		生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指			達成率	96.8 %				- 継続	9,455	5, 955	減額	9,550	順調	経営者・管理職の意識改革 を図るための研修会等を引き 続き実施するとともに、「イ	
		⑦ 業	会推進室	すために、平成29 年度に設立した 「北九州イクボス 同盟」を推進し、 経営者・管理職の			目標	単年度目標 なし	単年度目標なし	単年度目標なし		net nyt	7, 433	3, 733	11-94 TJR	7, 330	Project taled	クボス」及び「北九州イクボス同盟」の認知度向上や、働き方改革の機運のさらなる醸成を図る。	
				意識改革を図る。	ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業 (累計)			1,523 社			I,600社 (R6年 度)	:							
							達成	_											

			_ } =		[Plan]				o】 実施							(P+ #5		[Check]	評価		[Action]	改善
策番号 Ni 施策名	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	王安	事業・取組概要		事業現状値	評価の		(目標・実績)		中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施第	76.4	度に向けて 見直した内容
他來石	番号	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)	目単標	R3年度 単年度目標 なし	R4年度 単年度目標 なし	R5年度 73 %	目標	万问任	(千円)	(千円)	の追減	(千円)	評価	(課題に対する	3改善方法等)	評価		する改善方法
					女性の就業率(25 ~44歳)	70% (H27年 国勢調	実	_	* 0		73% (R5年											
						查)	達成率	_			度)											
							В	3,380 人										引き続きウー				
				女性の就職・	ウーマンワークカ フェ北九州新規利 用者数	_	种	1,797 人			3,500人 (R6年 度)							フェ北九州を拠ストップでの女を行ううえで、	性の就業支払 より一層の和	爰		
2	4 🔞	クカフェ北九	の輝 く社	キャリアアップ・ 創業などをワンス トップで支援する			率	53.2 %				- 継続	32,616	32,278	維持	6,800	やや 遅れ	用促進に向け、 を行う。また、 の女性の就業意 するよう、オン	特に子育ては 識の向上に資	中		
	(0)	州運営事業	会推進室	「ウーマンワーク カフェ北九州」を 運営する。	ウーマンワークカ		目標実		33 %	34 %	35%						遅れ	が 拡充や未就業女 なキャリアカウ 新規実施を通し	性への定期的 シセリングの	内 D		
					フェ北九州利用者の就職決定率	_	績達				(R6年 度)							の両立など女性 や悩みに寄り添 化を図る。	の抱える不安	安		
							成率目		6,300 人	6,400 人												
					ウーマンワークカ フェ北九州相談者	_	標実績		0,300 /		6,500人 (R6年											
					数		達成率				度)											
						700/		単年度目標 なし														
				女性の就職促進	女性の就業率(25 ~44歳)	70% (H27年 国勢調 査)	績	_			73% (R5年 度)							女性の活躍が				
				を目指し、性別に よる固定的な価値 観や生き方を払拭		Δ/	達成率	_										分野への若年層 動機づけを行う 等教育機関と市	ため、市内高 内企業が連打	高 隽		
	4	为业化江明古		するため、学生の 頃から「多様な働き方」などの啓発	研究・職業体験プ ログラム参加者数		目標		300 人		500人							して、子ども・階に合わせた研プログラムの提供が	F究・職業体駅 提供や女性ロ-	倹		
2	5 8	次世代活躍応 援事業	く社 会推 進室	学生の成長段階に		_	実績達				(R6年 度)	継続	2,200	2,200	維持	4,825	順調	ルモデル提供なことを支援する	0 0			
				がわせた研究・収 業体験プログラム の提供に取り組む			成率目			80 %								本事業の成果して、研究・贈	くの効果測定と は業体験プログ	ブ		
				高等教育機関を支援する。	研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果		標実			00 76	の水準より増							果の満足度の方あると考えるた	がより適切っ			
					の満足度 ※指標追加		達成				加 (R9年 度)											

総務局

総務局																				
					[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施							—		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号 N ・施策名	SDG 0. ゴー	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)		iの成果指標(R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	予算額	予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
		1.07× WM	課名		性別による固定的役割分担意識に肯	(基準値)	目標	単年度目標なし	H29年度 (26.7%)の水 準より減少	単年度目標なし	目標 R4年度 の水準		(千円)	(千円)		(千円)		(課題に対する改善方法等) 「アジア女性会議」や市日向けの研究報告会などの開催	Ĺ	(誅趙に刈りの以晋 <i>力/広寺)</i>
/II-I- (3)-(3) 社会制		(0.51) - 3		這元」「あらゆる 八野ズの女性のエ	定的な人の割合 ※中期目標改訂	(R4年 度)	実績 達成	_			より減 少 (R9年 度)							を通じて、男政共同参画に限する意識の醸成に努める。 効率的・効果的な取組を進 めるとともに、女性の地位 上と男女共同参画の形成の打 進に寄与し、「第4次北九州	<u>t</u>) É	
き会な関国の 社題にる協推 が推進にる協推	26 6	(公財)アジ ア女性交流・ 研究フォーラ ム事業	のく会進室	ンパケース 「「大変を 「大変を でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで			率目標	単年度目標 なし	80 %	単年度目標なし	R4年度	継続	39,000	39,000	維持	4,050	順調	市男女共同参画基本計画」の 重点取組に直結した事業に取り組む。 (中期目標の変更内容) 令和4年度に実施した市民 意識調査の結果を踏まえ、中	順調	本市の男女共同参画社会 形成の推進に向け、課題意 や解決に繋がる取組を進め いく。
				究フォーラムの活動を支援する。	男女共同参画社会 という言葉の認知 度 ※中期目標改訂	78.4% (R4年 度)	実績	_			の 水 ポ ル (R9年 度)							期目標の見直しを行う。 男女共同参画社会という言葉 の認知度 80%(R4年度)⇒R4年度のか	E	
							達成率	_			(以)							準より増加(R9年度)		

財政局

T 以同																				
					[Plan	n】 計i	画	/ [Do】 実施							-		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
策番号 施策名	DGs 基本計	画の施策	主要事業	事業・取組概要				の成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	野主な事	業・取組	所管 課名	学 来: 以	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
							目標	_	-	-										
-3-)-② 共施 の転 I 用かな	の 未利用	き評価の 公共施 対活用	活用 推進	【施策の内容】 各局への未利用 公共施設の情報提 供や有効活用を調 整する。	_	_	実績	_			_	_	_	_	_	_	_	-	順調	今後も引き続き、未利月公共施設の転活用可能なもについては、有効活用を るよう取り組むとともに、 共施設マネジメントとも した有効活用に積極的に 組む。
							達成率	_												

FNA	102		トーツ局		[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施	į						4		【Check】 評価 ,	/ [Action】 改善
施策番号	s	SDGs	基本計画の施策主要			事業	評価	iの成果指	標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	
・施策名	No.□	」"一儿 番号	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組 課名	争耒, 拟桕似安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減		事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
							目標	1,000	団体	I,000 団 体	1,000 団体										
				1 ± 4 6 + 7 = 0	学校団体誘致数	I,II6団 体 (H24年 度)	実	379	団体			I,000団 体以上 (毎年 度)									
			博物館セカン歴史・				達成率	37.9	%				継続	1,143	1,143	維持	16, 075	遅れ	ICTを活用したオンライン 授業などで学校教育支援をさらに推進する。		
I -I- (2)-⑤	. ((17)	ドスクール事 博物 博館 異	もたちの博物館利		79 200	目標	70,000	人	70,000 人	70,000 人	70,000	nez nyu	1,110	1,110	WE14	10,070	2210	また、教員研修等の対象を 市外の学校にも広げるなど学 校団体誘致を強化する。		コナは七尺二い人玉尺竿の
子ども の特性 す教育					学校関係入館者数	78,290 人 (H24年 度)	実	20, 258	人			人 以上 (毎年 度)								やや 遅れ	引き続き展示や企画展等の 充実、周辺施設との連携など により、来館者やリピーター の増加を図る。
の充実							達成率	28.9	%			/(2)									
				北九州市ゆかり の文学者の業績を 企画展等で紹介す			目標	30,000	人	30,000 人	30,000 人	30,000							リニューアルした常設展示 やより多くの市民が興味を持		
			文学館普及研 文学 究費 館	るとともに、本市 の文芸の振興に功 績のあった文学者	入館者数	10,741 人(H23 年度)		17,641	人			50,000 人 (毎年 度)	継続	22,486	17,921	減額	30, 950	やや 遅れ	つ企画展の開催により、若年 層等の入館者の増加を図り、 市民が文学に接する機会を提		
				を市内外に発信する。			達成率	58.8	%										供していく。		
				家庭教育学級や 子育てサポーター などの活動を通じ て、保護者の不安 を軽減するため、			目標	85	%	85 %	85 %								コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるよう環境整備を図る。 併せて、市民センターを核		家庭教育学級は、コロナ禍 においても開設できるよう環 境整備を図る。併せて、市教 センターを核とした家庭教育
I-I- (3)-② 家庭支 育 の 充実	3	4	家庭・地域・ 学校パート ナーシップ事 業	関係機関や関係部 局と情報提供が、 発活動を発行い、育 で で で で が の に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	家庭教育学級長向 けアンケート満足 度		実績	71.7	%			85% (毎年 度)	継続	5, 150	5, 150	維持	9, 150	順調	とした家庭教育学級の実施及 び運営方法について、関係者 へのアンケートなどをもとに 改善を図る。 また、家庭教育学級に参加 できない保護者への取組と	順調	学級の実施及び運営方法について、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。 家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、家
				充実、子どもの基本的生活習慣定者への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。			達成率	84.4	%										て、引き続き、家庭教育力の 向上や子育て支援につながる 動画等をインターネットで配 信し、情報提供を行う。		庭教育力の向上や子育て支援 につながる動画等を引き続き インターネットで配信し、情 報提供を行う。

-F-WA	.,0,7,7	ホーツ局			[Plan]	計	画	/ [[)o】 実	施						4		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	主要事業			事業	評価の)成果指標 (〔目標・実績	<u>t</u>)		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No. ゴール 番号	を構成する 主な事業・取組	新 所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
I -I- (3)-③				家庭教育学級や一などの活動を通べて、保護するのでで、保護するのでで、 で、軽減関のでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、			目標	85 %	85 9	% 85 %								市民センターを核とした家		コロナ禍においても家庭教 育学級を開設できるよう環境
(地体育え会現)全教支社実	4	家庭・地域・ 学校パート ナーシップ事 業	生涯学習課	局に 場別で 場別で 場別で 場別がで に で 発活動を に 発活が家庭教会に で で で で で で で で で で で で で	家庭教育学級長向 けアンケート満足 度	_	実績	71.7 %			85% (毎年 度)	継続	5, 150	5, 150	維持	9, 150	順調	庭教育学級の実施及び運営方法について、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。 また、コロナ禍においきる。 家庭教育学級が実施できるよう環境整備を図る。		整備を図る。また、地域全体で家庭教育を支えるため、子育でサポーターを養成し、実際の活ンターを表よう、市民センターや関係局との協議を継続する。
				本的生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。			達成率	84.4 %) 環境全禰 と凶 る。		٥.
				各市民センター 等で、地域課題や 現代的課題等の解 決を目指す講座、		93,589	目標	前年度 (44,429 人) 以上	前年度以	上前年度以上	前年度									
				心と体の健康づく りを目指す講座な ど幅広い分野にわ たる講座を実施す	生涯学習市民講座 参加者数	人 (H25年 度)	実績	56,844 人			以上(毎年度)							地域に根付いた活動を実施 するため、地域の実情を反映		
	3 4 5 1 3	生涯学習活動	学習	る。 また、それぞれ の地域の特色を生 かし、家庭・地 域・学校が連携し			连成 率	127.9 %				- 継続	13,245	13,027	維持	6, 900	順調	し、地域課題の解決につなが る講座を増やしていく。 また、オンライン環境の整 備を進めるとともに、オンラ		地域に根付いた活動を実施 するため、地域の実情を反映 し、地域課題の解決につなが
I-3- (I)-① 多様な	6		本	て、子どもたちに 様々な体験活動や 世代間交流の機会 を提供し、地域ぐ		96.3%	標	95 %	95	% 95 %	95%							インやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民センター館長・職員等の研修を充実させる。		る講座を提供できるよう、市 民センター館長研修の充実を 図る。 生涯学習推進コーディネー
学習機 会情 報、の場				るみで子ども意識を 守り育てる意識を体で 高め、地域全体で 子どもの健全育成	生涯学習活動に関する満足度	(H25年 度)	実績達	75.5 %			(R7年 度)								順調	ター配置事業については、館 長研修や各区の社会教育主 事・主事補を通じて、生涯学 習推進コーディネーターの配
の提供				に取り組む機運を 醸成する。			成率	79.5 %												置の意義・効果を周知し、生 涯学習推進コーディネーター の配置割合の増加に向け取り 組んでいく。
		T 12 77 00 117 11	4.55	多様化・高度化 する市民の学習要 求に応え、生涯学	T) T 24 83 14 14 -	F/ 22/	標	60 %	60	% 60 %								生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や		
	6 ①		学習	習事業の充実及び 学習の促進を目的 に、全市民セン ターに生涯学習推 進コーディネー	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	56.2% (H25年 度)	実績	50.8 %			60% (毎年 度)	継続	6,686	6,052	減額	3,650	順調	人材の見つけ方をさらに周知 していく。 また、コーディネーターの 魅力を高めていくため、引き		
				運コーティネー ターを配置する。			達成率	84.7 %										続き資質向上を図る研修等を 行う。		

			、一 			[Plan	】計	画	/	[Do	」 実施	i							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策者	号 No	SDGs 3	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	票(目	目標・実績)				木の上		R5年度	尹未貝		R3年度	R5年度に 強化・見道	こ向けて	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施気	名 100.	番号	主な事業・取組	所管 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中其目標			予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価		る改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					市民一家様は大学した現のででは、大学の大学の大学の大学のよび学りました。日本の大学のは、大学の大学のは、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大			目標	1,530	٨	1,700 人	1,700	人											
	7		北九州市民カ レッジ事業	生学総セタ	会」を担う人材の 育成を図る。 北九州の講座はセレッジ習総合セスに 生涯主催	受講者数	I,682人 (H30年 度)	実績	799	٨			I,700 (毎: 度)	羊 継	続	4,438	4,229	維持	20,700	やや 遅れ	多様化する課題	高等教育機関等		
					ちづくり・人材育 成系、総合・教養 系の2コース)と 等教育機関提携 コースを前期・後 期の2期で実施。	į.		達成率	52. 2														_	
					各市民センター 等で、地域課題や 現代的課題等の解 決を目指す講座、		g2 50g	目標	前年度 (44,429 人) 以上	a	前年度以上	前年度以												
					心と体の健康づく りを目指す講座な ど幅広い分野にわ たる講座を実施す	生涯学習市民講座 参加者数	93,589 人 (H25年 度)	実	56, 844	٨			前年 以」 (毎: 度)	<u>-</u> ‡							生涯学習市日 地域の特色を生 地域課題解決に			地域に根付いた活動を実施 するため、地域の実情を反映 し、地域課題の解決につなが る講座を増やしていく。
I-3 (2)- 地域 動を	5 8		生涯学習活動	生涯学習	る。 また、それぞれ の地域の特色を生 かし、家庭・地			達成率	127.9	%				継	続	13, 245	13,027	維持	6, 900	順調	なるよう市民も 修の充実を図り 多様な学習機会 く。)、多くの方に	順調	また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民セン
リー す 材 成		(3) 1 (6) (7)	促進事業	課	域・学校が連携して、子どもたちに 様々な体験活動や 世代間交流の機会			目標	95	%	95 %	95	% 95%	11/							また、オンラ 備を進めるとと インやWeb動画 座を実施できる	を活用した講		ター館長・職員等の研修を充 実させる。 地域活動をリードする人材 発掘、育成、活動を図るた
					を提供し、地域ぐ るみで子どもを見 守り育てる意識を 高め、地域全体で	生涯学習活動に関 する満足度	96.3% (H25年 度)		75.5	%			95% 上 (R7: 度)	Ŧ.							ター館長・職員 実させる。	員等の研修を充		め、学習者の活動意向を把握し、活動につなげるための仕組みづくりなど支援を行う。
					子どもの健全育成 に取り組む機運を 醸成する。			達成率	79.5	%														
					地域が主体的に 地域課題できるの う、地域人である う、地域人では が成へ活動 でを体系 でを体系 できながま 後	「地域活動をリー		目標		%	35 %	35	%								地域活動を !. 発掘、育成、活	リードする人材 5動を図るた		
	q	(1)	地域課題解決 のための人材 活用支援事業	学習	す講座の開催、地 域活動をリードす	ドする人材やボランティア活動に取組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答を	37.6% (H27年 度)	実績	30. I	%			509 (R73 度)	羊 継	続	540	1,240	増額	5, 400	順調	め、学習者のだ し、活動につな 組みづくりなと	話動意向を把握 なげるための仕 ご支援を行う。 ライン環境の整 民センター館		
					る人材育成事業 (市民センター館 長等研修など)及 び多様な機関との 連携強化を実施す る。			達成率	86.0	%											化を図る。			

η	氏义	ルスコ	ドーツ局																			
						[Plan]	計i	画	/	[Do]	実別	E						+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
	衰番号 拖策名	SDGs No. ⊐'-ル	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	L E A M		評価の		! (目:	標・実績)	25.45.45	中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
	S.A.D	雷亏	主な事業・取組	課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	目標	בוניוני	(千円)	(千円)	V / J E / NX	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
							20, 202	目標 2	0,000	人 2	0,000 人	20,000										
					1	サポートセンター 利用者数	29,293 人 (RI年 度)	実績	3, 256	人			20,000 人 (毎年 度)									
(2) 地	-3-)-② 域を	4			市民活動の促進 に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働			達成率	41.3	%				4n/ 4±	10, 424	IE 424	<i>04</i> ++	IG BOE	ᄪᅩᅩᇚ	市民活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り 起こしとともに、市民活動団	배조스대	市民活動を促進する講座の
ボテ	える ラィ 育成	10 0	動促進事業	推進課	等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。			目標		法人	I5 法 人	רו וי	法人	一統統	17, 434	17,434	維持	19,725	順調	体を育成するため、セミナーなどの実施や相談、情報提供 の充実を図る。	順調	実施や情報提供の充実を図っていく。
					/NE Y る。	新規設立NP0法人 数	17法人 (RI年 度)	実績		法人			15法人 (毎年 度)									
								達成率	93.3	%												
								目標	90	%	90 %	90	%									
					悪質化・巧妙化 する消費者被害を	消費生活センター の認知度	92% (H23年 度)	実績	92.1	%			90%以 上 (毎年 度)									
市)-② 民の		当事を改改の	消費	未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育自			達成率	102.3	%				Cale Cart		· ·	No.	0.055	W.T. Sep.	今後も効果的・効率的な啓 発活動に努め、相談窓口の周 知とともに、賢い消費者の育 成を図り、被害防止に取り組	ure deep	今後も効果的・効率的な啓 発活動に努め、相談窓口の周 知とともに、賢い消費者の育 成を図り、被害防止に取り組
活	費生 の安 と向	11 4	推進	セン ター	身が危機回避や被害にあった場合の場合の 事にあった場合の 適切な対処法を身 であませた。			目標	90	%	90 %	90	%	一 継 続	11,755	7,510	減額	8,075	順調	んでいく。 また、イベントや啓発活動 の見直しにより、経費の削減 を図る。	川貝部	んでいく。 また、イベントや啓発活動 の見直しにより、経費の削減 を図る。
					種事業を実施する など、啓発の推進 や支援を行う。	消費生活センター 等に相談又は相談 を勧める市民の割 合	91.5% (H26年 度)	実績	93.7	%			90%以 上 (毎年 度)									
								達成平	104.1	%												

					[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施						+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No. 3	Gs 基本計画の施第 ・ル を構成する 号 主な事業・取締	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標((目標・実績)	I	-b-#0	成果の R4年度	R5年度	尹禾貝	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	7/1/ 17 + 1/4 + 4
・施策名	番	号主な事業・取締	所管課名	3 24 20121983	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		戸価	(課題に対する改善方法等)
							目標	前年度比 (45,087 人) 増	前年度比增	前年度比增										
				警察、関係団体 等と連携し、市民	防犯パトロール活 動への参加者数	14,170 人 (H27年 度)	実績	47,538 人			前年度 比増 (毎年 度)						地域防犯活動。 るため、引き続	き、地域で行		
	12	日本トップクラスの安全・	安心	等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備			達成率	105.4 %				- 継続 6,929	6, 525	減額	15, 900	順調	われる自主防犯法ではいる「ながら見守ながら見守ながらしている」といる。	事業者等によ り」活動の参		
		安心なまちてくり関連事業	推進課	日本トップクラス の安全・安心なまちづくりを推進す			目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增	前年度						の充実を図る。 加えて、市民(上に向けて、改 治安状況や安全 づくりについて、	善した本市の ・安心なまち		
				3.	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)	実績	84.1 %			比增(毎年度)						い情報発信に取			
II-I- (3)-① 「北九							達成率	96.4 %												
州市安 全・安 心条 例」の					「安全セミナー」	35校	目標の	185 校	215 校	215 校	215校								順調	市民の体感治安の向上を図るため、引き続き安全・安心 に関する活動の推進を図るほか、効果的・効率的に安全・
制定と・ 安全に関わる				子どもや女性の 犯罪被害を防止す	「地域安全マップ づくり」延べ実施 校	(山25年	実績達	158 校			(R5年 度)						安全セミナー	について、現		安心なまちづくりに向けた情報や取組を市内外に発信していく。
無策の 推進	13 4	子どもと女性		るため、子ども自 身や子どもを見守 る保護者、女性を			成率	85.4 %				継続 2,886	2,416	減額	15, 900	順調	在、市内や全国で る犯罪についての 方法などをセミ	の情報や対処		
	15	止対策事業		対象とした安保化し、防犯意識や知識の向上を図る。			目標	前年件数 (52件) 減	前年件数減	前年件数減		Net 1912 2, 333	2,110	WALDS.	10, 700	Port Card	入れるなど、さ 事業となるよう」 る。	らに効果的な		
				部の日上で図る。	性犯罪認知件数	104件 (H25年)	実績	51 件			件数減 (毎年)									
							足成率	101.9 %												
			安	市民生活の身近 な安全・安心に関 する相談を受付け			目標	前年度比 (36.1%) 増	前年度比增	前年度比增	一						10~W At Mil チ 日 :	±1 611.41		
	14		安心	る「安全・安心総 合相談ダイヤル」 を円滑に運用し、 市民の相談機会の	安全・安心総合相 談ダイヤルの認知 度		実績	31.8 %			前年度 比増 (毎年 度)	継続 19,178	18, 454	維持	15, 900	順調	相談体制を見る 率的で効果的な ともに、市民通	運用を図ると 報に対応した		
				充実と不安感解消 を図る。			達成率	88.1 %												

					(Plan)				o】 実施	i							【Check】 評価		【Action】 改善
5策番号 N	SD 3	Gs 基本計画の施 を構成する	東 主要	事業・取組概要			評価	iの成果指標	(目標・実績)	1		成果の	R4年度 R5年度	尹耒貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年原	74 /1. 日十1 4 4 中
	番	・ポート を構成する 号主な事業・取	祖 評名	李来 机粒侧安	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 予算額 (千円) (千円)		金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	미미때	(課題に対する改善方法等)
I-I- 3)-② 5犯活 かの強 と							目標	前年比 (2,019件) 減	前年比減	前年比減								順調	引き続き、地域住民による 自主防犯活動の促進に加えて、それらの取組を市内外に 広く発信することで、体感が 安の向上及び安全・安心を写
				北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全を 安心に関する意識 を自ら高め、行動	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)		2,182 件			前年比減						生活安全パトロール隊の多くが結成から10年以上を経過しており、メンバーの高齢		感できるまちの実現を図るともに、整備した防犯灯及で防犯カメラの適正な維持管理・運用を行う。
	15 6	〕地域防犯対策 ▶事業	安全・ジャン	すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推			達成率	91.9 %				継続	28,841 25,17	9 減額	15, 900	順調	化・固定化が進んでいること から、パトランキタキュー等 の防犯活動団体との連携を促 進することによって、地域の	<u>:</u>	また、新たな防犯カメラの 設置を適正に行っていく。
		事業	推進課	進すること」と定められている。市 の事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自			目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增		WEE NOT	20,041 23,17	। ॥ग्र.चार	13, 700	risk diel	犯罪抑止力の強化を図る。 地域の巡回及びパトロール 隊の支援を行う安全を公 等員のマニュアル整備等を行 い、街頭犯罪対策を効率的に	i -	
				主防犯活動を促出進を促ぶたまできるまちの実現を図る。	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)		84.1 %			前年度 比増 (毎年 度)						実施することにより経費を削減する。		
							達成率	96.4 %											
							目標	前年比 (5,145件) 減	前年比減	前年比減									
				夜間における犯 罪の発生を未然に 防止し、公衆の通 行の安全を図るた	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)		5,109 件			前年比 減 (毎年)								
		、 防犯灯設置	安全	め地域と市が協力 しながら、防犯灯 を設置。 防犯灯の設置に			達成率	99.3 %				Cole Care		- W.H.	0.405	IIIT Arr	引き続き、防犯灯のLED化		
	16 Q	防犯灯設置等	安心進課	あたっては、LED防 犯灯の設置促進を 図り、町内会等の 地域の防犯灯の設 置のため費用の一			目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增		- 継続	64, 197 64, 19	7 維持	3, 435	順調	を推進しながら、地域への補助等を実施する。		
				部を助成し、明る く安心して生活で きるまちづくりを 推進。	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)		84.1 %			前年度 比增 (毎年度)								
							達成率	96.4 %											

		ホーツ局			(Plan))o】 実施							•		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号 · 施策名	SDGs No. ⊐′-ル	基本計画の施策 を構成する	主要事業所管	事業・取組概要		事業現状値	評価の		(目標・実績)		中期	成果の 方向性	R4年度 予質額	R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
心地來石	番号	を構成する主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	力问任	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する	改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增											
				暴力団犯罪をは じめ街頭犯罪を抑 止し、市民生活等 の安全・安心を確	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)		84.1 %			前年度 度比増 (毎年 度)										
	17 🙉	防犯カメラ事業	安 全・	保するため、人が 多く集まる繁華街 や幹線道路に既に 設置している防犯 カメラの適正な維			達成率	96.4 %				扩大	57 9 51	77, 472	増額	3, 435	順調	市の主要駅周 犯カメラを設置 に、既設置の防 守・点検を適切	するととも 犯カメラの保	i	
	17	業	推進課	持管理を行う。 更に、近年開発 が進む駅周辺など に新たに防犯カメ			目標	前年比 (5,145件) 減	前年比減	前年比減		1/4/	37, 731	77,472	28 88	3,433		より、安定したまた、繁華街防新を行う。	運用を行う。		
				ラを設置し、適切 な維持管理を行 う。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)		5,109 件			前年比減(毎年)										
							達成率	100.7 %													
							目標	前年比 (5,145件) 減	前年比減	前年比減											
				安全・安心条例 の施行を機に、地	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	実績	5,109 件			前年比 減 (毎年)										
	18 🐠	防犯カメラ設 置補助事業	安全・安全・	域団体や事業者が 犯罪抑止を目的と して公共空間を撮 影する防犯カメラ を設置する際の経			達成率	100.7 %				- 継続	13,720	13,720	維持	3, 435	順調	防犯カメラ設継続するにあた に応じた予算を の防犯活動の十	り、申請実績 確保し、地域		
		追 冊功ず未	推進課	費の一部を補助することで、安心な環境の構築 に向けたさらなる			目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增	並左座							う。今後も地域 カメラ補助金制 う。			
				取組を推進する。	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)		84.1 %			前年度 比増 (毎年 度)										
							達成率	96.4 %													

					(Plan)	計	画	/ [0)o】 実施							-		【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
番号 N	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の)成果指標(目標・実績)				R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
€名 Ν	番号	を構成する 主な事業・取組	所管課名	事未· 収租帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
- ③ 団運推							目標	前年度比 (78%) 増	前年度比增	前年度比增									順調	引き続き官民一体とな 暴力追放の取組を進める もに、より細やかな民事 暴力相談の実施や内容の 等を図っていく。
				社会全体で暴力	暴追対策に対して 評価した市民の割 合	48% (H25年 度)	実績	79.4 %			前年度 比増 (毎年 度)							警察・行政・市民が連携・協力し、安全・安心なまちづくりを促進する環境を整えるとともに、8月11年の1日 2000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 10		
	9	暴力追放の推 継	安 全 安 ・ 心	団を排除する取組 を推進するための 事業者・市民の 場で は 表力追放総決 表力 を を を は 表力 を を は 表 た 、 る た の の る た ら た ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら			達成率	101.8 %				- 継続	10,525	9,858	減額	12,850	順調	市民意識の高揚を図る。 また、市民の不安感の払拭 に向けて、警察などの関係機 関と連携した暴追活動を引き 続き行う。 暴力追放啓発推進事業にお		
			推進課	ス会でなり 調月間による集中 的な啓発活動など を実施し、官民一 体となって取り組 む。	企業における暴力			単年度目標 設定なし	R3年度比增	R3年度比增								本が上版が元在近年季末における、暴力追放研修の資料作成費の見直しにより、経費の削減を図る。 【中期目標の変更内容】		
				υ.	世来におりる泰力 団排除条項の規定 割合 ※中期目標改訂	55.8% (H25年 度)	実績	83.8 %			R3年度 比増 (R5年 度)							令和3年度(奇数年度)に 企業アンケートを実施してい るため。		
							達成率	105.0 %												
							目標	前年度比 (78%) 増	前年度比增	前年度比增										
					暴追対策に対して 評価した市民の割 合	48% (H25年 度)	実績	79.4 %			前年度 比増 (毎年 度)							10개(나씨) 수 당 호 누 나시		
2	20	民事介入暴力 相談事業	安 全 安 心	市民生活への暴力団等の介入を排除し、サイスを			達成率	101.8 %				- 継続	2,855	2, 249	減額	4,300	順調	相談体制を見直し、より効率的で効果的な運用を図る。 また、センター運営費の見 直しにより、経費の削減を図る。		
		们	推進課	なまちづくりを図 るため、民事介入 暴力相談を実施。	◇☆」・*・↓ ・ス 夏 カ		目標の	前年度比増 (隔年調査 のためR2年 度未実施)	R3年度比增	R3年度比增								【中期目標の変更内容】 令和3年度(奇数年度)に 企業アンケートを実施してい るため。		
					企業における暴力 団排除条項の規定 割合 ※中期目標改訂	55.8% (H25年 度)	実績	83.8 %			R3年度 比增 (R5年 度)									
							達成率	105.0 %												

					[Plan]	計	画	<u> </u>	Oo】 実施							+		[Check]	評価	/	[Action]	改善
施策番号	No. □ -ル	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要		事業現状値			(目標・実績)		中期	成果の		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年月 局施領	70.4	度に向けて 見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	川 課名	771 771=1702	指標名等	現状但 (基準値)	F	3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	7年領 (千円)	7年領 (千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(Sm Br t - L1	する改善方法等)
				暴力団の壊滅に 向けて、本市に拠 点を置く暴力団構			目標		10 回	10 回	1							福岡県警察、ンターと連携し				
		暴力団員の社 会復帰対策推 進事業	安心	成員の「離脱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「暴力団離脱・就 労相談窓口」での 相談回数	_	実績				10回 (毎年 度)	継続	10,000	3,000	減額	6,550	_	く事業祭のの相談 ののの相談 対し、 でいるが相談 が、 できるがれば は、 を整えた相談	図っていく。 が難しい暴っ を受けるた 談しやすいヨ	力 景		
				が安心を実感できるまち」の実現を図る。			達成率											図っていく。				
					交通事故の発生件			前年比 450件) 減	前年比減	前年比減	■令和7年											
				第10次北九州市 交通安全計画に基 づき、重点項目に	数 (警察統計のため暦年でカウント)	8,325件 (H26年)	績 4,	074 件			までに 3,300件 以下											
	22 🔞	交通安全推進 事業	安 全 安 安	ついて啓発を実施。 生涯にわたる交通安全教育及び効			率	3.4 %				- 継続	11,642	11,178	維持	9,800	順調	引き続き、市 安全教育や効果 活動を行い、交	的な広報啓乳	Ě		
		事 未	推進課	果的な広報啓発活 動により、市民思想 広く交通安全思想 を普及し、交通事			181	前年比 20人) 減	前年比減	前年比減	■令和7年							店割を17 い、X 図る。	通事以初工。			
				故防止を図るもの。	交通事故死亡者数 (警察統計のため 暦年でカウント)	23人 (H26年)	額	8 人			までに 15人以 下											
Ⅱ-I- (3)-④ 交通安							達 成 II 率	0.0 %												— 順調		交通事故防止に ⁻ もから高齢者ま ⁻
全の推 進					交通事故の発生件			が年比 450件) 減	前年比減	前年比減	■令和7年										幅広く啓発さ	を行う。
				北九州市立交通	数(警察統計のため暦年でカウント)	8,325件 (H26年)	績 4,	074 件			までに 3,300件 以下											
	23 🔞	交通安全セン ター管理運営	安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安全・安	安全センターを管			達 成 10 率	3.4 %				- 継続	27,881	27,881	維持	3,650	順調	交通公園での のほか、出前講 生向け、高齢者 全教室を開催し	座として小学向けの交通を	学 安		
		ツー官埋建宮	推進課	開催し、自転車の 安全運転や、交通 ルール・マナーの 徹底を図る。	白転車関連車状の			前年比 196件) 減	前年比減	前年比減								も交通事故防止 どもから高齢者 発を行う。	について、	7		
					自転車関連事故の 発生件数(警察統 計のため暦年でカ ウント)	972件 (H26年)	績 4	66 件			前年比減(毎年)											
							達 成 10 率	5.0 %														

					(Plan)	計	画	/ [D	o】 実施							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	_{50Gs} 基本計画の施策 i ⁻¹ を構成する ^{番号} 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標(目標・実績)	T	-b #a	成果の		R5年度	事業費	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	10.	主な事業・取組	所管 課名	子术 -八/五/元文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				#+ W = p A			目標	前年比 (2,019件) 減	前年比減	前年比減											
				北九州市安全・ 安心条例では安全 「市民等は安全意識 を自ら高め、行動	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)		2,182 件			前年比減							生活安全パト くが結成から10 しており、メン			
Ⅱ-I- (3)-⑤ 非行や	o. (⑤ 地域防犯対策	安全・	すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推			達成率	91.9 %				tolt (+	20.041	25 159	14 des	15 000	mz 7to	化・固定パが進から、化が多の防犯活動団体 進することによ	んでいること キタキュー等 との連携を促		引き続き、地域住民による 自主防犯活動の促進に加え て、それらの取組を市内外に
犯罪を 生まな い地づく	24	● 事業	安心推課	進すること」と定 められている。市 の事業意識を の防犯意識を め、地域住民の自			目標	前年度比 (87.2%) 増	前年度比增	前年度比增		一	28,841	25,179	減額	15, 900	順調	犯罪抑止力の強 地域の巡回及 隊の支援を行う 導員のマニュア い、街頭犯罪対	びパトロール 安全・安心指 ル整備等を行	順調	広く発信することで、体感治 安の向上及び安全・安心を実 感できるまちの実現を図る。
				主防犯活動を促進し、安感できるまちの実現を図る。	市民が感じる治安 状況(体感治安)	73.7% (H27年 度)	実績	84.1 %			前年度 比増 (毎年 度)							実施することに減する。			
							達成率	96.4 %													
							目標	前年度比 (102団体) 増	前年度比增	前年比增											
				条例や基本計画	迷惑行為防止に係 る地域活動団体の 増加	82団体 (H26年 度)	実績	100 団			前年度 比增 (毎年 度)										
Ⅲ-1-				に基づき下記事業 に取り組む。 ・小倉・黒崎地区 (迷惑行為防止重 点地区) での巡視			達成率	98.0 %										に基づき、地域			モラル・マナーアップ推進 のため、より効果的な広報活
(I)-④ 市民の	25 (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	全・	活動(過料の適) 用)・地域が実施する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			目標	前年度 (小倉 0.06% 黒崎 0.19%) 以下	前年度以下	前年度以下		継続	17,773	16, 322	減額	6, 150	やや 遅れ	加に向け、市民 知の強化を行う 喫煙率の減少に	アップの推進 活動団体の増 へのまた、より 向け、より	やや 遅れ	動等を行い、条例や基本計画の認知度を向上させる。 併せて、地域活動団体の増加に向けた市民への広報や周知の強化、路上喫煙率の減少に向けたさらなる巡視への注力を行う。
				ナーアップ教育・モラル・マナー	路上喫煙率(歩行 者に占める喫煙者 の割合)	小倉 0.17% 黒崎 0.24% (H26年 度)	績	小倉 0.08% 黒崎 0.41%			前年度 以下 (毎年 度)							層巡視に注力す	3 。		75 E 13 7 %
							達成率	小倉 66.7% 黒崎 一													

					[Plan]	計	画	/	[D	o]	実施							4		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	No. SD	Gs 基	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 記を事業		L I A A	事業現状値	評価		1	目標・実		05 to the	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	強化・見直した内容
/EXA	番	主	主な事業・取組 課名		指標名等	(基準値)		R3年		R4年/	塻	R5年度	目標	刀円圧	(千円)	(千円)	の万百八八	(千円)	評価	(課題に対する	改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等
I-2- I)-②				伝統文化の継承			目標	17	団 体	17	団 体	17 団体											市内の指定文化財につい て、その保存・継承と普及
域け統の・	26 (D 助	文化財保存補 企画 課	者や保存団体の活動を育成・支援 し、市内の伝統文 化を発掘し、次世 代に継承してい	指定無形民俗文化財保存支援団体数		実績	14	団 体				17団体 (毎年 度)		1,127	1,127	維持	11,050	順調	優先順位をつり 化財の保存・活り		順調	啓発を支援するため、相談制の維持と活動に関する補金を交付している。 コロナ禍でも保存団体の欲は高く、引き続き、優先
(<.			達成率	82.4	%														位をつけながら文化財の保存・活用に努める。
[-2- 2)-① 信力 高 に に に に に に に に に に た に た に た に に た に た に た に た に た に た に た た に た に た た に に に に に に に に に に に に に に に に に に に に				【劇場・自主事業】			目標	87	%	87	%	87 %										順調	今後とも発信力の高い、 ちの魅力づくりにつながる。 業の実施を目指し、事業内。 を検討し、効率性や収支の 点も加えながら、事業規模 維持していく。
į Į				エンターテインメントから芸術性の高芸術全般を網にない作品を網を開産の場合と、ログットに公をターゲットに公	北九州芸術劇場・ 自主事業入場率	95% (H2I年 度)	実績	78	%				87% (R5年 度)							北九州芸術劇りが持つ特性を活力			アフターコロナに向け、「映画の街・北九州」とい 都市ブランドを更に確立しいくための取組を進めていく。 新型コロナウイルス感染:
	@	a =	芸術文化活性 文化				達成率	89.7	%								<i>(</i> () +			良質な音楽・舞徒 供していくとの ため、民間プログ の提携や全国の との連携(共同制	台芸術等を提 がある。その ダクションと 劇場やホール 制作)等、事		拡大防止対策を行ったうえで、アフターコロナを見据え、より一層魅力的な企画、等を企画することにより、:館者数の増加及び満足度向.
	27		芸術文化活性 文化 企画 化事業 課	【響ホール・自主 事業】 室内楽専用ホー ルの特性を生かし た質の高いコン サートや響ホール			目標	65	%	65	%	65 %		- 継続	107,668	104,668	3 維持	3, 550	順調	業の効率化を含いないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	業実施に努め 引き続き新型 感染症の影型 感染 感染 が を が を が と が と が と が と が と が と が と が と		を図っていく。
				を拠点を積極して地元 演奏では、 でいたに を行うしまた。 でいた、発信 を介えました。 を介えました。 を介えました。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を介えまた。 を見まる。 をしまる。 をしる。 をしる。 とる。 とる。 とる。 とる。 とる。 とる。 とる。 とる。 とる。 と	響ホール事業・響ホール自主事業入場率		実績	59	%				65% (R5年 度)							ど、安全な催事。 取組を行ってい・			
				ジナリティのある演奏会を実施。			達成率	90.8	%														

				(Plan)	計	画	/	[Do]	実友							-		[Check]	評価	/ [A	Action】 改善
·号 N.		SDGs 基本計画の施策 主要 を構成する 事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	票(目標	!・実績))		成果の	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向 強化・見直し		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
名 "	0.	50Gs を構成する 事業 所管主な事業・取組 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	ı	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改		局施策 評価	(課題に対する改善方法
			地域の音楽文化 の向上を図ること を目的に、クラ シックコンサート			目標	85	%	85 %	6 85 %								新型コロナウイ			
2	28	◆ 北九州国際音 ① 楽祭 課	を中心とした音楽 祭に助成を行うも の。本音楽祭は、 市制25周年を記念 して始まり、令和3	北九州市国際音楽 祭の満足度	83% (H21年 度)	実績	98	%			85% (毎年 度)	継続	40,000	40,000	維持	1,625	順調	の感染防止対策を ら、海外のオトを招 アーティス内内に で、質の高いなび 集客の増加及び、	ストラや 聘するな 充実させ、 を提供し、		
			年度で34回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。			達成率	115.3	%										上を目指す。			
						目標	150,000	千円 150	,000 f	150,000 千円	150,000										
			映画・テレビド ラマ等のロケ地誘 致や撮影支援を積 極いなった。	地域経済への貢献 (直接経済効果)	100,000 千円 (H21年 度)		140,826	千円			千円 (RI年度 以降毎 年度)							引き続き新型コ ス感染症の感染防			
2	9	○ 映像製作誘致 文化 ○ 企必以関連事業 ○ 企画	の知名度と都市イ メージの向上を図 る。 また、活動成果			達成率	93.9	%			十及)	- 継続	27. 356	14,300	減額	32, 100	大変	底しながら、国内 の大規模作品の誘 進めていく。 特に、新型コロ	外の映画等 致・支援を		
		● 映像製作誘致 ① 強化関連事業 課	や、「映画の街・ 北九州」という都 市ブランドの発信	+m -+ > 1 > Fn-+		目標	17.0	% 15	7.0 %	6 17.0 %			,			ŕ	順調	感染症に係る入国 和に伴うさらなる ド増加を目指し、 外作品の誘致・支	制限等の緩 インバウン 魅力的な海		
			により、街のにぎ わいの創出や市民 交流等のまちづく りにつなげる。	都市ブランド「映画の街・北九州」 を広めたいと思う 市民の割合	_	実績	28.5	%			17.0% (R3年度 以降毎 年度)							ていく。	1X(C) Z/J U		
						達成率	167.6	%													
			松永文庫が多数			目標		万人	10 ス									新型コロナウイ	ルフ 成 氿 宀		
3	30		所蔵している貴重 な映画企りを表している 明しいトを実施をしている で映画の生態が出ていい。 が映画の魅力発信を	年間来館者数	89,317 人 (H26年 度)	実		万人			10万人 (毎年 度)	継続	10,492	8,625	減額	4, 900	遅れ	の感染防止対策を で、事業を実施す に、多くの市、より ただくため、より 展示となるよう、	行ったうえ るととも 来館してい 魅力のある		
			行う。			達成率	18.0	%										等を図っていく。			

					[Plan]	計	画	/ [0	o】 実加	施						+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDG:	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標(目標・実績)	++n	成果の	R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	子术 -八加州文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				本市の文化水準 の向上及び地域文 化の振興を推進す ることを目的とし	各種文化事業の実	16事業	目標実	16 事業	16 ¥	事 16 業	_ 16事業							本市の文化水準の向上や市民の文化活動の活性化を目指		
	31 (1)	負担金・補助 金	課	て、積極的に文化 活動を展開してい る文化団体等の事 業に対して、助成	施施	(H23年 度)	績達	16 業			度)	継続	40,350	39, 350	維持	5,825	順調	し、積極的に文化活動を展開 している団体等の事業を助成 していく。		
				を行う。			_	100.0 %											-	
Ⅲ -2-					北九州市文化振興		目標	25 件	25 4	#								市民の自主的な文化芸術活		助成制度は、市民レベルで
(2)-② 市文代活動 の促進					基金奨励事業の補助件数 ※指標廃止	27件 (H21年 度)	実績	5 件			25件 (毎年 度)							動を助成し、その内容がレベルアップするような効果的な 支援を行っていく。 従来の北九州市文化振興基 金に加え、同主旨の補助象で	順調	の活動を支えるものであり、 市の文化水準の向上や個性 ねる地域文化の振興のために も、今後も継続して実施す る。
	32 (1)	文化芸術活動 に対する支援	企画	北九州市の文化 水準の向上と地域 文化の振興に資す ることを目的とし			達成率	20.0 %				- 継続	9,800	27,892	増額	3,825	遅れ	ある北九州市文化芸術活動活性化支援事業の財源も活用して、内容の充実を図る。		
		177, 70 238	課	て、市民の行う芸 術・文化活動等に 対し助成を行う。	文化芸術活動に対		目標			30 件								【指標廃止・追加の理由】 市内の文化芸術関係者がア フターコロナを見据え、次の ステップへと向かう支援を充		
					する補助件数 ※指標追加	27件 (H21年 度)	実績				30件 (毎年度)							実させるため、「北九州市文 化芸術活動活性化支援事業」 の財源も活用して内容を充実 させたもの。		
III-2-							達成率												やや	引き続き魅力ある企画展や
(2)-③ 市民が 文化芸 術に接						245, 420	標	40,000 人	240,000	240,000 人	240,000								遅れ	特別展を企画するとともに、 博物館についてはリニューラ ルした新たな博物館をPRし、 来館者の増加につなげる。身
耐に接 する機 会の拡 大				美術館本館及び	美術館の入館者数	人 (H26年 度)	実績達	26,264 人			人 (R5年 度)							美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層		術館についても、来館者拡大につながるよう企画展の内容等を充実させる。
	33 4	美術館企画展 充実事業	館普	分館において、多 彩で魅力ある企画 展を開催し、本市 の美術・文化の振			率	52.6 %				- 継続	118,519	118,088	維持	36, 750		や個人から家庭への来館単位 の変化に合わせた企画展を研 究する。また多様なジャンル		
			, a mile	興を積極的に推進する。	コレクション展の	II,7I3 人	宗	0,000 人	30,000	30,000 人	30,000 人							の展覧会や関連イベントを行うことで来館者拡大に努め、 より効果的な広報PRを行うな ど、来館者の増加につなげ		
					観覧者数	(H26年 度)	績 達	5,805 人			(R5年 度)							3.		
							成 率	52.7 %												

					[Plan]	計	画	/ [Do】 実	施							+		【Check】 評価 /		(Action】 改善
施策番号	No	SDGs	基本計画の施策 を構成する 事業	事業・取組概要				の成果指標	(目標・実統	漬)		_L #n	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	26.0 0 - 1 1 1 1 -
・施策名	110.	番号	を構成する 主な事業・取組 事業 所管 課名	李来 机恒帆支	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	R4年度	R5年		中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(30000 111 - 134 131 44)
			自然中,	企画展・特別展 は、特定のテーマ を設けて自然史や		369,71	標	330,000 ノ	450,000	人 500,00		00,000							引き続き魅力ある特別展を 企画していく。また、令和4 年度に開館20周年を迎え、リ ニューアルした博物館をPR し、新規の来館者やリピー		
	34	4	博物館企画 展・特別展充 実事業 歴史 館普	歴史に関する展示 を行うことによって、市民が楽しく 学べる場を提供	博物館総入館者数 ※中期目標改訂	人 (H24年 度)	実	241,736 人			(人 (R5年 度)		63,570	55, 570	減額	74,600	順調	ターの増加につなげる。 【中期目標変更内容】		
			及課	し、本市の学術文 化の発展を図るも の。			達成率	73.3 %											令和4年度にリニューアルし、新しくなった博物館をPRすることにより入館者数の増加を目指す。		
Ⅲ-2- (2)-④ 文化芸 術の担				市内の小学3年生 を対象に、美術作			目標	100 %	5 100	% 100	%								ミュージアム・ツアーの対 象者を令和3年度から市内の	やや 遅れ	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シ ビックプライドの醸成という 観点からも、子どもたちやお
い手の 育成	35	4	「ミュージア 館普	品の鑑賞他体験型 のプログラムを作 成し、子どもたち に体験してもらう ことでシビックプ	参加校の割合	14% (H29年 度)	実績	68.8 %			(100% (毎年 度)	継続	29,214	29,214	維持	25,650	順調	国立・私立小学校まで拡大している。次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であめり、シビックプライドの酸成という観点からも、子どもた		者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。今後も、教育やホール等のアウトリーチンは2人性を記した。
				ライドの醸成をはかる。			達成率	68.8 %	5										ちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大させていく。		の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業を実施する。
				将来の文化・芸 術の担い手を育成 し、本市の文化振 興をさらに進める			目標	2,100 人	2,100	人 2,100	00 人										
	36	4	優れた文化・ 芸術との"出 会い"創造事 業	とともに、シビッ クプライドの醸成 につなげていくた め、若者や子ども たちを中心に優れ	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人 (H27年 度)		2,153 人			(100人 (毎年 度)	継続	6,757	6, 757	維持	8, 725	順調	実施形態を見直すなどの工 夫・検討を行いながら、放課 後児童クラブ等、学校外にお ける優れた文化・芸術との "出会い"の場の充実を図っ ていく。		
				た文化・芸術との "出会い"の場・ 機会を創造してい く。			達成率	102.5 %	5												
				「ノンフィク ション」という ジャンルの作品を ま/ことで、ことで			目標	1,000 作	- 1,000	件 1,000	10 件								△田坦塔の管レーブ、さわ		
	37	4	子どもノン フィクション 文学賞	書くこが関するとない、子やも思したない関なりにというとした。	応募総数	570件 (H27年 度)	実績	770 件			(000件 (毎年 度)		9,693	9,310	維持	5, 400	順調	全国規模の賞としてふさわ しい応募数、内容となること を目指す。また、市内小中学 校に直接働きかけを行うな ど、市内からの応募数獲得に		
				の成長を促すこと を目的に、全国の 小中学生を対象に 創設した文学賞。			達成率	77.0 %	5										努める。		

		.ホーツ局		[Plan]	】計	画	/	[Do]	実施							+		【Check】 評価	/	【Action】 改善
施策番号	SC	Gs 基本計画の施策	主要事業 東州 1504回 西		事業	評価	の成果指	標(目標	票・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年	76.41 12 4 1 4 1 4 1
・施策名	No. □	GS を構成する きな事業・取組	事業・取組概要 所管 課名	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ę	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等	局施 評価	
			「放浪記」、 「浮雲」などの作 品で知られ、特に 短編の名手として 評価の高い林芙美 子の名を冠する文			目標	500	件!	500 件	500 件								応募者が作家として書き	続	
	38	林芙美子文学賞	学賞。 多くの文学者、 作家を輩出したな国 九州的土壌を全とも に、これから文壇	「林芙美子文学 賞」作品応募数	484件 (H29年 度)	実績	395	件			500件 (毎年 度)	継続	10,839	10,403	維持	4, 550	順調	けていくことのできる力量 持った書き手に絞り込まれ より文学賞るしい形で落ち きつつある。 食者のその後の活躍も 介するなど、広報の充実に める。	着紹	
			デビューを目指す 新たな文学の才能 を発掘することを 目的に実施するも の。			達成率	79.0	%												
Ⅲ-2- (2)-⑤ 文化芸 術によ			漫画 北九州市漫画 景画 ミュージアムにお			目標	100,000	人 100	0,000 人	100,000 人								令和5年度も、企画展関 イベントの実施等工夫を行 と同時に、漫画ミュージア	うム	, , , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ ,
づくり	39	シミュージアム 普及事業	ミュジム で実ント等 で で 変 で 変 で 変 の 所 で 変 り で り で り で り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り し て り と り と り と り と り と り と り と り と り と り	漫画ミュージアム 年間入場者数	83,161 人 (H27年 度)	実績	43, 263	٨			10万人 (毎年 度)	継続	63, 392	56,019	減額	54,000	やや 遅れ	の認知度を上げることで目 達成を目指す。 また、事務事業「北九州際漫画大賞」は「漫画文化 際発信事業」と統合し、海	国	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より一層魅力的な企画展等を企画することにより、来館者数の増加及び満足度向上を
			一 普及を目指す。			達成率	43.3	%										へ向けた発信にこれまで以 に取り組んでいく。		図っていく。 国内外へ「創造都市・北九州」としての都市プランドを 発信し、市民のシビックプラ
			映画・テレビド ラマ等のロケ地誘		100,000	目標	150,000	千円 150),000 千	150,000 千円	150,000									イドの醸成につなげる。
			致や撮影支援を積 極的に行い、本市 の知名度と都市イ	地域経済への貢献 (直接経済効果)		実	140,826	千円			千円 (RI年度 以降毎 年度)							引き続き新型コロナウイ ス感染症の感染防止対策を 底しながら、国内外の映画	徹	
	40		メージの向上を図 さ。 企画 あまた、活動成果の市民との共有			達成率	93.9	%				- 継続	27, 356	14,300	減額	32, 100	大変順調	の大規模作品の誘致・支援 進めていく。 特に、新型コロナウイル	を	
		少点记以廷尹禾	映画の街・ 北九州」という都 市ブランドの発信	都市ブランド「映		目標	17.0	% 1'	7.0 %	17.0 %	17.0%						PIP(리미	感染症に係る入国制限等の 和に伴うさらなるインバウ ド増加を目指し、魅力的な 外作品の誘致・支援に注力	ン海	
			により、街のにぎ わいの創出や市民 交流等のまちづく りにつなげる。	画の街・北九州」 を広めたいと思う 市民の割合	_	実績達	28.5	%			(R3年度 以降毎 年度)							ていく。		
			/ 12 / 4 1/ W 0			建成率	167.6	%												

						[Plan]	計	画	/ [Do】 実施	i						-		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善 ————————————————————————————————————
·号 No	SD	Gs 基	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
名 NO	番	号主	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事未 机植帆女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等
4	- (I	. –	比九州文学サ コン管理運営 事業		サイン は かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい	「北九州文学サロン」の来館者数	H28年度 開設	目標実績	7,245 人		14,000 人	14,000 人 (毎年 度)	継続	10,437	10,437	維持	6,400	やや遅れ	音楽とを経動すると、	つなぎ、魅力の実施、情報 元 商店は日本 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、 ・ 一、		
					的素材やさまざま な文化資源・文化 的取組みをつなげ る仕組みづくりを 行う。			達成率	51.8 %										を徹底しながら、 気軽に文学に接供し、来館者のよる 取組を進める。	する機会を提 増加につなが		
					松永文庫が多数所蔵している貴重		02.015	目標	10 万人	1 10 .	10 万人								新型コロナウ ² の感染防止対策:			
4			公永文庫企画 事業	文化 企画 課	な映画資料等を活 用し、企画展やイ ベントを実施し 「映画の街・北九	年間来館者数	89,317 人 (H26年 度)	実	1.8 万人			10万人 (毎年 度)	継続	10,492	8,625	減額	4, 900	遅れ	で、事業を実施に、多くの市民に来館していただりま力のある展示	するととも に文化施設へ くため、より		
					州」の魅力発信を 行う。			達成率	18.0 %										内容の強化等を[
					松本市場に関する 松本らいを では を でいま でいま での での での での での での での での での での			目標	前年度比 (10,453 人) 增	前年度比增	前年度比增								新型コロナウ の感染防止対策 で、より一層魅	を行ったうえ		
4:	3 4	ᄾ	公本清張記念 官研究セン ター・普及事 業	27 4	誌を発行する。ま た、松本清張研究 者に奨励金を贈呈 する研究奨励事業 を実施する。	松本清張記念館の 入館者数	58, 187 人 (H22年 度)	実	11,973 人			前年度 比増 (毎年 度)	継続	10,522	11,528	増額	23, 250	順調	展・講演会等を含 者増及る。 収蔵品管理に タルアーカイブ 入し、研究施設	の満足度向上 ついて、デジ システムを導		
					さらに、企画展 の開催や講演会、 読書感想文コ市民 文芸活動支援事業 を行う。			達成率	114.5 %										向上や利用者の病 努める。	利便性確保に		
							72.7万	目標	72 万 人	90 万人	150 万人	200万人										
					いのちのたび博 物館を中核に、文	東田地区の来訪者 数(観光客数)	人 (H30年 度)	実績達	28.5 万人			200万人 (R6年 度)							いのちのたび† か、関係施設が 展の開催や、周	連携した企画		
4	4 (8	ジブ	比九州市東田 也区ミュージ アムパーク創 豊東業	文化企画	化施設や商業施設 等が連携し、東田 地区を中心に地域			成率目	39.6 %				拡大	6,000	6,000	維持	9,800		画などを実施し、 ロナにおける観光 に備える。特に、	. アフターコ 光需要の増加		
	el el	建	告事業	冰	の活性化や観光客の誘客に向けた取	東田地区の外国人	約7エュ	標	4,000 人	7,000 人	8,750 人	10,500							る外国人来訪者はて、インバウン	ンド向け周遊		
					組を実施する。	来訪者数(観光客 数)		美 績	13 人			人 (R6年 度)							ツアーの開発・身 強化する。	双冗の収組を		
								達成	0.3 %			~~′										

						[Plan]			Oo】 実友							•		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	No. 3'-	基本計画を構成	の施策 する	主要事業	事業・取組概要			平価の成果指標	1		中期	成果の	R4年度	R5年度 予算額	于木貝	人件實 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	ss 本本計画 を構成 主な事業	・取組	所管 課名		指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	目標	万冋性	予算額 (千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
	45 4	日中詩人 2023北カ 業	ナッツリー	文化 直課	市シた北ン並だトロたど州に詩出読ン流東北一、九スび交すナなを市、人版会ト事大ルと「州強に流る」言目を日に、やな業が別では、「は、でするが、に葉的フみよ並トなをでいた。のかいでは、「は、一中対にク市うない、のから、「は、一中対にク市うなが、「は、一中対にク市の行いまで、「は、いーコ新な九ドの、朗べ交都・ゼ、いーコ新な九ドの、朗べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、朗べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、朗べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、朗べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、明べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、明べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、明べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、明べ交がは、「は、いーコ新な九ドの、明べ交がは、「は、いっ」が、「は、いっ)が、「は、いっ」が、「は、いっ」が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、いっ)が、「は、いっ)が、いっ)が、いっ)が、「は、いっ)が、「は、いっ)が、いっ)が、いっ)が、いっ)が、いっ)が、いっ)が、いっ)が、いっ)が	日中詩人会議の参加者	_	目標実績達成率	200	人 200 人	200人(毎年度)	継続	5,000	2,000	减額	11,050	_	中国を開発をした。中国を開発をした。本地では、一旦のでは、一回のでは、一旦のでは、一回のでは、一回のでは、一旦のでは、一旦のでは、一旦のでは、一旦のでは、一旦のでは、一回のでは、一	行った。引き 文化事業でない プジティで、な ることで、文 今後の文化政		
Ⅲ-2-(3)-① 誰 気スツし 環くり		♪ 北九州市)ポーツオ	会	ス ポー ツ振 興課	「いにリク普市いする域事 では、カーレの、る与全行 では、大・ツ・コンのでは、大・ツ・コンのでは、大・大・のでは、大・でを でで関係ででで関係ででで関係できる。 では、大・のでは、かいでは、大・のでは、かいがは、かいがは、かいがは、かいがは、かいがは、かいがは、かいがは、かいが	市民スポーツ大会選手参加者数	(H26年 度)	目標 21,000 人 実績 18,064 人 達成率	21,000	人 21,000 人	- 21,000 人 (RI年度 以降毎 - 年度)	継続	3, 574	3, 354	減額	4,650	順調	多くの市民が 会の実施を目指 などを活用した に努める。			「誰もが気軽にスポーツに 親しめる環境づくり」を推進 するため、市民に身近なスポーツ大会開催から、プロアスリートの育成、生涯スポー ツの普及・振興など、幅広く 事業を展開していく。
	47 3	● 生涯スカ)振興事業	[ポー ツ振 興課	生涯スポーツの 普及・振興のた め、各区において スポーツ教室、 ニュースポーツ体 験会などを開催。	各区における ニュースポーツ及 びファミリース ポーツ大会の参加 人数	12,371 人 (H26年 度)	目標 15,000 人 実績 達成率 1.7 %		人 15,000 人	15,000 人 (RI年度 以降每 - 年度)	継続	16,506	15,845	維持	4,400	遅れ	各競技団体へツスポースポーンでは、スポーンでは、スポーンでを継続をいる。 は、東を図る。	、指導者養成 して実施する		
	48 3	総合型均 がポーツ/ の 計 が は ・ す 業	ラブ 援事	ス ポー ツ振 興課	地域住民には、 ・ は運営は出いでは親名 がよること地域ではまる。 ・ はないでのようでは、 をはいずでの。 ・ でのの。 をはいずでの。 をはいずの。 をはいずいでの。 をはいずいでの。 をはいずいでの。 をいまで、 をいまで、 のもり、でいまで、 でいまで、 のもり、でいまで、 でいまで、 のもり、でいまで、 でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり、でいまで、 のもり。 のもり。 のもり、 のもり。 のもり。 のもり。 のもり。 のもり。 のもり。 のもり。 のもり	総合型地域スポー ツクラブの会員数	<i>技)</i> -	目標 4,000 人 実績 1,830 人 達成率		人 4,000 人	4,000人 (R5年 度)	継続	2,600	2,496	維持	2,900	やや遅れ	総合型地域域をラスの水では、 を可能をある。 総合権・大変をできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	での活動を継続 和5年中に策 令和5年度の 、現中間目標		

					[Plan]					実施							+		【Check】 評		<u> </u>	Action】 改善
施策番号	SDGs No. 3'-1	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要				の成果指標	(目標・	実績)			成果の	R4年度	R5年度	ず未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向け [*] 強化・見直した		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	番号	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八加州文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年	度	R5年度	中期 目標	方向性	才昇額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善)		同他東 評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	1,000 人	1,000)人	1,000 人											
				トップアスリー ト等の活用によ	選手強化事業参加 者数	210人 (H26年 度)	実績	2,004 人				I,000人 (毎年 度)										
	49 4	夢・スポーツ 振興事業	ス ポー	り、オリンピック 選手など国際、全 国大会で活躍す る、次世代を担う			達成率	200.4 %					- 継続	9,500	9,000	減額	7, 900	大変	令和4年度より始め ラリンピック種目の何を継続して実施する。 り、オリンピック種目	本験教室 ことによ		
	0	30070 370	興課	トップアスリートを育成オーツに対する意欲を醸成す			目標	11 種		種目	種		WEE HAT	7, 300	7,000	<i>11-1</i> 0 D.R	7, 700	順調	え、パラスポーツに ジュニアアスリートで る。	収り組む		
				3 る息似を 職成 9 る。	教室・強化講習会 等の実施	5種目 (H26年 度)	実績	8 種目				1 種目 以上 (毎年 度)										
							達成率	72.7 %														
I-2- 3)-② ペポー ノを通								単年度目標 設定なし	11.5	億 円											順調	北九州マラソンや門司港レトロマラソンなどをはじめとしたスポーツ大会等について、新型コロナウイルス感勢
たに ぎわい づくり					マラソン大会開催 による経済波及効 果	10.5億 円 (H25年 度)	実績	_				II.5億 円 (R8年度 までに)										症の感染防止対策を徹底し、 安心安全な実施を目指すとと もに、大会の開催により、 民のスポーツ・健康に対する
				・コース: 北九州			達成率	_														意識のさらなる向上を図り、 本市の魅力を全国へ発信す る。 北九州スタジアム維持管理
			国際	市役所前~東田地区~戸畑駅前~東港~門司港~北九州国際会議場前	インターネットで		目標	l 位	. 1	位	1 位								新型コロナウイルの感染防止対策を徹所全・安心な大会運営等すとともに、積極的な	底し、安 等を目指 な広報を		事業については、スタジアムの利用を通じて、まちのにきわいづくりを図るものであるため、継続して事業を実施し
	50 3 (4) (8) (1)	北九州マラソ ン開催事業	会推	・種目及び参加人 数 マラソン: II,000 名、ペアリレーマ	国評価ランキング (参加者7,000人	9位 (H28年 度)	実績	_				I位 (毎年 度)	継続	88, 543	88,040	維持	39,500	順調	行い、認知の向上を 【中期目標の変更内容 ボランティアリー?	字】 ダー登録		ていくとともに、コロナ禍の施設利用をより一層図り、市民に夢と感動を提供できる施設として、適切な維持管理
				ラソン: I50組300 名、ファンラン (3km又は5km): I,000名			達成率	_											者数については、北7 ソンを'支える人'の 目指して50人(R4年度 100人(R9年度)に変	の増加を 隻)から		運営を行っていく。
				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			目標	30 人	50	人	60 人								3 .			
					ボランティアリーダー登録者数 ※中期目標改訂	15人 (H30年 度)	実績	29 人				100人 (R9年 度)										
					水中州口际以引		達成率	96.7 %														

				(Plan)	計	画	/	[D	o]	実施									【Check】 評·	価 /	<u> </u>	ction】 改善
₽ と と	0.	SDGs 基本計画の施策 主要 を構成する 事業				評価の	の成果指	旨標(目標・実	(績)		l- Hn	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直したF		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
6名 "	0.	番号 主な事業・取組 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年/	度	R4年/	度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善)		局施策 評価	(課題に対する改善方法
						目標	30	回	30	回	30	回										
			市内での国際大	国際・全国大会等の開催数	29回 (H26年 度)	実績	28	回				30回 (毎年 度)										
5		る 国際大会・全 ④ 国大会等ス ポー	会等の開催により、「みる」スポーツの機会の拡大を図り、多くの			達成率	93.3	%					- 継続	4,000	3,500	減額	3,650	やや	本制度を活用して、 くの市民に「みる」こ の機会を提供するため	スポーツ		
		の ポーツ開催 判課	市民のスポーツへ の関心の向上及び 個々の競技力の向			目標	3,000	人	3,000	人	3,000	人	,,_,,,,	.,	,,,,,,,		,,,,,,,	遅れ	れた予算でも持続可能 となるよう、検討を行	能な制度		
			上等につなげる。	門司港レトロマラソンの参加人数	3,000人 (H26年 度)		0	人				3,000人 (毎年 度)										
						達成率	0.0	%														
						目標	90	%	90	%	90	%										
				ギラヴァンツ北九 州の市民認知度	87% (H26年 度)	実績	95.8	%				90% (毎年 度)							コロナ対策のため& 増額していた5,000千			
		る ギラヴァンツ スポー ④ 北九州支援事 ポー				達成率	106.4	%					继结	40 000	35,000	減額	3, 075	順調	感染対策が大幅に緩和 ことにより、令和4年 了とする。「ギラヴァ	ロされた 度で終 アンツ北		
		(1) 業 判決 判決 判決 判決 対策	カ ナーノゲーノ			目標	7,000	人	7,000	人	7,000	A	Net NOL	40,000	33,000	<i>114</i> , 434	3,073	Liter Diel	九州」への支援を継続っ、市民に愛されるシチームになるよう、ガゲーム開催時のイベン	ンンボル トーム		
				ギラヴァンツ北九 州主催試合の平均 入場者数			2,974	人				7,000人 (毎年 度)							ついて共に検討してい			
						達成率	42.5	%														
			本市をホームタ ウン・準ホームタ ウンとする、「ギ			目標	40	%	40	%	40	%							トップスポーツチ-	-ムの市		
Ę	53	3 ホームタウン ポークタウン ポークタウン 北半進事業 ツ振興課	フ・笙の古足組靴	スポーツ観戦率	23% (H26年 度)	実績	14.9	%				40% (毎年 度)	継続	68,000	68,000	維持	6,575	遅れ	民観戦や体験教室の見継続し、市民が競技し 高いプロスポーツなと る」機会の充実を図る た、各チームによるれ や協同事業を行い、利	レベルの ごを「み る。ま 目互告知		
			がスポーツに親し むきっかけ作りを 実施。			達成率	37.3	%											わずスポーツに親しはけづくりに取り組む。	ごきっか		

			[Plan]				o】 実施	i								[Check]	評価		ction】 改善
子 No.	SDGs 基本計画の施策 事	東			評価の	の成果指標(目標・実績)	T	-h #B	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
传名 NO.	SDGs 基本計画の施策 ・ゴール を構成する 所所 主な事業・取組 課	8	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法
			ラグビーワールド カップ2019及び			オリ・パラ キャンプの 実施			ヶ国又										
			2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地	-	実績	4 競 技			は1競技 以上 (R3年 度)										
			誘致数		達成率	_													
			東京2020オリン ピック・パラリン ピック競技大会、		目標		5 回												
		官民一体となっ た「誘致委員会」 による積極的な活	2021世界体操・新体操選手権北九州 大会のレガシー構築における各国と の交流回数	_	実績				5回 (R4年 度)							国際スポーツ 引き続き実施し に、これまで築	ていくととも いた各国との		
54	国際スポーツ大会等 ペポーツ大会等 (4) ポーツ大会等 (4) ポーツ大会等 (4) ポーツ大会等 (4) ポーツ大会等 (4) ボーツ大会等 (4) ボーツ大会等 (4) ボーツ大会等 (4) ボーツ (4) ボール (4)	フョンを展開し、 大規模国際スポー 大規模の試合会場	※指標廃止		達成率					- 継続	17, 000	54, 920	増額	54,000	順調	友好関係も継続 【指標廃止・追 東京2020オリ ラリンピック競	加の理由】 ンピック・パ		
	(4) ホーツ大会等 (1) 誘致関係事業 進度	とともに、誘致前 後のスポーツ交流 や文化交流等の実 施により、生涯ス			目標	3 件	3 件	3 件		,,_,,,	,	.,,		.,		世界体操・新体 州大会に限らず スポーツ大会や における各国と	操選手権北九 、大規模国際 キャンプ前後 の友好関係を		
		ポーツの振興やま ちの賑わい創りに 寄与する。	国際スポーツ大会 等の開催	4件 (H27年 度)	実績	2 件			3件 (毎年 度)							構築し、次回大 繋げるため成果 よび追加した。			
					達成率	66.7 %													
					目標			l 回	ヶ国又										
			各国との交流回数 ※指標追加	_	実績				は1競技 団体以 上 毎年 度)										
					達成率														

				~ 		[Plan]				[D		施									[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	No.	SDGs ゴール を構成で 番号 主な事業	の施策 する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指	標(目標・実績	責)		+ + n	成果の		R5年度	1 年 未 目	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名		番号主な事業	・取組	所管課名	1 X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度		R5年度	中期目標		予算額 (千円)	7 昇額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		同 施東 評価	(課題に対する改善方法等)
					北九州本の スペにれた スペに北は は、い、おの まふれるを をやプラー、いっ が集ふれるを をやプラー、いっ がっ いっ いっ いっ いっ がっ の リートッ は の リートッ は の ウートッ は の ウートッ は の ウートッ は の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の ウート の りーと の りーと りーと りーと りーと りーと りーと りーと りーと りーと りーと			目標	100	日	100	日	100 1	3										
	55	● 北九州ス⑦ アム維持⑥ 事業	管理	ツ振	フラ大へにぎイど動設 いで会の加わい、をで 、どま、をりにです。 というでは、 をでして、 でが出れいント氏供 をのにで、 をで をで をで をで をで をで をで をで をで をで をで をで をで	「みる」スポーツ の機会提供の充実 (グラウンドの年 間利用日数)	_	実績	113	日				I00日 (毎年 度)		104, 251	104, 25	維持	2,750	順調	施設の適切なび、新型コロ対 症感染防止対策 スポーツ和用の ベントを受け入: スポーツの充実 わいにつなげる。	ウイルス感染 を行が様のないないないないないないないない。 まかがまないないない。 かまちのにぎ		
					施智は 特管する。 でよる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率	113.0	%														
					各地域団体が連 携・協力し、まち づくり協議会を中 心に地域が一体と			目標	135	団体		団体	137 E	五 本							住民主体の地 ちづくりを促進	するため、ま		
	56	地域総括金	補助	地域 振興 課	なった地域づくり を促進するため、 これまで市各部局 が事業ごとに地域い	地域総括補助金を 導入したまちづく り協議会数	130団体 (H26年 度)	実績	136	団体				137団4 (R5年 度)		314,980	314, 980) 維持	3,825	順調	ちづくり協議会 総括補助金の交 さらに地域も調 ため、とも調	付を行う。 流用の促進の 制度説明を徹 、地域の要望		
Ⅲ-3- (I)-① 市民主					た補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に 交付する。			達成率	100.7	%											に応じた要綱のする。	兄直しを快割	加石 	引き続き、地域が一体となった市民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や地域
体の地 域の促 進					まちづくり協議会を中心とした。			目標	46	%	50	%	50 9	6							まちづくり協っ団体に地域の課	題解決に主体	- 順調	で様々な取組を行う各種地域 団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や各種支援事業 などの地域ニーズに応じた施 策を展開する。
	57	住民主体 域づくり 値	の促	+= 490	ネットフェイン いた会が相互に流 が相を共有し交流を は歳を共有し設ける はまる場を は民主体の地	地域づくり活動へ の参加者の割合	39.6% (H29年 度)		32	%				50% (R7年 度)		2,480	1,480	減額	3, 575	順調	的に取り組んで め、まま用して を心じたすない。 たびくり、 たびくりない を連携して	専門家派遣制 地域の実情に う。また、ま 等の地域団体		
					域づくりを進める。			達成率	69.6	%											心とした地域づむ。			

11.042		いー ソ同			[Plan]	計	画	/	[Do]	実施	į						-		【Check】 評化	西 /	/ [A	action】 改善
施策番号	No. 3'-1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標	(目標・	実績)			1放.未ひ.	R4年度	R5年度	尹耒貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	学来 "机械似女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年	-度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善力		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					市民センター 館	32千人 (RI年	目標実	42	42	千 人	42	42千人 (毎年										
Ⅲ-3- (1)-②				市民では 管理正による ではまり ではまり ではまり ではまり ではまり ではまり ではなり ではなり ではなり ではなり でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。	当たりの利用者数	度)	達成率	40.5 9				度)							SNS等による情報発 市民センターに係る手	続きの		SNS等による情報発信や、 市民センターに係る手続きの
(地ミテ設用営)コニ施活運			地域 振興 課	用を協議など、活く理。 は地まへで行域のででで、活く理。 は地まへので行域ができた、施設とは、 が表したが、できた、 が表している。 が、できた、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、のの機能が、 が、のの機能が、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、できたが、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が			目標	2,200	2,200	千 人	2,200 千人		継続	2, 765, 842	2,500,551	減額	46, 250	遅れ	オンライン化などのI(活用を検討し、利用者 つなげていく。 市民センターを拠点を 地域づくりを促進する 老朽化対策等のハート 備する。	増加に とした ため、	遅れ	オンライン化などのICT技術 活用を検討し、利用者増加に つなげていく。 市民センターを拠点とした 地域づくりを促進するため、 老朽化対策等のハード面を整 備する。
				上を図るため、老朽化対策等の改修を計画的に行う。	市民センターにお けるコミュニティ 活動の参加人数 (延べ)	人	実績	881				2,200千 人 (毎年 度)										
							達成率	39.5 9	6													
							目標	85 9	6 85	%	85 %											
				自治会と連携し	地域づくり活動へ 肯定的な考えの市 民の割合		実績	78.7 9	6			85% (毎年 度)							自治会・町内会を取 課題を解決し活性化を るために、マンション	促進す		自治会・町内会を取り巻く 課題を解決し活性化を促進す るために、マンションの管理
Ⅲ-3- (I)-③ 自治 会・町	59	自治会・町内 会活性化の促 #	+4-1 -1 2	ながら、加入率向 上や組織・活動の 見直し及び人材育 成など新たな課題			達 成 率	92.6 9	6				継続	28,784	34,084	増額	4, 095	順調	会社等の関係者に積極きかけていくほか、 引地域コミュニティの重自治会の必要性につい	き続き 要性や	順調	会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き 地域コミュニティの重要性や 自治会の必要性について幅広
内会への加入促進		進	歃	への対応につなが る様々な事業に取 り組み、自治会・町 内会の活性化を図	Г		目標	46 9	6 50	%	50 %								く理解を求めることに れていく。 また、ICTを活用す により、自治会役員の	力を入 ること		く理解を求めることに力を入れていく。 また、ICTを活用することにより、自治会役員の負担軽
				3 .	地域づくり活動へ の参加者の割合	39.6% (H29年 度)	実績	32 9	6			50% (R7年 度)							減及び若い世代の自治促進を図る。			減及び若い世代の自治会加入 促進を図る。
							達成率	69.6 9	6													

		いー ノ周			[Plan]	計	画	/	[D	o】	実施							-		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs No. ⊐´-ル	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価			(目標・実	1		H+ #A	成果の	R4年度	R5年度	ず未貝	人件費 (目安)	R3年度 事業		に向けて 直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	1 24 2012/9/2	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	复	R4年度	复	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価		る改善方法等)	戸価	(課題に対する改善方法等)
						29, 293	目標	20,000	人	20,000	人	20,000	20,000										
				市民活動の促進	サポートセンター 利用者数	人 (RI年 度)	実績	8, 256	人				人 (毎年 度)										
	60 4		市民 活動	に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働			達成率	41.3	%					- 継続	17,434	17,434	維持	19,725	順調	め、新たな活動 起こしとともに	、 市民活動団		
		期促進争業	課	等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。			目標	15	法人	15	法人		去 人							体を育成するたなどの実施や朴の充実を図る。	目談、情報提供		
					新規設立NPO法人 数	17法人 (RI年 度)	績	14	法人				15法人 (毎年 度)										
Ⅲ-3- (2)-① NP0・ ボラン							達成率	93.3	%													一順調	市民活動を促進する講座の 実施や情報提供の充実を図っ ていく。
ディア 活動の 支援							目標	130	件	140	件	150 1	#									rije divij	また、NPOへの資金的な支援を引き続き行っていく。
					補助交付事業件数 (累計)	109件 (RI年 度)	実績	131	件				150件 (R5年 度)										
	61 🖪		市民 活動	市民活動の更な る促進を支援する ため、NPO等が専門 性を発揮して行う			達成率	100.8	%					- 継続	2,694	2,694	維持	3, 275	順調	むNPOに対して と併せて伴走す	え援を実施する		
		支援事業	推進 課	活動に対し、事業費の一部を補助する。			目標	580	人	630	人	680		WCL N/L	2,074	2,014	WE1/1	3,273	Post cond	ことで、NPOの 持続に寄与して を図る。			
					成果発表会の参加 人数(累計)	431人 (RI年 度)	実績	475	人				680人 (R5年 度)										
							達成率	81.9	%														
Ⅲ-3- (2)-②				市民主体のまち づくりを推進する ため、市民活動へ			目標	5	件	5	件	10 1	‡							を持っていない			
NPO・ 企業、 研究機 関など	62 (f)	よる市民活動 の輪づくり事	活動 推進 課	の理解を深め、新 たな担い手の参加 を促すとともに、 NPOと様々な団体間	NP0と企業・地 域・大学等との協 働件数	4件 (RI年 度)	実績	15	件				5件 (毎年 度)	継続	2,566	2,066	減額	2,470	大変順調	活動への興味を 深めることです を広げる。また 化する社会課是 めに、NPO同士	5民活動の裾野 た、多様で複雑 夏に対応するた		多様な主体による協働を推 進するため、NPO・企業等と の交流会を引き続き実施し、 団体間の協働を推進する。
携の構築				のネットワークづ くりや協働を支援 する。			達成率	300.0	%											につながるためする。			

			トーツ局		[Plan]	】計	画	/	[Do	o】 実施	į						+		【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
施策番号		DGs	基本計画の施策 主要	古米 15001011 五		事業	評価	の成果指	標(I	目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	76.0 8 - 1 6 6 -
・施策名	NO.	番号	を構成する 事業 主な事業・取組 課名	: 事業・取組概要 :	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				協働に関する理	NPOとの協働につ	2 1/16 /	目標	2, 250	Д	2,500 人	2,750 人	2,1,2						21 (100			
				解を深めるための 研修、協働事業を 実施するために必	いての研修への参加者数(累計)		実績達	2,476	人			(R5年 度)									
	63		「NPOとの協 市民 働によるまち 活動 づくり」人材 推進	要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に			達成率	110.0	%				継続	1,206	1,206	維持	6,400	順調	多様な主体による協働を促 進するため、人材育成や団体 運営力を強化するセミナーや		
Ⅲ-3- (3)-①			育成事業課	自立したNPOの増加 を図るため、資金 調達力や企画力の		3団体	標	9	体	12 団	15 位	15団体							専門家派遣等の充実を図る。		協働への理解を深めるセミ
市民参働のための仕				向上を図るセミ ナーを実施する。	運営改善団体数 (累計)	(RI年 度)	実績達	8	体			(R5年 度)								順調	ナーやNPOと様々な団体との 交流会の開催等、各団体間の 自主的な協働の側面支援に引
組みづくり							成率	88.9	%												き続き取り組んでいく。
			A 14 to 2 to 2	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動へ			目標	5	件	5 件	5 件								市民活動についてまだ関心 を持っていない市民に対して 活動への興味を高め、理解を		
	64	a	多様な主体に よる市民活動 の輪づくり事 業 業	たな担い手の参加 を促すとともに、 NPOと様々な団体間	NP0と企業・地 域・大学等との協 働件数	4件 (RI年 度)	実績	15	件			5件 (毎年 度)	継続	2,566	2,066	減額	2,470	大変順調	深めることで市民活動の裾野を広げる。また、多様で複雑化する社会課題に対応するために、NPO同士の連携・協働		
				のネットワークづくりや協働を支援 する。			達成率	300.0	%										につながるための機会を創出する。		
Ⅲ-3- (3)-② 市民と の協働						29, 293	棕	20,000	人	20,000 人	20,000 人	20,000								順調	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナーの充実、NPO・市民活動に関する情報提供に
を推さ で で 行 く り				市民活動の促進 に加え、NPOと行政	サポートセンター 利用者数	人 (RI年 度)	実績達	8, 256	人			人 (毎年 度)							市民活動の更なる促進のた		取り組む。
	65	4	市民 NPO・市民活 活動 動促進事業 推進	の協働を推進する ため、活動や協働			成率	41.3					- 継続	17,434	17, 434	維持	19,725	順調	中氏活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、市民活動団体を育成するため、セミナー		
		-	課	助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。	to In No. 1	17法人	目標	15	法人	I5 法 ————	15 法								などの実施や相談、情報提供の充実を図る。		
					新規設立NPO法人 数	(RI年 度)	実績達	14	法人			(毎年度)									
							成率	93.3	%												

					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実	施							-		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs No. 3'-1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	標(目標・実績	責)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	76.0 0 + 1 1 1 + +
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	事来	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度		R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等	局施策 評価	
							目標	2,250	٨	2,500	人	2,750 人										
				協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)		績	2,476	٨				2,750人 (R5年 度)									
	66	「NPOとの協 働によるまち づくり」人材	市民活動	要な団体運営力向 上を図るための研 修を実施する。			達成率	110.0	%					継続	1,206	1,206	維持	6, 400	順調	多様な主体による協働を 進するため、人材育成や団 運営力を強化するセミナー	*	
		育成事業	課	また、経済的に 自立したNPOの増加 を図るため、資金	1	257.4	目標	9	団体		団体	15 団	15774							専門家派遣等の充実を図る。		
				調達力や企画力の 向上を図るセミナーを実施する。	運営改善団体数 (累計)	3団体 (RI年 度)	実績	8	団体				15団体 (R5年 度)									
							達成率	88.9	%													
				北九州市ゆかり			目標	30,000	人	30,000	人	30,000 人										
	67 4	文学館普及研 究費	文学館	の文芸の振興に功 績のあった文学者 を市内外に発信す	入館者数	10,741 人(H23 年度)		17,641	人				30,000 人 (毎年 度)	継続	22, 486	17,921	減額	30, 950	やや 遅れ	リニューアルした常設展: やより多くの市民が興味を打つ企画展の開催により、若: 層等の入館者の増加を図り、 市民が文学に接する機会を打供していく。	寺 F	
IV-4-				3 .			達成率	58.8	%													新型コロナウイルス感染症 感染防止対策を行ったうえ
(I)-② 偉人・ 先人の 顕彰				松本清張に関料 なあり整理しとと 本清張の「人とる」 本清張研究する 金研究・資料収集			目標	前年度比 (10,45 人) 増	_	前年度比	増	前年度比增								新型コロナウイルス感染; 感染防止対策を行ったうえ で、より一層魅力的な企画	順調	で、より一層魅力的な企画展・講演会等を企画し、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。
	68 4	松本清張記念 館研究セン ター・普及事 業	松清記館務本張念事局	事業を発行する。研究まな、というでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	松本清張記念館の 入館者数	58, 187 人 (H22年 度)	実	11,973	人				前年度 比増 (毎年 度)	継続	10,522	11,528	増額	23, 250	順調	展・講演会等を企画し、来に 者増及び来館者の満足度向 を図る。 収蔵品管理について、デ・ タルアーカイブシステムを 入し、研究施設としての機	上 ブ 夢	
				では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率	114.5	%											向上や利用者の利便性確保(努める。		

''	NA.	10/	トーツ同			[Plan]	計	画/【	Do】 実施	į					4		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施・	策番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業所課名	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価の成果指標 R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性 予第 (千	額 予算額	頁 の増減		R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
(2 都 メ	-4-)-③ 市イジ ー向上	69 🔞 🕦		文化企画課	致極的のメる。 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を表示で、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を	地域経済への貢献 (直接経済効果) 都市プランド、 が が が い い と 思 の 割 う 市 民 の 割 り で ま い と り と り た り た り た り た り た り た り た り た り	100,000 千円 (H21年 度)	実 1,40 00/ 千	17.0 %	17.0 %	150,000 千円 (RI年每 以降度) 17.0% (R3年 (R3年 (R3年 (R3年 (R3年 (R3年 (R3年 (R3年	- 継続 27,	56 14, 30	10 减額	32, 100	大変順	引き続き新型コロナウイル 高き続きの感染症の 高となが作る。 国の誘致 ロカ外の・支 が作く。 が作く。 では、新年のは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	順調	アフターコロナを見据えながら、「映画の街・北九州」という都市ブランド確立への 更なる取組を進めていく。

	ı			I 2 ==		[Plan]	計画)o】 実施	į							【Check】 評価		Action】 改善
施策番号	No.	DGs	基本計画の施策 を構成する	T-70	事業・取組概要	10		平価の	の成果指標((目標・実績)		中期	成未の	R5年度 予算額	_	(目安)	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	ä	番号:	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	7 710 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		見状値 基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性 予算部 (千円)		の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
					【総合田帝期母子	総合周産期母子医			運営体制の 確保・充実	運営体制の 確保・充実	運営体制の確保・充実									
					医療センター(市 立医療センター 内)】	療センターにおけ 運 る医療体制 (24時 制 間体制) の確保・	I o THE		運営体制の 確保・充実			医療体 制の確 保・充 実						周産期医療の提供においては、提供体制の適正化に向けて、市や関係機関との連携を密に行い、地域全体の医療提	t :	
I-I- (I)-③ 母子が 健康に		-	総合周産期母 子医療セン ター及び小児	地域	後まで母子に対す る専門的な医療を 24時間体制で提供	充実		達成率	_									供機能を踏まえた運用の見直 しを行った。 また、小児救急において は、新八幡病院で整備したが	<u>.</u>	必要な医師の確保や医療機 器の更新、施設・設備の適切
生 き う で り	1	9	ター及び小児 救急・小児総 合医療セン ターの運営	医療課	する。 【小児救急・小児 総合医療センター (市立八幡病院に 併設)】	小児救急・小児総 合医療センターの			運営体制の 確保・充実	運営体制の確保・充実	運営体制の確保・充実		継続 , 38,	13 1, 141, 27	9 維持	_	順調	設・設備を適切に活用し、初療から集中治療を要する場合 まで24時間365日対応できる 環境を整え、適切な医療を提		な活用などにより、初療から 集中治療を要する場合まで対 応できる医療体制 (24時間体制) の確保に努める。
					・1次(初療)から 3次(重篤)までの 救急医療を24時間 体制で提供する。	(術像)から3次 制	■営体 引の確 保	実績	運営体制の 確保・充実			医療体 制の確 保・充 実						供した。 医師確保においては、病院 長等による大学医学部等への 働きかけを行った。	_	
						確保・充実)		達成率	_										W-7 - N-9	No.
I-3- (2)-② 地域を 支える								目標	前年度比 (616団体) 増	前年度比增	前年度比增	ボラン							順調	コロナ禍において、ニーズ・関心の高まっている「新たな福祉課題」に対応するためのボランティアの養成や資
ボラン ティア の育成					地域福祉の振興 を図るため、北九 州市社会福祉協議	ホフンテイド登録 (H	00団体 H27年 度)	実績	537 団体			ティア 登録団 体の拡 充								質向上、多様な主体同士の連携や社会福祉施設、企業等のボランティアが活躍できるための仕組みづくり、きめ細や
	2	6	ボランティア	地域福祉	会が実施している ボランティアの育 成、コーディネー ト、活動支援、関			達成率	87.2 %				継続 34,90	4 30,858	3 減額	4,075	順調	多様な主体同士の連携や、 社会福祉施設や企業等のボラ ンナィアが活躍できるための		かな生活支援体制の整備のための校(地)区単位のコーディネーターの配置など、実施予定である重層的支援体制
			活動促進事業	課	係機関との連携に よる情報収集・発 信等のボランティ ア活動促進事業に	23		目標	前年度比 (19,497人) 増	前年度比增	前年度比増	ボラン						仕組みづくりを検討するな ど、市内のボランティア活動 が促進される取組を進める。	b	整備を見据えた事業の見直し を図る。
					対して補助している。	ボランティア登録 人数 (H	人 H27年 度)	頯	17,075 人			ホティア 人口の 拡充								
_								達成率	87.6 %											
				44444	地域福祉活動や ボランティア活動 を担う人材育成に		; -	目標	3,000 人	3,000 人	3,000 人	受講者						コロナ禍において、ニー	_	
	3 1,	⊘	社会福祉ボラ ンティア大学 校運営委託	地福祉 推進 課	ンティア・市民活	ボランティア大学 3,6 校の研修の受講者 (H 数(単年度)		実績	1,781 人			のボラ ンテ活動 の促進	継続 31,38	30,936	維持	2, 325		ズ・関心の高まっている「新たな福祉課題」に対応するためのボランティアの養成や、活動者の資質向上を超るス	=	
					く研修機会を提供する。			達成率	59.4 %									の取組を引き続き進める。		

保健福祉局

						[Plan]	計	画	/ [[Do】 実施	i						—		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	SDGs	s 基:	本計画の施策	主要事業	車		事業	評価の)成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	一手業員	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	NO. 3 -1. 番号	主	を構成する な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					地域包括ケアシ ステムの構築に向 けて、地域の見守 り・支え合いを強			目標	前年度比 (7校区) 増	前年度比增	前年度比增								住民主体によ え合いを実現す 切丁寧な説明と	るために、懇		
	4 (1)) 生) 整	活支援体制 備事業	地域 福祉 推選	化し、住民主体の 生活支援サービス 等の創出を促にす るため、各区にす 域支援コーディ ネーターを配置	新たな支援の仕組 みやサービスを検 討・実施した校区 数	0校区 (H29年 度)	実績	II 校 区			支援の 仕組み やサー ビスの 創出	継続	113,374	113,495	維持	13,700	大変順調	ディネーター等 やかな支援を引 また、実施予 的支援体制整備 地域づくりを見 まな団体との顔	にき定事据のき行るおさるきあい、えんなきのい、えんがい、えんがいまれるがは、えんがいまれるがはまれる。層るざいまればない。		
					し、多様な主体が 協働する場の運営 を支援する。			達成率	157.1 %										トワークづくりな活動の発掘に			
I -3-		Æ	: 巨老爪收土	巨走	年長者研修大学				前年度比 (44.3%) 増	前年度比增	前年度比增	高齢者 の生き がいづ くりや							地域活動の拠			高齢者の生きがいづくり
(2)-③ 団塊の 世代の 活用	5 4 8	学	校及び北九 穴生ドーム	社会	校(周望学舎・穴 生学舎)及び北九 州穴生ドーム、並 びに生涯現役夢追 塾の運営を行う。	修了生の地域活動 への参加状況	43.0% (H26年 度)	実績	43.3 %			仲間づ くびが ライア	継続	187,408	190, 299	維持	4,825	順調	割のためボラン 充実に努めるく 生きがいし、地域 を促進し、材育成	ど、高齢者の や健康づくり 活動を担う高		健康づくりを促進し、より: 域活動を担う高齢者を増や ていくため、年長者研修大: 校等による人材育成を強化: る。
								達成率	97.7 %			, 一, 活動等 の促進									10T \ 10T	
Ⅱ-I- ① 地安てせ組く 一切でしら仕づ					住民と行政のカ を結集し、地域に おける既存のネットワークや見守り の仕組みを結び付			目標	130 団体	130 団	130 団体										順調	「(仮称)地域交流・居り 所部会」の新設を含め、いい ちをつなぐネッリークラーク 会議の拡充会議等、運営を強っ する。 生活保護受給者への自立 援については、対象者の減
	6 8	(*	のちをつな ゚ネットワー 事業	地域 福進 課	けネ細よみとがあるとも、ッかっな要社でしたので、ずしいないない、かっな要社でしたのがないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	いのちをつなぐ ネットワーク推進 会議の参加団体数	79団体 (H27年 度)	実績	81 体			協業体るトクかにネワの大	拡大	7,840	7,526	維持	172, 200	順調	「(仮称)地 所部でつなぐネッ 会議の拡充を図 の実務者会議等 する。	トワーク推進り、現存部会		傾向に併せ、予算規模を縮あしつつ、対象的な支援のあする。 民生委員の活動支援に受量のを見ては、民生委員・児童の整見のは、大きのを見るのを見るのを見るのを見る。
					もことがないよう 地域全体で見守 り、必要なサービ ス等につなげてい く取組みである。			達成率	62.3 %													備、地域の中で候補者を見けられるための方策を北九市民生委員児童委員協議会検討する。

				(Plan)				o】 実施									【Check】 評価		【Action】 改善
番号	SI	DGs 基本計画の施策 事				評価の	の成果指標	(目標・実績)	1	I .L.#n	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年	26.0
後名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	100s 基本計画の他東 ・ル を構成する 新号 主な事業・取組 課	B	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法		DAK () () () () () () () () () () () () ()
			市が実施健福を 市が実る保健福る 利用者なののかる 利用者が立るなが をなまって なまって なまって では では でいまって では でいまって では でいまって でいま でいま でいま でいま でいま でい でい でい でい でいま でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい			目標	_	_	_										
7	7	北九州市保健 総3 福祉オンブズ 課 パーソン事業	ン)が面談されている。 かの機をなっている。 大の機をを審すれている。 がを動きないでする。 大のでは、 はのでは、 、 はのでは、 はの	保健福祉行政の推	_	実績	_			公信れ でさ 保祉 で 推進 が 進	継続	780	780	維持	4, 150	順調	保健福祉サービスに関 利用者及び利用希望者か 相談に対し、引き続き適 つ丁寧に対応を行う体制 持する。	らの 切か	
			の苦情処制度(あるのであるのであるので、 あるので、 の手紙度(またので、 の手紙度(を の手が、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では			達成率	_												
						目標	_	_	650 人										
			多様で複雑な問 題を抱える生活保 護受給者に対し、 それらの問題を解	就職者数(人)	_	実績	63 人 (うち廃止 93人)			被保護 者の自 立促進							引き続き就労意欲に欠	ける	
		● 生活保護受給 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	決し少しでも早く 生活保護うに、ラム できる援力を が支援。			達成率	_				(de 1		155 450	Li der	- aaa	HE ART	者や長期にわたって失業者、就業経験に乏しい者する支援を強化していく 併せて、各区の就分支	に対 。 援担	
8	3 (♥ 者に対する自 ③ 立支援事業	等の各種自立支援 プログラムを活用 し、専門自(専門 する職員)を各区に配置			目標	_	_	_		縮小	166, 133	157, 450	減額	7,300		当係長との情報共有を図 効果的な支援の検討及び していく。また、就労支 象者の減少傾向があるた 令和5年度については、	実施 援対 め、	
			するなど、福祉事 務所における自立 支援体制を拡充 し、支援を行う。	効果額(千円) (保護削減額)	_	実績	310,977 千 円			被保護 者の自 立促進							規模を縮小した。	7	
			- 1 2 2 2 13 7 0			達成	_												

					[Plan	計	画	/ [0	o】 実施	Ē						([Check]	評価		Action】 改善
も策番号	SDGs No. ⊐'-ル	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標(中期	成果の		R5年度 予算額	尹未貝	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	20.0 0 - 1 1 1 1 -
・施策名	番号	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組	所管 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	_	_	前年度水準 を維持											
				民生委員・児童 委員は、社会福祉 の精神をもって、 高齢者をはじめ生 活困窮者、児童、	相談・支援件数	86,008 件 (H27年 度)	実績	59,555 件			相談・ 支援件 数の維 持										
	g 3	民生委員活動支援事業	地域 福祉	障害のある人など 援護を必要とする 者に相談・助言を 行い、福祉事務所			達成率	_				- 継続	171,708	166, 994	維持	45, 450	順調	民生委員・児 軽減や、なり手 ため、民生委員			
	W	又仮争来	推進課	や社会福祉施設などと密接に協力しながら、地域社会の福祉の問題を発			目標	_	-	前年度水準 を維持								会と今後も協議ら、方策を検討			
				る。その民生委 員・児童委員の委 嘱、広報、研修な どを行う。	充足率	_	実績	97.7 %			充足率 の維持										
							達成率	_												urc Arn	No. of the latest and the second
[- - 2)-① E療・ 対急体 川の充							目標	_	l	_										順調	救急医療体制の維持・確 については、各病院の医師 医療スタッフの負担軽減に する体制確保や財政的支援 継続的に行う。
Ę	10 🔞	救急医療体制 の維持・確保	地域 医療 課	夜間や休日にお ける救急医療体制 の維持・確保。	救急医療体制の維 持	_	実績	_			救急医 療体制 の維持	継続	1,116,468	1, 114, 036	維持	280, 200	順調	りき続き、医とする関係機関り、夜間や休日 医療体制の維持る。	における救急		小児医療先進都市づくり 業では、小児医療先進都市 くり会議や小児救急医療ワ クショップ等について、内
							達成率	_													の充実に努める。 産婦人科・小児科医師の 保については、課題を踏ま え、助成制度の見直しを検 するなど、市医師会と協議
							目標	_	_	_											る。 在宅医療普及推進事業に いては、病院連携会議や訪 看護事業所を対象とした研 会等を継続的に開催すると
				小児救急医療を はじめとする小児														引き続き、小			もに、在宅医療の普及啓発 促進に努める。 総合周産期母子医療セン
	II 3	小児医療先進 都市づくり事 業	医療課	医療体制を図る充実を図を表することで、小児医療の先進都市づくりを行う。	小児救急医療の先	_	実	小児医療に 関する先進 的な取組み を実施			小児医 療の充 実	継続	3,824	3,692	維持	2,900	順調	ワークショップ 本市の小児医療 を市内外の医療 ピールするとと 容について充実	に対する取組 関係者等にア もに、その内		ター及び小児救急・小児総 医療センターの運営につい は、全国的な医師不足の状 況、出生数の低下や働き方 革による医師の負担軽減に
							達成率	_													意した必要な医師の確保や 療器械の更新などにより、 療体制(24時間体制)の確 に努める。

1米)连備1	<u> </u>				[Plan]	計画	画	/ [Do]	実施							4		【Check】 評価 /	/ [A	action】 改善
施策番号』	SC	Gs 基本計画の施第	主要事業			事業計	評価	の成果指標(目	標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
·施策名	0. ゴ番	を構成する 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度		方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
		産婦人科・小			産婦人科、小児科		宇	在婦人科、 小児科医師	-	_	産科児師 婦、科等 の	(a) (c+	10.000		666.14	2, 922	WE 240	引き続き、助成等を行うことにより、周産期、小児医療		
	2	見科臨床研修 医支援等事業		援するための事業への助成を行う。	医師の確保			等の確保に 係る事業を 支援 —			確保の業援	継続	10,000	10,000	維持	2, 900	順調	等に関する専門的な医療の提 供及び医師の確保を図り、医 療体制の充実に努める。		
				かかりつけ医を 中心に専門職が連 携し、患者の希望	域の専門職による	4回 (H30年	目標 実績	10 回			在宅医 療を担 う専門									
	3	全宅医療普及 推進事業	地域医療課	にかった。在宅医療 いたでは、 いたでは、 いたでは、 はない はない は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	開催		(達成率 目	60.0 %			職の連携強化	継続	789	745	減額	20, 950	順調	在宅医療に関する知識や理 解度を向上させるため、引き 続き普及啓発を促進してい		
			DK.	へいいの中が いいの中が といい かり かい かり もな りで もな りで もな りで もな りで もな りで もな りで もな りで もな りで まった を った を った を りで まった を りで を りで を りで を りで を りで を りで を りで りで りで りで りで りで りで りで りで りで りで りで りで	在宅医療に関する研修会の開催	26回 (R2年 度)	1標 実績 達成率		30 🗵	30 回	在療す で で 関 知 普 及							<.		
				【総合周産期母子 医療センター(市	総合周産期母子医		目	運営体制の 運確保・充実 確	運営体制の 選保・充実		医療体							周産期医療の提供において		
		公人日在地 区		立医療センター 内)】 ・出生前から出産 後まで母子に対す	療センターにおける医療体制(24時間体制)の確保・ 充実	制の確 保	実績達	運営体制の確保・充実			制の確保・充実							は、提供体制の適正化に向けて、市や関係機関との連携を密に行い、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用の見直		
	4	総合周産期母子医及び小児教育を表する。	地域	る専門的な医療を 24時間体制で提供 する。 【小児救急・小児			成率	運営体制の 選	『学体制の	運営体制の		継続	1,138,113	1,141,279	維持	_	順調	しを行った。 また、小児救急において は、新八幡病院で整備した施 設・設備を適切に活用し、初		
		合医療セン ターの運営		総合医療センター		運営体	標	理営体制の環確保・充実確保・充実確保・充実を確保・			医療体 制の確							療から集中治療を要する場合 まで24時間365日対応できる 環境を整え、適切な医療を提 供した。		
				・1次(初療)から 3次(重篤)までの 救急医療を24時間 体制で提供する。		保保		確保・充実			研の確保・充実							医師確保においては、病院 長等による大学医学部等への 働きかけを行った。		

保健福祉局

保健社	81年/	回																				
							[Plan]	計	画	/ [0	o】 実施	i						(【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号 · 施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施 を構成する 主な事業・取	第 組	管	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)		iの成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	上 予算額	R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					名			(泰华祖)	目標	_	_	_	目標		(千円)	(千円)		(千円)	_ 評価_	今後も、市政だよりやホームページ、フリーペーパー等 あらゆる情報媒体を活用しな がら市民に対して感染症予 啓発を行うとともに、医療従	評価_	(政権に対する以下が)
	15	3	感染症対策 進事業	感症[療策	梁医攻課	感染症に係る基 盤整備、指導・相 談や関係機関との 連携活勢症の発 い、、ま を を を を を を を を を の の の の の の の の の の	健康危機管理の整 備・強化	_	実績	-			健康危機管理 の整備・化	継続	59,026	55,840	減額	4,400	順調	事者や施設職員向けの感染症に係る発生予防及び間差している。感染症を対している。のではまの健康でのできまた。な影響を維持する。というな影響を維持する。というな影響を維持する。というな影響を維持する者等を対している。		感染症の発生予防及びまれ 延防止のため、あらゆる情報 延防止のため、あらゆる情報 発、医療従事者や施設職大 はの研修会の開催、重数 響を及ぼす感染症の検査体影
II-I- (2)-②									達成率	-										麻しん風しんワクチン接種の 費用助成及び無料の風しん抗 体検査を行い、引き続き麻し ん風しん対策の強化を図る。	-	を維持する。 麻しん風しん対策を強化するため、妊娠者を対策を発い児童 福祉施設従事者を対象とした 所しん風しんワクチン接種の 費用助成、無料の風しん抗 検査、チラシによる周知を行
健康危機 機制 充実						平成21年4月に発			目標	医療体制や 相談備体制の 整備体、啓発供の 情報を行う	医療体制や 相談体体制の 整備の を で を で を 行 報 を 行 で を と で り で り で り で り で り で り で り で り で り で	医療体制や 相談体 制 や の 軽 体 制 で の 民 や 情報 と で を 行 な と で を 行 か と で を 行 か と で を で か と か と か と か と か と か と か と か と か と か	関係機							「北九州市新型インフルエ ンザ等対策マニュアル(医療 対応編)」に基づき、今後も 引き続き、新型インフルエン	順調	い、風しん抗体検査の未受利者に対し、クーポン券を再列行し勧奨を行う。 新型インフルエンザ等発生時に備え、感染症防護具や3ともに、新型コロナウイルス感染症の患者発生に伴い、B
	16	657	新型インフ/ エンザ対策 [‡] 業		染医攻課	流行や新たな新型	新型インフルエン ザ等感染症の発生 に備えた対策	_	実績	_			関協連化要る品保の、強必な蓄確補	継続	9,793	10, 152	維持	8,700	順調	ザ等発生時に必要となる感染 症防護具や消毒薬の備蓄を計 画的に行う。 加えて、新型コロナウイル、 交換提供体制や検査体制を 備、防護服等の十分な備蓄な どの新たな課題が生じたこと		療提供体制や検査体制の整備、防護服等の十分な備蓄などの新たな課題が生じたことから、計画的な患者移送訓糸や、関係機関との連携強化等を進める。
						た実を図る。			達成率	_			充							から、今後計画的な患者移送 訓練や、関係機関との連携強 化等を進める。		

				[Plan]	計	画	/ [D)o】 実施	<u> </u>						+		【Check】 評価	/	【Action】 改善
施策番号 · 施策名	No.	SDGs 基本計画の施策 主要 事業 所管 主な事業・取組 デタ	事業・取組概要	指標名等	事業現状値	評価	の成果指標(R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年月 局施第	強化・見直した内容
Ⅱ-I- (2)-③ 食全・安	17	◆ 0 中 △ 中 、) 保健	食品の安全を確 保することにより 住民の健康保護を 図えった日始	消費者への食品安全に関する正しい知識・情報の提供	(基準値)	目標実績	衛生講習会 やリーフ レークの配、 を発動した。	-	_	目標では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番		1,315	1,315	維持	6,825	評価	(課題に対する改善方法等) 引き続き、食品衛生監視表現主監視表現主を会に、資産を発生を会に、対正なのでは、対し、このでは、対し、このでは、の実施に、新感や対し、の変でが、少人を対し、の感でが、から、で、から、で、から、で、から、で、が、で、から、で、が、で、から、で、が、で、から、で、が、で、から、で、が、で、から、で、から		食の安全安心確保保推進事業 食の安は、一般では、 ででは計画では、 ででは計画では、 ででは、 ででは、 でででは、 ででででででいる。 ででいる。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは
心の確保	18	食中毒予防総 合対策事業 課	食中毒発生時のの迅速を健康ではよび、大防にないのでは、大防にないのでは、大防に発生のでは、一般では、大防にないのでは、大防によいのない。	食品等事業者の衛 生意識の向上	_		衛生講習会 や監視指導 等を行っ た。		_	食品等者生の意識の		I,658	1,658	維持	7,650	やや遅れ	引き続き、食品等事業者を 対象とした講習会の開催やの 視指導を実施し、事めるウイリス感染症し、新型出況に関ロカーに の感染症との感染状況会開催 で、少人数でりを活用した見 が等を行う等、る。	Ē. Ī	事業者の衛生意識の向上を図っていく。 ただしく、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、必人数での講き活用したターネット方法を都度見直すこととする。
П-1-			犯罪や非行の防 止と罪を犯した人	犯罪や非行のない		目標	継続的 に実施	継続的に実施	継続的に実施	犯罪やのない地									
(3)-⑤ 非行や 犯罪を 生ま 域	19	③ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	たちの更生につい て理解を深め、明 るい地域社会を築 くため、法務省主 唱の社会を明るく	明るい地域社会の実現を犯したのではないでは、ままないでは、ないでのでは、いてのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	_	実績	実施			域でのといった。	継続	445	445	維持	690	順調	犯罪や非行のない明るい地域社会の実現に向け、今後も犯罪予防活動や広報活動等を継続的に実施する。	川五字田	犯罪や非行のない明るい地域社会の実現に向け、今後も 犯罪予防活動や広報活動等を 継続的に実施する。
づくり			する運動を実施する。	を実施		達成率	_			■ の更生 の更つの理 解促進									

					(Plan)	計	画	/ [00】 実施	i						4		【Check】 書	評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号 N	o. SDI	基本計画の施 を構成する	主要事業所管	事業・取組概要		事業現状値	評価		(目標・実績)		中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向け 強化・見直した		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
лежа	番	まる を構成する 主な事業・取締	課名		指標名等	(基準値)	目標	R3年度 前年度比 (44.3%)	R4年度 前年度比增	R5年度 前年度比增	目標 高齢者		(千円)	(千円)	ひりょ音 が	(千円)	評価	(課題に対する改善	善方法等)_	評価	(課題に対する改善方法等)
Ⅱ-2- (I)-① 生涯型社 会のづく りの推	20 4	学校及び北方	1 社会	年長者研修大学 校(周望学舎・九九 性学舎)及び北九 州穴生ドーム、夢追 塾の運覚を行う	修了生の地域活動 への参加状況	43.0% (H26年 度)	宇	增 43.3 %			生いり間りびン		187, 408	190, 299	/ 維持	4, 825	順調	地域活動の拠点と 割のためボランない 充実に努めるない、 生きがいづくりや領動 を促進し、地域活を 齢者の人材育成をを	(ア活動の 高齢者の 建康づくり 動を担う高	順調	地域活動の拠点としての役割のためボランティア活動の充実に努めるなど、高齢者の生きがいづくりや健康づくり を促進し、地域活動を担う高齢者の人材育成を図る。
進							達成率	97.7 %			ティア 活動等 の促進										
Ⅱ-2- (I)-② 総地アア で充実			= ±	井 ・福職 ・福職 ・福職 ・福職 ・福職 ・現れ ・現れ ・の ・名 ・の ・名 ・の ・名 ・の ・名 での ・の ・の ・の ・の ・の ・の ・の ・の ・の ・			目標	前年度水準 (45件) を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持								第三者後見人の不	下足に対応	順調	第三者後見人の不足に対応するため、成年後見制度の担 するため、成年後見制度の担 い手を育成する養成研修動の 続実施、研修修了者の法人後 場を確保するための法人後了 業務へ人で後見人等になる際の 支援を行う。 また、「成年後見制度の利
2	21 (0	●権利擁護・〒 ② 民後見促進員)業		社調を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	法人後見受任件数 (年度末件数)	47件 (H27年 度)	実績	41 件			研修修 了者の 活躍の確 場の保	継続	10,043	9,282	減額	3,075	順調	するため、成年後養成 にまたでする養成する養し、 続実があるで活動の場合の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	成研修の継 に保保の を確保の で 後 る の で 後 り し で の で も り で り で り で り で り で り で り で り で り で		用の促進に関すが法律」、に基実 「はます。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「で、主を表す。 「に、主を表す。 「に、主を表す。 「に、主を表す。 「に、主を表す。 「に、主を表す。 「に、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、
				法人として後見業 務を提供する後機 に補助 成年後見関 し、利用促進を図 る。			達成率	91.1 %													4年10月から生活困窮状況に ある高齢者や障害者の権利を 保障する観点から「後見等開始の審判請求費用」や「後見 人等報酬」の助成を拡大し た。
			長寿へ	成促進にでいる。 成促進に基づ成の記憶である。 成とを表している。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、			目標	5 回	6 回	6 回								「成年後見制度の 進に関する法律」に 利用者がメリットの る制度・運用への 擁護さの地域 基本	c基づき、 を実感でき 女善、権利 携ネット		地域包括支援センターの運営においては、地域においては、地域に共産権の発見・把握を決していくともに、複雑化力に、と関化する相談案件への有成を強化するための人材を強化するための人材を、放け、
2	22	成年後見制度 中核機関運営 事業	を 注 注 対 課 管 者 援 害 支 課	携 イツトワークに トス式 午 油 糸 目 人	地域建携イット ワークにかかる関 係者との物議(物	_	実績	3 回			成年 見の・ 及用 の・ 足 用 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	拡大	9,309	12,438	増額	3,075	順調	ワークの構築、不正と的とため、別しています。 中国 しの時 しの きじ 4 年 の きじ 4 年 の きじ 4 年 の また と ちん と らん	ごの調和の 多発 が を を は を に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に に の に に に に に に に に に に に に に		効率化の検討を進めるととも に、より早く適切な支援へつ ないまために、地域包括支援セ ないターや「まちかとで っのPRを強化する。 また、地域リハビリテー ション支援センターと地域リ
				に対する支援、制度普及のための名を実施するのを実施する。			達成率	60.0 %										観点から、制度の利するため「後見等開 するため「後見等開 請求費用」や「後見 酬」の助成を拡大し	見始の審判 見人等報		ハビリテーション協力機関が協同する仕組みをつくり、地域リハビリテーションの推進を図る。

							(Plan)	計画	画	/ [D	o】 実施									【Check】 評価 /	([A	action】 改善
竞番号 Ni 拖策名	S. 3	SDGs ゴール 番号	基本計画のが を構成する 主な事業・耳	施策 な 又組	主要業所管課名	事業・取組概要	指標名等(法	事業言 現状値 基準値)	评価	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
						地域包括支援を センターは、高齢 が住その人 が住その安が で活を安め で活を安か で活ること			目標	単年度目標 設定なし	H28年度水準 からの上昇	単年度目標 設定なし								地域に共通する課題の発見・把握のためにKDB(国保データベース)システムの活携でいまり、地域包括ケア連強化により、地域包括ケア進ルのさらとともに、ダブウケアや介護と仕事の両立の支の大力を		
2	3 (8	地域包括支 センター選 事業	送営 技	也域 福進 課	口」である。 本市では、区役	ターの認知度 (北カ州古真絵者)()	3.0% H28年 度)	実績	_			H28年度 水準か らの上 昇(R7年 度)	継続	785, 285	769, 348	維持	36, 750	順調	大小では 大いで 大いでは 大いで 大いでは 大いで 大いでは 大いで 大いでは 大いでは 大いでは 大いでは 大いで 大いで 大いで 大いで 大いで 大いで 大いで 大いで		
						支援するなど 変置するなとも を を を を を を を を を を を を を を を を を を を			達成率	_										bMの指達による 様対していくる。 併せて、より早く適切な支 援へつなぐために、相談機関 である地域包括支援センター や地域の身近な相談拠点であ る「まちかど介護相談室」の PRを引き続き積極的に行う。		
						高齢者やその家族 のニーズに応じた 質の高い相談支援 を行うことができ				単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	650 件								地域リハビリテーション活		
2		6	地域リハヒ テーション 援体制推進 業	リ支事	リビテシン進いリーョ推課	るようテート を関する機スを 関連ないでする機 がいますな がいますな がいますな がいますな がいまする。 でいまる。 でいな。	ビリナーション支		実績	440 件			650件 (R5年 度)	_	15,700	34,900	増額	13, 375	_	動支援事業の一部移管によ り、地域リハビリテーショリ 支援センターと地域リハ協同 テーション協力機関が協同主体 る仕組みをつくり、後を充実し の通いの場への支援を充実し では地域リハビリテーションの		
						テーションに関す る相談支援や支援 者の育成・活用等 に取り組む。			達成率	_										推進を図る。		

						(Plan)	計	画	/	[D	o】 実施									【Check】 評価		【Action】 改善
号N			基本計画の施策 主要 を構成する 事業		梅鹿			評価の	の成果指	標(目標・実績)	1	I L-Hn	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年月	26.0 10 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
〔名 "	番	番号 -	主な事業・取組 所管 課名	7	194.55	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施第 評価	(課題に対する改善方法
- ③慣地の支 2	:5	3	介護サービス 等給付費(介 護保険サービスの提供(在の課 とマサービスの 提供))	では、立営よ道宅を がで自をる・在域の地の をでは、立営よ道宅を れに日とが問なスーウ。	能しむう所サ着	在宅サービスの利 用人数	32,743 人 (RI年 度)	標生	34, 412 34, 160 99. 3	人	35,296 人	35,912 人	35, 912 人 (R5年 度)	継続	50,065,127	51,331,447	維持	156, 440	順調	介護保険の在宅サービスの提供については、介護が必要な人に在宅サービスが安定的に提供されるよう、「第2次北九州市いきいき長寿プラン」に沿った支援を行う。	2	び特別養護老人ホンペンペンで特別養護老人ホブーニンで対応でいていていていて、「寿が大人が、「寿施を持つでいる。」では、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに
								目標	5,574	人	5,574 人	5,687 人										型サービスで栄養訪問コ を本実施する。 生活支援体制整備につ は、住民主体による見守 支え合いを実現するため
				要介護者が 宅生活が困難 なった場合な おいても可能	に どに	特別養護老人ホームの定員数	5,574人 (R2年 度)	実績	5,574	人			5,687人 (R5年 度)									域支援コーディネーター よるきめ細やかな支援を い、実施予定である重層 援体制整備における地域
2	26	6	民間老人福祉 施設整備補助 介護 事業(特別養 保険	り住み慣れたで生活を継続	地域 する よ			達成率	100.0	%				継続	22,400	396, 583	増額	55, 750	順調	特別養護老人ホームや認知 症対応型グループホーム等の 整備については、「第2次北)	りを見据え、さまざまな との顔の見えるネットワ づくり、新たな活動の勇 取り組む。
			護老人ホーム 課等の整備)	いきいき長寿 ンに基づき、 事業者が行う	プラ 民間 介護			目標	2,352	人	2,352 人	2,406 人								九州市いきいき長寿プラン」 を踏まえた整備を実施する。		
				保険施設等の に対する補助 うもの。	を行	認知症グループ ホームの定員数	2,352人 (R2年 度)	績	2,325	人			2,406人 (R5年 度)									
								達成率	98.9	%												
						6 h 6 h 6 h 6 h		目標	_		_	_	自立に 向けた 適切な							「介護予防・生活支援サ-		
		地垣福祉	要支援して	2の認	自立に向けた適切 なケアマネジメン トによるサービス 提供	_	実績	_				ケアマ ネジメ ントに よる							ビス事業(予防給付型・生活支援型)」は、サービス提供件数の見込みについて、新型コロナウイルス感染症の影響	į į		
2	7 4		推進 課 介護予防・生 認力 活支援サービ	定を受けた方 事業対象者に て、その能力 じ自立した日	対しに応			達成率	_				サービ ス提供	继结	2,917,040	2 714 323	維持	47, 200	順調	を踏まえた見直しを行った。 短期集中予防型サービス で、栄養訪問コースを本実が する。		
			ス事業 援・ 援・ 介語 予防	サービス及び型サービスの]型 "通所			目標	8	カ所	II カ 所			rec: rtyL	_, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	_, , , +, 020	사다그건	+1,200	ाज्यं घाना	「中期目標の変更内容】 「住民主体型」に取り組む 箇所数をIIカ所(R4年度)にし		
			センター	を行う。		「住民主体型」に 取り組む箇所数 ※中期目標改訂	0カ所 (H30年 10月時 点)		11	カ 所			14カ所 (R5年 度)							ていたが、令和3年度実績が IIカ所となり、すでに中期E標を達成したため、14カ所		
								達成率	137.5	%										(R5年度)に変更。		

							(Plan)	計	画	/ [[o】 実施	i						-		【Check】 評価 /		[Action]	改善
衰番号 拖策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画 を構成 主な事業	iの施第 する ・取組	主事所謂	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	の成果指標 R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年 局施 評价	策強	5年度に向けて と・見直した内容 に対する改善方法:
						地域包括ケアシ ステムの構築に向 けて、地域の見守 り・支え合いを強			目標	前年度比 (7校区) 増	前年度比增	前年度比增								住民主体による見守り、支 え合いを実現するために、懇 切丁寧な説明と地域支援コー			
			生活支持整備事業		地域 福祉 推進 課	化し、住民主体の 生活支援サービス 等の創出を促進す るため、各区にす 域立	新たな支援の仕組 みやサービスを検 討・実施した校区 数	0校区 (H29年 度)	実績	II 校 区			支援の 仕組み やサー ビスの 創出	継続	113, 374	113,495	維持	13, 700	大変順調	ディネーター等によるきめ細 やかな支援を引き続き行う。 また、実施予定である重層 的支援体制整備事業における 地域づくりを見据える。			
						ネーターを配置 し、多様な主体が 協働する場の運営 を支援する。			達成率	157.1 %										まな団体との顔の見えるネットワークづくりを進め、新たな活動の発掘に取り組む。			
					271.6	認知症高齢者やその家族が行みない。	要支援・要介護認		目標	単年度目標 設定なし	RI年度比減	単年度目標 設定なし								講座の定期開催や土日・夜 間開催など受講機会を増やし ていく。さらに、小・中学生			
	29	(I)	認知症 及・相 援事業		症支 援·	れた事には、大きないないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	定を受けている。 「ではない。」 「ではたいる。」 「ではたいる。」 ではない。 とっと。 ではない。 とっと。 ではない。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	43% (RI年 度)	実績	_			R5年度 中に目 標設定 予定	継続	11,144	10,346	減額	3,075	順調	や高校生・大学生を対象とした講座や、自治会等の地域での市民活動の一環としての講座、企業対象の講座など、より多彩な認知症サポーターの養成に取り組む。 また、すでに認知症サポー		の定期開 などによ	ミサポーター養成 引催や土日・夜間 こり受講機会を均 5機関・企業への
- ④的知						ポーター」の養成に取り組む。			達成率	_										る人、ターとなっている人たちが 様々な場面で活躍できる環境 づくりに取り組む。	順言	ローチな た受講者 とも躍でき 組む。	ボスーケットを ボ増の取組を進め 認知症サポータ る環境づくりに E高齢者の安全研
策					認知	認知症などによ り行方不明となっ た高齢者の早期を		認知症	目標	_	_	_	認知症							認知症高齢者の安全確保のため、SOSネットワークのメール配信協力者やや和4年には、		メール 探索サー 導入した	OSネットワーク C信協力者やGPS - ビス、令和4年 - 「見守りシール D 認知度を高め、
	30	(I)	認知症; 等安全 業	総立 症支 高齢者 後・ 在保事 予防 セン クークシステムの 運営や、GPSを活用 した位置探索サー センター ピスの提供など、			高の発早護の発見期体が	実績	_			高の発見 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	継続	4, 527	5, 534	増額	3,075	順調	度に導入した「見守りシール」の市民への認知度を高め、利用者を増やす。また、GPS位置探索サービスについては、更なる利用者増につながるよう、これまで		- C-7H (, 0	
					9-	認知症高齢者の安全確保に取り組む。		の維持	達成率	_			の維持							の端末より持ち歩きやすい小型・軽量タイプのGPS端末の導入を行う。			

				[Plan]	計	画	/ [0	0 実施	į						+		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
施策番号 · 施策名	۷o. ا	DGS 基本計画の施策 主要 を構成する 所管 主な事業・取組 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値	評価	5の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に向けて 局施策 強化・見直した内容
Ⅱ-2- (2)-① 生通 貫支 した 様構 築		土 4 事業・収組 課名	障害のある人や	181क्र स्ट प्	(基準値)	目標	適切な障害福祉サービスの提供	適切な障害福祉サービスの提供	適切な障害福祉サービスの提供	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する改善方法等) 障害福祉施策が充実し利用 者が増加するなか、障害の特 性(心身の状況や生活の状況	評価 (課題に対する改善方法等) 順調 障害福祉サービスの提供に あたっては、障害の特性(心 身の状況や生活の状況等) か 多様化する個人のニーズに配慮した支援に取り組む。 また、集団指導や実地指導を通して、事業所のサービスの質の向上を図る。
	31	障害福祉サービス等の に対している。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	障害基すのい会では を基本の を基本の を基本の を基本の を基本の を基本の を基本の を基本の を表示を を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を表示を を を を を を を を を を を を を を	生涯を通じた支援体制の構築	_	実績	適切な障害 福祉サービ スの提供			生通で大体構築		35, 272, 939	38, 257, 744	4 増額	55, 750	順調	等)に配慮した適切な障害福いく。 はサービスの提供に努めている。 多様化する個人のニーズに対し、する。 を構する。 また、利用者が必要とするる また、利が適切に受けられると より、実団指導や実地指導を	医療的ケア児等コーディ ネーター事業については、引き続き医療的ケアが必要などもの支援に取り組んでいく。 障害者相談支援事業においては、関係機関の連携強化、認知度の向上を図る。 地域生活移行促進事業につ
			VIX 6 4 9 6			達成率	-										6通して、事業所のサービス提供の質の向上を図る。	いては、地域生活での受けていては、地域生活での受け備となるグループホームの整備のための助成事業を継続する。 発達障害者総合支援事業では、支援及び研修を実施し、関係機関との連携強化により判係機関との連携強化により判
			保健、医療、福 祉、子育て、教育 等の必要なサービ			目標	1 名	1 名	1 名									用者のニーズにあったも相談発 接・就労支援を実施さる。 接・就労支援を実施議会にお は、発達障害児者のライフステージを通じた一貫した 支援システムの構築に向い、 「中間まとめ」の提言さい、 和3年度設置した「専門部
	32	医療的ケア児 障害 等コーディ 者支 ネーター事業 援課	スした。 を総合的に をにの家族に との家族に とのすると関する でのすると はのが でのすると はのが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	コーディネーター の配置	_	実績	名			コー ディ ネータ 一の配 置	継続	3,850	3, 850	維持	4,075	順調	北九州市障害者支援計画 (第2期北九州市障害児福祉 計画)に基づき、医療的ケア が必要な子どもの支援に取り 組んでいく。	会」の意見の具体化について 検討を続ける。発達障害早期 支援システム研究事業につい ては、研究結果を基に事業化 を図り、強度行動障害に関す る支援体制等について検討を 進めていく。 難病相談支援センター運営
			療的ケア児コー ディネーターを配 置するもの。			達成率	100.0 %											事業については、特定医療費 (指定難病)の給付事務患者 実に行う。また、難病患者や 家族等の相談機関として継続 した周知に努めるとともに、 難病の特性に応じた適切な支 援を継続できるように職員の スキルアップを図る。

田田																					
					[Plan]	計画	画	/ [[)o】 実施							+		[Check]	評価	/ [A	Action】 改善
号 No	SDG:	s 基本計画の施第 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			评価	の成果指標((目標・実績)	1	_L #n	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内
名 10.	番号	主な事業・取組	所管 課名	子来 机阻帆反	指標名等(基	見状値 を準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方
				(一)				H29年度実績 と同水準を 維持	H29年度実績 と同水準を 維持	H29年度実績 と同水準を 維持											
33	3 6	障害者相談支 援事業	障害 支援課	の、(2) 会会接て 会会接て のの支援する が成立まで のの支援する がして でして でして でして でして でして でして でして で	関語名型評価談及 援センターの相談 (H	2,086 件 H29年 度)	実績	15,847 件			H29年度 実績を維 の を を を を を を 度 と の と の と の と の と の と の と の と の り の り の		128, 992	127,992	維持	2,845	順調	支援機関職員 引き続き研の連動 関係機関活動 を携 他、広 の 更 な 認知度 の 重 る る き 続 き 続 き 続 き 機 関 の き し た 、 た を 携 し る た し る た し る た る の し る る る し る る る る る る る る る る る る る	等を開催し、 強化を図る より推進し、		
				談員を開催行列を 会配者を 会配者を 会配者を 会配者を がまる ので が が が を を を を を を を を を を を を を を を を			達成率	71.8 %													
							目標	_	_	_											
					生涯を通じた支援体制の構築		実績	_			生通支制をた体構										
				障害のある人 が、施設、病院、			達成率	_			*										
34	3 0)地域生活移行 促進事業	障害 者 援課	障害のある人の地 域移行を支援及び			目	RI年度末の 施設入所者 数から41人 以上	RI年度末の 施設入所者 数から61人 以上	施設入所者	RI年度		3,000	2,880	維持	1,065	順調	引き続きグル 整備状況に注意 象事業の選定を	しながら、対		
				促進させる事業を実施する。	入所施設からの地 (R 域生活への移行者 末 数 入	356人(1年度) (1年度) (1	実績	41 人			末の 放 ま の よ 数 と め よ の し の し の の の の の の の の の の の の の										
							達成率	100.0 %			度)										

						[Plan]	計画	画	/ [0)o】 実施							(【Check】 評価 /	/ [A	ction】 改善
養番号	SDO		本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要		事業診	评価	の成果指標(〔目標・実績〕			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
拖策名 NO	番	号主な	と構成するな事業・取組	所管 課名	争乗・収組恢安		現状値 基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
					(1)発達障害者 支援センター「はだり」においる 発達である族等の 発びその応じ、 相談に応じ、			目標	1,200 人	1,200 人	1,200 人								相談事業については、利用 者の二人では、利用 を実施する。 支援者や市民に対する普及 を発及び研修についても引き を発及びがする。支援体制強係 を実施関係機関との連携強 のため、関係機関との連携強		
3	5 0	② 発達) 合う	達障害者総 支援事業	精保健地移推課神 ・域行進	な情報を提供関係が を提供関係が を連携要の発音で行うい動 のでするでで行うで でで行うで ででででででで ででででで ででででで ででででで ででで	の相談支援の実人	748人 (H22年 度)	実績	787 人			I,200人 以上 (毎年 度)	継続	36, 263	37,419	維持	9,050	順調	化につとめる。 発達障害者支援地域協議会 についても、発達障害児者一 ライフステージを通じた一句 した支援システムの構築に向 け、「中間まとめ」のた や、令和3年度設置した「専 門部会」の意見の具体化につ いて検討を続ける。		
					設置し、発達障害のある人及びその家族に対する有効な支援手法の確立を図る。			達成率	65.6 %										発達障害早期支援システム 研究事業については、研究結 果を基に今後事業化できるよ うにつとめる。 また、強度行動障害に関し ても、支援体制等について検 討をすすめていく。		
						相談機関を利用し たことがない難病		目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし									特定医療費(指定難病)の		
					難病の患者に対 する医療等に関す る法律に基づき、 特定医療費(指定	患者の割合の減少 (北九州市障害 54 児・者等実態調査 25	4.5%(R 調査結 果)		_			R2年度 比減 (R7年 護親)							申請受付から認定、受給者証 の発行、医療費の給付までを 確実に行う。また、難病患者 や家族等の相談機関としての 認知度を上げるために継続し		
2	6 E	難り	病相談支援 シター運営	相談	難病の 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大き	※指標廃止		達成率	_				姚结	22 000	21,200	維持	20, 950	順調	た周知に努めるとともに、難 病の特性に応じた適切な支援 を継続できるように職員のよ り一層のスキルアップを図 る。		
		事		セン	各種の相談支援を はじめ、情報提 供、講演や研修等 を行う難病患者支			目標			前年度比增		ለየድ ችንር	22,079	21,200	小庄1寸	20, 130	/19석 함면	【指標廃止・追加の理由】 指標としていた相談機関を 利用したことがない難病患者 の割合が、北九州市障害児・		
					援の拠点である難 病相談支援セン ターの運営を行 う。	相談件数	,366件 (R3年 度)	実績				前年度 比増 (毎年 度)							者等実態調査項目から削除されたため、指標廃止とした。また、その代替指標として相談機関の認知度を計る指標として、相談件数を新たに設定		
								達成率											する。		

-				1 2 =		[Plan]				[Do] 実施	i								【Check】 評価 /		Action】 改善
番号	lo 3	DGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)	1	++n	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
	4	番号	を構成する主な事業・取組	所管課名	于不 - 八加州女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
2- -② ぱに く 生					若年者の末期が ん患者に対し、患			目標	助成の 実施	助成の 実施	助成の 実施								市医師会及び市内のがん相	順調	若年がん患者在宅療養生 支援事業については、事業 周知を図るとともに、在宅 療に必要なサービス利用料 助成を確実に行う。
送め盤3	37	8	若者がん患者 在宅療養生活 支援事業	難相支セタ	者及びその家族の 身体的・経済的不 安の軽減を図るた め、在宅療養に必 要な在宅サービス	在宅医療サービス費用の助成の実施	_	実績	助成の 実施			事業の 周知	継続	2,355	2, 139	減額	7,550		談支援センターと連携して、 若年がん患者在宅療養生活支 援事業の周知を図るをとも に、在宅サービス利用料の助 成に係る申請受付から認定、		障害者就労支援につい は、障害のある人の更な。 用促進を図るため、新た。 場開拓や企業の意識啓発。 就労移行支援事業所等に
				9-	利用料の一部を助成する。			達成率	_										助成までを確実に行う。		る効果的な支援を行うといい。 「障害者ワークステーション北九州」において、 間企業への就職につなげ
								目標	90 /	40 人	90 人										めの取組を継続して行う。 地域生活移行促進事業 地域生活での受け皿とな ループホーム整備のため 成事業を継続する。
					障害者しごとサ ポートセンターを 拠点に、障害のあ	障害者しごとサ ポートセンター利 用者の就職人数	88人 (H26年 度)	実績	97 /			90人 (毎年 度)							中期目標の達成に向けて、 障害者しごとサポートセン ターやハローワークなどの関係機関との連携強化をどによ		瓜宇末と飛売がりる。
3	38	8	障害者就労支 援事業	福祉	る人本人の能力や 特性に応じたきめ 細かな対応を行う とともに、新たな 職場開拓や企業の			達成率	107.8 9	6			- 継続	43,991	43,991	維持	6,220	順調	り、現在障害者雇用に取り組 んでいない企業への意識啓 発、障害者雇用に取りご 発、で事事厚い支援及び、就労 移行支援事業所等に対する効		
		5	坂 尹 未	課	職場開拓な正案の 意識啓発及び就労 移行支援に対する 効果的な支援への 取組みを通じて、			目標	255	255 人	255 人								移刊文及事業/州寺に刈りる別 果的な支援への取組を実施書 る。また、民間企業や障害福祉サービスの事業を推進するこ 聞きながら事業を推進するこ		
					障害者雇用の促進を目指す。	福祉施設から一般 就労への移行件数	100人 (H26年 度)	実績	254			255人 (R5年 度)							間でながらず来と1日延りることに努め、これらの取組を通じて障害者の雇用促進を図る。		
								達成率	99.6 9	6											
					保健福祉局障害福祉のに設置した「障害者ワークステーション北九州」において、会計年度任用職員と			目標	2 /	2 人 (R3年度とR4 年度の累計)	5人 (R3年度から R5年度まで の累計)										
3	39 (8	障害者ワーク ステーション 事業	企画	して雇用した知 的・精神障害のあ る人が専任指導所内 のモと、市役所内 のデータ入力やラ ベル貼りなどの軽	障害者ワークス テーションで働く 障害のある人の民間企業等への就職 者数	_	実績	2 /			7人 (R3年度 からR7 年度累 での累 計)	1	468	468	維持	7,650	順調	「障害者ワークステーション北九州」での業務の経験を踏まえ、民間企業等へつなげるための効果的な支援方法等について検討していく。		
					易な業務に従事 し、その経験を業 まえ、民間企なげる ための取り組みを 推進する。			達成率	100.0 9	6											

							(Plan)	計	画	/ [D	0 実施							+		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
拖策番号	No.	SDGs コ´ール	基本計画を構造	画の施策 成する		事業・取組概要			評価	iの成果指標(目標・実績)	1	中期	成果の	R4年度	R5年度	事業費	(目安)	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	i	番号	主な事	業・取組	所管 課名	1 2/2 2/12/2012	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	戸畑東	(課題に対する改善方法等
									目標	_		_	生涯を									
							生涯を通じた支援 体制の構築	_	実績	_			通じた 支援体 制の構									
						障害のある人			達成率	_			築									
	40	③ ①	地域生促進事	活移行 業	障害 者 援課	が、施設、病院、 家庭がら自立ホースや単身で、 ができるように、 できのあると、 はなれた。				RI年度末の 施設入所者 数から41人 以上	RI年度末の 施設入所者 数から61人 以上	RI年度末の 施設入所者 数から82人 以上	RI年度	継続	3,000	2,880	維持	1,065	順調	引き続きグループホームの整備状況に注意しながら、対象事業の選定を行っていく。		
						域移行を支援及び 促進させる事業を 実施する。	入所施設からの地 域生活への移行者 数	I,356人 (RI年度 末施設 入所者 数)	実績	41 人			末設者 お お お と 82人 (R5年									
									達成率	100.0 %			度)									
-2- と)-③ 会参 の促						がん患者及びが ん経験者のがん治 療に伴う心理的負 担を軽減するとと			目標		助成の 実施	助成の 実施									やや遅れ	がん患者等のがん治療(うご理的負担の軽減や社会加を促進するため、引き為事業の周知をでの高いとしまり、 の助成を確実に行う。関係機関との連携強化し
	41		用ウィ	ッグ等	相談 支援 セン	もに進りない。 社会療養を と、し、向目的に のでと治療化のでする が見いないでする を活っているでする をでする。 が表しているでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるでする。 をできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 がまれるできる。 はいる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるでも。 はいるでも。 はいるでも。 はいるでも。 はいるできる。 はいるでも	がん患者の医療用 ウィッグ等購入費 用の助成の実施	_	実績				助施か制 成にるの備R5度 (R5度)	継続	7,000	6,500	減額	7,550	_	がん患者等のがん治療に作う心理的負担の軽減や社会続う心理的負担の軽減や社会続き事業の周知を図るとともに、 医療用ウィッグ等の購入費助成に係る申請受付から認定、助成までを確実に行う。	.	り、障害者スポーツ大会・ 害者芸術祭への参加者数2 来場者数の拡大を図るここで、社会参加の促進を図っ
						ウィッグや補整具などを購入する市民に対して、その購入費用の一部を助成する。			達成率													

			1 3 		[Plan]			/)o】 実施	i						-		【Check】 評価		【Action】 改善
拖策番号		SDGs ゴール を構成する		事業・取組概要			評価	の成果指	標((目標・実績)		++n	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年月 局施第	26.0
施策名		番号主な事業・取組	所管課名	子术 - 八加州女	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	隻	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	同他!	A () () + () + () + ()
							目標	前年原 (775人 比增	()	前年度比增	前年度比增	障害者									
					障害者スポーツ教 室等参加者数	4,108人 (H24年 度)		766	人			スポーツ教室 等参加者の拡									
	42	管害者スポーツ振興事業	障害 福祉	障害のある人の スポーツ大会や、 各種スポーツ教室 等を開催、障害者			達成率	98.8	%			大	継続	55,490	55 490	維持	3,635	やや	障害者スポーツセンター・ 障害者スポーツ協会を中心 に、地域での活動を支援していくとともに、パラリンピ、	7	
	72	⑩ ツ振興事業	企画 課	団体等によるスポーツ大会等への支援を行う。			目標	515	人	525 人	535 人		net nyt	33, 170	33, 170	742.3 ()	3,000	遅れ	クで注目された種目を取り れるなど、障害者スポーツ! 通した共生社会のまちづく「 を進める。	<u> </u>	
					障害者スポーツ大 会参加者数	534人 (H24年 度)		0	人			535人 (R5年 度)									
							達成率	0.0	%												
							目標	216	点	226 点	236 点										
				障害のある人の 芸術・文化活動を	障害者芸術祭出展 数	113点 (H24年 度)	実績	260	点			236点 (R5年 度)								=	
	/13	● 障害者芸術文 (① 事業	「障害者芸術祭」 などの芸術・文化 活動の発表の場を 設けるとともに、			達成率	120.4	%				- 継続	8, 155	8, 155	維持	1,040	順調	芸術文化応援センター(美部障害者福祉会館内)等の 係機関との連携を強め、事業の周知等を充実するととも に、関連するイベント(ふれ	Į K		
	43		ちになる障害のある人が地域社会へ 一歩踏み出し、社			目標	前年度 (0人) 増		前年度比增	前年度比增		- NET 196	8,133	6,133	水生1寸	1,040	/키욧 함면	あいフェスタ)との一体的が開催を継続し、魅力的なイント内容とすることにより、参加者数・来場者数の更なが拡大を図る。	~		
	会立			立するための支援事業を行う。	障害者芸術祭来場 者数	640人 (H24年 度)	実績	1,300	人			障害 芸 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・									
							達成率	_													

保健福						[Plan]	計画	/	Do】 実施	i					(【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
施策番号 ・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業管名	事業・取組概要	事 指標名等 現状 (基準	値	Hの成果指標 R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性 予算 (千)	度 R5年 額 予 円) (千	年度 算額 の増減 一円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					がんなどの生活の生活の生活の大きな時で、この疾を表している。 での疾を患のを表しているのなる者である者である。 ではないとなった。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このとのといる。 では、このといる。 では、このとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのと		目標	前年度比 (75.7人) 減少	74.4 人	74.4 人							健康診査については、令和 3年度は、当初予算と補正予 算により事業を実施した。令 和4年度の予算も前年度と同 規模である。		
	44 (€	健康診査・健 康診査受診促 進事業		め、各種がん検診 等を実施する。 また、受診勧奨 のハガキの送付や	75歳未満のがんの 年齢調整死亡率の 減少 度)	年場	76.5 <i>J</i>			74.4人 (R5年 度)	継続 494,	041 656	,042 増額	33, 650	順調	令和5年度は、当初予算から実績に伴う予算を計上して受診を実績に伴う予算を計上して受診率向上に向けて、がん検診の診率4クーポンの配布や企より健保険組合との連携等により健康診査の受診勧奨を行うほか、集団検診の予約受付時に		
Ⅱ-2- (3)-① 生活習					査についての知識 を普及するを査受診 に、動機づけを変わう ことで図る。		達成率										複数の検診受診を勧奨するなど、効果的な受診勧奨・受診 促進事業を継続して行ってい く。		がん検診の受診率向上に向けて、無料クーポンの配布や企業・保険組合との連携等により受診勧奨を行うほか、り団検診の予約受付時に複数の検診受診を勧奨するなど、交
上慣 病 所 が 重 症 形 が れ る た れ る た れ る た れ る た る た る た る た る た							目標	0.74 %	0.70 %	0.65 %								順調	果的な受診勧奨・受診促進 業を継続して行う。 保健事業(特定健診・特別 保健指導)については、市間
3 1/2					「高齢者の医療 の確保に関する法 律」に基づいて、 40歳~74歳の北九	受診者数に対する 高血圧症該当者 (重度)の割合の 減少 0.92 (H28 度)	年場	1.02 %			0.65% (R5年 度)								師会等関係機関等との連携 強化し、未受診者への対策、 重症化予防対策等を強化す る。
	,5	保健事業 (特 健 ③ 定健診・特定 推		州市国民健康保険 被保険者を対象に メタボリックシン ドロームに着目し		達成率	62.2 %	5			(a) (ct 902	202 502	Q1(4#±±	24, 800	niæ þra	市医師会等関係機関等との連携を強化し、未受診者への			
	45		定健診・特定 保健指導)	推進課	た生活習慣病予防 のための特定健診 を実施する。ま た、健診の結果、		目標	0.93 %	0.92 %	0.82 %		- 継続 802,	383 743	,910 維持	34,800	順調	対策、重症化予防対策等を強 化していく。		
					特定保健指導やそ の他の保健指導等 適切な事後フォ ローを実施する。	受診者数に対する 血糖コントロール 不良者(重度)の 割合の減少	年場	1.27 %			0.82% (R5年 度)								
							達成率	63.4 %											

保健福	化	밍																			
						[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							(【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号 · 施策名	No.	SDGs 3	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主業所	事業・取組概要	指標名等	現状値	評価	iの成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
			工。于宋 小仙	課名		32.00 5	(基準値)	目標	H28年度比增	80.0 %	80.0 %	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(沐超に対 9 の以普万広寺)	評価	(味趣に対 9 つ以晋 / / / / 本守)
					歯と口の健康 は、美味しい食事 や家族や仲間との 会話を楽しむ等、 生活の質の向上を	3歳児でむし歯の ない者の割合	76.9% (H28年 度)		86.8 %			80.0% (R5年 度)									
	46	6		健康 推進	図るための重要な要素が見期ができます。 いった のる。 らい のる。 らい のる。 らい を 強力 と しい で とり の の で とり で いんかい かい か			達成率	112.9 %				- 継続	128, 378	142,028	増額	22, 300	順調	本市で導入している母子手 帳アプリ「母子モ」を活用 し、未受診者へのタイムリー な受診勧奨やフッシュ配信に		
П-2-				課	て、歯科・早期の ・早期の ・早期の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日の ・日			目標	H28年度比增	H28年度比增	H28年度比增								よる歯と口腔の健康づくりに 関する情報発信を行う等、普 及啓発の強化を図る。		乳幼児の歯と口の健康づく りについては、母子手帳でプリーマ子モ」を活用し、未受診者へのタイムリーな受診勧 奨や情報発信を行う等、啓発
(3)-② 食び口康の での りの が りの が りの が りの が りの りの りの りの りの りの りの りの りの りの りの りの りの					り歯と口の健康づくりの推進を図る。	毎日の食事をおい しいと思う人の割 合(健康づくり実 態調査より)	63.4% (H28年 度)	実績	_			H28年度 比增 (R5年 度)								順調	を強化する。 食育の推進については、地 域に密着した普及啓発活動を 行うボランティア(食生活改 善推進員)の育成と活動支
進								達成率	_											_	援、関係団体との連携強化、 健康づくり応援店の利用・登 録促進により、様々な場面で の無関心層を含めた食育の情 報発信に努める。
					地域における食育推進や地域で活動する員の養掘なりませます。			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	90%以上								「きたきゅう健康づくり応		
	47	❸ 1		健康 推進 理	的とした講座を はする。関する関系 を 発信の変え、 の が の が の の の の の の の の の の の の の の の	食育に関心を持っ ている人の割合	77.9% (H29年 度)	実績	_			90%以 上 (R5年 度)	継続	7,881	6,595	減額	17,800	順調	援店事業」「元気な食生活・ 食環境の整備」事業を経合。 を機力を増加がで無関ができる が健康づくりの支援ができる よう、食に関係する、食育・ (団体)と連携し、		
					め、お互いの情報 共有や相互連携・ 協力による食育を 推進する。			達成率	_										養改善を推進する。		

						[Plan]	計	画	/ [1	Do】 実施							-		【Check】 評価 /		Action】 改善
를 No	SD	Gs 基	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)	1		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
名 110	番	·号 主	を構成する主な事業・取組	所管 課名	李朱 "八胆"说文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
					者予とに態た発うしに態た発うしに態た発うした。 状せ開り対している 大型 にいる はいれる いっこう はいい できない にいる でいる はいい ない はい			目標	単年度目標 設定なし	RI年度比增	単年度目標設定なし									順調	通いの場所ではいる 防活動でも進出みた養施でいる が活動でもを はいるでは、 が活ができているでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
48	8 (1)	D 6 7	地域における 健康づくり・ 介護予防の推 進		改善推進員などに よる訪問事業の実 施、食生活改善推	健康づくりや介護 予防のために取り 組んでい答えた高州 あると割合(北九調 市高齢者等実態調 査より)	68.3% (RI年 度)	実績	_			R5年度 中に目標設定 予定	継続	81,569	85, 889	増額	10,575	順調	通いの場等における介護予 防活動を充実させ、健康無関 心層でも取り組みやすい環境 づくりを進めるため、介護予 防活動実践者の養成を継続 し、交流会を実施する。		血圧症等の疾病予トル 予防を図り、フレイに を図り、フレイには をできる、第にて自機によるでは、 ははいいでは はおいいでは では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で
					進す食催近防発実援充真員る交支な活す践し実施、流援地動る者を成立で改善のできた。 は、流援地域を割する者を収 が、の、護・担・動る者を収 が、の、護・担・動る。 が、の、護・担・動る。			達成率	_												に取り組む。 後期高齢者のデータ の推進においては、医 診・介護のデータベー 活用して関いによる効果 導を行う。
					平成30年度の一 般介護予防事業と して実施した「新 しい介護予防プロ			目標	90 %	90 %	90 %										
40	913) E	新しい介護予 防・健康づく り事業	援・	グラム提供事業」 の成果を健康すえ、 ふくおか健康づく り県民運動と連携 して、幅広い年齢	教室終了時に「今 後も習慣的に運動 する」と答えた割 合	_	実績	94 %			90% (R5年 度)	継続	52,000	52,300	維持	10,575	順調	引き続き、より多くの方の 運動習慣定着につながるよう 事業を実施する。		
				ター	層(18歳以上)を 対象にした介護予 防・健康づくり事 業を行う。			達成率	104.4 %												
				認知	高齢者の通いの 場等での介護予防		m u	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	男性: 79.8年 女性: 84.5年								引き続き、より多くの高齢		
50	0	3 5	フレイル対策 強化事業	予防セン	の取組に加え、地域の健康課題に でいた健康を実施育を は原相談で、疾病を を で、重症化予防 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	平均自立期間の延伸(要介護2以 上)	男性: 78.8年 女性: 83.5年 (H30年	績	_			H30年度 比1年延 伸 (R5年 度)		7,300	10,881	増額	10,575	順調	者の通いの場等での介護予防の取組の実施に加え、口腔機能に関するフレイルリスクが高いとから、医療専門職(以手衛生士)を増員し、口院機能の維持改善に取り組		
				ター	防、重症化予防を 図り、フレイル対 策を強化する。		度)	達成率	_										腔機能の維持改善に取り組 む。		

1未1年代	田工	/eJ																					
							[Plan]	計	画	/ [0	o】 実施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	. Na	SDGs	基本計画 を構成 主な事業	の施策	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標(目標・実績)			成果の		R5年度	尹禾貝		R3年度	R5年度に 強化・見正	こ向けて	R3年度	74.1. ロナーチーウ
・施策名	NO.	番号	主な事業	・取組	所管 課名	争乗・収組恢安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額(千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価		ョした内容 る改善方法等)	局施第 評価	(課題に対する改善方法等)
					业丰 子山	本尺。○改改江			目標	13.33人以下	13.33人以下	13.33人以下	R8年ま							代の自殺が増か ど、引き続き自	目殺対策を強		
	51	8	自殺対策	養事業	福祉セン	市民への啓発活動を中心に、自然では、からないでは、自然では、からないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	10万人あたりの自	19.04人 (H27年)		17.89 人			でにH27 年比30% 以上削 減 (13.33	5	26,067	25, 200	維持	20, 225	順調	化・実施する必 「若い世代への の更なる強化」 ネットやSNSを 窓ー)自殺予防対策 、「インター 活用した相談 売」、「ワンス		
									達成率	65.8 %			人)							トップでできる 充」について重 む。			
						本市習の 病等の 病等の 病等の 病等の が が が が が が が が が が が が が が が き う で が き う で が き う で り で し で し し し し し し し し し し し し し し し			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	男性: 79.8年 女性: 84.5年											
	52	8				を推進する活用したない。KDBシスで析者と健康性別のでは、保護を選して、保証は、保護を提出した。 大田 は は は は は は は は は は は は は は は は は は		男性: 78.8年: 女性: 83.5年 (H30年 度)	績	_			H30年度 比 I年延伸 (R5年 度)		17,330	17,627	維持	17, 150	順調	KDB等を活用を把握し、抽出討しながら、ハローチを実施す	d対象を随時検 ハイリスクアフ		
						医療制度の保健事業・予報を 業・予報を では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率	_													
Ⅱ-2- (3)-④ 個人の 健康 くりを							自分の健康状態について「普通」	50 50¢	目標	単年度目標 設定なし	H28年度比增	単年度目標 設定なし										順調	健康マイレージ事業及び ICTを活用した健康づくりインセンティブ事業について は、一体的な推進を目指しし、 効率的・効果的な事業運営、
>支環境整備						介護予防・生活 習慣改善等の取り 組みや健康診査の 受診等をポイント	「まあよい」「よい」と考えている 高齢者の割合(北 九州市高齢者等実	72.7% (H28年 度調査 結果)	績	_			R5年度 中に目 標設定 予定							自宅に閉じる 齢者等のフレイ	こもりがちの高 (ル対策とし	j	が、対象のではます。 更なる利用者の拡大、健康行動の促進を図る。 受動喫煙防止対策事業については、市民からの苦情、が
	53	6	健康マダ	ィレー	推進	化し、そのポイントを景品などと交換することで、健康づくりの重要	態調査より)		達成率	_				- 継続	32,000	26,000	減額	4,825	やや 遅れ	て、健康づくりない。	、りやすくし、 建康づくり活動 る。		設管理者等からの相談に適ちに対応するとともに、オフィス、工場等の職場における受動喫煙防止対策を強化する。
						を広く普及啓発す るとともにつ の自主 の自主 の の 取り組みを 促進	1 1/10/// 0/// 1//	68.3%	標	単年度目標 設定なし	H28年度比增	単年度目標 設定なし	R5年度							また、応募者 上、健康アプリ 点からスマート 「GO!GO!ある KitaQ」からの	利用促進の観 フォンアプリ くっちゃ		また、受動喫煙防止の観点とあわせ、新型コロナウイルス感染症の重症化防止の観点がらら、COPDなどたばこの健見
						の取り組みを促進する。	組んでいることがあると答えた高齢者の割合(北九州市島村等実態調本を制)	(H28年 度調査 結果)	実績	_			中に目 標設定 予定							MITURE W. PO	心劳亡此り。		への影響、禁煙支援の周知・ 啓発を強化する。 市民センターを拠点とした 健康づくり事業については、 全てのまちづくり協議会での
							査より)		達成率	_													実施を目指し、地域の実情に 応じて住民が主体的にPDCA+ イクルを意識しながら取り

						[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施	i						+		【Check】 評価 /	/	[Action]	改善
·号 No.	SDO	is 基本計画 を構成	画の施策	主要事業	事業・取組概要		事業	評価	あの成果指標	〔目標・実績〕			成果の			事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見喜した中容	R3年度	7/2 //	年度に向けて
名 No.	- 番	きまな事刻	えゅる 美・取組	所管 課名	争耒・収組慨安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施第 評価	()m BT L	・見直した内容 対する改善方法
					健康(幸)寿命 プラス2歳を推進す るため、スマート		男性 71.93歳	目標	単年度目標 設定なし	H28年度比2 歳延伸	単年度目標 設定なし								引き続き、スマートフォン アプリ「GO! GO! あるくっ		支援する。 介護支 について	爰ボランティア は、活動者の活
54	.	健康()命プラの推進	ス2歳		フォンアプリ等を 活用した健康管 理、高血圧や糖尿 病の予防・皮佐	健康寿命 (厚生労働省研究 班報告より)	女性 74.01歳 (H28年 度調査	実績	_			R5年度 中に目 標設定 予定	継続	4,936	2,744	減額	14, 325	順調	ちゃKitaQ」を活用して市民 の自主的な健康づくり活動を 支援する。 また、生活習慣病に対する		の拡大と ともに、 施設向け	に向けて、受人情報発信に努め 情報発信に努め 舌動者及び受け 研修に新型コロ
					総合的に実施し、 市民の健康づくり を支援する。		結果)	達成率	_										効果的な啓発を行う。		加する。 地域リ 動支援事	染症対策の内容 ハビリテーショ 業については、 の専門職が連携
					市民センター等 を拠点として、市	「普段、自分は健 康だと思う」「ま		目標	単年度目標 設定なし	H28年度水準 からの上昇	単年度目標 設定なし										がら、介 や具体的 し、地域	が等门職が建設 護予防の正しい な取組方法を見 での継続した記 支援できる仕組
					民が主体となって 地域の健康課題に ついて話し合い、 目標設定、計画づ	あまあ健康だと思 う」と答えた19歳 以上の市民の割合 (健康づくり実態	(H28調	夫 結	_			R5年度 中に目 標設定 予定							全てのまちづくり協議会で の実施を目指し、地域の実情		くりを行	
55	€ 5 (ii		V 1 +	健康推進	くり、実践、事業評価を一つのサイクルとした健康づくり事業を、また	調査より)		達成率	_				- 継続	13,713	14,512	増額	7,900	順調	に応じて取り組むことができるように、引き続き支援する。また、地域の健康課題の解決に向けた学習会の開催な			
	C	健康づ業	くり争	課	づくり協議会が健 康づくり推進員の 会、食生活改善推 進員協議会と連携 し、医師会、歯科	健康づくりや介護 予防のために取り		目標	単年度目標 設定なし	H28年度水準 からの上昇	単年度目標 設定なし								どの取組を支援することにより、市民の健康づくりに関する正しい理解を推進し、所定が主体となって課題を解決できるようになることを目指			
					医師会、薬剤師会、栄養士会、行政(保健師等)などの協力により行	組んでいることが あると答えた高齢 者の割合(北九州 市高齢者等実態調	(H28調	夫結	_			R5年度 中に目 標設定 予定							т .			
					j.	査より)		達成率	_													
							男性 27.9%	目標	単年度目標 設定なし	男性22.0% 女性7.0%	単年度目標 設定なし	I R5年度							受動喫煙防止対策事業につ			
					健康増進法の一 部改正を受け、望 まない受動喫煙の 防止を図るため	喫煙者の割合 (健康づくり実態 調査より)	女性 8.1% (H28調 査結	実績達	_			中に目 標設定 予定							交動 「な正健康増進法を施 いては、な正健康増進法を施 まえて、市民からの相談に適切 に対応するための体制整備及			
56	. E	受動喫止・た	煙防 ばこ対 _車 業	健康推進	に、受動喫煙に関する知路発等を通 意識の啓まない受動 じ、望まない受動		果)	成率	_	家庭13.0%			- 継続	2,435	1,833	減額	7,900	順調	で飲食店以外のオウィス、 び飲食店以外のオフィス、 場等第二種施設の職場に強力 る受動喫煙防止対策を強むし ていく。たばこ対策促進事業			
		來從進	尹 耒	歃	喫煙が生じない社 会環境の整備を推 進するとともに、	受動喫煙の機会を有する者の割合	家庭 4. % 飲食店			家庭13.0% 飲食店 15.0%	単年度目標 設定なし	R5年度							は、受動喫煙防止の観点とあ わせ、新型コロナウイルス感 染症の重症化防止の観点から			
					禁煙に対する啓発 を行っていく。	(20歳以上) (健康づくり実態調査より)	29.9% (H28調 査結	夫	_			中に目 標設定 予定							も、COPDなどたばこの健康への影響、禁煙支援の周知・啓発を強化する。			
							果)	足成率	_													

木)廷佃	1111/12	<u>'</u>																		
					(Plan	】計	画	/ [0	o】 実施							+		【Check】 評価	/ [A	Action】 改善
施策番号 .	SI	Gs 基本計画の施第	主要業所管	** TO AD 100 T		事業	評価	iの成果指標([目標・実績)				R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No. ا	Gs 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				65歳以上の高齢 者が特別養護老人 ホームなどの介護 保険施設等でボラ			目標	980 人	990 人	1,000 人								活動者の活動機会の増加に 向けて、受入施設の拡大を進		
	57	3 介護支援ボランティア事業	/P R全	ンティア活動を 行った場合にポイントを付与し、貯まったポイントを	介護支援ボラン ティア活動者数	966人 (R元年 度)	実績	108 人			I,000人 (R5年 度)	拡大	12,000	12,000	維持	3,420	遅れ	めるとともに、情報発信に努める。 また、活動者及び受け入れ 施設向け研修に新型コロナウ		
				換金又は寄付する ことができる事 業。			達成率	11.0 %										イルス感染症対策の内容を追加する。		
				市民が介護が数 要と(介護態が) で健康をの護療をのに、で実 健康をがが、使 者等がが、で している している			目標	単年度目標 設定なし	RI年度比增	単年度目標 設定なし								引き続き、より多くの高齢		
	58	地域リハビリテーション活動支援事業	認症援介予セタ	教養門自立りのない。 東本語では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	健康づくりや介護 発防のために取り 組んでいることが あると割合(北北郎 者の副齢者等実態調査より)	68.3% (RI年 度)	実績	-			R5年度 中に設定 予定	継続	42,635	23,793	減額	4, 825	やや 遅れ	者が介護予防活動に取り場所に取り場所に取り場所を当地域の専門職の専門職の専門職の事門職に取りたに取りた、民自める日間を決した。といい、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		
				た、技術を普及する専門に関する事門に関するより所に関するより防に化した護子防のを発を展開する。			達成率	_										3.		

						[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施							+		【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	No -	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標([目標・実績)	1			R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO.	番号	主な事業・取組	所管 課名	事来 - 机桩帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
								目標	_	_	_	すべての市民							人権問題に関する市民意識		
						すべての市民の人 権が尊重される社 会の実現	_	実績	_			のがさ社実の権重るの現							調査結果や各講演会等のアンケート結果、市民モニターの 寛見等を参考にして、市民の 関心が高い人権課題をテーマ に取り上げ、啓発を実施する		
	59	5	市民への人権 啓発の推進	人文推課	「人権文化のま ちづくり」の実現 に向けて、幅広い 年齢層の市民を対			達成率	_			夫况	- 継続	69,120	65, 184	減額	50, 125	順調	とともに、新しい人権課題に ついても啓発を推進する。 また、社会情勢の変化等に より、啓発の必要が高いと判 断された人権課題の啓発を随		
		•	石光・グルル	同和 対策 課	象に、様々な機会 を通じて、人権啓 発を推進する。	北九州市民の人権		目標	単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標 設定なし								時実施する。 啓発事業の実施の際は、各 種Web広告を積極的に活用す るなど、広報展開を見直し、 市民参加を促進する。		人権問題への理解促進のため、啓発事業実施にあたっては、市民の関心が高いものや、新たな人権課題などを
II-3-							77.7% (R2年 度)	実績	_			R2年度 比増 (R7年 度)							「北九州市人権推進セン ターYouTubeチャンネル」の リンク設定を増加することに 取り組み、視聴者数を増やす ことに努める。		テーマとして取り上げる。 また、社会動向を注視し、 様々な人権課題にかかる啓 の必要性について検討する。 様々な啓発事業を実施す
(I)-① すの市人 ののの の の の の の の の の の の の の の の の の								達成率	_											順調	ことにより、市民が啓発活! に触れる機会を拡充し、人材 問題への理解を深め、人権; 識の向上を図っていく。 「人権の約束事運動」拡;
								目標	_	_	_	「人権									へ権の約米争連製」が、のため、管理を対して、大参加登録団体の掘りまこしを積極的に行い、登録、団体に対して活動支援事業の
					人権に関する身 近なテーマを約束 事として掲げ、そ の約束事を地域や	「人権文化のまち づくり」の推進	_	実績	_			文化の まちり」 の推進							「人権の約束事運動」拡大 のため、市民センターやまち づくり協議会、地域交流セン		活用などを通じ、活動の活性化を促す。
			人権の約束事 運動の推進	人権 文化 推進	職場など団体の中 で守っていく市民 運動。団体、企 業、施設、学校な			達成率	_				継続	5,805	5,810	維持	4,650	順調	ター等と連携した取組を継続 して進める。 また、登録団体数増に向 け、未参加登録団体の掘り起		
		•	(年到7) 仕述	課		北九州市民の人権		目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	■ R2年度							こしを積極的に行う。 参加登録済団体に対して は、活動支援事業の活用など を通じ、活動の活性化を促		
					団体が実施する人 権啓発活動への支 援も行っている。		77.7% (R2年 度)	実績	_			R2年度 比増 (R7年 度)							す 。		
								達成率	_												

					[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施	i						+		【Check】 評価	/ 【Action】 改善
施策番号 ・施策名	No.	SDGs 基本計画の ゴール を構成で 番号 主な事業	か施策 主要 事業 所管	事業・取組概要		事業現状値	評価	の成果指標	1		中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に向けて 局施策 強化・見直した内容
・他來名		番号 主な事業	・取組 課名		指標名等	(基準値))	R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価(課題に対する改善方法等)
(1)-② 高のの の 尊重	61	◆ 権利擁護⑩ ①① ②① ②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②②<td>長社対2</td><td>十、の三不入下者サ整守成う養、修を人を補、利。 ・の三不入下者サ整守成う養、修を人を補、利。 ・福職見る約認対ス常中見後るすのすですを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後の養活る後る交見を ・福職見る約認対ス常中見後の養活のまで、 ・福職見る約認対ス常中見後の大震を ・一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、</td><td>法人後見受任件数 (年度末件数)</td><td>47件 (H27年 度)</td><td>目標 実績 達成率</td><td>前年度水準 (45件) を維持 41 件</td><td>前年度水準を維持</td><td>前年度水準を維持</td><td>研修修のの確保</td><td>継続</td><td>10,043</td><td>9, 282</td><td>减額</td><td>3,075</td><td>順調</td><td>第三者後見人の不足に対応 があため、成年後見所を の不見制度の が手を育成するともに を育を行うともを確い、研 をを行うを をおいる。 をおいる。 をおいる。 をない。 をない。 をないる。 をない。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をない。 をないる。 をないる。 をない。 をない。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をなな。 をなな。 をな、 をな。 を、。 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、</td><td>は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できない。 できな</td>	長社対2	十、の三不入下者サ整守成う養、修を人を補、利。 ・の三不入下者サ整守成う養、修を人を補、利。 ・福職見る約認対ス常中見後るすのすですを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後る人のすてすを後進 ・福職見る約認対ス常中見後の養活る後る交見を ・福職見る約認対ス常中見後の養活のまで、 ・福職見る約認対ス常中見後の大震を ・一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	法人後見受任件数 (年度末件数)	47件 (H27年 度)	目標 実績 達成率	前年度水準 (45件) を維持 41 件	前年度水準を維持	前年度水準を維持	研修修のの確保	継続	10,043	9, 282	减額	3,075	順調	第三者後見人の不足に対応 があため、成年後見所を の不見制度の が手を育成するともに を育を行うともを確い、研 をを行うを をおいる。 をおいる。 をおいる。 をない。 をない。 をないる。 をない。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をない。 をないる。 をないる。 をない。 をない。 をない。 をないる。 をないる。 をないる。 をない。 をないる。 をなな。 をなな。 をな、 をな。 を、。 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、	は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できない。 できな
			認知	認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心し	要支援・要介護認定を受けていない		目標	単年度目標 設定なし	RI年度比減	単年度目標 設定なし								講座の定期開催や土日・花間開催など受講機会を増していく。さらに、小・中学生や高校生・大学生を対象とし	, E
	62		症接 ・ 支 ・ 表 ・ 表 ・ 表 ・ 表 ・ 表 ・ 表 ・ た き ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・	て暮らせるまちづ くりを目指して、 知症を理解して、 認知症の方を地域 で温かく見守り、	高齢者のうち、 「認知症」になっ ても自宅で生活を 続けられるか不安 な人の割合(北九	43% (RI年 度)	実績	_			R5年度 中に目 標設定 予定	継続	11,144	10,346	減額	3,075	順調	た講座や、自治会等の地域での市民活動の一環としての調座、企業対象の講座など、より多彩な認知症サポーターの養成に取り組む。	()
			9-	支える「認知症サポーター」の養成に取り組む。	州市高齢者等実態 調査より)		達成率	_										また、すでに認知症サポーターとなっている人たちが様々な場面で活躍できる環境づくりに取り組む。	

木)廷佃	<u>,</u>	•				[Plan	】計	画	/ [D	o】 実施							([Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標(目標・実績)			成木の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO.	番号	主な事業・取組	所管 課名	争耒・収組恢安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	は混り、気温		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					判断能者会議等 力が等に理 力が等に理 力を開発を が不、理 や福手続きた、 成成 度の が成 援助 し 援助 に 利 の は り の は り の は り の は り に り の は り に り し り し り し り し り し り し り し り し り し			目標	_	_	_	すべ高齢							虐待対応にに を でいなる でさらなる でさらなる	待防止につい		
	63		高齢者の虐待 防止事業	社会	にた暮を齢社性中あせ象にた暮を齢社性中あるととり、域でる。待ちず相域地は一度的非相域地域で、地タした。ないまに援に談包職研化を表した。ないまいまで、す必まに接に談包職研化で援高る要るで援対をした。す必まに支いません。	高齢者虐待防止と 権利擁護の推進	_	実績	_			者利 れのし心生きちゃのがさ、人くし活るをな権尊 そら安てでま目	継続	51,295	74, 386	増額	3,075	順調	あを民施待成てや点る出た時、見にど知利窮の制後か、見にど知利窮の後活害らめの後活害らめの場で、していた。 してには大次のの後のでは、 しているのでは、 しているというには、 しているというにはないる。 しているというにはない。 しているというにはないるというにはないるというにはないるというにはないる。 しているというにはないるというにはないるというにはないるというにはないるというにはないる。 しているいるにはないる している いいまない している いいまない している いいりにはないる いいりにはないる いいまない している いいまない している いいまない している いいまない している いいまない している いいまない している いいまない これ にない これ している いいまない これ にない これ にない これ にない している にない これ にない にない これ	とセにを援にを利開とミ対図事あ保用がまた。で、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで、まで		
п					年実施するなど、 高齢者がそのであるなど、 もしくていたのである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、			達成率	_			指す。							求費用」や「後の助成を拡大し		배중 살쥐	第一単後目 / の子口に牡佐
Ⅱ-3- (I)-③ 障あの人 の の 尊重					弁・・の言者という ・福祉はよれて ・福祉はよれて ・の言者をするに ・の言名は、 ・の言名は、 ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言名に ・の言るに ・の言。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			目標	前年度水準 (45件) を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持										順調	第三者後見人の不足制制修 するため、成ち後見代を 大きため、成ち後見代を を育成修了者の活動の を確保するたび研修 を確保するたび研修 を確保するたび研修 をで移見人等になる際の で後見ん行う と行う者差別解消・・ 大学を 大学を 大学を 大学を 大学を はまる 大学を はまる 大学を はまる 大学を はまる 大学を はまる 大学になる に はまる 大学になる に 大子を は を は を は を は を は を は を は を は を は を は
	64	3 (0) (1) (1)	権利擁護・市 民後見促進事 業	長社対課 障者援寿会策 害支課	齢祉調見た担を を、修を を を を を を を を を を を を を を を を を を	法人後見受任件数 (年度末件数)	47件 (H27年 度)	実績	41 件			研修 の 活躍のの 場の保 保	継続	10,043	9,282	減額	3,075	順調	第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	後養と場業が個人では、 後後のの研りでのの研する。 でのの研する。 でのででいる。 でのも、 でのも、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。		度は、市民や事業者に障害や障害のある人への理解を深めてもらえるよう、障害者団体と協働し、広報の手法を工夫して事業者向けの啓発活動を重点的に行う。
					************************************			達成率	91.1 %													

							[Plan]	計	画	/ [[)o】 実放	Ē						+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No.	7 -1.	本計画の放を構成する		主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)		l +++=	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度 日本等	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	'	番号主	な事業・耳	n 4n	所管 課名	7月 四型列文	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
							「障害者差別解消		目標	_	_	_	「障害										
						平成28年4月の 「障害者差別解消	法」及び「障害者 差別解消条例」に 対する認識を深 め、障害者差別の	_	実績	_			者差別 解消 法」発活動							市民や事業者	たで障害や障害		
		③ 隋	章害者差別]件 。	章害	法」施行及び平成 29年12月の「障害 者差別解消条例」	解消の推進を図る		達成率	_			の実施							のある人への理 らえるよう、障 働し、広報の手	解を深めても 害者団体と協 法を工夫して		
	65	⋒ ¥	当・共生社 É進事業	会 1	企画 課	施行に伴い、障害 を理由とする差別 の解消を推進する ための体制整備や	「障害を理由とす		目標	_	_	_	条例に	- 継続	10,897	9,803	減額	18, 650	順調	積極的に周知啓など、障害者差 た取組を推進し 5年度は、より	別解消に向け ,ていく。令和 広く事業者向		
						普及啓発等を行 う。	る差別をなくし誰 もが共に生きる北 九州市づくりに関 する条例」の普	_	実績	_			基づく 啓発活 動の実							けの啓発活動を	行う。		
							及・啓発		達成率	_			施										
П-3-						市主催の戦没者 追悼式、原爆犠牲 者慰霊平和祈念式 典、海外における	市民が戦没者や原爆の犠牲者に対す		目標	継続的 に実施	継続的 に実施	継続的に実 施	市戦関記録のにるがず								は霊に対するご		戦没者等の慰霊に対するご
(4)-① 平和 で 理 の 促 進	66		战没者等愿 ፮業		総務課	5ヶ所に設置されて いる忠霊塔等の維		_	実績	実施			風るなま霊いなく、慰心に	継続	5, 444	5,043	減額	3,075	順調	遺族の想いを重また、次世代へや平和の尊さを め、今後も慰霊質を維持し、絶	戦争の悲惨さ 継承するた ・援護事業の	順調	遺族の想いを重く受け止め、 また、次世代へ戦争の悲惨さ や平和の尊さを継承するため、今後も慰霊・援護事業の 質を維持し、継続的に実施す
							施 施		達成率	_			や護する持つで							3.			3 .
						高齢化や都市化 が進む地域の現状 を踏びがこして などができる環境づ い物できる環境づ			目標	-	_	_								新型コロナウ の影響により中	7イルス感染症		新型コロナウイルス感染症の影響により中止・休止して
Ⅲ-I- (I)-① 快適な境 の形成	67	③	買い物応援 ベットワー 生進事業	. l	吧哦 福祉 推進 課	くりを進めるた め、民間事業ぐ仕 地域でくりでなくが主体と で民がい物支援活 の立ち上げ支援に の立ちに		_	実績	_			地働る支取推協よ物のの	維統	2,046	1,964	維持	6, 325	やや遅れ	いる取組があるが新たに移動になど、地のではなる。 買討してい物をしているといって検いしているがしていめているたい。	ー方、事業者 表売等の業態を 2域の実情が変 必要性につい 地域が応になる 必要に応じて		いる取組がある一方、事業者 が新たに移動販売等の業態を 始めるなど、地域の実情が変 化している。 買い物支援の必要性につい て検討している地域が徐々に 出ているため、必要に応じて
						取り組み、地域社会の協働による別が表現の協働による別との物支援のネットワークの構築を図る。			達成率	_										コーディネータ 援していく。	一を派遣し支		コーディネーターを派遣し支援していく。

保健福	仙向																		
					【Plan】 i	計画	/ [[Do】 実施							(【Check】 評価 /	/ [H	Action】 改善
施策番号	No. SD	基本計画の施 を構成する		要 事業・取組概	Б		西の成果指標 「	(目標・実績)		-h #n	DX. TR U)	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番	を構成する	組課名	Z POLICE	指標名等 現状(基準	値 値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	7 昇領 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	戸他東	(課題に対する改善方法等)
						目標		前年度比增	前年度比增	障害者									
					障害者スポーツ教 室等参加者数 4,108 (H24 度)	年標	766 人			スポー ツ教室 参加 者の拡									
Ⅲ-2- (3)-① 誰もが 気軽に スポー		障害者スポ		「 各種スホーツ教	室	達成率				大	- 継続	55, 490	55, 490	維持	3,635	やや	障害者スポーツセンターや 障害者スポーツ協会を中心 に、地域での活動を支援して いくとともに、パラリンピッ	やや	障害者スポーツセンターや 障害者スポーツ協会を中心 に、地域での活動を支援して いくとともに、パラリンピッ
ツに親 しめる 環り		ツ振興事業	企画課	団体等によるスポーツ大会等へ 支援を行う。		目標		525 人	535 人		ne nyu	33, 170	33, 170	WEJJ	0,000	遅れ	クで注目された種目を取り入れるなど、障害者スポーツを通した共生社会のまちづくりを進める。	遅れ	クで注目された種目を取り入れるなど、障害者スポーツを通した共生社会のまちづくりを進める。
					障害者スポーツ大 会参加者数 度)	年場	0 人			535人 (R5年 度)									
						達成率													
						目標		年間5件	年間5件										
IV-1-				ICT/介護ロス	北九州モデル導入 I件 を含む職場改善件 (RI 数 度)	年焦	5 件			15件 (R5年 度)									
(2)-② 我が国 をリー ドする	69	先進的介護 「北九州モ	先的護っ	ト等を活用した 「北九州モデル	, 5	達成率	100.0 %				- 継続	60,000	60,000	維持	54,000	大変順調	「北九州モデル」の展開による介護現場のICT環境の整備をベースとしつつ、これまでの先進的介護の取組を発展させることにより、市内介護	順調	「北九州モデル」の展開による介護現場のICT環境の整備をベースとしつつ、これまでの先進的介護の取組を発展させることにより、市内介護
ロボッ ト産業 拠点の 形成		ル」推進事	業 人が 進室	東 東に負する収組		目標		年間 14~15件	年間 14~15件							//貝詞	施設の「介護の質の向上」及び「生産性の向上」につなげていく。		施設の「介護の質の向上」及び「生産性の向上」につなげていく。
					介護ロボット等導 77件(入施設数 年度					120件 (R5年 度)									
						達成率	207.1 %												

保健社	田江	/eJ				[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施							4		【Check】 評値	# /	. [1	Action】 改善
			基本計画の施賃	主要事業		[r rull]			の成果指標(R4年度	R5年度	E	人件費	R3年度	R5年度に向けて		R3年度	R5年度に向けて
施策番・施策名	L INO.	3" -N	を構成する 主な事業・取約		事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性		予算額 (千円)	一手未只	(目安) 金額 (千円)	事業 評価	強化・見直した内 (課題に対する改善方	容	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					介護サービス従 事者を対象として 職種別専門研修、			目標	2,500 人	2,500 人	2,500 人								これまでの受講実績 ズの高いテーマ等、介 ビスの質の向上や介護	護サー 職員の		
	70	9		保険	全事業者に共通する基礎的研修により介護サービスの 質の向上と介護従	介護サービス従事 者研修受講者数	I,974人 (RI年 度)	実績	1,399 人			2,500人 (毎年 度)		17,465	16,279	減額	2,960	やや 遅れ	スキルアップに資するなるよう随時テーマをし、多様な内容の研修する。	見直 を実施		
					事者のスキルアッ プを図る。			達成率	56.0 %										特に、虐待防止、業 計画等に関する研修等 ては重点的に実施する	につい		
					高齢化の進展に 伴い必要となる介 護人材の定着・介 護職場の環境改善			目標	320 人	320 人	320 人								人材確保については ローワークで実施して 護職DVDセミナーを継続	いる介 売する		介護人材の育成、介護の別の向上のため、これまでの記事実績やニーズの高いケー等、随時テーマを見直しる。 様な内容の研修を実施する。特に、虐待防止、業務継続
	71	8	介護のしごと 「人材定着・ 職場環境改 善」事業	介護 保険 課	を図るため、介護事業所経営者のフ	職場環境改善セミ ナー参加者数	237人 (RI年 度)	実績	299 人			320人(毎年度)	継続	4,912	4,652	減額	1,680	順調	とともに、福岡県や関連等用活動を大大道のでは、大は、大きないがでは、大大道のは、大力は、大大道のは、大は、大大道のは、大は、大大道のは、大大道のは、大大道のは、大は、大力は、大大道のは、大は、大力は、大力は、大力は、大力は、大力は、大力は、大力は、大力は、大力は	者の採 保・定 職場環		画等に関する研修等を重点に実施する。 介護人材の確保及び定着: 援にあたっては、ハローワークで実施している介護職DVI
IV-3- (1)-③ 福祉な どの分	:				境改善の取組を顕 彰する事業を実施 する。			達成率	93.4 %										境の改善のための対策 を学ぶ「職場環境改善 ナー」を継続して実施	セミ	順調	セミナーを継続するとともに、福岡県や関係機関等と対し、福岡県や関係機関等と対し、 携し、介護事業者の採用活動を支援する。 また、令和3年度介護報酬
ける人 材育成 の支援								目標	年間5件	年間5件	年間5件											改定で事業者に義務づけら; た虐待防止指針や業務継続 画の策定に対する支援を実 するとともに、引き続き感 症対策に対する支援も実施
					ICI / A - # - L i	北九州モデル導入 を含む職場改善件 数	I件 (RI年 度)	実績	5 件			15件 (R5年 度)										る。 「北九州モデル」の展開しよる介護現場のICT環境の整備をベースとしつつ、これに
	72	6	先進的介護 「北九州モラ	先的護ス	ICT/介護ロボット等を活用した「北九州モデル」の普及を図り、あわせて、感染症対			達成率	100.0 %				- 継続	60,000	60,000	維持	54,000	大変順調	「北九州モデル」のよる介護現場のICT環境備をベースとしつつ、での先進的介護の取組させることにより、市	竟の整 これま を発展		での先進的介護の取組を発展させることにより、市内介記施設の「介護の質の向上」が「生産性の向上」につなりていく。
			・北九州モラル」推進事業	近ム推進室	策に資する取組を 実施することで、 先進的介護の実効 性を高める。			目標	年間 4~ 5件	年間 4~ 5件	年間 4~ 5件							7 0 C LIM	施設の「介護の質の向び「生産性の向上」にていく。	上」及		
						介護ロボット等導 入施設数	77件 (R2年 度)	実績	29 件			120件 (R5年 度)										
								達成率	207.1 %													

						[Plan]	計	画	/	【Do】 実施	i						-		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号 · 施策名	No.	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	114 17 18 14	事業記現状値	評価の		(目標・実績)	05454	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
JEX TI	1	番号自	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	刀问任	(千円)	(千円)	の万百八八	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
								目標	90)	90 人	90 人										
					障害者しごとサ ポートセンターを 拠点に、障害のあ	障害者しごとサ ポートセンター利 用者の就職人数	88人 (H26年 度)	実績	97)			90人 (毎年 度)							中期目標の達成に向けて、 障害者しごとサポートセン ターやハローワークなどの関 係機関との連携強化などによ		
	73	a !!	障害者就労支	福祉	る人本人の能力や 特性に応じたきめ 細かな対応を行う とともに、新たな			達成率	107.8 9	6			- 継続	43.991	43,991	維持	6, 220	順調	り、現在障害者雇用に取り組 んでいない企業への意識啓 発、障害者雇用に取り組む企 業への手厚い支援及び、就労		
	, 0	1	友争耒	企画 課	職場開拓や企業の 意識啓発及び就労 移行支援に対する 効果的な支援への 取組みを通じて、			目標	255 /	255 人	255 人		ne no	10,777	10,777	WE 1 1	0,220	700 000	移行支援事業所等に対する効果的な支援への取組を実施する。また、民間企業所等の起 る。また、スの事業が等の声る かービスの事業を推進するこ		障害者就労支援事業につ
IV-3- (2)-3					障害者雇用の促進 を目指す。	福祉施設から一般就労への移行件数	100人 (H26年 度)	実績	254 /			255人 (R5年 度)							とに努め、これらの取組を通 じて障害者の雇用促進を図 る。		ては、障害者しごとサポーセンターを中心に、就職を記する障害のある人や障害のある人を雇用する企業に対し、就職から職場定着に至れ
能意活た をし 高者								達成率	99.6 %	6										順調	までの各段階で、障害特性 応じた支援を充実させる。 た、民間企業や障害福祉サー ビスの事業所等の声を聞き。
やの人業になる。					保健福祉局障害 福祉企画課内に設 置した「障害者フ クステーション北 九州」において、会			目標	2 /	2 人 (R3年度とR4 年度の累計)	5人 (R3年度から R5年度まで の累計)										がら事業を推進し、障害者 雇用促進を図る。 障業者ワークステーショ 事業に度任日職員を居るのは 等への就職につな行法等につい 効果的な支援方法等につい 検討していく。
	74	8	障害者ソーク ステーション 東業	福祉	る人が専任指導員	障害者ワークス テーションで働く 障害のある人の民間企業等への就職 者数	_	実績	2 /			7人 (R3年度 からR7 年度の累 計)	継続	468	468	維持	7,650	順調	「障害者ワークステーション北九州」での業務の経験を踏まえ、民間企業等へつなげるための効果的な支援方法等について検討していく。		
					し、その経験を踏まえ、民間企業への就職につなげる ための取り組みを 推進する。			達成率	100.0 %	6											

				(Plan)	計	画	/	[Do) 実施									【Check】 評価		Action】 改善
号 No	SOGs コール を構成で 番号 主な事業	施策 主要 事業	事業・取組概要			評価の)成果指	標(E	目標・実績)			成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	74.0 0 + 1 4 4 +
名 NO.	番号主な事業	取組 所管 課名	学来: 拟粗视女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ę	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施第 評価	(Smme) 11 1 m -1 34 1 31
- ① と て						目標	100	%	100 %	100 %									順調	放課後児童クラブの施 備や利用内容の充実など き続き運営基盤を強化す 放課後児童支援員等の
ב ב			市民ニーズに応えられる放課後児童ウオアの選挙	放課後児童クラブ の利用を希望する 児童の受け入れ	100% (RI年 度)	実績	100	%			100% (毎年 度)									向上など、放課後児童ク の運営体制の充実を図る もに、クラブの活動内容 実を目指して、学校や地 の連携を図り、魅力ある
			容を確保するため、運営団体に対する研修会時間の実施、開発しまります。			達成率	100.0	%												プの運営を促進する。 乳児・幼児期の教育・ を「北九州市子ども・子 支援事業計画」に基づき
			準化や延長の推進 等により、運営体 制の充実を図る。 また、障害のある 児童や高学年児童				前年度1 (80.3% 向上		前年度比 向上	前年度比 向上								放課後児童クラブの施設 備や利用内容の充実など、5 き続き運営基盤を強化する。	1	画的に提供していくます。 動物に提供していく利用が 教育者の希望とともに、 園、保育所事業者の意向
ı	3 放課後児 ラブの管 営	童ク 子育 理運 て支 援課	を含め利用者が増 加する中で、児童	放課後児童クラブ に対する満足度 (開所日、開所時間)	70.1% (RI年 度)		80.8	%			RI 年度 比向上 (R6年 度)	継続	2,615,120	2,677,265	維持	50,750	順調	放課後児童支援員等の資質 向上など、放課後児童クララ の運営体制の充実を図るとと もに、クラブの活動内容の3	ブ <u>-</u> 亡	を踏まえ、幼稚園と保育機能を併せ持つ認定ことへの移行支援・普及に努る。
			導員数を配置がある を配置がある とともに、研修相 で変流や情報交			達成率	100.6	%										実を目指して、学校や地域との連携を図り、魅力あるクラブの運営を促進する。		
			換、障害のあたを見 童などの対の臨床 援するための臨床 心理士等の巡回派			目標	100	%	100 %	100 %										
			遣を行い、指導員 の資質向上を図 る。	運営内容に関する 自己評価実施クラ ブ率	R2年度 より実 施		100	%			100% (毎年 度)									
						達成率	100.0	%												
						目標	0	Д	0 人	0 人										
			仕事と子育ての 両立支援を推進す	保育所待機児童数 (4月)	0人 (RI年 度)	実績	0	٨			0人 (毎年 度)							「北九州市子ども・子育	7	
2	③ 保育所運	営事 保育	るため、保育を必 要とする子どもは 誰でも保育所に入 所でき、多様な			達成率	100.0	%				- 継続	12,571,578	12,514,989	維持	5,800	順調	支援事業計画」を着実に進め、認定こども園への移行う援や保育所の老朽改築に合わせて入所定員の拡大を図ると	2	
	*	課	ニーズに応えなが た、子どもの健 かな育成を支援す る保育サービスの			目標	0	٨	0 人	0 人								ともに、保育士が働きやすい 環境を整備することによって 保育士確保に取り組み、待相 児童の継続的な解消を図る。	、 て 幾	
			実現を図る。	保育所待機児童数 (10月)	0人 (RI年 度)	実績	0	٨			0人 (毎年 度)									
-1						達成	100.0	%												

	豕庭 /		→ ≖		[Plan]				[Do]	実施	Ē							[Check]	評価		Action】 改善
施策番号 · 施策名	No. SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組		事業・取組概要	指標名等	現状値	評価の	の成果指標 R3年度	1	・実績) +年度	R5年度	中期	成果の R4年度 方向性 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し) た内容	R3年度 局施策	強化・見直した内容
		工な争乗・収組	課名		1日1水石 寸	(基準値)	目標		人 (目標	(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対するご	双善万法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
					保育所待機児童数 (10月)	0人 (RI年 度)	実績	0	Д			0人 (毎年 度)									
	3	幼稚園・認定 こども園運営	こど	私立幼稚園(新 制度対象)や認定 こども園の運営費			達成率	100.0	%				- 継続 10,306,779	11,836,384	増額	5, 400	順調	新制度の幼稚園 ども園への移行か り、今後も引き紛 移行する私立幼稚	、増えてお 売き新制度に		
	8	事業	も園課	を助成する。		26箇所	標		箇 3	l 箇 所		希望園						こども園に対して ていく。			
					施設型給付へ移行する私立幼稚園数	(RI年 度)	実績達		所			全てが 移行 (R6年 度)									
I -I-				「ユゾナ・フヰ			成率	100.0		- t	W									順調	「北九州市子ども・子育て
(1)-② 年間 通 後 携 機 児	8		幼稚園・	「子ども・子育 て支援新制度」に より実施する一時 預かり事業におい		63箇所	標			「年度 水準	前年度 同水準	60箇所						引き続き、幼稚			支援事業計画」に基づき、保 育の量の確保に努めていく。 保育士等の人材確保に取り 組むとともに、教育・保育の
童策進保に	4 4 8	一時預かり事 業	図こと は は 課	て、保護者のニー ズに応じて教育時 間の終了後等に預 かり保育を実施す	事業(幼稚園型) を実施する施設数	(RI年 度)	実績達		所			(R6年 度)	継続 209,098	209, 098	維持	4,650	順調	る一時預かりに要助成し、子ども・ の推進を図る。			質の向上を図るため、体系的な研修等を通じて幼稚園教諭、保育士等の専門性の向上
充実				る私立幼稚園を支援する。			成率	101.6	%											-	に取り組む。 子どもの生活リズムに十分 配慮しながら、幼稚園におけ る預かり保育や保育所におけ
				保護者の就労形態の多様化等に対応するため、保育			目標	前年度 (94.2%) 同水準		年度 水準	前年度同水準	- TRUN/+									る延長保育、休日保育など、 多様なニーズに対応した保育 サービスの充実を図る。
				所の保育時間を午 後7時もしくは8時 まで延長する「延 長保育」の充実を 図る。また、保護	午後7時まで延長 保育を実施する施 設の割合	93.9% (RI年 度)	実績	94.5	%			現状値 と同 で (R6年 度)									
	3 4	特別保育事業	保育	者のパート就労や 育児リフレッシュ 等の理由により、 一時的に家庭となって			達成率	100.3	%				4N44± 474 422	422 520	运	2 450	川石 今田	保護者の就労形等に対応するため	り、「北九州		
	8	補助	課	保育が困難となる別見童を保育するにはいて保育」の充に、時保育」では、			目標	前年度 (56.7%) 同水準		年度 水準	前年度同水準	-B. ()	- 継続 676,623	023, 720	/収,谷貝	3,650	順調	市子ども・子育で 画」に基づき、事 る。			
				育所の通常保育に加え、延長保育や一時保育に終育においても、集団保育の可能な障害のある児	一時保育事業の実 施施設の割合	56.2% (RI年 度)	実績	58.5	%			現状値水 半 (R6年 度)									
				童の受け入れを行う「障害児保育」 の充実を図る。			達成率	103.2	%			/×/									

					[Plan]	計	画	/	[Do	】 実施							•		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
番号 彰名	SDI 3°·	Gs 基本計画の施策 ・ポール を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)		の成果指標 R3年度	票(目	目標・実績) 	R5年度	中期	成果の 方向性	予算額	R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法
			1	保護者の勤務の 都合、疾病、事 故、出産及び冠婚	100000	(基準値)	目標	前年度比 (3,595人 増加		前年度比增加	前年度比增加	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	「元気発進!子どもプラ	ш	(体化に対する以音ガル
6	€ 6 8	病児保育事業 1	呆育 果	葬祭い事と をとい事にないで、 をいずので、 をないでの気にありている。 をないでの気にあります。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	病児保育施設利用 者数	9,029人 (RI年 度)	実績	5, 908	人			RI 年度 比增加 (R6年 度)	継続	192,905	170, 257	減額	2, 900		(第3次計画)」に基づき、病児保育事業を推進するため、引き続き新規施設の設や既存施設への支援を実施る。 事業費については、実績応じた見直しをした結果、	<i>=</i>	
			1	育し、保護者の子 育てと就労の両立 を支援する。			達成率	164.3	%										和4年度比減となっている。		
							目標	0	人	0 人	0 人										
				保育所、幼稚園 や地域の子育て支 援の事業等の利用	保育所待機児童数(4月)	0人 (RI年 度)	実績	0	人			0人 (毎年 度)									
,		保育サービス	ロ女	について、情報の 収集と提供を行う とともに、利用に あたり、子どもや 保護者からの相談			達成率	100.0	%				继结	32, 946	24 944	増額	2,900	順調	保育の利用を希望するそ ぞれの世帯の状況やニーズ 合った保育サービスの情報:	Ξ	
		ジュ事業	米 -	Rigid からの相談 に応じるため、各 区役所及び「ウー マンワークカフェ 北九州」に保育			目標	0	人	0 人	0 人		- 和生 称近	32, 440	34, 640	有 領	2, 900		供を行うため、引き続き、 区で12名を配置し、待機児 対策に取り組む。		
			,	サービスコンシェ ルジュを配置す る。	保育所待機児童数 (10月)	0人 (RI年 度)	実績	0	人			0人 (毎年 度)									
							達成率	100.0	%												

ナとも	沙	モル	y															
					[Plan]				Do】 実施	į					+		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
施策番号	s	DGs	基本計画の施策 主要 事業			事業	評佃	iの成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度 R5年月	事業費	人件費 (目安)	R3年度		R3年度 R5年度に向けて
・施策名	No. □	i'-ル 番号	されませ 取知 所管	, 事来 " 机桩侧安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期	方向性	予算額 予算額	● の増減	金額	事業	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 強化・見直した内容 証価 (課題に対する改善方法等)
			土な争乗・収組 課名			(基準値))				目標		(千円) (千円)	(千円)	評価	(味趣に対する以替が広寺)	評価(課題に対する改善方法等)
				神をの事等り保業得対明格、職人のい係得 特図事等り保業得対明格、職人のよけ。就育のし保持、い象別では、就育のし保持、い象別では、ないのは、は、いまでは、ないののは、は、のののは、は、ののののののののののののののののののののののの			目標	0 人	0 人	0 人								
	-	❸ 4 ⊗	が 保育士等の確保 保育 は 保課 保課	状を有する者の保 育士資格取得支援 等事業(幼稚園教 諭の保育士資格取 得支援や幼稚園へ	保育所待機児童数 (10月)	0人 (RI年 度)	実績	0 人			0人(毎度)	継続	147, 807 122, 3	78 減額	15, 100	順額	引き続き関係機関との連携を図ると対している。 引き続き関係機関発信に努め、保育、保育・工のでは、保育の方に、保育の方に、保育・工のでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	
				部・上内ど法舎め助・対業 横育支育園が借費)年る経職金す補 大選所を保り用 層処験員やる助 を出ている部・連育上の 保護年 では、大きの成若す(の備要を では、大きのの成若す(ののできた。 では、大きのののできた。 では、大きのののできた。 では、大きのののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きのののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きののできた。 では、大きのののできた。 では、大きのできた。 では、大きのでは、大きのできた。 では、大きのでは、 では、大きのできた。 では、大きのできた。 では、大きのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率	100.0 %										

				(Plan)	計	画	/ [0	o 】 実施	i								【Check】 評価	/ 【Action】 改	善
養番号、	S S	SDGs 基本計画の施策 主要	事業・取組概要		事業	評価の	の成果指標(目標・実績)	_		成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に ・ 強化・見直	
海策名 "	10.	SDGs 参本計画の他来 す を構成する 番号 主な事業・取組 課名	S.	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)評価(課題に対する	改善方法
· - -③ 子が 表に						目標	前年度水準 (96.8%) を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	RI年度								順調 今後も、国の動ながら、関係機関 携し、妊娠や乳組 たは異常の早期割	関とうま 切児の疾
で環			妊婦や乳幼児の 疾病または異常の 発見および防止を 図り、健康を保持	妊婦健診受診率	96.7% (RI年 度)		99.2 %			水準を 維持 (R6年 度)								援に取り組み、それで育児不安の利いくとともに、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	解消に努 様々な機
	a	子育	を提供する。			達成率	102.5 %				继结	881 55 0	847, 163	維持	3,615	順調	妊婦健康診査、乳幼児健 診査を継続して実施し、妊	専門的な支援や作い、母子の健康・ していく。	青報提供
		接該	及 (前年度水準 (100.4%) を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	RI年度	ner nyL	001, 330	047, 103	WEIG	3,013	hite and	や乳幼児の健康の保持増進 図る。	を	
			查、乳児健康診 査、I歳6か月児健 康診査、3歳児健康 診査)		96.4% (RI年 度)	実績	93.9 %			水準を 維持 (R6年 度)									
						達成率	93.5 %												
			子どもの健康の			目標	維持	維持	維持								子育てに関する経済的な 担を軽減し、子どもの健康 保持と健やかな育成を図る	の	
	10	子ども医療費 支給事業子育 て支援課	版を図るため、休 険診療に係る医療 費の自己負担額を	医療費支給制度の 維持	_	実績	維持			維持	継続	3, 284, 000	3,217,000	維持	12,300	順調	成を経続して実施する。 助成対象を、令和3年4月 リ中学生の通院費まで、令	助しよ	
			助成する。			達成率	_										4年1月より18歳までの入通費まで拡充した。		
			母子健康手帳の 交付、妊産婦乳幼 児なんでも相談、 母親学級、両親学				前年度水準 (117箇所) を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持										
	11 (● すくすく子育 て支援事業 授誤		なんでも相談の実施率	100% (134箇 所) (RI年 度)	実績	129 簡			RI年度 水準を 維持 (R6年 度)	継続	17,040	22,532	その他	6, 150	順調	育児の孤立化を防ぐため 引き続き妊娠・出産・育児 おける保健事業を実施する	ic	
			(大学) (本学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大			達成率	110.3 %												

-ども家	N/Æ	/iij				[Plan]	計	画	/ [D)o】 実施								【Check】 評価 /	/ [<i>P</i>	Action】 改善
策番号 "	SDG	基本計画	画の施策	主要			事業	評価	iの成果指標(〔目標・実績〕			成果の R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
施策名	番4	基本計画 を構成 主な事業	成する 業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減		事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					子では、現場では、 子では、現場では、 での乳児・ での乳児・ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。			目標	前年度比 (91.4%) 増加	前年度比增加	前年度比增加	H 100					T Im		U Im	
I	2 6	のびの ちゃん 業	訪問事	子育 て支		生後4か月までの 乳児家庭全戸訪問 の達成率	94.6% (RI年 度)	実績	94.3 %			RI 年度 比增加 (R6年 度)	継続 47,984	47, 984	維持	4,115	順調	子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、引き続き関係機関と連携し、より効果的な事業の推進を図る。		
					態と ります。 は等き、きるた後 をもめた後見まで が、全を が、全を が、全を が、つるたい で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、			達成率	103.2 %											
					若年の妊婦や産 後うつなど、を育る 支援を必要と訪問			目標	継続実施	継続実施	継続実施							引き続き、養育支援が必め、 引き続き、水パー派遣、こめ な方へのへいパー派遣、こめに にちは赤ちゃん!小児科計の にがリネイタルビジット)直 での母子に対して、、よ身の での母子に対して、と行う でのサポートを行う		
ı	3 (6	妊娠を行うというできます。	かかる	子育て支援	指導事をとなり、とければ電電が大変を、振りませいが、は電が大変を、大変をできるできる。 たいはにいる はいました いっぱい はいい はいい はい	養育支援ヘルパー 実施	実施 (RI年 度)	実績	実施			継続 実施 (R6年 度)	継続 65,820	62, 906	維持	4,115	順調	後育すのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		
					婦の育児等の負担 感や孤立感を軽減 するための支援を 行う。			達成率	_									する育児支援)を図り、産 前、産後支援について一体的 に取り組んでいく。 予期せぬ妊娠や不妊、不育 症などの専門相談についても 引き続き取り組んでいく。		
					医療保険が適用されず高額な医療機がかれる配理者			目標	実施	実施	実施	₹rik 4±						医療保険が適用されず高額		
1	4 6	一般不費等助	出車架	子育 て支 援課	費がかかる配偶者 間(事実婚を含 む)の不育症検 査・治療に関する	一般不妊治療及び 不育症検査・治療 の費用助成の実施	_	実績	実施			継続 実施 (R6年 度)	継続 3,579	1,919	減額	4,115	順調	な医療費がかかる配偶者間 (事実婚を含む)の不育症検 査・治療に関する費用を一部 助成し、経済的負担の軽減等		
					費用を一部助成する。			達成率	_									を図る。		

				[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施	i						—		【Check】 評価 /	/ [【Action】 改善
策番号 🛚	SC	DGs 基本計画の施策 主要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					の成果指標(目標・実績)			成果の			事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	74 /1. ロナー 4 土中
施策名 "	番	主な事業・取組 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施第 評価	()mpr +1 + = =1 -+ + + + +
1- ④て安み減環く			が、合うない。 でも情報を すると が、合うない。 できる できる できる できる できる できる できる できる できる できる			目標	発行	発行	発行									順調	身近なや域における子でを支えるなど、地域は、トマーケでを支援を支援、地域は環境ででをする。 親子 ふれあいルー ーのない まずの 真質質 した から できない まず かい アード かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっか
1	5	子育てに関す 総務 る情報提供の 企画 充実 課	育ての情報を的確 に届ける。 また、本市が取	「こそだて情報」 及び「子ども家庭 レポート」による 情報提供の実施	発行 (RI年 度)	実績	発行			発行の 継続 (毎年 度)	継続	5,002	4, 909	維持	6, 150	順調	子育で中の人が、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ気軽に入手できるよう、情報誌の内容の充実を図る。		護者が、分かりやすく利。 やすい相談体制の維持に る。 子育て中の人が知りたい 報をタイムリーに手軽に できるよう、情報誌した情報 できがなどを活用した情報 供を行う。
			ポート」を発行し、からにはいます。を発行し、いまで、同知はなるで、でで、でで、でで、でで、でででででいる環でする。			達成率	_												
			乳幼児を持つ保護者の子育てへの			目標	前年度比 (15,470 人) 增加	前年度比 増加	前年度比增加	口左车							親子ふれあいルームの質の		
ı	6	3 親子ふれあい 子育 ① ルーム運営事 ⑦ 業 援課		親子ふれあいルー ム利用者数(乳幼 児数)	31,889 人 (RI年 度)	実	20,764 人			RI年度 比增加 (R6年 度)	拡大	38,660	38,607	維持	7, 275	大変順調	向上や利用促進を図るため、 運営スタッフへの研修の実施 やコロナ禍での運営方法等、 親子が安心して利用できるよ		
			所や児童館などで 運営する。			達成率	134.2 %										う引き続き検討していく。		
			各区役所に「子			目標	前年度比 (40.9%) 減少	前年度比 減少	前年度比 減少										
			ども・家庭相談 コーナー」を設置 し、子どもと家庭 に関するあらゆる	子育ての悩みや不 安を感じる人の割 合(就学前児童の 保護者)	35.5% (RI年 度)	実績	41.1 %			RI年度 比減少 (R6年 度)									
	7	3 子ども・家庭 子育 1 付款 コーナー てき	相談をひとつの窓口で受け、ひとり親家庭の自立支援、DV被害者対			達成率	99.5 %				継続	124.815	123, 676	1 維持	6, 075	順調	子どもや家庭に関する相談 内容は、複雑かつ多岐にわ たっており、引き続き相談体		
		到 相談コーナー て支 適 運営事業 援課	応、児童虐待等、 それぞれの相談に 応じた支援・対応 を行うとともに、			目標	前年度比 (39.6%) 減少	前年度比 減少	前年度比 減少	= 0. 		, 5.0	, ~		-, -, -,		制を維持し、子育ての負担を 感じる方への迅速かつ適切な 支援を図る。		
			必要に応じて他の 機関のサービス・ 支援へとつなげ	子育ての悩みや不 安を感じる人の割 合(小学生の保護 者)	41.6% (RI年 度)		44.4 %			RI年度 比減少 (R6年 度)									
			3 .			達成率	87.9 %												

					[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施	Ē								[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標((目標・実績)		L #0	成果の	R4年度	R5年度	事業費	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見通		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	子术 "八祖师女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価		る改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				「子育て支援サロン"ぴあちぇーれ"」に子育て支			目標	前年度比 (40.9%) 減少	前年度比 減少	前年度比減少											
				援総合コーディ ネーターを配置 し、面接、電話や メールによる子育	子育ての悩みや不 安を感じる人の割 合(就学前児童の 保護者)	35.3% (RI年 度)	実績	41.1 %			RI年度 比減少 (R6年 度)										
	18 🔞	子育て支援総合コーディ		てに関する相談の 対応を行い、必要 な関係機関との連 携、調整等の支援			達成率	99.5 %				継続	13.874	13, 942	維持	4, 150	順調	子育て相談を 関係機関との選めて情報収集を	೬携もさらに深 ∈行いながら、		
		ネーター事業	課	を行う。 また、大学教授や小児科医、保育経験者等を講師の発	子育ての悩みや不		目標	前年度比 (39.6%) 減少	前年度比減少	前年度比減少	RI年度	,,,,,,	,			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		子育て支援の充後も子育て世代握して育児講座	犬のニーズを把		
				招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催や絵本の貸出を行い、	安を感じる人の割 合(小学生の保護	41.6% (RI年 度)	績	44.4 %			比減少 (R6年 度)										
I-I-				子育て支援の充実を図る。			達成率	87.9 %												川石 全田	ひとり親家庭に対しては、
1 (1特支要子家1)別援す育庭				「母子・父子福 祉センター」にお いて、ひとり親家 庭や寡婦の生活上 の悩みや相談を受			目標	前年度比 (9,059人) 増加	前年度比增加	前年度比增加								引き続き、京	尤業支援講習会	順調	自立に必要な制度や事業を確 実に活用できるよう、情報提 供を充実するとともに、引き 続き総合的な支援を行ってい く。
家庭へ の対応	19 🔞		て支	けたり、仕事のために必要な知識や 技能を身につける ための講座等を無料で実施する。そ の他各種研修会や	ンターの延べ利用	10,446 人 (RI年 度)	実績	9,899 人			RI 年度 比増加 (R6年 度)	継続	41,200	41,200	維持	1,480	順調	やキャリカウを自立就様をはい、父子を上げる。	コグラム策定な に取り組むとと 幾会を通じて母 コンターをPRし		家庭的養護を推進するため の里親等体の会託、地域小規 模児童養護施設等での養育を 進めるなど、子どもにあった 養育環境の充実に取り組むと ともに、子どもたちへの支援
				催し等を行い、ひ とり親家庭等の生 活の安定、福祉の 向上を目指す。			達成率	109.3 %													をさらに充実するため、職員 の資質の向上等を図る。ま た、就職・進学に際し、児も が希望する進路を選択できる よう、自立に向けた支援を行 う。
				里親の新規開拓 里親の新規開拓 学を通じてし、 等を推進しま 率の向上を目指 をの向上を目			目標	25.0 %	27.0 %	29.0 %											「北九州市子どもを虐待から守る条例」に基づき、児童 虐待の未然防止に取り組む。 また、児童虐待が深刻化する 前に早期発見・早期対応に取 り組み、子どもの安全を守る
	20 🔞	里親制度・特 別養子縁組の 推進	ン	4	カ 小 ムの女司		実績	22.2 %			29.4% (R6年 度)	継続	3,010	3,010	維持	20, 950	順調	NPOや里親支 関係機関とも選 育包括支援業務 構築を目指す。	8の推進体制の		ための一時保護や被虐待児の ケア、家族再統合に向けた保 護者への支援をそ行うことほ 見童虐待の防いのケアめるほ を置いた取組を強化する。 民間を主体とした「子ども
				た養育環境を提供 できる特別養子縁 組についても推進 する。			達成率	88.8 %													民間を主体とした。ことも 食堂」の活動をさらに広げる ため、市民や地域・企業等に 理解と参加を促し、支援の輪 を広げていく。

				[Plan]	計	画	/ [Do】 実施	į						+		【Check】 評価 /	/ 【Ac	tion】 改善
番号 👢	S	SDGs 基本計画の施策 主要事業	東光 取织瓶面			評価	の成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
策名 [™]). J	50Gs 基本計画の他東 を構成する 番号 主な事業・取組 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
			児童養護施設・ 乳児院・児・児・児・児・児・児・児・児・児・児・児・児・児・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・リン・			目標	前年度比 (6箇所) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加								児童養護施設の機能強化や 家庭的養護推進のため、地域 小規模度重養護施設の増設な ど小規模かつ地域分散化の推		
2	1 0	児童養護施設 等小規模化・ ・ 高機能化等、 体制強化の推 進	親において、保護を要する児童を発生な経会的と、 とした。 とした。 とした。 とした。 とした。 とした。 とした。 とした。	地域小規模児童養 護施設実施箇所数	6箇所 (RI年 度)	実績	g 箇 所			RI 年度 比增加 (R6年 度)	拡大	3, 058, 409	3, 056, 630	維持	12,825	大変順調	進、家庭支援専門相談員の増 員や自立支援担当職員の配置 を行う。 また、児童養護施設等に入 所措置を受けていた児童(若 者)について、退所後も22歳		
			どもにあった生活 環境で、健やかに 育まれ、自立でき る社会環境づくり を推進する。			達成率	150.0 %										の年度末までより手厚く支援 が行えるよう居住費・生活費 などの支援の拡充を図る。		
			公正証書作成に 係る手数料や養育 費立替に係る保証			目標	57 件	前年度比增加	前年度比增加										
2	2 (① 養育費確保サ 子育 ・ポート事業 援講	成、養育費全般に	公正証書作成、保証料助成申請件数	44件 (R3年 度)	実績	44 件			R3年度 比 増加 (R6年 度)	継続	3,600	3,600	維持	1,480	順調	ひとり親家庭が養育費を確 実に受け取り、子どもが経済 的な不利益を被らないように するため、養育費不払い解消 に向けた事業を行う。		
			を設置し、養育費 不払い解消を図 る。			達成率	77.2 %												
			幼児神で子どに関いて、 知の育児で不力とに関いて、 で、抱いて、 で、抱いて、 で、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、			目標	100 %	100 %	100 %								親子通園を実施する3施設		
2	3 (③ 親子通園事業 保育 課	兼ね子に ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	利用者の満足度	100% (RI年 度)	実績	100 %			100% (R6年 度)	継続	1,979	2,310	増額	4,650	順調	の状況を検証しながら、関係機関との連携を密にし、発達 機関との連携を密にし、発達 が気になる子どもや育児に不 をを持つ保護者行う。さらは域 活発にPR活動を行い、必必要と とでいる親子への情報周知		
			保護者保育を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、			達成率	100.0 %										図る。		

						[Plan]	計	画	/ [[00】 実施	i						+		【Check】 評価	/	[Act	tion】 改善	
施策番号	No	SDGs 3	基本計画の施を構成する	第 主要 事業	事業・取組概要			評価の	成果指標	(目標・実績)	1	I latin	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容		3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内2	
・施策名	110.	番号	基本計画の施 を構成する 主な事業・取	組課名	学术 机恒帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法	44\ /2	防施策 評価 ((課題に対する改善方)	
					児童虐待の早期 発見及び被虐待児 童の迅速かつ適切 な保護を行うた			目標	0 件	0 件	0 件								子ども総合センターの	聯員			
	24	3 6	児童虐待防 (子どもの 権擁護)推 事業	, し総	め、関係機関との 連携強化を図り、 児童虐待の防止等 のために必要な体 制を整備するとと	児童虐待による死 亡事案の発生件数	0件 (RI年 度)	実績	0 件			0件 (毎年 度)	継続	41,262	30,702	その他	76, 500	順調	がより深刻なケースに集 て対応できるよう、児童 全確認の一部をNPO法人し 託する事業を継続して実 し、積極的に活用する。	中し の安 c委			
					もに、関係機関等 の職員の研修を行 う。			達 成 率	00.0 %														
					さらなる「子ど も食堂」の普及促 進を目指すため、			目標	RI年度比 増加	RI 年度比 増加	RI年度比 増加	RI年度							開設支援や運営支援等	の補			
		3 4 0	子ども食堂 設支援事業		コーディネーターの配置や開設補助など、民間を主もとしたご話したご	市内子ども食堂の 実施箇所数(民間)	30箇所 (RI年 度)	実績	42 筋 所			比增加 (R6年 度)		6,597	7, 397	増額	11,615	大変順調	助金交付、コーディネー の継続的な配置など、子 食堂の新規開設や運営が すい環境づくりを継続す	どもしや			
I -I-					堂」の活動を支援する。			選 成 率	20.0 %												順調	身近な地域における	マケフ
1-1-⑥ (I)-⑥ 地域な行 政の連					仕事の都合や子 どもの軽い病気の 時に、ボランティ ア組織「ほっと子				前年度比 4,625件) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	RI年度							子育て世帯への支援に		を や 業	対立な地域におりる。 支えるネットワーク: お互いの助け合い、E 者との連携など、地域 体で子育てを支援する。	づくり 民間事 域社会
吹携働るて ・に子支援	26	6	ほっと子育 ふれあい事	て業子で業援課	育てふれあいセン ター」の会員間で 子どもの預かりや 送迎など、子育て	相互援助活動件数	7,569件 (RI年 度)	績	5,088 件			比增加 (R6年 度)		14,500	15,000	維持	1,865	大変順調	るため、引き続き会員と 頼関係の確立や地域にお 子育て支援ネットワーク りを進める。	ける	づてじ	くりを進める。また、 家庭のそれぞれの状況 て、必要な支援を届り のできる環境づくり	、子育 況に応 けるこ
の推進					支援サービスの充 実を図る。			達成率	131.6 %												5	•	
					乳幼児の親同士 が交流なる活動で、 自主のようではました。 カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・				前年度比 (437団体) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加												
	27	0	みんなの子 て・親育ち 援事業		また、利用でスター カースペースを支援するるフ 動を支援するとと もに、地域で子	市内で活動する育 児サークル等の団 体数		1 年 1	440 団体			RI 年度 比增加 (R6年 度)		5,729	5,861	維持	6,400	順調	子育てに関わる団体の 的な活動をさらに活発化 るため、補助件数の増加 支援内容について継続的 討していく。	させ 等、			
					てをしやすいシス テムづくり、仲間 づくりを支援す る。			達成率	00.7 %														

					[Plan]	計	画	/ [0	0 実施	i						+		【Check】 評価 .	<u>/</u>	(Action 】 改善
施策番号 ·施策名	No.	SDGs コール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 主要業 所理名	事業・取組概要	指標名等	現状値	評価	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	予算額 子	5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施第	強化・見直した内容
			土な争業・収組課名	官民が協力し て、乳幼児を持つ 保護者が外出した	1H1W	(基準値)	目標	前年度比 (496施設) 増加	前年度比增加	前年度比增加	目標		(千円)(千円)		(千円)	評価	(課題に対する改善方法等) 登録施設の新規開拓に取り	評価	(課題に対する改善方法等)
	28		赤ちゃんの駅 総務企画課		「赤ちゃんの駅」 登録施設数	459施設 (RI年 度)	実績	512 施 設			RI 年度 比增加 (R6年 度)	継続	1,305	,305	維持	4,400	順調	組むとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進にむけたPR活動を行い、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを引き続き進め		
				安心して外出でき る環境づくりを行 う。			達成率	103.2 %										3.		
				本市の幼児教育 の振興と子育て支 援機能の強化を図 るため、私立幼稚			目標	前年度比 (87.7%) 向上	前年度比 向上	前年度比向上								子育て支援機能の充実及び		
	29	4	幼児教育の振 興・子育て支 援機能の充実 課	園での幼児教育環 境の整備(施設の 設備や備品・教材 等の購入など)や 預かり保育、子育	幼稚園に対する満 足度 (教育・保育の内 容)	86.6% (PI 年	実績	89.0 %			RI年度 比 向上 (R6年 度)	継続	408, 400 40	03, 204	維持	6, 190	順調	私立幼稚園教育の振興のため、引き続き助成を実施すると共に、特別な教育的支援を必要とする幼児の就園先の確保のため、協定を締結した園		
I -I-				て相談、体験保育 などの子育て支援 機能の充実に対す る助成を行う。			達成率	101.5 %										に対する助成を継続する。		幼児教育充実のため、引き続き、教育環境の整備などに 取り組むとともに、保育所、 幼稚園等と小学校間が連携
(2)-① 幼児教 育の 実				保育所、幼稚園 の保育環境から小 学校の学習環境へ の円滑な接続を図			目標	99.0 %	99.0 %	99.0 %									順調	1 保育所 幼稚園等から
	30	4	幼稚 保育所、幼稚 園、小学校の 連携 ・こど は課	るため、公私、 (保 幼小のの、代表者が 成す進進を 護権 (という) 大きない。 、 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 、 大きない。 、 大きない。 、 大きない。 大きない。 、 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。	保幼小連携事業を 実施する保育所、 幼稚園、小学校の 割合	99.0% (DIÆ	実績	84.7 %			99.0% (R6年 度)	継続	1,051 1	,051	維持	7,825	順調	年2回の「保幼小連携推進連絡協議会」の開催と、連携担当者と管理続することによ研修会を継続することによ明り、保育所・幼稚園の学習環境への円滑な接続を図る。		
				担当者を対象に研 修会を実施するな ど、連携推進を図 る取組を行う。			達成率	85.6 %												

					(Plan)	計画	画 /	<u> </u>	Do】 実施	i						+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の成	果指標	(目標・実績)		I- Hn	成果の	R4年度		尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	学来 :似粒似女	指標名等	現状値 (基準値)	R	3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
1-I- (4)-① 青少年 の健全 育成・				社会の構成員と しての規範意識や 他者への思いやり			母 (2,	年度比 329人) 増加	前年度比增加	前年度比增加	21.67							18	S. I. J. J. H. A	順調	次代を担う青少年が社会との関わりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、引き続き、ボランティア活動を通じた豊富な体験活動との場合と発生を24%といる。
非行を 生ま地 づくり	21	青少年ボラン ティアステー ション推進事 業		等の豊かな人間性 を育むとともに、 社会性や協調性等 を身に付けること ができるよう、青	青少年ボランティ アステーションに おけるボランティ ア体験活動者数		実 績 ^{2,0}	173 人			RI年度 比 増加 (R6年 度)	継続	1,523	1,462	維持	11,150	大変順調	ボランティ富州 ボランティ 豊 開拓し、豊 開拓 し 、 豊 開 開 で で く 。	体験活動のブ ・提供を進め の更なる活	P	ラムの提供と活動支援を進めていく。 若者の状況に応じて、適切な時期に的確な支援機関につながられるよう、関係機関との連携をさらに強化してい
				少年が行うボラン ティア活動を支 援・促進する。			達 成 12' 率	7.7 %													く。 青少年を有害環境から守る ため、企業・青少年団体・地 域等と連携し、有害環境の浄 化とともに、メディアリテラ
				中学生・高校生 を中心とした若者 の活動拠点とな			目 標	年度比 15,309 人) 増加	前年度比增加	前年度比増加	RI年度							引き続き、将 高校生をはじめ			シーの向上を図るなどして、 非行防止に取り組む。 警察や薬剤師会、地域団体 等と連携し、薬物乱用の撲滅 機運を高めるための取組を推 進する。
	32 8	「ユースス テーション」 の運営		り、社会参加準備 のためのさまざま な活動を体験する ことができる施設 として「ユースス	ユースステーショ ンの利用者数	29,425 人 (RI年 度)	利	922 人			比 増加 (R6年 度)	継続	45,774	45, 774	維持	2,900	順調	が、学習や体験間 を選じて「白立性で 会性で自て運営	、スポーツ・ との交流など を発見し、社 身につける		乗りる。 また、協力雇用主や保護司 と連携し、非行少年の立ち直 り支援を進める。
				テーション」の運 営を行う。			達成 11'率	7.1 %													
				マーカー では、 本一十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十			目 60標	00 人	650 人	650 人								複雑な要因に 活を営む上で「	困難」を抱え		
	33 8 ⑦	応援センター		シに通で滑をもている。 ない そいその はい 大将不生上いが ない はいれる 増加 はい に抱える 増加 がった を かった	「YELL」来所相談 者の就業等実績 (累計数) ※中期目標改訂	481人 (RI年 度)	実 績	40 人			650人 (R6年 度)	継続	24,016	28, 431	増額	3, 775	順調	てりたけん でりた がいのめ たり でいる状 いっぱい きんしき かいりん いいり かいり かいり かいり でいる はい かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かい	た支援を行う 他機関を発 けた実験のプロ る充実の悩みに う。 更内容】		
				を若ポートをおいている。 お者をト()し窓者をしていている。 子合コーていている。 をもも・「「てるのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ			達 成 90 率	.0 %										令和4年度、令標を踏まえ、同 標を踏まえ、同 る。			

子ども家庭局

ナとも	25-1X	E/HJ		[Plan]	計	画	/ [0	0 実施							4		【Check】 評価 /	/ [Action] i	攻善
施策番号	SI	ocs 基本計画の施策 主要	5 6		事業	評価	の成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて		こ向けて
・施策名	No. ⋾	を構成する 事業 所能 主な事業・取組 課名	事業・収組恢安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性		予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		直した内容 る改善方法等)
						目標	前年比 (3.4人) 減少	前年比減少	前年比減少										
			策」「Ⅱ非行から の『立ち直り』支	人員を表す非行者			4.1 人			RI年比 減少 (R6年)							関係機関や団体、地域との		
	34 (「北九州市 『青少年の非 行を生まない 青少				達成率	79.4 %				- 継続	29,895	26, 488	減額	15, 950	順調	連携をより一層推進し、効率 ・効果的な事業実施を行い、「青少年の非行を生まない地域づくり」の実現を目指		
		型 地域づくり』 年語 推進本部」運 営事業	化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非行防止施策を総合			目標	前年度比 (267社) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	0.55	12.178		,	3.4.24	,	70023	す。 事業費については、効率的 な運用により令和4年度比減 となっている。		
			的かつ積極的に展開する。	北九州市協力雇用 主登録業者数	262社 (RI年 度)	実績	286 社			RI年度 比増加 (R6年 度)									
T .						達成率	107.1 %											₩ 5 20 ±/7 + + + 5	
I-I- (4)-③ 若自立 負援			不安定な雇用や ニート(若年無や 者)、もりをを きこもの悪化や 情勢の悪化や			目標	前年度比 (2,322件) 增加	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持									ため、企業・引 域等ともに、を 化との一方防止に変形 等と連携し、 等と連携し、)組む。 雨会、地域団体 薬物乱用の撲滅
	35 (参加 若者のための 青ヶ原 高に援環境づく 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	的族なシに通せ、 大、円一如来をのを困乏 がある。 がは、カーリーのでは、 がある。 がある。 がある。 がいるが、 がいるが、 がいるが、 で滑を で見中円難ど	子ども・若者応援 センター「YELL」 の相談件数	2,900件 (RI年 度)		2,496 件			RI 年度 比 增加 (R6年 度)	継続	1,873	1,803	維持	5, 525	順調	社会生活を円滑に営む上で「困難」を抱えている子どもや若者が増加しており、るこの見動も複雑をしているたども・若者支援地域協議会の開発を通じ、他機関等と連携し、若者の支援に取り組む。	進する。 また、協力を	ための取組を推 雇用主や保護司 庁少年の立ち直 る。
			も・若者が増加している。そこで、若者のための応援環境づくりを推進する。			達成率	107.5 %												

子ども家庭局

				(Plan)	計	画	/	【Do】 実が	ŧ						-		【Check】 評価	/	 [A	ction]	改善
·号 No	SD	回Gs 基本計画の施策 主要業 ・ を構成する 主な事業・取組 デッタ	事業・取組概要			評価	の成果指標	!! (目標・実績)		l l- Mn	成果の		R5年度	一十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容		R3年度		を度に向けて 見直した内容
名 10.	- 番	ドラミな事業・取組 所管 課名	学来: 4X租194.安	指標名等	現状値 (基準値))	R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法		局施策 評価		光直した内容 する改善方法
			不登校状態にある中学生を対象			目標	前年度比 (16人) 増加	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持								令和3年度から開始した 「卒業1年目の要継続支援 者」のその後の経過状況	等を			
36	. (a)	不登校状態の 子どもに寄り 多 添った次への 一歩応援事業	に、卒業後に孤立 することがないよう、訪問支援等を 通じて一人ひとり に寄り添った伴走	伴走支援を行った 結果、改善が見ら れた人数	14人 (RI年 度)	実績	46	٨		RI年度 比增加 (R6年 度)	継続	13,000	17, 287	增額	5, 525	大変順調	参考にしつつ、不登校状 ある中学生を対象に、いよ 学校や少年支援室等、、関 関と連携の上、引き続き ひとりにきめ細かく支援	業後 う、 係機 一人			
			型支援を行う。			達成率	287.5	%									い、社会的自立につなげく。				
			マート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			目標	600	人 650 人	、 650 人								複雑な要因により、社 活を営む上で「困難」を ている子どもや若者一人	抱え			
37	1 (8		に現で、 は、 に現で、 に現で、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 に抱い、 にれい、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	「YELL」来所相談 者の就業等実績 (累計数) ※中期目標改訂	481人 (RI年 度)		540	۸		650人 (R6年 度)	継続	24,016	28,431	增額	3,775	順調	いる状況に応じたされて、 が状況に応じた機関を が、引きないのである。 別もないのである。 は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	行う のプ図 みに			
			若者を総合のにかった。 お者を総合コート) 総合コート) 総合コートのとのでいる。 になっている。 を受けている。 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、			達成率	90.0	%									標を踏まえ、同数に変更る。				

子ども	20.19	e ruj			[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							([Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号		SDGs 基本計画の施策	主要事業	-t- 144 - T- (n m T-		事業	評価	の成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	SDGs 基本計画の施策 ゴー1 を構成する 音号 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直(課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
			Pic-P				目標	前年比 (3.4人) 減少	前年比減少	前年比減少	LI TAX		(113)	(113)		(113)	в і іш			B) Im	
				「I非行防止対 策」「Ⅱ非行から の『立ち直り』支	少年人口1,000人 あたりの検挙補導 人員を表す非行者 率(暦年統計)	3.6人 (RI年)	実績	4.1 人			RI年比 減少 (R6年)							関係機関や団の	本、地域との		
	38	「北九州市 『青少年の非 行を生まない	青少				達成率	79.4 %				継続	29,895	26, 488	減額	15, 950	順調	連携をより一層語的・効果的な事態い、「青少年のい地域づくり」の	業実施を行 非行を生まな		
)⑪ 地域つくり』 推進本部」運 営事業		化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非			目標	前年度比 (267社) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	IRI年度		,	,		,		す。事業費についな運用により令となっている。	ては、効率的		
				行防止施策を総合 的かつ積極的に展 開する。	北九州市協力雇用 主登録業者数	262社 (RI年 度)	実績	286 社			比增加 (R6年 度)										
							達成率	107.1 %													
I -2- (2)-①				科学・技術への 興味・関心を高め る科学館とするため、様々な来館者			目標		500,000 人	500,000 人	1年間来							開館2年目とな は、広報エリア げ、九州圏内をし 団体旅行誘致に	を県外に広 はじめとした 主力し、平日		開館2年目となる令和5年度 は、広報エリアを県外に広 げ、九州圏内をはじめとした 団体旅行誘致に注力し、平日
成業え度の発達を高材成		◆ 北九州市科学 館スペース LABO運営経費	合合	増にいる。 おいる。 はないる。	年間来館者数	_	実績 達成率				館者万 (毎 度)	継続	567, 578	557, 720	維持	128,000	_	の無理ないのかいのかいのから、まれている。 大き 大き はいっかい かいっかい のいっかい のいっかい かいっかい かいかい かいかい か	き、科学への 科学技術育の 系人材便性のの成高 詳・話かした賑	_	の入館者増を図る。 また、引き続き、科学への 興味関心を高め、科学技術 振興を担う技術系人材の を図るとともに、利便性の高 い立地や博物館群・商業施設 のある周辺環境を活かした賑 わいの創出を行う。
							目標	前年比 (3.4人) 減少	前年比減少	前年比減少											
				「I非行防止対 策」「Ⅱ非行から の『立ち直り』支 援」「Ⅲ薬物乱用	少年人口1,000人 あたりの検挙補導 人員を表す非行者 率(暦年統計)	3.6人 (RI年)		4.1 人			RI年比 減少 (R6年)							関係機関や団体			青少年を有害環境から守る ため、企業・青少年団体・地 域等と連携し、有害環境の浄 化とともに、メディアリテラ
Ⅱ-I- (3)-⑤ 非行や 犯罪を	40	「北九州市 『青少年の非 行を生まない		の防止と啓発」 「N地域団体・関係機関との連携強化」の4つの柱をた			達成率	79.4 %				継続	29,895	26, 488	減額	15, 950	順調	連携をより一層的・効果的な事態の、「青少年のい地域づくり」の	業実施を行 非行を生まな	順調	シーの向上を図るなどして、 非行防止に取り組む。 警察や薬剤師会、地域団体 等と連携し、薬物乱用の撲滅
生まな い地域 づくり		(f) 地域 ブ (り) 推進本部) 運 営事業	一杯	り組みを強化するなど、青少年の非		04531	目標	前年度比 (267社) 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	RI年度							す。 事業費についる な運用により令 となっている。			機運を高めるための取組を推 進する。 また、協力雇用主や保護司 と連携し、非行少年の立ち直
				行防止施策を総合 的かつ積極的に展 開する。	北九州市協力雇用 主登録業者数	262社 (RI年 度)	実績	286 社			比增加 (R6年 度)										り支援を進める。
							達成率	107.1 %													

子ども	豕及	向			[Plan]	】計	画	/ [0)o】 実施									【Check】 i	評価		Action]	改善
		Gs 基本計画の	施策					5の成果指標(# H D	R4年度	R5年度	古兴典	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向り		R3年度		ほに向けて
施策番号・施策名	No.	GS 基本計画が 一ル を構成す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ルス 事業 所に 取組 課名	争業・収組燃安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性		予算額 (千円)	事業費の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した (課題に対する改		局施策 評価		見直した内容 「る改善方法等)
II-3- (I)-④ 子ど人 の 尊重	41	児童虐待も ③ (操護 事権業	カル 子も会 の人	児童虐待の早期 発見及び被虐適切 な保護を行りた め、関係化を図り	児童虐待による死 亡事案の発生件数	0件 (RI年	目標実績	0 件	0 件	0 件	0件 (毎年 度)	継続	41,262		その他			子ども総合センクがより深刻なケース 大り深刻なケース 全確認事業を継続 託する事業を継続	ターの職員 スに集中 児童の安)法人に委	順調	「北九州州 ・守の未然所 を はた、早期、一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	5子ど基では、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で
		子术	9-	制を整備するとともに、関係機関等の職員の研修を行う。			達成率	100.0 %										し、積極的に活用す			児童虐待の防か、子どものを置いた取組 引き続き、 ための教育研	たに努めるほ)心のケアに重点
							目標	前年度水準 (22件) を維持			a. 6- d-										ワークづくり 事業の実施 計画的な研修 の資質向上を	を進める。 嘘にあたっては、 を通じ、相談員 : 図るなど効率的
				児童虐待の早期 発見、早期対応に つなげるため、中 核的な小児救急病	児童虐待相談対応 件数のうち、「医 療機関」からの件 数	541十 (RI 年	実績	66 件			RI年度 比維持 (R6年 度)										な運営を行う	0
	42	3 児童虐待6 医療ネッ	ト て支				達成率	300.0 %				- 継続	5, 455	5,444	維持	2, 240	大変順調	引き続き、拠点を 虐待専門コーディス 配置し、医療機関が	ネーターを からの児童			
		⑦ ワーク事	業 援課	関する相談でいい。 言を行うなど、とし 療機関を中心とし たネットワークを			目標		前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	RI年度						州兵 副 明	虐待に関する相談(る。	に対応す			
				構築し、児童虐待 対応への必要な体 制整備を行う。	拠点病院への児童 虐待相談対応件数		'王				比維持 (R6年 度)											
							達成率													_		
				各では を を を を を を を を で を で を で で で で で で で で で で の に 関 を の に で の に の の に の の の の の の の の の の の の の			目標	_	_	前年度比減少												
	43	子ども・ 相談コー 運営事業	ナー て支	ロで受け、ひちり 親家 DV被害者等 版、児童を で、現での で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	コーナーの児童虐 待対応件数	537件 (RI年 度)	実績	_			RI年度 比減少 (R6年 度)	継続	124,815	123, 676	維持	6,075	順調	児童虐待に関する 加傾向にあるため、 虐待への相談や迅速 な支援が行える体制 図る。	引き続き 速かつ適切			
				を行うとともに、 必要に応じて他の 機関のサービス・ 支援へとつなげ る。			達成率	_														

子ども	THE!	.			[Plan]	】 計i	画 /	【Do】 実力	施						4		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	主要			事業	評価の成果指	標(目標・実績)		成里の	R4年度	R5年度		人件費 (目安)	R3年度			R3年度	
・施策名	No. ゴール 番号	を構成する主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
	3	ヤングケアラー相談支援	子で	ー援ケ相要関 ヤ早がよりなく からの必続して、 が見いたの必機して、 がして、 がして、 がして、 がして、 がして、 がして、 がして、 が	ヤングケアラーに関する相談件数	R4年度 相談件 数	目標実績	相談対応開始	前年度比增加	R4年度 比增加 (R6年 度)	拡大	10,000	14,000	増額	2, 240	_	ヤングケアアの話・発きついては、 では、発きないでは、 では、できないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	するため、電 等による相談 行う。 務開始に伴う		
				連携、ヤングケアラーへの支援、広報・啓発等を行う。			達成率										増額する。	ためが] 弁と		
		<新>ヤング		ヤングケアラー となっている子のの となっている は軽減や子どもの は全育成、児童虐	ヤングケアラーが		目標実		ヘルパー派 遣開始	継続実施							令和5年度新た ケアラーがいる 家事・育児支援	世帯に対し、 を開始し、		
		ケアラー支援 訪問事業	援課	を持ち、 を図るため、ヤングケア ラーがいる世帯育に 対し、家事やる。	いる世帯へのヘルパー派遣実施	(R5年 度)	達成率			(R6年 度)		_	5,000	_	2, 240	_	ヤングケアラー子どもやその家や子どもの健全待防止を図る。	族の負担軽減		
				保護者の就労形 態の多様化等に対 応するため、保育			目 前年月 (94.29 標 同水 ²	り 同水淮	前年度同水準	現状値										
				所の保育時間を午後7時もしくは8時まで延長する「延長保育」の充実を図る。また、保護	午後7時まで延長 保育を実施する施 設の割合	93.9% (RI年 度)	実 94.5	%		以 に に に に に に に た に た り た り た り り り り り り										
N-3- (2)-② 女性が 活躍す る産業	3 46 4	特別保育事業補助	保育課	者のパート就労や 育児リフレッシュ 等の理由により、 一時的に家庭での 保育が困難となる			達成 100.3	%			- 継続	676, 623	623, 720	減額	3,650	順調	保護者の就労 等に対応するた 市子ども・子育	め、「北九州 て支援事業計		子どもの生活リズムに十分 配慮しながら、保育所におけ る延長保育など、多様なニー
都けりの推進	8	11112-23		児童を保育所において保育するで保育するで、保育するでは、育またのでは、			目 前年原 (56.79 同水 ²	り 同水淮	前年度同水準	垣址/\$							画」に基づき、る。	事業を継続す		ズに対応した保育サービスの 充実を図る。
				加え、延長保育や一時保育におい可能な障害のある児童のでは入れを行っている。	一時保育事業の実 施施設の割合	56.2% (RI年 度)	実 績 58.5	%		現状値 と同水 準 (R6年 度)										
				う「障害児保育」 の充実を図る。			達 成 103.2 率	%												

					[Plan]	計	画	/	[D)o】 実施							+		【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	No. □ -N	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指	信標((目標・実績)		中期	成果の		R5年度		(目安)	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	26.0
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	3 30 0000	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	芰	R4年度	R5年度	目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
I -3- (3)-①				本市の恵まれた 自然や充実した環 境関連施設等を結			目標	85.0	%	85.0 %	85.0 %	,							「北九州環境みらい学習システム『ドコエコ!』推進事業は、「環境ミュージアム管理運営事業」に統合して引き		持続可能な社会づくりを近
・ 北環らい い が り り り り り り り り り り り り り り り り り	I (1)	環境ミュージ アム管理運営 事業		びつけ、多世代の 市民が意欲や能力 に応じて、エコツ アーなどまち全体 で楽しく環境学習	アンケート調査に おける環境活動を 行う市民の割合	65.7% (H23年 度)	実績	66.9	%			95.0% (RI2年 度)	継続	3,620	3, 120	その他	7,150	順調	続き実施する。 多世代の市民が、有意義な 学習ができるよう、SNSや ホームページ等の様々な媒体 をより充実とせる。	順調	めるため、多世代の市民が、 有意義な学習ができるよう、 SNSやホームページ等の様々 な媒体を充実させ、より効り 的な情報発信に取り組む。
推進				が行える仕組みづ くりを行う。			達成率	78.7	%										また、効果的な情報発信に 取り組むため、冊子の発行部 数を見直し、事業費は減額し た。		
				北九州市の公害			目標	360	回	360 回	360 回										
				克服の歴史を伝え るとともに、世界 の環境首都を目指 して市民の環境力 を高めるための環	環境学習サポー ターによる出張 ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	実績	249	回			360回 (R5年 度)							環境ミュージアムスタッフ・環境学習サポーターや関		
	(a) (b) (c) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d	環境ミュージ	環境	境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環			達成率	69.2	%				- 継続	77.087	77, 144	維持	9,225	やや	係団体及び近隣施設等との協働を進めるなど、活動の更なる強化を図り、引き成に取りの環境リーダー育成に取り起む。また、オンライン講座や		
	(3) (4) (5) (7)	州エコハワス 維持管理業務	課	及び家庭での省エ ネ型のライフスタ イルを提案する 「北九州エコハウ ス」等の管理運			目標	130,000	人	130,000 人	130,000 人		74.75	,			,,	遅れ	イベントを開催するととも に、改修したカーボンニュー トラル展示等を活用した情報 発信をSNSやホームページ等		地域における環境リーダー の育成にむけて、環境ミュー ジアムスタッフ・環境学習+ ポーターや関係団体及び近陽
I-3- (3)-② 環境人 材のス キル				営、及び様々なイ ベント、電場学習 より、環境活動の場を提	環境ミュージアム 利用者数(単年 度)	134,124 人 (H26年 度)	実	42,873	人			130,000 人 (R5年 度)							を使って行い来館者増を図る。	順調	施設等との協働を進めるなど、活動の更なる強化を図るとともに、現存のコンテンツの充実を図りオンラインイへ
アップ と活用				供するもの。			達成率	33.0	%												ントや講座等を開催する。 また、引き続き、企業や匠体などへ「積定応援団」等を 活用した積極的なPRを行い、 環境首都検定の受検者増加に
				市民一人ひとりが環境との関わり			目標	5,500	人	5,500 人	5,500 人										取り組む。
	3 4	環境人財育成 事業	環境 学習 課	を理解し、よりでもまり、 りでもませるである。 で行動をもまである。 とのできるため、 財を育むため、	北九州市環境首都 検定の受検者数	2,424人 (H26年 度)	実績	5,502	人			5,500人 (R5年 度)		13,567	13, 425	維持	9,975	順調	市民全体が環境に関心を持つきっかけとなるよう、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向けて、企業や野体なでへ「検定応援団」等を活用した積極的なPRを行う。		
				「環境首都検定」 をはじめとする施 策に取り組む。			達成率	100.0	%												

						[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No.	SDGs	基本計画のが を構成する 主な事業・耳	主要 事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(目標・実績)		-h#9	成果の	R4年度	R5年度	一十不只	人件實 (目安)	R3年度 事業	R5年度に「 強化・見直		R3年度	76.0 0 - 1 - 1 - 1 -
施策名	3 110.	番号	主な事業・耳	入組 課名		指標名等	現状値 (基準値)	,	R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					持続可能な社会 の構築を図るど世界 規模で進められて いる「持続のの 開発のためな (ESD)」を、北九			目標	90.0	%	90.0 %	90.0 %											
[-3- 3)-③ SDの 進進	4	4 I	ESD活動支持 事業	爱学智	らゆる人々が地域 等における様々な 課題に気付き、つ ながり、既に実践	アンケート調査に おける「持続可能 な社会づくり」を 意識している市民	_	実績	80.2	%			90.0% (R5年 度)	継続	20, 179	19,913	維持	16, 950	順調	持続可能な社会 識して行動するで ように、令和3年 た「北九州ESDア ラン2021~2025」 ESD活動の継続・ う。	市民が増える 度に策定し クションプ を基に、		持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021〜2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。
					している活動等に ESDの視点を加え て、暮らしや社会 のあり大等をり があった があいの場づ りを進める。			達成率	89.	%													
II-3- (4)-②協 (4)-③協 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)					途上人民 強上人民 を 受ける豊か者等 で企業国地で的 で が の の の の の の の の の の の の の の の の の の			目標	14	件	15 件	15 件										順調	KITAやJICAなど関係機関と連携し、国や国際機関等の補助金も活用しながら、引き終き研修受け入れや派遣指導、環境に関する技術・社会システムの輸出など、環境国際協力を推進する。
	5	(2) :: (6) ::	環境国際協 推進事業	環境国際戦課	術る。関連報う都の・情行種一の・情行種のと間が発に、したでもネットのでは、 を、関連、大関連、大学をは、 関連、大学を発に、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では		6件 (H26年 度)	実績	14	件			15件 (R5年 度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	順調	国や国際機関等活用しながら、5 を推進する。			
					ジェク東 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 に 際 機 し や に 対 禁 を は 対 り る 、 で 、 り る り る り る り る り る り る る る る り る る る る り る る る る る る る ら る ら			達成率	100.0	%													

東項局					[Plan]	計	画	/ [Do	」 実施	į						+		【Check】 評価 /	<u> </u>	Action】 改善
5策番号 施策名	0. 3.	基本計画の施 を構成する 全球事業・取	Mr	事業・収組(板安	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	の成果指標(E R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
	6	(m)	環境国国際	アンター では、 アコー で、 アコー で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	アジア地域での C02排出量の削減	本市C02 排出量 I,835万 † (H25 年度)	実績			単年度目標設定なし	H25年度 比75% 削減 (RI2年 度)	_	_	23, 180		66, 650	at IW	「アジアの環境人材育成拠 点形成事業」と「アジア低炭 素化センター推進事業」を統 合し、「環境国際推進事業」 として実施する。 KITA・IGES等の関係機関と 密に連携しながら、事業実施	aT IW	
	1		課	また、環境保修の 球活動やでは、 では動いでは、 では動いではいます。 ではいまする。 はいまる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 は	アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	I,209人 (H26年 度)	目標 実績 達成率			460 人	460人 (毎年 度)							や案件発掘に係る協議を行い、市内企業の受注拡大を目指すほか、環境人材育成に係る研修誘致や研修実施を通じて更なるビジネス案件の創出を図る。		
				北九州市空き缶 等の散乱の防止に 関する条例(ほちづ 美化条例)に基づ き、ボポー	まち美化ボラン ティア清掃参加者 数(単年度) ※指標廃止	131,314 人 (H28年 度)	目標 実績 達成率	138,000 人 64,055 人 46.4 %	138,000 人		138,000 人 (毎年 度)							清掃参加者の固定化・高齢 化が問題視されてきたが、令 和生度は若年層の参加も見 られた。割合で言えばまだ低		
-I-)-③ 美動充		まち美化等 発事業	啓 業務 課	業、ボランティア 団体を美化事業とも まちる。環境に 市民のの環境として に対す・マナーの	まち美化ボラン ティア清掃参加者 数 (H29~R3年度 の平均値) ※指標追加	76,620 人(H29 〜R3年 度の平 均値)	目標 実績 達成率			89,000 人	89,000 人 (毎年 度)	継続	3,578	3, 444	維持	3,075	やや遅れ	い数値にあることが、引き続き 環境教育の充実やまち美化夫 が必要である。 【指標廃止・追加の理由】 コロ増えたこ自粛でた、民も民 での活動をしなどから、日 えていることなどから、目標	やや遅れ	誰もが地域でのまち美化よ 掃を常日頃から実行するに 意識づけるため、市民にう て積極的に啓発活動を行う 感染症拡大防止対策広報 に力をなれて、参加者数の 加を図る。
				向上を図り、「世 界の環境首都」で 相応しい清潔でも はいまづくりを 推進する。	アンケート調査に おける地域でのま ち美化清掃実行の 割合	47% (H28年 度)	目標 実績 達成率	60 % 41.6 % 69.3 %	60 %	60 %	60% (毎年 度)							値が現状に比して過大となっているため、過去5年平均値を算出し、目標値とした。		

環境局						[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施	i						4		[Check]	評価	/ [A	ction] i	改善改善
佐笙采 旦	9	5DGs 基	本計画の施策 を構成する な事業・取組	主要事業		Li Tuli			の成果指標(成果のF	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に	:向けて	R3年度	R5年度	に向けて
・施策名	No.	当 主	を構成する な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減		事業 評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価		直した内容 る改善方法等
							0.44	目標		5 件	5 件												
					市内企業に対 し、脱炭素経営を 促すため、実際の	北九州エコプレミ アム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	実績				累計240 件 (R6年 度)							「揺培イノベ	ーション促進		「揺培イノ	ベーション促
V-I- (I)-④ 地元製 品・	0	8) /	2炭素サプラ *チェーン支	環境 イノ ベー	成功事例の紹介な どを行うセミナー を実施する。ま た、市内企業の環 境に配慮した製品			達成率						9,654	4,354	2.O.W	5,825	_	事業」の内、事 えた「環境イノ 材育成事業」を 炭素サプライチ	業の役割を終 ベーション人 廃止し、「脱		事業」の内、記念を表現の内、記念をはいる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	事業の役割を ノベーション を廃止し、「
ナービ スの利 舌用の 隹進	- 1		争業	ショ ン支 援課	や技術、サービス から「北九州エコプ レミアム」を選定 し、広くPRするこ			目標		7 億 円	7 億 円			9,034	4, 354	-(U) IE	5, 825		業」を継続して 新たに、市内 脱炭素経営を仮 の成功事例の紹 セミナーを実施	企業に対し、 すため、実際 介などを行う		業」を継続して 新たに、市 脱炭素経営をも の成功事例の終 セミナーを実施	内企業に対し 促すため、実 紹介などを行
					とで、市内環境関連産業の活性化を 推進する。	エコタウン事業に よる投資額 (単年度)	9億円 (H26年 度)	実績				7億円 (毎年 度)							でミナーを美術	, 9 ° 5°		でミケ ー を夫/	他 9 る。
								達成率															
/-I- 4)-② 再生可 _{能エネ}					風力発電関連産 業の総合拠点とし			目	g 0	24 回	39 回										順調	向けて、令和した「北九州で ンプ×SDGs」	市洋上風力キ に引き続き取
レ ギー・ 基幹エ ネル				再生	て、その機能を十 分に発揮するに は、人材の「育 成」と「確保」が			標	, u	27 1	37 11								再エラに関す	る人材育成に		組むとともに、 力発電人材育」 連携しながら、 確保に取り・記	成連絡会」と 、人材の育成 む。
デーの 削出形 気	q		2九州市風力 8電人材育成 1業	舟可エルギ導推課生能ネ 一入進	必要である。「北 カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	人材育成に関わる 関連企業、教育機 関を含めた会議等 の実施(累計)	_	実績	21 回			54回 (R3~R6 年度)	継続 4	45,000	36,000	減額	8, 150		ついて、令和4 ² した「北九州市 ンプ×SDGs」に 組む。	平度から開始 洋上風から開始 引き続き取り 関係団体へるの		また、水素- での地域企業(や企業誘致に、 興・雇用創出	よる地域産業
					に、「北九州市風 力発電人材育成連 経営官の連携による 人材の確保を目指 す。			達成率	233.3 %														

						[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施	i						(【Check】 評価 /	/ [Action】 改善
策番号	SDGs No. ⊐'-#	基本計画のが を構成する 主な事業・耳	主第 事	要業	事業・取組概要		事業現状値	評価の			目標・実績)		中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	ず未貝		R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施第	26.0 2 2 4 1 4 4
ルボカ	番号	主な事業・耳	双組課	名		指標名等	(基準値))	R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	目標	万问生	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	
								標	500	人			500人									
				ń	企業単独での取 組が困難かつイノ	北九州水素タウン 来訪者数(単年 度)	_	実績	96	人			(R3年度 まで毎 年度)							先導的な取組は継続しつ つ、これまでに得られた知見 を基に水素エネルギー導入で		
				:	ベーションが必要 な、水素(合成メ タン・アンモニア を含む)やCO2の回			達成率	19.2	%										の地域企業の新規事業展開や 企業誘致による地域産業振 興・雇用創出を図る。 また、「本市の水素に係る		
			グ	4 - 1	収・利用・貯蔵の プロジェクトを支 援する体制の構築			目標				単年度目標 設定なし								先導的な取組」及び「水素エネルギーが便利で身近なものであること」を市民に理解し		
	10 9 (3)	水素拠点化 進事業	長	成推	に向け、ステーク ホルダーが参画す る組織体を構築 し、個別プロジェ	水素需要量 ※指標追加	0t (R4年 度)	実績					5,700† (RI2年 度)	拡大	17,500	37, 100	増額	10, 150	遅れ	てもらえるよう啓発に努め、 水素がエネルギーとして社会 に浸透することを目指す。 産学官が連携し水素拠点の		
			進	誅 : (クト形成、国プロ グト形成、国プロ でででである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率												形成に向けた計画を検討し、 本市の経済を支える製造業が 本市で脱炭素化を進めながら 事業を継続できる基盤づくり		
				<i>)</i> ; } F	炭素化に向けた投 資を促す。また、 FS・技術開発支援			目標			2 件	2 件								に取り組む。 【指標追加の理由】		
					により企業の取組 を加速させる。	事業可能性調査実 施件数	_	実績					2件 (毎年 度)							地球温暖化対策実行計画に 基づき、水素の需要量を指標 に追加。		
								達成率														
				4	風力発電関連産 業の総合拠点とし			目	a		24 🗔	20 5										
				- :	て、その機能を十 分に発揮するに は、人材の「育			標	9	回	24 回	39 回										
-I-)-③ 定・	9	北九州市區	再可工力	生能ネー	成」と「確保」が 必要である。 このため、「北 九州市洋上風力	人材育成に関わる							54回							再エネに関する人材育成に ついて、令和4年度から開始 した「北九州市洋上風カキャ		安定したエネルギー基 構築に向けて、令和4年原 ら開始した「北九州市洋
価で いエ ル ー網	11 (9)	発電人材育 事業	成 ギ	— i	キャンプ」を実施	関連企業、教育機関を含めた会議等の実施(累計)	_	実績	21	回				継続	45,000	36,000	減額	8,150	大変順調	ンプ×SDGs」に引き続き取り 組む。 また、学校等関係団体への 呼びかけを強化し、参加者の	順調	カキャンプ×SDGs」に引き取り組むとともに、「 州市風力発電人材育成連会」とも連携しながら、
構築			課	;	成を図るととも に、「北九州市風 力発電人材育成連 絡会」を通じた産					+										増加に取り組む。		の育成、確保に取り組む
				-	学官の連携による 人材の確保を目指 す。			達成率	233.3	%												

環境局					[Plan]	】 計i	画 /	[[)o】 実施							+		【Check】 評価	/	T/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			平価の成り	早指標 ((目標・実績)		I. Ha	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	学 来:	指標名等	現状値 (基準値)	R3	年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
VI-I- (1)-①	2 3 4 6			市民環境力の持 続的発展を目指 し、環境モデル都 市を推進する活動 への支援や、市				万人 (上	150万人 以上	150万人 以上								市民による環境活動を			市民環境力を向上し、持続 可能な社会を実現するため、 企業、NPO等の一層の協力を 得ながら、従来イベントだけ
市民で現 が現 が は る は 組 み	12 9 (1) (2) (3)	市民環境力支 援事業	環境 学習 課	民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出	エコライフステー ジ参加者数 (単年 度)	142.4万 人 (H24年 度)	実 績	万 人			I50万人 以上 (R5年 度)	継続	12,207	12,007	維持	9,475	遅れ	に広げるため、新たなイト開催方法などの検討や 活動団体の支援に加え、 等を活用した取組の強化 SNS等での情報発信を積材 に行う。	環境 WEB 、	遅れ	でなくオンライン等も活用し、市内外の幅広い世代への 普及啓発に取り組む。 また、市民にエコなライフスタイルを浸透させる効果的
づくり	(b) (c) (d)			し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。			達 成 20. 率	0 %										1-17) .			な事業のあり方を検討しつ つ、経費削減についても最大 限取り組む。
							目 単年 設定	度目標 なし			第2期循										
					市民1人あたりの 年間古紙回収量	50.1kg (H21年 度)	頯	4 kg			環社会 計画に 準拠										
				一般廃棄物の減			達 成 · 率	_			+12										
VI-I- (I)-2			循環	量化・資源化促進 のため、古紙・古 着回収奨励金の交			目 標 I37	,	137 団体	I37 団 体	全137団							家庭ごみとして出され 紙の分別・リサイクルに て、積極的に広報活動を	つい		第2期北九州市循環型社会 形成推進基本計画に基づき、
地域コ ミュニ ティ活	13	古紙・古着リ サイクル推進 事業)	付等を通じ、市民	古紙回収に取り組 むまちづくり協議 会数		実 績	,			体の参 加 (毎年	継続	208, 944	190,050	減額	14, 150	順調	い、回収強化を図る。集源回収登録団体への啓発り旗の配布や、保管庫の	団資 のぼ	順調	家庭ごみとして出された古紀の分別・リサイクルの広報活動を行うなど、回収の強化に
動の支 援			DK	回収活動を支援する。			達 成 100. 率	0 %			度)							設置及び経年劣化による替えを推進する。			取り組む。
								度目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし											
					一般廃棄物のリサ イクル率	28.0% (RI年 度)	実 績 27.	9 %			30%以上 (R7年 度)										
							達 成 率	_													
								度目標 となし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以										
VI-I-				地域団体等が自 主的に活動する事	市民1人一日あた りの家庭ごみ量	468g (RI年 度)	実 績	g g			下 (R7年 度)										
(I)-③ 地域の 環境特	14 🙉	地域特性型 (メニュー選 択方式)市民	循環社会	業(剪定枝リサイ クル等)を支援す ることにより、地 域における自主的 な環境活動の拡大			達 成 率	_			/2/	- 継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	廃食用油の回収拠点を し、回収量の拡大を図る 剪定枝回収については	、近	順調	第2期北九州市循環型社会 形成推進基本計画に基づき、 地域団体等の参加数の増減に
取組の		環境活動推進 事業	推進課	と地域コミュニ			目標 86.	9 %	86.9 %	86.9 %		742.176	., 100	., 100	779-3 V	.,070		接地域での日程を見直し ら、回収体制の効率化を る。		. 97,879	あわせて、回収・リサイクル 体制の見直し、効率化を図 る。
推進				ティ活動の活性化を図る。	市民アンケート調 査における3R活動 の実施率		頯	7 %			86.9% (毎年 度)										
							達 成 98. 率	6 %													

					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施							+		【Check】 評価 /		(Action】 改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業所管	事業・取組概要		事業現状値	評価			目標・実績)		中期	成果の		R5年度 予算額	_ 于木貝	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施第	26.0 = 2.1 1 1 1
一地水石	番号	を構成する主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値))	R3年度		R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	
	② ③ 4 ⑥			市民環境力の持 続的発展を目指 し、環境モデル都 市を推進する活動			目標	150万人 以上		150万人 以上	I50万人 以上								市民による環境活動をさら		
	7 8 9 10 2 3	市民環境力支 援事業	環境 学習 課	への支援・事業構な するを共組を生め、新出 を共組を生め、新出 を知義信・本の発信・本の発信・では、発信・では、 では、発信・では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	エコライフステー ジ参加者数 (単年 度)	142.4万 人 (H24年 度)	実		万人			I50万人 以上 (R5年 度)	継続	12,207	12,007	維持	9,475	遅れ	に広げるため、新たなイベント開催方法などの検討や環境活動団体の支援に加え、WEB等を活用した取組の強化、SNS等での情報発信を積極的に行う。		
	(4) (5) (7)			る北九州エコライフステージ事業などを行う。			達成率	20.0	%												市民環境力を向上し、持 可能な社会を実現するため、 企業、NPO等の一層の協力を 得ながら、従来イベントだ でなくオンライン等も活用
VI-I- (2)-① 交流の							目標	360	回	360 回	360 回										し、市内外の幅広い世代へ 普及啓発に取り組む。また、 市民にエコなライフスタイ を浸透させる効果的な事業 あり方を検討しつつ、経費
場づく りと連 携の強 化				北九州市の公害 克服の歴史を伝え るとともに、世界 の環境首都を目指 して市民の環境力	環境学習サポー ターによる出張 ミュージアム回数	80回 (H26年 度)	実績	249	回			360回 (R5年 度)							環境ミュージアムスタッ	遅れ	減についても最大限取り組む。 地域における環境リーダの育成にむけて、環境ミュジアムスタッフ・環境学習ポーターや関係団体及び近
	(a) (b) (c) (d) (d) (d) (e) (e) (e) (e) (e) (e) (e) (e) (e) (e	環境ミュージ	環境	を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境を関連である」			達成率	69.2	%				<i>የነ</i> ዞ የ ‡	77 007	77,144	維持	9, 225	やや	フ・環境学習サポーターや関係団体及び近隣施設等との協働を進めるなど、活動続き地域る強化を図り、引き続き地域の環境リーダー育成に取り組む。また、オンライン講座		ホーラーや関係団体及び近い 施設等とのの働を進化めるなど、活動の現存のコンテンイ・ とともに、現存のコンテンイ・ の充実を関りオンラインライントや講座等を開催する。
	(3) (4) (5) (7)	州エコハワス維持管理業務	字音課	及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運			目標	130,000	人	130,000 人	130,000 人		· 杯胚 称冗	77,087	77,144	がF14	4, 223	遅れ	do。また、オンライン調座や イベントを開催するととも に、改修したカーボンニュー トラル展示等を活用した情報 発信をSNSやホームページ等 を使って行い来館者増を図		2 1 Chryse of Challe 7 6 6
				営、及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境ミュージアム 利用者数(単年 度)	134,124 人 (H26年 度)	実	42,873	人			I30,000 人 (R5年 度)							3.		
							達成率	33.0	%												

環境局																				
					[Plan]	計	画	/	【Do】 実加	拖						-		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No 3	基本計画の施 ・ル を構成する	争亲				評価	の成果指標	(目標・実績)	I. Ha	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策者	₩O. 3	主な事業・取	所管 課名			現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				持続等を図るため、 の構築重連ならせれている「持続可能なるため、 規模では持続可能に 開発のためをを 開発のが、北中、 MESD)協議会を			目標	90.0	% 90.0 9	6 90.0 %										
VI-1- (2)-②	17	3 ESD活動支援 ⑦ 事業	環境学習課	に、市民、企業、 大学等と連携しな がら推進する。 具体的には、あ らゆる人々が地域	アンケート調査に おける「持続可能 な社会づくり」を	_	実績	80.2	%		90.0% (R5年 度)	継続	20, 179	19,913	維持	16, 950	順調	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラン2021〜2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。		持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるよう、令和3年度に策定した「北九州ESDアクションプラ
(あるに環策参推) ()の主よ境へ加進 ()の体る政のの				している活動等に ESDの視点を加え て、暮らし等をか社会 のありく人いの場 でどびがしている。			達成率	89.1	%										順調	ン2021~2025」を基に、ESD 活動の継続・強化を行う。 また、引き続き、環境首都 検定の受検者増加に向けて、 企業や団体などへ「検定応援 団」等を活用した積極的なP を行い、市民全体が環境に関 心を持つきっかけとなること
				市民一人ひとり が環境との関わり を理解し、より良			目標	5,500	人 5,500 /	5,500 人								環境首都検定の受検者増加	1	を目指す。
	18	⊉ 環境人財育原 事業	環境 学習 課	い環境・地域づく りへの意識をもすこ て行動を起こすこ とのできる環境人		2,424人 (H26年 度)	実績	5,502	٨		5,500人 (R5年 度)	継続	13,567	13, 425	維持	9,975	順調	に向けて、引き続き企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全	:	
				財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。			達成率	100.0	%									体が環境に関心を持つきっかけとなることを目指す。	•	
VI-I-		3		世界の環境首都を目指すな九州市			目標	65	% 65 9	6 65 %										環境マスコットキャラク ター「ていたん」を活用し、 新型コロナウイルス感染症の
(2)-③ 環境 報の 集・ 様・ 提	19 (⑥ ⑦ ⑧ 環境施策広報 ⑪ ⑫		トキャラクター 「ていたん」を活		52.2% (H27年 度)	実績	66.5	%		65.0% (R5年 度)	継続	9,590	9,370	維持	8,700	順調	環境施策について、SNSを活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図るなど、より一層の活用促進を図る。	順調	感染拡大状況を確認しながら、他部局のイベント等でも PR活動を行い、環境への意識 向上を図る。 また、あらゆる世代の環場 への意識を向上させるため、
供	(3 4 5 7		民の環境意識向上を図る。			達成率	102.3	%											教育施設に「ていたん」を派遣するなど、取組を強化する。

環境局

				(Plan)				[Do		3								[Check]	評価		Action】 改氰	
後番号 を策名	No.	SDGs 基本計画の施策 ゴール番号 を構成する 主な事業・取組 課名	于宋 小仙帆女	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価の	の成果指 R3年度		目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に 強化・見直 (課題に対する	[した内容	R3年度 局施策 評価	26.0	た内容
-2-)-① ・ 民業 に 202 減		再生 再生 北九州市役所 の 環境・エネルル	し、省エイ法及ひ し、省工不法及ひ は対法の規制、平成 温対るため、実施し でいる企業で は、11本ののでは、11本のでは、1	市有施設のエネル ギー消費原単位の 改善	H22年度 総ルギー 東 領油 第 89,599 1)	実績 達	79, 743 78, 021 97. 8	kI	78,847 kl	77, 951 kl	R12年 ま2年で度 H22年で度 20%ネル使原 (エー量換算 71,6791 1)	* 継続	7,880	7,880	維持	5, 575	順調	ゼロカーボン に向けてると に実まり、新技術の合理 ボー消費の合理 である。	の率先垂範を に、本事業に 省エネ、節 用、エネル		引き続き、C02間経済の成長、脱炭するための取組を	表化を推
-			再生可能エネルギーの活用により、深刻化する気候変動問題と			目標		千円	90,000 千 円	90,000 千 円												
	可能	応りでは、 には には では には では では では では では では では では では で	省工ネ投資額 (千円) ※中期目標改訂	336, 998 千円 (H28年 度)	実		千円			累計 1,390,0 00千円 (H28~ R5年度)												
	21	̄ ⑨ す脱炭素化推 ギー	ネ方法等の最適化 についまり 能性を調査し検討 する。 さらに、低炭丸			達成率	47.9	%				- 継続	42,000	39 000	減額	4,825	やや	実績報告期間 に短縮する等、 和し、事業者の 図り、省エネの る。	補助要件を緩 負担の軽減を			
	① 中小企業の競 エネ ⑧ 争力を生み出 ル	け、市内中小企業			目標	14	件	12 件	15 件		- NE NOL	42,000	37,000	11º4, 13º4	4,023	遅れ	【中期目標の変成果指標につ間が到来したたもの。	いて、目標期				
			、目立てる推工、 の更になる推工、 の更になる推工、 を を は、 、 、 、 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、	補助金活用件数(件) ※中期目標改訂	61件 (H28年 度)	実績	8	件			累計 240件 (H28~ R5年度)											
			当事業により環境に配慮しつつ中 小企業の競争力を 高める。			達成率	57. I	%														

環境局

			- 3E		[Plan]				o】 実施							L PE ST		【Check】 評価 / 【Action】 改善
号 (名 No. §	SDGs ゴール 番号		要業管名	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	iの成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて R3年度 R5年度に向けて 強化・見直した内容 局施策 強化・見直した内容 は課題に対する改善方法等) wife (課題に対する改善方法等
		Live State of the		令和3年8月に改 定した「北九州市 地球温暖化対策実		(金千旭)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	目標		(千円)	(千円)		(千円)	_ 評価 _	(課題に対する改善方法等) 評価 (課題に対する改善方法等 市民や事業所の自主的な行動を促し、ライフスタイルの 変革を後押しするとともに、環境省の取組と連携した様々 な啓発事業を展開し、本市に
22	7 (1) (2) (8) (7)	地球温暖化対	一成推課	行目に業まかをある強い 計標のけ、以対を は、 で は で が は で が は に が た に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	温室効果ガス排出 量の削減(万†) ※中期目標改訂	温室ガス 排出出 1,859万 † (2013年 度)	実績				2030年 度温期 ス 基2013 年度 47%減	継続	7,846	7,533	維持	3,650	順調	おける地球温暖化対策を推進する。 【中期目標の変更内容】 温室効果がス排出量について、算定基礎としている各種統計データの遡及修正、より、 っるデータの値が変更等により、 過年度の値が変更される場合があることから、削減比率だ
				KitaQ Zero Carbonプロジェク トの更なる音、学 大に向けてなった市			成率 目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								けで表示することとしたもの。 温室効果ガス排出削減目標を着実に達成するためには、 市民一体となった取組が重要である。
23	7 10 2 8 7	Carbon関連プレロジェクト創 山東安	一成推課	、民ン施ト連一すへめダとに、 ・参トを、「携体るの、一もよいで、大きなでは、大きなでは、大きなでは、 ・参トを、「提いと求世育、自いで、大きなでは、大きなでは、大きなでは、 ・登をは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、 ・で実りのてト代ーと導げ、大きなが、大きなでは、大きなでは、大きなが、大きなが、というでは、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが	温室効果ガス排出量の削減(万t) ※中期目標改訂	温室効 果が3 非出り 1,859万 † (2013年 度)	実績	_			2030年 度効温果排 ス量2013 年2013 年47%減	拡大	3,500	7,500	増額	8,150	やや 遅れ	携強化に向けた基盤を整備してきた。 で和5年度は、これらの体制を基盤に、具体的なアクションを実践できる場を、外部リソースを最大限活用して数多く創出する。 【中期目標の変更内容】 温室効果がス排出量について、算定基礎としている各種統計データの適果を使用して
				ロジェクトの創出 を促進するもの。			達成率	_										するデータの変更等により、 過年度の値が変更される場合 があることから、削減比率だ けで表示することとしたも の。

					[Plan]	計	画	/ 【Do】 実施						(【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
番号 No	SDG	基本計画の施 を構成する 主な事業・取	主要 事管	事業・取組概要			評価の	の成果指標(目標・実績)		成果の	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
策名 100	番4	主な事業・取	組 課名	李术 机恒帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度 R4年度	R5年度 中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
				N/H + 11 A - +			目標	512,980 kW	500,917 kW									
				脱炭素社会の実現に向けて、 ・公共施設群及びエコタウンの再エ	PV・風力等再エネ 導入量(kW・累 計)	0kW (R3年 度)	実績		756, kV (RI2	年						第三者所有方式による自家 消費型太陽光発電や省エネ機		
	. (T	(美塊に回げ)	티	ネ100%電力化 ・EVを活用した自 律型エネルギー実			達成率		度							器の導入スケジュールを精査 し、見直しを実施した。 また、公用車EV化に向け		
24	4 9	● 再エネ100	ッ ギー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	証 ・北九州都市圏域 への再エネ普及促 進			目標	496,000 t	485,000 t 累i	,,,,,,,,	1,052,000	461,700	減額	18, 950	_	た、高効率かつ高度なエネマネ制御を備えた充放電器実証 事業の規模を拡大する。 北九州都市圏域の自治体へ		
			課	・バイオマスエネ ルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化	C02削減量(†)	0+ (R3年 度)	実績		3, I I 43+0 (R4	3, 7 02 ~						の勉強会や伴走支援による連 携強化を図る。		
				に取り組む。		,,,,,	達成率		R12 度									
							目標		500,917 kW									
				環境省が令和5年 度に実施する予定 の「地域脱炭素移 行・再エネ推進交	PV・風力等再エネ 導入量(kW・累 計)	0kW (R3年 度)	実績		756, kV (RI2									
			再生	付金」の重点対策 加速化事業を活用 しつつ、脱炭素先)支)	達成		度							環境省が令和5年度に実施する予定の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」の重点対策加速化事業を活用しつ		
2!	19	(業者等への) エネ100%北	エネルギー	行地域における第三者所有方式による太陽光発電設備			率				_	103,000	_	18, 950	_	一つ、脱炭素先行地域における 第三者所有方式による太陽光 発電設備や省エネ機器の設置		
	Œ	九州モデル 及推進事業	導入 推進 課	や省エネ機器の設置(再エネ100%北 九州モデル)を市 内のスーパーマー			目標		485,000 † 累i	<u> </u>						(再エネ100%北九州モデル)を市内のスーパーマーケット、ドラッグストア、脱炭素電力認定企業等に横展開		
				ケット、ドラッグ ストア、脱炭素電 力認定企業等に横 展開する。	C02削減量(†)	0+ (R3年 度)	実績		3, 11 43†0 (R4 R12	3, 7 02 ~						灰糸电灯説足近来守に懊ਲ用する。		
							達成		度									

環境局

環境局																			
					[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施						-		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号 · 施策名	No. SD	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要		事業	評価	の成果指標(中期	成果の R4年度 方向性 予算額		事業費		R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	
心形水石	番	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)	Щ	R3年度	R4年度	R5年度	目標	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
	26) 脱炭素サプラ ンイチェーン支		市、供産の 市、供産の で、では、 で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	北九州エコプレミ アム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標 実績 達成率		5 件	5 件	累計240 件 (R6年 度)	— 9.654	4, 354	その他	5,825		「環境イノベーション促注 事業」の内、事業の役割を終 えた「環境イノベーション「 材育成事業」を廃止し、「 炭素サプライチェーン支援 [®]	冬 人 兑	
V.T. 2	20	ᄺ	ショ支援課	や技術、サービス から「北九州エコプ レミアム」を選定 し、広くPRするこ とで、市内環境関	エコタウン事業に	9億円	目標実		7 億 円	7 億 円	7億円		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		3,222		業」を実施する。 市内企業に対し、脱炭素系 営を促すため、実際の成功 例の紹介などを行うセミナー を実施する。	F	
VI-2- (2)-② 低炭素				連産業の活性化を 推進する。	よる投資額(単年 度)	(H26年 度)	績				(毎年 度)								发出来从运营上上, 社会
社会に貢献者							達成率											順調	低炭素化に寄与する技術開発や製品・サービスの提供拠点の形成に向け、脱炭素化に向けたサプライチェーンの構
製サス拠形の				新規性、独自性 に優れた環境技術			目標	38 件	39 件	40 件									築や環境未来開発助成を引き 続き実施する。
	27	環境未来技術 開発助成事業	21-	の研究開発費の 部助成業をはじました が出来ないでは、 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。	本助成事業で助成 した研究開発の事 業化数 (累計)	27件 (H26年 度)	実績	40 件			40件 (R5年度 まで)	継続 50,000	48, 000	維持	4, 595	順調	環境未来技術開発助成を記じた次世代資源循環型産業特点形成は、「北九州市まちひと・しごと創生総合、更に「内企業等支援に注力していく。	W	
				環境分野の技術の集積を促す。			達成率	105.3 %											

							[Plan]	計画	/ [Do】 実施							-		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
番号 No	SDG: 3'-1	基	本計画の施 を構成する	77	· *	事業・取組概要			価の成果指標	(目標・実績)		-L- #0	成果の	R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
来も 3- -①	番号	主	な事業・取	20 17	f管 限名	子术 机组侧叉		状値 準値) 目	R3年度 単年度目標 設定なし	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価 順調	(課題に対する改善方法 第2期北九州市循環型社 形成推進基本計画に基づ
環に3動進							中氏 人めたりの (H2	. Ikg 2I年 度)	30.4 kg			第2期循 環社会 計画に 準拠	i								家庭ごみとして出された。の分別・リサイクルや食品 スの削減、事業系ごみの 化等に引き続き取り組む。 プラスチック資源一括「 に向けて、分別方法等の」
								道 成 率	— S												を徹底して行う。
						一般廃棄物の減量化・資源化促進 のため、古紙・古		目標			137 団体	全137団							家庭ごみとして出された古 紙の分別・リサイクルについ		
2	8 12	サ	紙・古着 イクル推議 業	社	会進	着回収奨励金の交 付等を通じ、市民 団体による集団資 源(古紙・古着)	むまちづくり協議 (H2	2団体 26年 度)	137 団体			体の参加 (毎年度)		208, 944	190,050	減額	14, 150	順調	て、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。集団資源回収登録団体への啓発のぼり旗の配布や、保管庫の新規		
						回収活動を支援す る。		達成率	100.0 %			(人)							設置及び経年劣化による建て 替えを推進。		
								目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし										
							一般廃棄物のリサ (R	3.0% (XI年 (支)				30%以上 (R7年 度)									
								達成率	— S												
								E 榜	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし										
						地域団体等が自	中氏I人一日めた (R	68g RI年 賽)				440g以 下 (R7年 度)									
		(域特性型 メニューi	き シュ	環	主的に活動する事業(剪定枝リサイクル等)を支援することにより、地		适成率	-			(支)							廃食用油の回収拠点を拡大 し、回収量の拡大を図る。 剪定枝回収については、近		
2	9 12	環	方式)市[境活動推議 業	民性 課	進	域における自主的 な環境活動の拡大 と地域コミュニ		E 楞		86.9 %	86.9 %		- 継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	接地域での日程を見直しながら、回収体制の効率化を図る。		
						ティ活動の活性化 を図る。	査における3R活動(H2	5.9% 28年 (麦)	85.7 %			86.9% (毎年 度)									
								适成率	98.6 %												

						[Plan]	計	画	/ [D	0】 実施	i						+		【Check】 評価	/	[Ac	tion]	改善
施策番号 ,	SI Io	DGs 基	基本計画の施策 を構成する Eな事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標(目標・実績)	ı		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R34			度に向けて 見直した内容
・施策名 "	番	产主	とな事業・取組	所管課名	李来 机恒帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法	hr \ /201	も策 ·価		する改善方法等
								目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以											
						市民I人一日あた りの家庭ごみ量	468g (RI年 度)	実績	462 g			下 (R7年 度)											
								達成率	_										市民や事業者による食	묘ㅁ			
			-u		食品ロス削減の取組「残しま宣			目標	86.9 %										ス削減の取組、フードドブの推進、「残しま宣言動の普及・啓発のよりー	ライ 」運			
3	30	D H	コス・生ごみ	社会 推進	言」運動の普及・ 啓発や、生ごみリ サイクル講座等の 実施によって、生	市民アンケート調 査における3R活動 の実施率		実績	85.7 %			86.9% (毎年 度)	継続	7,800	7,800	維持	8,825	順調	充実を図る。 より多くの市民が、3R を醸成できるよう、リデ	ュー			
			,		ごみの減量化・資源化を推進する。			達成率	98.6 %										スクッキング講座や生ご サイクル講座等の未実施 などを対象に、講座実施 きかけを行う。	地域			
						市民アンケート調		目標		単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし												
						査における食品ロス削減の取組実施率	58.3% (RI年 度)	実績				80%以上 (RI2年 度)											
								達成率															
				循環	事業所に対する		/	目標			単年度目標 設定なし								事業系ごみ対策を行う め、事業所への個別訪問!				
3	31	1 0 <	〈新>事業系 ごみ対策事業	社会	一般廃棄物の減量 化等の推進を図 る。	一般廃棄物のリサ イクル率	28.0% (RI年 度)	実績				30%以上 (R7年 度)	_	-	1,230	_	7,825	_	るごみの分別等について 発・指導や、焼却工場で 入状況の確認強化などに	の啓 の搬			
								達成率											組む。				
								目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	(00/1)/ L							令和5年10月開始予定の	\ ~			
					国の動向と歩調	プラスチック製容器包装の分別協力率	44.4% (RI年 度)	実績達	45.6 %			60%以上 (RI2年 度)							ラスチック資源一括回収 う、分別方法の変更等に ては、様々な媒体を活用	に伴 つい			
3	32 (り ③ ス	スチックス	## を合わせながら を合わせながら にはまで、更な。 を合わせながら にはまで、更な。 がラスチックで がラスチックで でう源循環には た施策を推進する。				成率	_				拡大	38,000	30,000	減額	13,075	順調	て、市民が分かりやすい を徹底して行う。 不要な使い捨てプラス	広報チッ			
			- 1 16年				468g	目 標		単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	440g以							クごみの削減に向けた啓動や、家庭ごみに含まれ ラスチック資源の分別・ イクル促進による回収強	るプ リサ			
						市民1人一日あたりの家庭ごみ量	(RI年 度)	実績達				下 (R7年 度)							イブル促進による回収強 どの取組についても、継 て実施していく。				
								建成率															

						[Plan]	計	画	/ [Do】 実施	Ē						+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	BGs -ル	本計画の施策 を構成する とな事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価		(目標・実績)	T	中期			R5年度 予算額	事業費	(目安)	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・他東名	番	号主	とな事業・取組	課名	7 770 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	丁 昇 領 (千円)	17 昇領 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対するこ		評価	(課題に対する改善方法等)
					本市では、第2期 北九州市循環型社			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	440g以										
					会形成推進基本計	市民I人一日あた りの家庭ごみ量	468g (RI年 度)	実績	462 g			下 (R7年 度)							笠つ切り おかま	循環刑社		
VI-3- (I)-② 適正な		① 市	5循環型社会	社会	策定し、ごみの減 量化・資源化、適 正処理の推進等を			達成率	-				継続	1,049	1,046	維持	2, 325	順調	第2期北九州市 形成推進基本計画 新規分別回収の限 より分かりやすい	画に基づき、 昇始に併せ、	順調	第2期北九州市循環型社会 形成推進基本計画に基づき、
廃棄物 の処理			が成推進基本 ↑画推進事業		行っている。 本事業では本市 のごみ処理に関す る現状を分析し、			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし			,,,,,,	1,010	W#14	2,020	704 (1)	周知・啓発をするるごみの減量化・する施策を実施する	るなど、更な ・資源化に資	75(114)	循環型社会の構築に向けた取 組を推進していく。
					より効果的・効率 的な施策や啓発・ 広報の方法の検討	一般廃棄物のリサ イクル率	28.0% (RI年 度)	実績	27.9 %			30%以上 (R7年 度)										
					を行う。			達成率	_													
					産業廃棄物の適			目標	2 件	2 件	2 件	= 2件							産廃処理事業者 業者に対して、通			
					正処理・3Rを推進 するため、優れた 排出事業者・処理	優良産廃処理業者 の認定件数 (単年 度)	4件 (H26年 度)	頹	3 件			(RI年度 以降毎 年度)							業廃棄物の減量(した3Rについて、 発を行う。	ヒをはじめと		啓発や認定制度の実施を通
VI-3- (I)-③ 産業廃	24			廃棄	業者への認定やインセンティブ付 与、排出・処理動			達成率	150.0 %				- 継続	14,871	14, 105	減額	615	順調	また、認定制度じて優良な事業者	皆の育成を進 良認定事業者	順調	じて、優良な産廃処理業者、 排出事業者の育成を進め、さ らに優良認定事業者の取組を
棄物排 出量の 減量化		D E	Ľ推進事業		向や将来見通しの 分析・公表、産業 廃棄物3R・適正処 理講習会等を活用		0.41	目標	2 件	2 件	2 件								の取組を広く周5 とで他者への横尾 業廃棄物処理業界 推進する。	展開を図り産		広く周知していくことで産業 廃棄物処理業界の活性化、廃 棄物の減量化・資源化を推進 する。
					した適正処理・3R 情報の普及啓発を 実施する。	優良排出事業者の 認定件数(単年 度)	2件 (H26年 度)	実績達	I 件			2件 (毎年 度)							なお、令和5年 において、令和4 委託料を精査し、	年度までの		
VI-3-								建成率	50.0 %										図った。		十亦	再エネ大量導入において課
(2)-① 次世代 資源循								目標	7 億 円	7 億 円											大変順調	サイクル、車載用蓄電池のリ ユース・リサイクルのシステ
環型産 業拠点 の形成					資源循環型社会 の実現に向けて、	エコタウン事業に よる投資額(単年 度)	9億円 (H26年 度)	実績	l5 億 円			7億円 (毎年 度)										ムの構築等を実証から事業化 まで支援する。
	(7) 8) 11:	と九州エコタ	イノ	環境産業の集積化 と環境・エネル ギー技術開発の拠			達成率	214.3 %				/mlr /r+	22.144	22.040	//L+	, 585	大変	北九州エコタウ なる発展を目指し			
	35 (シ D D	7ン事業	ショ ン支	点化を図るため、 企業支援や国等関 係機関との協議の			目標	100,000 人	100,000 人	100,000 人		→ 継続 	22,166	22,060	維持	4,575		リサイクル拠点 <i>σ</i> ていく。			
					ほか、貸付用地の 維持管理を行う。	エコタウン視察者 数(単年度)	100,332 人 (H26年	実	40,032 人			10万人 (毎年 度)										
							度)	達成率	40.0 %													

環境局)																		
					[Plan]	l 計i	画 /	[Do] 実施	Ē						+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号	No. 3'-1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の成果指標	(目標・実績)	1	-t-#0	成木の	R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八加州女	指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	才昇額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	戸 評価	(課題に対する改善方法等)
	9	<新>蓄電池 のリユース・ リサイク フェーム 様 筑	環境イノ	トノ電るめのイるト低構 定てス方利蓄国した。 カラロ池集、リクと一減築ま置活や式用電にていいご産権車ユルと卯する、蓄す、にシ池先いと卯るる、蓄立、スの駆くいた、ス組 電池リ者蓄ム用でした。 は、ス組 電池リオ電ムの駆く かんしょう かんじょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんじょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しょう かんしょう はいいい しょう はいましょう かんしょう しょう しょう はいまい しょう しょう はいまい はいまい しょう はいまい しょう はいまい しょう はいまいまい しょう はいまいまいまん はいまいまん はいまいまん はいまいまいまん はいまいまいまん はいまいまいまいまいまん はいまいまいまん はいまいまん はいまいまん はいまいまい しょう はいまいまい しょう はいまいまいまい しょう はいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいま	策定した計画に基 づき設定予定		目標 実績 達成率		策定した計画に基づき設定予定	策に基設定を予定にき予定にも		_	4,000	_	4,575	_	カーボンノニュジーを表示している では できない かった かった かった かった かった できな できな できない かった いった できない かった できない かった かった できない かった できない かった できない かった いった いった いった いった いった いった いった いった いった い		
VI-3- (2)-②分 環野は が の 促進	37 (T)	環境未来技術 開発助成事業	環イベシン援	新規れた ・ の部の企 ・ を研助 ・ の部の企 ・ を研 ・ ののので ・ のので がして を を を を を を を を を を を を を	本助成事業で助成 した研究開発の事 業化数(累計)	27件 (H26年 度)	目標 38 化 実績 40 化 達成率	ŧ	40 (‡	40件 (R5年度 まで)	継続	50,000	48,000	維持	4,595	順調	環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦野、 の一つであり、今後、更に市 内企業等支援に注力してい く。	順調	環境未来技術開発助成を通 じた次世代資源循環型産業拠 点形成は、「北九州市まち・ ひと・しごと創生総合戦略」 の一つであり、今後、更に市 内企業等支援に注力してい く。
VI-4- (1)-の 多 自然・4 境 ・	2 4 6 8 9		環監課	都生恵然」 自然な用する。 と自か活生車機なり 自か活生車機ない ともない。 ともなりでは、 ともがに、 ともない。 ともな。 ともない。 ともない。 ともない。 ともない。 ともない。 ともな。 ともな。 ともな。 ともな。 ともな。 ともな。 ともな。 ともな	環境首都100万本 植樹プロジェクト 推進(累計)	657, 903 本 (H27年 度)	目標 904,000 才 実績 750,223 才 達成率 83.0 9		970,000 本	累計 100万本 植樹 (R6年 度)		14,013	12,504	減額	16, 300	順調	自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠である。 新型コロナウイルス感染症がら、新型コロナウイルス感染症がら、形成に大防止対策を行いったがら、ア団体などと協働している環境保全活動を進めてい	順調	多様な自然環境・生物多様 性の保全を行うため、市民・ NPO、事業者等による自然環 境保全活動を推進し、希別種 (策全や外来種対策、生態系の
物多様の保全	(3) (4) (5) (7)		. Maria	たって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指 す。	自然環境保全活動 参加者数 (イベン ト等の延べ参加者 数)	2,000人 (毎年 度)	度 実績 (2,500 / 達成 (125.0 9		2,000 人	2,000人 (毎年 度)							く。なお、市民との協働による事業の効率化を図り、一部 取組のコスト削減を行った。 また、COP15や次期生物多 様性国家戦略の策定など国内 外の動きを踏まえ、本市戦略 の改訂作業に着手する。		保全に向けた取組を進めていく。

					[Plan]	計记	画	/	[D	o】 実施							—		【Check】 評価 /	<u> </u>	ction】 改善
施策番号 ・施策名	No.	50Gs 基本計画の施策 2 ¹⁻¹ を構成する 主な事業・取組	主要業管名	事業・取組概要		事業言 現状値 基準値)	評価の	の成果指 R3年度	- 1	目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
			踩石		(3	⊗平値/	目標	904,000	本	937,000 本	970,000 本	目標		(+11)	(千円)		(千円)	評価		評価	
		2			植樹プロジェクト (単独 (男計)		宝	750, 223	本			累計 100万本 植樹 (R6年							自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠であ る。		
-4-)-② 近に 然を		④ ⑥ ⑧ ⑨ 生物多様性戦	環境	共生「豊かな自然 の恵みと共生する ち」を基本理念 に、生物多様性を			達成率	83.0	%			度)	继结	1/4 013	12,504	減額	16, 300	順調	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止対策を行いな がら、継続して市民やボラン ティア団体などと協働して自	順調	多様な自然環境・生物多性の保全を行うため、市民NPO、事業者等による自然境保全活動を推進し、希望
ぶる 市り		① 略推進事業 ③ ④ ⑥	課	保全し、将来にわたって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指	占 砂理 护 / L 人 江 禾 L		目標	2,000	人	2,000 人	2,000 人		和生物店	14,013	12, 304	<i>11-1</i> 2, 1134	10, 300	川央司司	然環境保全活動を進めてい く。なお、市民との協働によ る事業の効率化を図り、一部 取組のコスト削減を行った。	州兵 副 明	保全や外来種対策、生態系保全に向けた取組を進めてく。
		(7)		す。	参加有数(イベン) 人等の延べ参加者		実績	2,500	人			2,000人 (毎年 度)							また、COPI5や次期生物多様性国家戦略の策定など国内外の動きを踏まえ、本市戦略の改訂作業に着手する。		
							達成率	125.0	%												
				絶滅危惧種をは じめ、500種類以上 の動植物が生息す る環境を保全しつ			目標	4,000	人	4,000 人	4,000 人								指定管理者制度による民間 活力を利用し、市民と自然と		
	40	④ 響灘ビオトー動 プ運営事業	環境 監視 課	様性の重要性など		000人 (毎年 度)	実績	2,704	人			4,000人 (毎年 度)		45,506	45,616	維持	7,225	順調	のふれあいの場となる環境学 変を設として継続的な運営を 行うとともに、生物の生息環 境の保全にも配慮する。		
				が学習できる施設 として響灘ビオ トープの運営を行 う。			達成率	67.6	%												市民と自然のふれあいも
-4-)-③ 民と							標	904,000	本	937,000 本	970,000 本	累計							自然環境保全に関する活動		進するため、市民やボランティア団体などと協働して、然環境保全活動を進めていく。
然と ふれ の 進		2		共生「豊かな自然	植樹プロジェクト (単独 (男計)		実績	750, 223	本			100万本 植樹 (R6年 度)							は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠であ る。 新型コロナウイルス感染症	順調	響灘ビオトープについては、市民と自然とのふれるの場として、環境学習の均提供するとともに、生物の
	41	⑥ ⑧ ⑨ 生物多様性戦 略推進事業	環境 監視	の恵みを活用し 自然と共生するま ち」を基本理念 に、生物多様性を			達成率	83.0	%				- 継続	14,013	12,504	減額	16, 300	順調	の感染拡大防止対策を行いながら、継続して市民やボランティア団体などと協働して自然環境保全活動を進めてい		息環境の保全にも配慮する
		(1) (3) (4) (6)	課	保全し、将来にわ たって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指	自然環境保全活動。		目標	2,000	人	2,000 人	2,000 人								く。なお、市民との協働による事業の効率化を図り、一部 取組のコスト削減を行った。 また、COPI5や次期生物多		
		(7)		す。	参加者数(イベン 2,	000人 (毎年 度)	績	2,500	人			2,000人 (毎年 度)							様性国家戦略の策定など国内 外の動きを踏まえ、本市戦略 の改訂作業に着手する。		
							達成率	125.0	%												

					[Plan]	】計	画	/ [0)o】 実施							-		[Check]	評価	/	[Action]	改善
施策番号	No. 3	』 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要		事業現状値	評価の		(目標・実績)		中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年月 局施第	~	年度に向けて ・見直した内容
nex-t	番	主な事業・取組	課名	市内の産業廃棄 物の不法投棄の未 然防止や拡大防止	指標名等	(基準値)	目標	R3年度 I,100件 以下	R4年度 I,100件 以下	R5年度 I,100件 以下	目標	力问任	(千円)	(千円)	の時心	(千円)	評価	(課題に対する 廃棄物の不法 ピーク時に比べ るものの、依然	投棄件数は、 て減少してい	評価		対する改善方法等)
	42 (1)	不法投棄防止 事業	廃棄 物対	を目的ロータ とし、 とし、 とし、 を は り口を が が が が が が り に り に り に り に り に り に り に	廃棄物の不法投棄 件数 (単年度)	I,100件 (H26~ 30年度 の平均 値)	実	696 件			I,100件 以下 (R2年度 以降毎 年度)		15,979	14, 252	減額	11,650	大変順調	ることから、こ を継続し、当の 新及び設置場所 い、不法投棄関 的に集め、早期	抑止効果のよ 新規拡大、 fの見直しを行 j連情報を積極	ī Ī		
				ともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。			達成率	136.7 %										去に努めることの長期化・拡大る。	で、不法投棄			
				大気汚染防止法 第22条の規定に基 づく大気汚染状況 の常時監視を行う ため、公害監視セ			目標	_	_	_								N. A				
	43 ①)大気汚染常時) 監視システム) 整備保守事業	監視	ンターと市内に設 置した常時監視測	大気環境の適正な 把握	_	実績	_			大気環 境の適 正な把 握	継続	13,474	13,474	維持	6,075	順調	法令に混するに基でで確という。	『かつ切れ目な があるため、 ・ステムの適』	2	パトロー	棄防止に向け、監 レ等を継続すると 去投棄発生場所情:
VI-4- (2)-① 生活保 対 推進				全の推進に役立て るとともに、大気 環境の現状把握に 努める。			達成率	_												大変順調	等を参考(置場所の) よる(よるため、 メラの更	こ、監視カメラの記 見直し及び老朽化り 等の事故を未然防 設置年数の古いた。
16.26				環境法令に基づ			目標	_	_	_											守、計画的	りなモニタリング: 竟質の現状把握、絹
				き、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定(環 境モニタリング)などを行い、環境	現状の環境を保全	_	実績	_			現状の 環境を 保全							大気、水質、 ついて、モニタ				
	44) 環境対策事業	環境 監視	質の現状を把握し、維持・向上に 努める。 また、市内企業 を対象に、環境モ			達成率	_				- 継続	47,947	46, 161	維持	8, 325	順調	立て、測定を組 現状を把握し、 努める。 また、市内企 境保全に関する	継続し環境質の 維持・向上に 注業に対して理) -		
	12		課	ニタリング結果等 を共有し、環境保 全を一層促進モニタ ため、環境モニタ リングの結果や環			目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命							催することで、 対する理解を促 に、大気汚染や いて事業者の自	市内の環境に 進するととも 騒音などにつ	5		
				境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	企業の法令順守の 徹底	_	実績	0 件			令 0件 (毎年 度)							促す。				
				• •			達成率	_														

環境局						[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施							4		【Check】 評価	/	【Action】 改	(善
施策番号	SDG	基本計画の	か施策	主要事業	古米 Favoior T		事業	評価	の成果指	標 (目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年	26 th 12 12 14	
·施策名	No. ゴー番号	を構成で 主な事業	・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減		事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施 評価		
								目標	前年度 (207†) 水準を維)	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	- 前年度										
					令和3年8月に改 定した「北九州市 地球温暖化対策実	ノーマイカーデー 実施によるCO2削 減量(単年度)	200t (H26年 度)	実績	284	t			 										
	(7) (1) 45 (2)	地球温暖	化对		行計画」に掲げた 目標の着実な達成 に向け、市民、事 業者、行政がこれ			達成率	137.2	%			,,,,	- 継続	7,846	7,533	維持	3,650	大変	市民や事業所の自主的な行動を促し、ライフスタイルの変革を後押しするとともに、環境省の取組と連携した様々	Ď		
	•				まで以上に計画的 かつ効果的に取組 を推進する必要が あるため、各種調	~ ~ 1\ = 1\ \dagger \tau \tau \tau^0		目標	前年度 (573†) 水準を維)	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度						順調	な啓発事業を展開し、本市 における地球温暖化対策を推立する。		市民や事業所 動を促し、ライ 変革を後押しす 環境省の取組と	フスタイル <i>σ</i> るとともに、
VI-4- (2)-②					査及び啓発事業の 強化等を行う。	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量 (単年度)	505t (H26年 度)	実績	883	t			水準を 維持 (毎年 度)									な啓発事業を展 おける地球温暖 する。	開し、本市に 化対策を推進
自動車 環境対 策の推 進								達成率	154.1	%											順割	台数等の様々な 全国的にも目標	トやFCV普及 課題があり、 の8割程度に
					水素利用の拡大 方策、水素エネル ギービジネス実現 に向けた仕組みづ くりの検討を行			目標	5	箇所	5 箇 所	5 箇								水素ステーションの設置していては、コストやFCV普及台数等の様々な課題があり、 全国的にも目標の8割程度に とどまっている状態である。		とどまっている 市民・物流事 イベント出展、 化し、本市の先 効果的にPRし、 ギーの社会的浸	業者へのPR, 視察対応を発 進的な取組を 水素エネル
	46 9) 水素エネ) ギー社会) 推進事業	構築	ン成 長推	つ。 また、水素エネルギーの社会への 浸透を目指し、 「本市の先導的な 取組」や「水素エ	水素ステーション の設置件数(累計)	箇所 (H26年 度)	実績	3	箇所			R6年度 までに5 箇所	継続	8,650	8, 337	維持	4,650	順調	水素ステーションの普及には、水素需要量の拡大が必要なことから、1台当たりの水素消費量が多いFCトラック等の導入について、物流事業をの検討を進める。	手		
					ネルギーが便利で 身としてもられている はいなをもらえる はいる発を実施する。			達成率	60.0	%										また、市民へのPR,イベント出展、視察対応を強化し、本市の先進的な取組を効果的にPRし、水素エネルギーの社会的浸透を目指す。	5		
VI-4-					市内の工場・事 業場に対し、大気 汚染防止法・水気質 汚濁防止法等に基 づいて、立入検査			目標	300件 以下		300件 以下	300件 以下								排ガス・排水等の測定計画	ーの社 定計画 排の効	排ガス・排水	
(2)-③ 業公止す境の ででである。 (2)・ (2)・ (3) 者害にる管強	3 ⑥ ① 工場・事業場 ② ② ④			環境 監視 課	及び排が制定を が規制項を を があります。 を の の の の の の き の り を る の り を る の り き る の り き る の り と を る の り と ら る の り と ら る の り と り と の り と の り と の り と の り の り の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の に の に の の に る の に の に	公害に関する苦 情・要望件数 (単年度)	243件 (H26年 度)		218	件			300件 以下 (毎年 度)	継続	24,688	21,373	減額	38, 575	大変順調	の効率化により予算の見直 を実施した。 工場・事業場への立入検う や行政測定を継続実施する。 とで、事業者の環境管理の 組を促進させることにより、	全 大変 大変 順記		への立入検 継続実施する からの公害に 望を処理する
化					進を図る。また、市民苦情・要望を対し、発生源に大・要望対し、発生源に対して、発生を行う。			達成率	127.3	%										公害の未然防止に努める。		保を図る。	

環境局						[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施							-		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
5策番号	lo.	iDGs 基	本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	5の成果指標((目標・実績)		-t-#B	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件實 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	1	主	な事業・取組	所管 課名	子术 - 八祖 元文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	戸価	(課題に対する改善方法等
I-4- 2)-④ &境大 认汚染 対策の 詳進	48	● 監	気汚染常時 視システム 備保守事業	監視	第でのたン置定網行果全大22条片の大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、	大気環境の適正な 把握	_	目標実績達	-	-	-	大気環 境の 正な 握	継続	13,474	13,474	維持	6, 075	順調	法令に基づき、市内大気環境の状況を正確かつ切れ見なく監視する必要があるため、今後も、監視システムの適正な保守・維持管理を継続する。	順調	計画通り測定網を保守し 気環境の適正把握に努める ともに、課題解決に向け、 守の方法について見直しを う。
					るとともに、大気 環境の現状把握に 努める。			足成率	_												
					受修内諸し市わ術指し市わ術指し市り術園が 本の指導 がいまれる 豊新 でいまる 電子 でいまる また でいまる また いいまん いいまん かいまん はいい かい か			目標	14 件	15 件	15 件										
			境国際協力 進事業	環境 国際 課	る。まは機は東京では、関連報収と間には、大きに、関連をは、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに	戦略的環境国際協 カ事業の件数 (累計)	6件 (H26年 度)	実績	14 件			I5件 (R5年 度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	順調	国や国際機関等の補助金も 活用しながら、引き続き事業 を推進する。		
- I -)-① 場力 協推進					る。やしまない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			達成率	100.0 %											順調	KITAやJICAなど関係機連携し、国や国際機関連第し、国や国際機関助金も活用しながら、引き研修受け入れや派遣指環境に関する技術・社会テムの輸出など、環境国別を推進する。
	(3 4 6 7 8		環境	アューマ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	アジア地域での C02排出量を削減	本市C02 排出量 I,835万 † (H25 年度)	実績 達成			単年度目標設定なし	H25年度 比75% 削減 (RI2年 度)							「アジアの環境人材育成拠 点形成事業」と「アジア低炭 素化センター推進事業」を統 合し、「環境国際推進事業」 として実施する。 KITA・IGES等の関係機関と		
	50 (രി <	新>環境国 性進事業	国際 課	性また係る所では、おっている。では、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	I,209人 (H26年 度)				460 人	460人 (毎年 度)		_	23, 180	_	66,650	_	密に連携しながら、事業実施や案件発掘に係る協議を行い、市内企業の受注拡大を目指すほか、環境人材育成に係る研修誘致や研修実施を係じて更なるビジネス案件の創出を図る。		

			_ <u> </u>		(Plan)			/			実施								人作歌		[Check]	評価		[Actio		
施策番号・施策名	No. 3'-	』 基本計画の施設 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	IL III A M	事業現状値	評価	の成果指				DE #		中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見ご		R3年月 局施第		R5年度に向 蛍化・見直し	
16.4.4	3 4 6 7		課名	アジアカーボン ニュートラ核と ターを中核として、環境(では関する 多様な技術や海外 システム等を海外	指標名等 アジア地域での C02排出量を削減	本市C02 排出量 I,835万 † (H25 年度)	- 実	R3年度	1	R4年	·······································	R5年 単年度 設定な	目標	H25年度 比75% 削(RI2年 度)		(千円)	(千円)	の方音が、	(千円)	評価	点形成事業」と 素化センター指 合し、「環境国	最境人材育成技 (「アジア低点 注進事業」を系 国際推進事業」	· 評価	/ 2m H	題に対するこ	改善方法等 》
	51 9 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	(新>環境區 際推進事業	環国戦課	(、地域経済の活	アジアの環境人材 育成のための研修 員等の受講者数 (単年度)	I,209人 (H26年 度)						460	Д	460人 (毎年 度)	_	_	23, 180	_	66, 650	_	として実施は実施は KITA・携しIGESの 密に連携をでいます。 でを案件市内の では、まない では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	Fの関係機関と が らい が の は が の は は は は は に の に の に は は は に に の に は は は に に に に に に に に に に に に に	も			
VII-2- (1)-①				本市がネットマットを有すにおがるするはおかまで、温室が現になった。ままではおかまでは、温量がは、はまでは、ないでは、はまずいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、			目標	4	件	6	件	8	件								廃プラ対策 ファック できまれる はいまま かる 日間 かまり	字事業を拡充 ブス排出量削減 ロジェクトも含	或含	TIN	۸25 IICN <i>t</i> ، ۷	ご関係機関と
た都市 インフ	52 (<u>1</u> 2)海外における)カーボン)ニュートラ/ 促進事業	環境 国際 課	フルを促進すると ともに、市内企業 の海外ビジネス展 開やGX(グリーン トランスフォー	対象地域における パイロット事業着 手数 ※中期目標改訂		実績	5	件					8件(R5 年度)	拡大	11,000	9,200	減額	22,000	大変順調	めた事業展開を 環境とSDGs推進力 でランドカー に対象では で対象である。 では である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	技術の輸出促送	単りに関いて、	連携は動き環ムが	、 い に に に に に に に に に に に に に	祭機関等の神経を 機関等引き いるでは でいいでは でいいでは でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいる。 でいるできる。 でいるできる。
ラビジ ネス 推進				メーシるとは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きないのでは、まないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、まないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ			達成率	125.0	%												・推移の和4年度 ら「令和5年度 変更する。	。ため、目標値 までに6件」が	直 い		を進めていく	
				「SDGs推進」 「サーキュー進」 コノミする技術や中保 品を美援する。 を支援する。		5件 (R02年	目標	2	件	3	件	3	件													
	53 (4) (5) (7)) サステナブル 環境ビジネス 展開事業	環境際戦器	により、循環型社	海外での実証事業 等の進出数(単年 度)	度中小	実績	2	件					3件 (R5年 度)	継続	18,000	14,500	減額	2,700	順調	引き続き、 等の環境関連技 外展開を支援す					
				上」と北九州市 SDGs戦略の一つで ある「技術と経験 を活かした国際貢献の推進」を実現 する。		事業の実績)	達成率	100.0	%																	

					(Plan)	計	画	/	[Do]	実が	<u> </u>						-		【Check】 評価	<u>/</u> [Action】 改善
近策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	票 (目標	票・実績)		I I- Hn	成果の	R4年度	R5年度	尹耒貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名 "	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	李来 机恒帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	1	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
I -I- (4)-③ 苦者の 自立支		若者ワークプ ラザ北九州運 営事業	雇用	若年九州においての一クプラ・、若年九州においての一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の	就職決定者数	I,360人 (H30年 度)		931		300 人	. 1,300 人	I,300人 (毎年 度)		80,410	83, 955	維持	8, 995	順調	引き続き労働移動の促進と 伴走型の就職活動支援を行っ ていく。	順調	引き続き労働移動の促進 伴走型の就職活動支援を行 ていく。
爱				提供、セミナー、 職場体験、職業紹 介等により、若年 者の就業支援を実 施する。			達成率	71.6	%												
I -2-				アジアの中核的 学術研究拠点の形 成と本市の産業振			目標	34 9	%	35 %	32 %	,							更なる施設・設備のコスト 削減を図ることによりる 的な管理運営を実施する。ま た、効果的なPRにより学術 究都市の魅力や認知度を向上	:	魅力ある施設を実現する め、大学、企業、一般利用:
(1)-① 比九州	2 8	学術研究都市 管理運営事業	代産 業推	興拠点としての機 能を高めるため、 北九州学術研究施 市の学術研究施設 を一体的に管理 運営することで、	施設の稼働率 ※中期目標改訂	32% (H29年 度)	実績	36.6	%			32% (R5年 度)	継続	791,805	5 791,452	? 維持	9,300	順調	なせ、施設の稼働率を改善させていく。 【中期目標の変更内容】 施設利用者である大学の研究者や企業等の施設需要が、	順調	等のニーズを踏まえて、施の利便性、利用者の満足度高めていく。また、(公財北九州産業学術推進機構(FAIS)が有する広範なネトワークを通じた産学連携
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				本市の産業を支える知的基盤の充実を図る。			達成率	107.6	%										Withコロナに伴うオンライン 活用の流れに変わったことから、現状値である平成29年度 並の32%を中期目標とする。	:	設を促進することにより、 なる稼働率の向上に努める
I -2- [I)-③ 最先端					学研都市の取り組		目標	95 9	%	95 %	95 %	,								順調	(公財) 北九州産業学術 進機構 (FAIS) と連携し、 端の研究開発を担う人材の
の研究 開発を 担う人 材の確					み評価(学研都市 内の大学や入居企 業・研究機関の評	60% (H25年 度)	実績	95.8	%			95% (毎年 度)							(公財) 北九州産業学術推	:	保・育成や本市の生産性向に寄与する体制を整える。付せて学研都市全体で脱炭素、 グリーン成長に取り組み、
保・育成				(公財) 北九州 産業学術推進機構 (FAIS) が行う大 学間連携事業のほ	価)		達成率	100.8	%										進機構 (FAIS) の第6期中期 計画 (2023-2027) を踏まえ て、これまで取り組んできた		域産業の高度化や次世代産 の創出、新たな都市ブラン確立を目指す。
			次世	か、産学連携、半 導体技術拠点形 成、技術移転等の	新たな研究開発プ		目標	80 7	社	80 社									先端の研究開発を担う人材の 確保・育成に加えて、本市の 生産性向上に寄与する体制を		
	3 8	学術研究拠点 推進事業	代産 業推		ロジェクトに参加した企業数	61社 (H27年 度)	実績	37	社			80社 (R4年 度)	継続	327, 983	310,837	減額	7, 325	順調	整える。 【指標廃止・追加の理由】		
				究都市の研究開発 拠点としての機能 を高め、地域にお			達成率	46.3	%										(公財) 北九州産業学術指 進機構 (FAIS) の第5期中期 計画にあわせ指標を設定して いたが、令和5年度より新た		
				ける産業技術の高 度化と新たな産業 の創出を図る。	学研都市産学連携		目標	25 7	社	25 社	25 社								に第6期中期計画を策定するため、指標内容を見直したもの。		
					を	21社 (R3年 度)	績	21 1	社			25社 (毎年 度)									
							達成率	84.0	%												

性未祀	<i>''</i>	Ψ)																				
						[Plan]	計	画	/	[Do) 実施							+		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	標(E	目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO.	番号	主な事業・取組	所管 課名	事未· 収租 帆 女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					市と(公財)北 九州産業学術推進 機構(FAIS)が表 携し、「脱炭素・ グリーン成長」に よる地域産業の高			目標	25	社	25 社	25 社								これまで蓄積した人材やノ ウハウを活かし、市と(公		
	4	8	<新>未来を 拓く次世代産 業推進事業	代産 業推	度化や次世代産業 の創出、新たな都 市ブランド確立に 向け、北九州学術 研究都市を中心に	学研都市産学連携施設への誘致件数	21社 (R3年 度)	実績	21	社			25社 (毎年 度)	_	_	58, 500	_	9,300	_	財)北九州産業学術推進機構 (FAIS)が連携して学研都市 全体で脱炭素・グリーン成長 に取り組み、地域産業の創出、新た な都市プランド確立を目指		
					研究開発の拠点化 や人材育成・企業 競争力の向上、施 設のグリーン化な どに取り組む。			達成率	84.0	%										j.		
I -2- (2)-①					インターンシップ事業の充実や市内企業と学生の交流会の開催など、			目標	360	人	375 人	390 人								地元就職促進のため引き続きインターンシップに注力するほか、幅広い業種の地元企業に対する課題解決型イン		地元就職促進のため引きを きインターンシップに注力するほか、幅広い業種の地元公 業に対する課題解決型イン
成業え 度 を る 人 材	5	8	インターン シップ等推進 事業		学生と企業の出会 いの場を提供する ことで、市内企業 への就職や地元定	インターンシップ 参加者数	223人 (H30年 度)	実績	346	人			400人 (R6年 度)	継続	9,000	12,814	増額	3, 200	順調	ターンシップの実践支援など を通じて、学生における地元 企業への認知を高めるととも	順調	果に対りる味起解決空インターンシップの実践支援なりを通じて、学生における地方 企業への認知を高めるととす に企業におけるインターン
の育成					着及び市内企業の 人材確保を促進す る。			達成率	96.1	%										に企業におけるインターン シッププログラムの充実・魁 カ向上を図るもの。	5	に企業におけるインターンシッププログラムの充実・5 力向上を図るもの。
					中小企業経営者 の高齢化に伴い中 小企業の数が年々	事業承継・M&A促 進化事業助成金の 支援を行った企業	100%	目 標	100	%			100%									
					減少するなど、事 業承継は本市中小 企業の喫緊の経営 課題の一つとなっ	の中で、事業承継 計画の策定または M&Aの着手に至っ た企業割合	(H29年 度)	実績達		%			(毎年度)							「令和4年度北九州市中小		
	6		事業承継·M &A促進化事 業	企業 振興	このため、潜在 ニーズの掘り起こ	人正来到日		成率目	100.0	%				継続	5,300	5,030	減額	3, 960	順調	企業実態調査」の結果をふま え、事業承継の潜在的ニース の掘り起こしを積極的に行		
I -2- (3)-①				課	しから事業承継計 画の策定など具体 的な成果の創出ま でをトータルでサ	事業承継・M&Aの	2社	標目			6 社	8 社	10社(R2							ì.		企業の潜在的ニーズ等を利
中小企 業 継 成 援					ポートすること で、市内中小企業 の円滑な事業承継 を促進するもの。	承継を完了した企 業数(累計)	(R2年 度)	標目標					~R6年 度累計)								順調	極的に掘り起こし、引き続: 効率的かつ効果的な運営にな めていく。
					後継者不在の事 業者やコロナ禍で 休廃業を検討して			目標	4	社	6 社	8 社										
	7		雇用を守る事 業承継・引継 ぎ支援強化事 業	企業	いる事業者に寄り 添い、情報提供や 企業訪問など、相 談体制を強化する ことで、市内企業	事業承継・M&Aの 承継を完了した企 業数(累計)	2社 (R2年 度)	目標	3	社			10社(R2 ~R6年 度累計)	継続	5,600	3,769	減額	3, 960	順調	事業承継専門相談員の配置による相談体制の強化をPRするとともに、潜在的ニーズの掘り起こしを積極的に行う。		
					の経営資源の散逸防止や雇用の場を守る。			目標	75.0	%												

	消气				[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施						(【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号	SC	Gs 基本計画の施領	主要事業	事業 取如棚面		事業	評価	の成果指標((目標・実績)			成果の R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	NO. 」	Gs 基本計画の施領 を構成する 主な事業・取締	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				金属・機械・電気等の工業系分野			目標	135 名	145 名	150 名									
				を対象とした「北 九州マイスター」 と、暮らしに身近 な生活関連・サー	マイスター及び技の達人認定延べ人数(毎年交互に認定)	129名 (H30年 度)	実績	140 名			150名 (R5年 度)								
I-2- (3)-② 技術・ 技能を	8	▶ 北九州技能信 承推進事業	雇用政策	ビス産業なども含めた幅広い分野を対象とした「北九州技の達人」の2つの制度において、			達成率	103.7 %				- 継続 8,170	7,797	維持	15, 400	順調	北九州ゆめみらいワーク等の他事業との連携や学校等への更なる周知により、マイスターや技の達人の認知度10	順調	技の達人の認定や技能伝承 講座等を開催し、引き続き技
継承する人材 の育成		承推進爭業	課	高度技能者を認 定・表彰する。 認定された高度 技能者の協力の 下、優れた技能を		7 AGE 1	目標	12,250 人	14,000 人	15,750 人	15 750						を目指す。また、技の達人の 認定や技能伝承講座等を開催 し、引き続き技能伝承活動の 推進を図る。		能伝承活動の推進を図る。
				次代に継承し、地 域産業の振興に貢 献するための技術 継承活動を推進す	講座受講者と実技 指導受講者の合計 (累計)	7,495人 (H27~ H30年 度)		11,172 人			15,750 人 (R5年 度)								
				S.			達成率	91.2 %											
IV-1-	9	<新>新ビミ ネスモデル創 造に向けたロ ボット・DX打 進	八代産	ない。 ・DX中では ・DX中では ・DX中では ・DX中では ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・	ロポット導入・DX 推進企業数	84社 (R3年 度まで の累 計)	目標 実績 達成			180 社	500社 (R9年 度まで の累計		339,700	_	9, 300	_	「ロボットテクノロジーを業」のためのDX・デジタル化推進のためのDX・デジタル化推進のためのDX・デジタル化推進のためのDX実践を一体的に支援する。 ロボット導入とDX実践を一体的に進めため、DX等数もにロボット導入企業数にロボット等入企業数		北九州市ロボット・DX推進
(1)地業ジ展推る横)の企ビスをす織的				市内企業の事業			成率 目標			10 社							加えた目標に変更する。 グリーン成長に向け、産業 部門(企業)では、社会全体 の脱炭素に資する製品・サービスの創出や、自社内および		センターを中心として、市内 中小企業の労働生産性の向上 や付加価値創出に向け、ロ ボット導入・DX実践を一体的 に推進していく。 市内企業のグリーン成長に 向けた各種取組を支援するこ
なを整備	10	3 ンニュートラ ル・グリーン	代産業推	変革や技術は大いでは、アインの自然を表現である。では、アインの自然では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	グリーン対応実践 企業数	_	実績 達成率				100社 (RI2年 度まで の累 計)		13,500	_	7,550	_	サプデンストーン・ログライン・ログログライン・ログライン・ログログライン・ログログログライン・ログログをクログライン・ログログをクログをクログをクログをクログをクログをクログをクログをクログをクログ		とで、企業の競争力強化を図る。

	王/月					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実	尾施								+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	2 7 M-	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	車架,四個棚 事		事業	評価の	の成果指	旨標(目標・実績	績)				成果の		R5年度	一手未貝	人件費 (目安)	R3年度		こ向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	番号	を構成する 主な事業・取組	所管課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年	度	R4年度		R5年度	ŧ	中期 目標	方向性		予算額 (千円)		金額(千円)	事業 評価		直した内容 る改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					技術力はあるが 営業経験発にとし く、分ではない地元 中小企業の受注拡			目標	65	%	65	%	65	%											
	11	8	ビジネスチャ ンス拡大支援 事業	V ***	①大規模展示会等 出展支援 ②巡回指導・マッ	大規模展示会等出 展支援を行った企 業の中で、商談成 約に至った企業割 合	67% (H22年 度)	実績	64	%					65% (毎年 度)	継続	15,064	14,654	維持	1,980	順調				
					チングコーディ ネート ((公財) 北九州産業学術推 進機構 (FAIS) が 実施)			達成率	98.5	%															
					新技術・新製品 開発に取り組む中			目標	65	%	65	%	65	%											
IV-I- (I)-② 中小企 業の競		3	中小企業技術 開発振興助成 金	中小業振興課	小企業に対する研 究開発費の助成り 行うことにより 中小企業の技術開 発力の向上との 加価値企業への転			績	60% (H28年) 成分・5 過後	度助 年経					65% (毎年 度)	継続	21,116	20,321	維持	3, 825	順調	企業ニーズ等き続き効率的ないく。	手を踏まえ、引 よ運営に努めて	順調	企業ニーズ等を踏まえ、引き続き適切で効率的な運営に 努めていく。 販路拡大や技術開発等の支援を行うことで、中小企業の
争力向上					換を促進する。			達成率	_																競争力向上を図る。 企業訪問時のPRなど積極的な運営に努めていく。
					中小企業支援法 第7条に基づき、 (公財) 北九州産			目標	90	%	90	%	90	%											
					業学術推進機構 (FAIS)を指定法 人として、平成14 年度に北九州市中	利用者アンケート による満足度 (窓口相談)	81% (H22年 度)	実績	100	%					90% (毎年 度)										
	13	Q	中小企業支援センター特定		小企業支援セン ター(以下「中小 企業支援セン ター」)も対象			達成率	111.1	%						- 継続	18 0/11	17,370	維持	2,730	順調	助交付額の見値 かつ効率的な過 く。また、金属	厘営に努めてい 烛機関や税理士		
	13	9	支援事業	旅興	のための窓口相 談・専門家派遣・ 情報提供など、専			目標	95	%	95	%	95	%		→ 和企和党	10,041	17,370	水肚1寸	2, 730	川只印	等のマネージャ に効果的に活用 るよう、企業記 積極的な運営に	目していただけ 訪問時のPRなど		
					門的かつ総合的なサービスを提供している。市は、これらの	利用者アンケート による満足度 (専門家派遣)	96% (H25年 度)	実績	100	%					95% (毎年 度)										
					事業を行うために 必要な経費を補助 している。			達成率	105.3	%															

					[Plan]	計画	画	/ [Do]	実施	i							+		[Check]	評価	/ [A	Action】 改善
施策番号	SDGs No. 3' -1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			平価の	の成果指標	(目標・	実績)			- Hn		R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向 強化・見直し		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	事未 机恒烷安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年	丰度	R5年度		□期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改		局施策 評価	(課題に対する改善方法等
	14 8	北九州テレ ワークセン ター管理運営	スタート	北九州テレワー クセンターを「優しボールまち」であるとで、 かまち」であるとは、 いとして市内全般	施設入居率	72% (H28年	目標実績	90 %		%	90		0% 毎年	継続	117,965	i 104, 180	減額	11,050	順調	令和5年度以降の 定管理者の公募選 て、市内コワーキ 携を強化するなど、	定におい ングとの連 、北九州テ		
		事業	プ推	の創業を支援する		度)	小 貝					ß	变)							レワークセンター: 業支援の拠点とし			引き続き北九州テレワー センター(COMPASS小倉)
D/ 1			進課	ネットワークの中 心施設とする。			達成率	109.2 %												たすよう取り組む。			創業支援の中核施設として 市内の様々な創業支援事業 と連携しながら、創業を予
Ⅳ-I- (I)-③ ベン				成長見込みのあ				単年度目標 設定なし	4	人	9	<u>۸</u>	n /										している方や創業間もない のニーズに沿った支援を実 する。
チャー 企業の 創出・				るスタートアップ 企業が行う事業化 や実証実験の取組	雇用創出数	_	実績	_				(R6	7人 年度 での									順調	また、大きく成長するスタートアップ企業が市内が 出てくるよう市内の創業支
育成		スタートアッ	スター	に対して、補助金 の交付に加え、産			達成	_				累	計)							支援しているス: プ企業の着実な成- スタートアップ企	長と有望な		事業者やベンチャーキャヒ ルなどと連携した支援を実 するとともに、市外の有望
	15 9	プSDGsイノ ベーショント		学官金が連携して市内企業との協業			率目	50 0/		0.4		0.4		継続	90,000	90,000	維持	13,800	順調	図るため、首都圏 信やジェトロと連打			スタートアップ企業を市内 集積・定着させ、本市産業
		フイアル争業		や販路拡大など企 業の成長を後押し することで、ス			標	50 %	50	%	50	% 50	0%							ローバル展開支援する。	などを強化		活性化を図っていく。
				タートアップの力 で本市産業の活性 化を図る。	製品化・実用化の割合	_	実績	50 %				(右	每年 宴)										
				10 € 12 %			達成率	100.0 %															
IV-I- (I)-⑤ 地元企					学研都市の取り組		目標	95 %	95	%	95	%										順調	(公財)北九州産業学術 進機構(FAIS)と連携し、 端の研究開発を担う人材の
業の高 度化・ 新製品					み評価(学研都市 内の大学や入居企 業・研究機関の評	60% (H25年 度)	実績	95.8 %				(4	5% 毎年 隻)										保・育成や本市の生産性向 に寄与する体制を整える。 せて学研都市全体で脱炭素
開発支 援				(公財) 北九州 産業学術推進機構 (FAIS) が行う大	価)		達成率	100.8 %				13	X)							(公財) 北九州; 進機構 (FAIS) の3 計画 (2023-2027) て、これまで取り	第6期中期 を踏まえ		グリーン成長に取り組み、 域産業の高度化や次世代産 の創出、新たな都市ブラン 確立を目指す。
				学間連携事業のほ か、産学連携、半 導体技術拠点形	新たな研究開発プ		目標	80 社	80	社										先端の研究開発を打確保・育成に加え 生産性向上に寄与	担う人材の て、本市の		
	16 8 9	学術研究拠点 推進事業	代産 業推	成、技術移転等の 実施に対する支援 等を行うことによ	ロジェクトに参加 した企業数	61社 (H27年 度)	実績	37 社				(R	0社 R4年 隻)	継続	327, 983	310,837	減額	7, 325	順調	整える。			
			進課	り、北九州学術研 究都市の研究開発 拠点としての機能	※指標廃止		達成	46.3 %					~/							(公財)北九州が 進機構(FAIS)の 計画にあわせ指標	産業学術推 第5期中期		
				を高め、地域における産業技術の高度化と新たな産業			平 目 標	25 社	25	社	25	社		-						いたが、令和5年度に第6期中期計画をため、指標内容を	₹より新た ₹策定する		
				の創出を図る。	学研都市産学連携 施設への誘致件数	21社 (R3年 度)	実績	21 社				(4	5社 毎年 麦)							の 。			
					※指標追加		達成率	84.0 %					٧)										

					[Plan]					実施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			平価の)成果指標	(目標・実	(績)			成未の	R4年度	R5年度	学 未貝	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	李来 祝祖城女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年月	芰	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
		<新>未来を	次世	市と(公財)北進機構(FAIS)が素に、「脱侵し、「脱侵し、「脱侵し、「脱侵し、」が成長している地域産業の産業のといる。	始可如一克丛墙梯	21社	目標	25 社	25	社	25 社	25社							これまで蓄積 ウハウを活かし 財) 北九州産業 (FAIS) が連携	、市と(公 学術推進機構		
	17 8	拓く次世代産 業推進事業	業推 進課	の創出、新たな都 市ブランド確立に 向け、北九州学術 研究都市を中心に 研究開発の拠点化 や人材育成・企業	学研都市産学連携施設への誘致件数	(R3年 度)	実績	21 社				(毎年 度)	_	_	58,500	_	9,300	_	全体で脱炭素・ に取り組み、地 化や次世代産業 な都市ブランド す。	域産業の高度 の創出、新た		
				競争力の向上、施 設のグリーン化な どに取り組む。			達成率	84.0 %														
				自動車メーカーや部品サプライ			目標	105 社	105	社	105 社											
IV-I-				ヤーのニーズや取 組を捉え、地元企 業の技術力等の積 極的な情報発信を	パーツネット北九 州会員数	57社 (H2I年 度)	実績	92 社				105社 (R5年 度)							令和5年度から 業取引拡大支援 運転関連産業推 合し、効率的に	事業」「自動 進事業」を統		次世代自動車産業の推進を 図るため、(公財)北九州産 業学術推進機構(FAIS)等と
(2)-① 次世代 自動車	18 8	次世代自動車 産業推進事業	44 立	しながら、ビジネ スマッチングの機 会拡大に取り組ん でいく。また併せ			達成率	87.6 %		社	社		継続	7,575	9,474	その他	9, 300	順調	し、次世代自動 を図る。 パーツネット	車産業の推進 北九州による	順調	連携しながら、関連企業の新 規参入や取引拡大、人材育成 等企業ニーズに対応した支援 を実施していく。
産業拠 点の形 成		ZXIIZ TX	進課	て国の交付金を活 用し、自動運転分 野への市内企業等	7170		目標	30 団 体 社	30	団体	30 団体	130社・							情報発信やマッ 強化、人材育成 のニーズに対応 い、併せて北九	など参加企業 した支援を行		また、北九州自動運転推進 ネットワークの総会及び勉強 会を実施し、自動運転の分野
				の参入、研究開発 施設の誘致等を図 り、次世代自動車 産業を推進してい	セミナー・勉強会 等の参加企業・団体数		実績	2I 団 体				団体 (毎年 度)							進ネットワーク 強会を開催する	の総会及び勉		にも引き続き取り組んでいく。
				<.			達成率	70.0 %														
N-1-2(我をドロト拠形 -1-2)がリすボ産点成	19 <mark>8</mark>	海に向けたロ	1代。库	が が が が が のか が のか で を を を のか で を を を のか で を を を を を を のが に な を に に な に に な に が が に に の が に に に に に に に に に に に に に	ロボット導入・DX 推進企業数	84社 (R3年 度まで の累 計)	目標 実績 達成率				180 社	500社 (R9年 度まで の累計	_	_	339, 700	_	9,300	_	「用生きない」 「用生素のの事業・の本業・のの数にでいる。 「おりないでは、ののでは、 「おりないでは、 「おりないでは、 「おりないでは、 「おりないでは、 「おりないでは、 「おりないでは、 「これでは、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も、 「も	「生産性向上 ジタロボット はいいいでする は は と の と の と の と の と の と の と の と の と の	_	北九州市ロボット・DX推進センターを中心として、市内中小企業の労働生産性の向上や付加価値創出に向け、ロボット導入・DX実践を一体的に推進していく。

産業経済局

産業経	7,-3	•			[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							4		【Check】 評価	/	(Action) 改善
施策番号,	SD	DGe	基本計画の施策主要を構成する事業			事業	評価	iの成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	E R5年度に向けて
・施策名	lo. ゴ	引导	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組 課名	于宋 机加加女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等	局施第 評価	
				本市の強みであ	新たな雇用創出数 (累計)	210人 (H25年 度)	目標実績	855 人			855人 (H25~ R3年度)									
N-I- (2)-③ 素材・ 部材産 業	20	3	企業立地促進 事業(素材・ 支援 部材) 課	う地元企業の競争 力強化を支援する とともに、付加価			達成率 目	110.8 %	単年度目標	15 件		- 継続	18,336	17,557	維持	5,800	順調	新型コロナウイルス感染や世界情勢の影響により生 拠点の国内回帰が推進され 製造業の設備投資が加速しいる。この流れを好機と捉	産 順調	もに、企業の人材確保に向け
ŧ.				値の高い製品を扱う製造業の企業誘致に取り組む。	製造業 (素材・部 材関連) の新規進 出及び新規設備投 資件数 (累計)	_	標実績達も		設定なし 		15件 (R2~ R6年 度)							え、令和5年度も積極的な計 致活動を推進する。		たサポートも強化していく。
10.0	21	8	企業 航空機産業誘 立地 致促進事業 支援	を共同で航空機関連企業の誘致に取	航空機産業の生産 拠点等の誘致件数 ※指標廃止	0件 (H25年 度)	成率 目標 実績 達成率	単年度目標 設定なし 0 件	1 件		件 (R4年度 までの 累計)	- 継続	2,000	1,937	維持	3,650	順調	新型コロナウイルス感染 の影響により低迷していた 空機産業の回復を見据え、 岡県と連携した誘致活動や 元企業支援に継続して取り む。	抗 福 地	新型コロナウイルス感染症 の影響により低迷していた前 で機産業の回復を見据え、社地 岡県と連携した誘致活動や
産業の振興			課	り組むとともに、 地元企業の新規参 入、事業拡大に向 けた支援を行う。	製造業(航空機関 連)の新規進出及 び新規設備投資件 数 ※指標追加	_	目標 実績 達成率			単年度目標設定なし	I件 (R2~ R6年 度)							【指標廃止・追加の理由】 中期目標の年度更新に合せ、指標の見直しを行った		元企業支援に継続して取り着む。
V-I- (2)-⑤ 知一産業 サス振	22	8	サービス産業 サービス産業 大田の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の	とにより、市内	市内サービス事業 者に対する取組支 援件数	5社 (H26年 度)	目標 実績 達成	7 社 8 社 114.3 %	7 社	7 社	7社 (毎年 度)	継続	3, 157	3, 200	維持	10,800	順調	市内サービス事業者の生性向上に関する意識向上を るため、関係機関と連携し 引き続き具体的な取組支援 行う。	図 順調	市内サービス産業における 生産性向上のため、セミナー 等の開催を通して、事業者の 意識向上を図り、引き続き』 体的な取組支援を行う。

産業経						[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施							+		【Check】 評価 /	/ [<i>I</i>	Action】 改善
施策番号	N -	SDGs	基本計画の施領	主要事業	事業・取組概要		事業	評価	iの成果指標((目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	NO.	番号	基本計画の施 を構成する 主な事業・取約	所管 課名	争耒・収組恢安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				企業	本市への企業立 地を促進するた め、企業向けのパ		2 514 /	目標	1,600 人	2,400 人	3,200 人	4,000人							市外からの立地促進、市内 企業の増設・事業拡大に向け		
	23	3	企業立地促進 事業	立支課	ンフレットやホームページ等による 情報発信や、立地 企業と地元企業と の交流会開催など	企業立地による新 規雇用創出数(累 計)	3,514人 (H27~ H31年度 累計)	実績	1,484 人			(R2~R6 年度累 計)	継続	18,336	17,557	維持	5,800	順調	正案の看談・事業拡入に同り た支援の継続や人材採用支援 等の強化など、雇用創出の拡 大や企業の集積に向けた誘致 活動に取り組む。		
Ⅳ-I- (3)-① 成長 性、経					を行う。			達成率	92.8 %												
活済効高業点の産重誘					サプライチェー ンの強靭化や世界 的な脱炭素化を見 据え、今後の成長 が見込まれる次世			目標		単年度目標 設定なし	10 件								カーボンニュートラルを見	順調	雇用創出効果が高く、今後成長が見込まれる次世代産業の誘致を強化する。
致			次世代産業認致推進事業	企業 立地 表課	代産業を誘致する ため、エネルギー 転換やPPA導入な ど、カーボン ニュートラルの視 点で北九州市の立	製造業の新規進出 及び新規設備投資 件数(累計)	_	実績				10件 (R4~ R6年 度)	継続	3,000	3,000	維持	5, 400	_	据えた製造業の設備投資を呼び込むため、物流インフラカ エネルギー転換など脱炭素の 視点における本市の立地優位 性を調査し、企業誘致活動に 活用する。		
					地優位性を見える 化し、活用することで更なる誘致に つなげる。			達成率											70,70,7 %		
			北九州空港路	企業	北九州空港跡地		67%	目標	83 %	83 %	83 %	分譲率							残り区画の造成に着工でき たことから、早期分譲のた		
	25	9	地産業団地動備事業	立地支援課	立世団地の数供す	分譲率	(H25年 度)	実績達	78 %			100% (R6年 度)	継続	204, 934	266, 200	増額	6,550	順調	め、近接工事等との調整を図 り、造成工事の竣工を目指 す。		
IV-1-								成率目	94.0 %											-	北九州空港跡地産業団地整 備事業については、複数の企
(3)-② 効果的 な優遇				IT企業等を新規	雇用創出数(累	I,302人 (H27~	標	1,940 人			1,940人 (H27~								WZ 740	業から残り区画の分譲時期等 の問い合わせを受けており、 産業基盤の充実を図るための	
制度、 産業基 盤など				A 1116	に呼び込むため、 また、市内拠点の 増設を促すための	計)	30年度累計)	績達	2,728 人			R3年度 累計)							Works - 175 4 177 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	順調	重要な事業であることから、 企業ニーズに合わせて造成工 事を進めていく。 オフィスリノベーション補
の充実	26	® 9	オフィスリノ ベーション補 助金	立地 支援				成率目	140.6 %				継続	30,000	30,000	維持	7,900	大変 順調	補助制度の周知を図るとともに、同制度の活用を通じて企業から選ばれるオフィス環		助金については、制度の活用事例の増加に努める。
				課	フィス環境の整備 を目的とし、市内 オフィス等を改修 する者に対して補	企業誘致による雇用創出数<情報通	I,302人 (H27~	標	800 人	1,200 人	1,600 人	2,000人 (R2~							境の整備を促す。		
					助金を交付する。	信企業> (R2~R6年度累 計)	30年度 累計)	績達	1,097 人			R6年度 累計)									
								成率	137.1 %												

					[Plan]	計	画	/	[Do	o】 実友	拖						+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	SDGs 基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(E	目標・実績))	-t- #a	成果の		R5年度	」尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見通		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名		主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八加州文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		ラル東 評価	(課題に対する改善方法等)
			A 1114	これまで市内外	雇用創出数(累計)	I,302人 (H27~ 30年度 累計)	実績達	2,728	<u>۸</u>			1,940人 (H27~ R3年度 累計)							M. I T. A. N.	-\$>0		
IV-I- (3)-③ 人材供	27	進出IT関連企 業への人材採 用支援事業		に構築してきた人 材供給ネット クを活用 の 誘規企業の 誘致 に繋げる。	企業誘致による雇用創出数<情報通信企業> (R2~R6年度累計)	I,302人 (H27~ 30年度 累計)		800 1,097	J J	1,200	1,600 人	- 2,000人 (R2~ R6年度 - 累計)	→ 継続 - ・	6,000	6,000	維持	7, 900	大変順調	進出II企業の た効果的な支援 ることで、次な の創出につなり	る成功モデル		市内外の学校と本市への進
給環備の支 性整ど地	20	おためしサテ	企業立地	首都圏IT企業等 を対象に、サテラ イトオフィス設置 に向けた検討のた	雇用創出数(累計)	I,302人 (H27~ 30年度 累計)	率 目標 実績 達成率	1,940 2,728 140.6	人			I,940人 (H27~ R3年度 累計)	Call (At	25 000	22 000	74 GZ	T. (000	大変	これまでの ズを踏まえ、 続的に①IT企業		_ 大変 順調	出を検討する企業との関係を構築・強固にしていくことで、企業の集積を推進する。
	28	ライトオフィス推進事業	100	めの経費を助成す るとともに、市内 企業・チングを行 う。	企業誘致による雇用創出数<情報通信企業> (R2~R6年度累計)	I,302人 (H27~ 30年度 累計)		800 1,097 137.1	A	1,200	1,600 人	- 2,000人 (R2~ R6年度 - 累計)	1,2.175	25,000	23,000	減額	7, 900	順調	②市内企業との し、効果的な事 す。)交流会を開催		
N-2- (1)-① 中心市	200	<新>商店街 リノベーショ	商業サン	商店有業者のようにおいます。 では、またのまでは、 では、またのようには、 では、またのでは、 では、 では、 でいまではな、 でいまではな、 でいまで	黒崎地区商店街エリアの空き店舗率	16.9% (R3年 度)	目標 実績 達成率				R3年度比 2ポイント 改善 (14.9%)	R3年度 比2ポイント改善 等(R7 年度: 14.9% 以下)			6 000		(150		でリノベーショ に取り組むこと 業的エリア価値 る。令和5年度	で、市内の商 直の向上を図 については、		商店街において、官民連携 でリベーションまちづくり に取り組むこでで、市内の商 業的エリア価値の向上を図 る。令和5年度については、
- 街商興	29	★ オラの () () () () () () () () () (などソフトーのでは、できなど、カーのでは、できなど、カーのでは、できないで、いかでは、まないでは	黑崎地区歩行者通 行量 (人/日)	12,581 人(R3 年度)	目標 実績 達成率				12,681 人	12,881 人 (R7年 度)			6,000		6, 150	_	黒崎地とりは、大ちでは、大ちでは、大ちでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大き	向け拠点整備 事業者と連携)賑わいの創出	i	黒崎地区にでリノベーションまちづくりに取り組む事業者と連携し、賑わいの創出や商業的エリア価値の向上に注力する。

在 耒和					[Plan]				Do】 実施	Ē						•		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の月	战果指標	(目標・実績)		l. Hn	成果の	R4年度	R5年度	事業費	(目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	李米 机桩侧安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
			商	商店街の活性化			目標	6.3 %	RI年度比 2ポイント 改善 (16.3%)	RI年度比 2ポイント 改善(16.3%)	RI 年度							· 文 古 4 新 新 时	制度活用件数		商店街や出店希望者とのコ
N-2- (1)-② がん 高 も 支	30 😵	文抜争耒	業サビ産業	間間にはいる における可能は における利用保護の 有効利用業へ 新たな事業へ 助、活性化の りを支援する。	市内主要商店街の空き店舗率	I8.3% (RI年 度)	実績	6.9 %			H2ポイ ント 改善 (R5年 度:16.3 %以下)	継続	14, 192	16,000	増額	3, 075	順調	空高水準でめた。 き続ききと、これで うこて、一の提案 では、これで に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	しており、引 かな対応を行 街の取組に対 合った支援メ	順調	間が出ば中里者をいって ミュニケーションを密にし、活 対果的な制度の紹介、制度活 用への支援を積極的に行う。 とで、商店街の賑わい創出や 空き店舗率の改善に繋げてい く。
							達成率	6.3 %													
IV-2- (1)-③			商業・	市内の商業・ サービス業に対し			目標	80 %	80 %	80 %								車明守/っトス	研修を続ける		コロナ禍における販売方法
次担し業別の	31 🔞		サビ産政	て、販促ノウハウ などの商業セミ ナー等の実施を通 して、経営力の向	設定した目標を達 成した事業者の割 合	_	実績	0 %			80% (毎年 度)	継続	2,103	2,200	維持	3,075	遅れ	をともに、さら 営課題に対応て み込んだ商業者 る。	に具体的な経 *きるよう、踏	順調	でものでは、 できるよう、個別訪問による 商業者の育成を図る。
育成			課	上を支援する。			達成率	0.0 %													
				企業、大学、医療・福祉機関、行 政などが連携し、 健康・介護、女			目標	5 人													
IV-2-				性・若者、子育 て・教育等に対応 したビジネスや市 民生活の質の向上	健康・生活産業に おける雇用の創出 数	5人 (H26年 度)	実績	0 人			5人 (毎年 度)							これまでの実 ズ等を踏まえた ミナー等を開催			
(2)-① 高齢中 と健康・	32 🔞	健康・生活産 業振興事業	商業サビ産	に貢献するビジネスを振興するため、民間事業者からのビジネスプランの公募による助			達成率	0.0 %				- 継続	3, 968	4,000	維持	6, 900	遅れ	業者の経営改善 事業を成長させ きっかけづくり 康・生活支援ビ	ていくための 行うことで健	遅れ	健康・生活産業の創出に向 けたイベント等を通じて、高 齢者を始めとした、市民の健 康で快適な生活につながる新
生活支援に対して、生活が、生活が、大きが、大きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生きが、生			政策	成や、北九州市健 康・生活産業振興 協議会を核に、企 業間の交流や個別	健康・生活産業の		目標		3,000 人	3,000 人								を図る。 また、コロナ きるオンライン リッド形式での 切かつ効率的な	開催など、適		しいサービスの創出を支援する。
				援、複数企業によ	創出に向けた取組 実績(イベント・ セミナー等への来 場者数)	(H25年					3,000人 (毎年 度)							\\\ <.	%		
				スと雇用の創出を図る。			達 成率														

SDGs	H N = - 16-46			(Plan)	l 計i	画	/ [D)o】 実施									【Chook】 = ita/エ	/ [1	1 a 4 i a m 1 3 2 4 4 4
SDGs	44 1 31 14-44-							01 天心									【Check】 評価 /	<u>΄</u> Ι <i>Ι</i>	Action】 改善
	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標((目標・実績)	1	++n		R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	李朱 祝祖院女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
			療の健性では、 ・な様・・・ 大機・・・・ 大機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	健康・生活産業に おける雇用の創出 数	5人 (H26年 度)	目標実績	5 人			5人 (毎年 度)							これまでの実績や企業ニーズ等を踏まえたイベントやセミナー等を開催し、市内の事業をあるの事業を		
33 😵	健康・生活産 業振興事業	業サビ産政課・一ス業策	に貢を北北大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大		2, 353人	率目標	0.0 %	3,000 人	3,000 人	3,000人	継続	3, 968	4,000	維持	6, 900	遅れ	事業を成長させていくためのきっかけづくり行うことでリイラことでリイテンをでいる。また、コロナ禍でも対応でブラッド形式での開催など、めていかつ効率的な運営に努めて、過でいる。	遅れ	健康・生活産業の創出に向けたイベント等を通じて、事業者連携を図り、新たな分野への進出を支援することでソーシャルビジネスの創出を支援する。
			るリーに入のパッケージ化を通して、新たなビジネスと雇用の創出を図る。	実績(イベント・ セミナー等への来 場者数)	度)	(績 達成率				(毎年度)									
34	<新>新ビジネスモデル創 造に向けたロ ボット・DX推 進	次世代産	推い業付け伴るット でした。 ではして産性創用をにいる がいる。 では、 がいる。 では他のは、 がいる。 では他のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	ロポット導入・DX 推進企業数	84社 (R3年 度ま累 計)	目標実績			180 社	500社 (R9年 度まで の累計	_	_	339,700	_	9,300	_	「ロボットテクノロジラを業」 活用した地方大学・地域産ーとのためのDX・デジタル化推導のためのDX・デジタル化推導のためのDX・要業」を統合し、ロボット様する。 ロボット導入とDX実践を一体的に進めるため、DX第導人のLiukのあるため、DX第単人をDX実践を一体的に進めるため、DX第単人	_	北九州市ロボット・DX推進センターを中心として、市内中小企業の労働生産性の向上や付加価値創出に向け、ロボット導入・DX実践を一体的に推進していく。
			産業の振興を図る。			達成率											業数にロボット導入企業数も加えた目標に変更する。		
	サービュ尭衆	業・ サー	の啓発や具体的な	市内サービス事業	5社	目標	7 社	7 社	7 社	7社							市内サービス事業者の生産 性向上に関する意識向上を図		市内サービス産業における 生産性向上のため、セミナー
	カービス産業 振興事業	ビス 産業 政策	活動を支援することにより、市内 サービス産業の競	者に対する取組み 支援件数	(H26年 度)	績 達	8 社			度)	継続	3, 157	3,200	維持	10,800	順調		順調	等の開催を通して、事業者の 意識向上を図り、引き続き具 体的な取組支援を行う。
	884 89	33 ③ (33 ③ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ③ ③ ② ② ② ② ② ②	○ (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	(3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	(H26年) (A26年) (A26	日標 実績 達成率 目標 実績 達成率 日標 実績 達成 変換	金葉、大学、医療・福祉機関、し、性性・岩者・ラウウーと、大学、福祉機関、し、性性・岩者・ラウウーと、大学、協議の企業を表して、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、	金業、大学、保護、大学、保護、大学、保護、大学、保護、大学、保護、大学、保護、大学、保護、大学、企業、大学、介護、子育、広市、教学・学育、広市、教学・学育、広市、教学・学育、広市、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	企業、大学、医療、治療性の 療・福祉機関し、 健康・生活産業に したビジネスや市 原生活験の変のさらた。 産業振典事業 産業振典事業 産業振典のの具体にした。 大学・ル化を超し、 大・生活産業の のより、たなビジネスのした。 を要求をと核に、個別 を表すっ化を変し、 大・サール化を通し、 大・ナージがたなビジンス 区の金。 「ロボット・DX推 との生産値側出いたいトートの大き、 で、大・アージがたなビジンス 区の金。 「ロボット・DX推 との生産値との生の生の生の生の生の生の生の生の生の生の性の性の性の性の性の性のであったのかかでした。 推進して、ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・	② (企業、大学、医療・福祉機関、力(機康・生活産業に (1/25年) (1	金 葉、大学、医 標・福祉機関。	会業、大学、医療・福祉機関、研究をどか強動し、対ける雇用の創出 (120年) (12	金菓 大学、百	● 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	会業、大寒、医療・福祉機能、行業・生活産業に (機速・生活産業に (大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型)		### 2

産業経)						_		_								1				
					[Plan]				[D								•		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No. SDI	s 基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果打	旨標(目標・実績))	- ++ #	成果の			事業費	(目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番	s 基本計画の施東 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八世 列文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年)	度	R4年度	R5年)	度 中其 目標		予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
IV-2- (3)-①				生産者、消費 者、飲主製造の各 店、加工製造の各 サポーターへの情			目標	17.5	億円	19 億		億 円							コロナ禍でも開催可能なリ		
地元産 品の 6	36 Œ) 地元いちば) ん・地産地消) 推進事業	農林課	、 報とポの保地の を表して は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	直売所等の販売額	14億円 (H23年 度)		18.7	億 円			20億 (R5· 度)	F 継続	3,636	3, 350	減額	12,300	順調	モートによる見学会等のイベントの検討をはじめ、ホームページやSNS、マスコミ等を通じて市内農林水産物の情報発信を積極的に行い、認知度向上を図り、地産地消を推進	順調	地産地消の意識を高め、地 元産農産物の消費を拡大する ため、既存のファン層だけで なく、SNSを活用し若年層な ど新たな消費者に対する効果 的なPRを進めていく。
推進				食材の試食、販売等の広報活動を行う。			達成率	106.9	%										していく。		
N-2- (3)-② 農林水 産業の 生産基							目標	42	件	44 f	‡ 45	件								順調	人づくり担い手対策事業については、制度周知や相談会等の機会の増加を目指し、 等分野における担い手の育成・確保について、一層の推
盤 備や担 の 育成				新たな農業従事	市内で新規就農した者	8.8% (H22年 度)	実績	66	件			45件 (R5s 度)	F						新たな農業従事者の育成		進を図っていく。 未来の農業スマート推進化 事業については、スマート農 業の普及に向けて、最新の技
	37	人づくり担い 手対策事業		利になる 者の育成や、営農 組織・認定農業者 の経営診断を び活動支援などを			達成率	157.1	%				— 継続	23, 106	21,234	減額	9, 150	大変順調	や、営農組織・認定農業者等への経営診断及び活動支援などを継続するとともに、関係機関との協働の強化を進め		術情報等の共有を図り生産者 の経営力向上を目指す。 ほ場整備推進事業について は、効率の良いほ場整備の 現に向け、地元地権者の
				行い、農業分野に おける担い手を育 成・確保する。	上十口紙ン/日本 生	24 994	目標	40	%	43 %	6 45	%							る。 令和5年度は新規就農研修 の支援を強化し、新規就農者 の確保に取り組む。		100%合意を得るため、事業 規模の縮小も視野に入れ、交 渉を進めていき、国や県等関 係機関との協議に向けた基本
					本市目標所得を達成した認定農業者の割合		実績	36.8	%			459 (R5: 度)	F								設計の修正作業を行う。
							建成率	92.0	%												
				北九州市の農業 形態に即したス マート農業の導入 を図るもの。			目標	I	件	l ¢	‡ 4	件							国の「スマート農業加速化		
	38 ©	未来の農業ス マート化推進 事業	農林課	農業のスマート 化が進んでいない 農業現場におい て、関係機関で構 成される協議会を	実証事業主体数	_	実績	I	件			4件 (R5: 度)	F 継続	60,000	34,000	減額	8,115	順調	実証プロジェクト」事業を令和4年度から2か年実施している。 国・関係機関等と共に、当該事業のスマート技術の実装体制を整える。		
				立ち上げ、3ヵ年 計画で事業を進め る。			達成率	100.0	%										11 mg = 1E/L 00		

					[Plan]				Do】 実施	Ē						+		【Check】 評価 /		Action】 改善
施策番号	No. □ -N	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要					(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	- 尹耒買	(目安)	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	26.0 8 4 1 4 4 4
・施策名	番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八加州	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	争業 評価	(課題に対する改善方法等)	向 他 录	() mm=
	20 1			田、と行の・まに 根準では、消約といい、 をでは、 をでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	基盤整備面積 (ha) ※中期目標改訂	0ha (H30年 度)	目標 実績 達成率	0 ha	-		5ha (R8年 度)	継続	0	0	_	6, 325	遅れ	効率の良いほ場整備の実現に向け、地元地権者の100%合意を得るため、事変規模の縮小も視野に入れ、等関係機関のでいる。 をでは、国や県等関係機関のでは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな		
				管理されていない竹林の増加により、森林景観の悪 化や保水力の低下			目標	400 +	400 †	200 +								森林環境譲与税を活用し、 竹材活用や放置竹林対策の啓 発を強化し、安定的な集材に		
	40 (3) (b)	放置竹林対策 事業	農林課	による災害の危険性が問題となっている。このような竹林の拡大防止のため、管理竹林へ	活用された竹材量 ※中期目標改訂	_	実績	I5I †			200† (R5年 度)	継続	38, 331	43, 381	増額	1,480	遅れ	取り組んでいく。 また、竹粉砕機更新を行い、竹伐採の効率化と拡大を 図る。		
IV-2-				の再生を行う。さらに、竹の粉砕機を市民に無料で貸し出している。			達 成率	7.8 %										【中期目標の変更内容】 近年の集材実績に合わせて 中期目標の改定を行うもの。		森林環境譲与税を活用し、 竹材活用や放置竹林対策の 発を強化し、安定的な集材 取り組んでいく。また、竹:
(3)-③ 環配た水の はし林業進				人と自然が共生 し、豊かな水産資 源と生物多様性を 持ち、市民が海環 ふれあえる沿岸環			目 4	,300 †	4,300 t	4, 300 t								沿岸漁業の漁獲量は全国的 に減少しており、北九州市で	順調	砕機更新を行い、竹伐採の 率化と拡大と図る。 里海づくり推進事業は、 就環境に左右さ・安全・ に新鮮で安全・ を安定的に供給するために、 藻場や干潟の保全、漁場の 備、魚介類の放流などを継
	41	里海づくり推 進事業	水産課	境の大学を実現を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	市内水産物の年間 漁獲量	4,069† (H26年)		,954 †			4,300t (毎年)	継続	128,853	68, 582	減額	25,050	順調	も同様の状況である。 漁獲量の減少に歯止めをかい成果日標を達成するためには、「藻場の選挙の選挙の国海ではの助流」などのの里海ではの助金統が不可欠であり国の補助り金等も活用し、 令和5年度は藻んでいるが、令和5年度は漢		して実施する。
				営の安定化を図る とともに、市民に 新鮮で安全・安に な水産物を持続的 に供給する。			達成率	8.7 %										場の造成事業の計画がないため、予算が減額されている。		

					(Plan)	計	画	/ [Do】 実	施						+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs No. 3' -II.	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	成果指標	(目標・実績	i)	T .L.#n	成果の	R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	子术 - 八加州	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				総合農事セン ターは、「市農業日 振農業の接場の接の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場			目標	380 千人	400	千 人 400 人								令和3年度は、コロナ禍により入場者数は目標に達しなかったが、梅やバラ、苗物販売の季節には入場者疑的な情がみられるため、積極的な情があられるため、積極的な情		令和3年度は、コロナ禍等に より年間入場者数が目標を下 回ったが、指定管理及び直 区域の適切な管理により、概 ね施設の設置目的にかなった
N-2- (3)-④ 農林水 産業民 の 交	42 🔞	総合農事セン ター管理運営 事務	セン	供しの振農研とと を、都を関するたる は、 で、 のに 、 のに 、 のに 、 のに 、 ので 、 ので 、 ので と ので と ので と ので と ので と ので	総合農事センター 入場者数	312千人 (H23年 度)	実績	258			400千人 (R5年 度)	継続	57,619	60, 107	維持	23, 450	順調	報発信を行うことで認知度の向上と来園動機を高める取組を指定管理者と連携して行っていく。 令和5年4月からの第2期指 で管理に向け、資増かくにつ で管理経費の増加が代していて見値しを行った。	順調	運営がなされた。 令和5年度は、従来から課題 となっている施設の老朽化対 策やスマート農業施設の導入 等による農業振興・担いも 成などの対策に取り組むとと もに、新たに第2期の指定管理 期間に入ることから、情報発
				が、市民に展果を 紹介し、学び、理 解を深める施設と して運営する。			達成率	67.9 %										に 兄直しを行った。 また、来場者の安全確保の ため、老朽化した施設の改修 について引き続き取り組む。		信や利用者サービスの向上により一層努めるよう、指定管理者との連携を深める必要があると考える
N-2- (3)-⑤ 農林水 産業の				漁業活動の効率 化や防災機能の強			目標	4,300 t	4, 300	t 4,300 t								「漁港施設機能保全計画」	やや 遅れ	「漁港施設機能保全計画」 を基に、既存施設の長寿命化 と機能保全を図るとともに、 各施設の機能向上(就労環境
危機年 の立 災機 が が 後 能	43	水産物供給基 盤整備事業 (補助)	水産課	化を図るため、水 産物供給基盤(防 波堤、岸壁、護 岸、航路、泊地、 桟橋、道路など)	市内水産物の年間 漁獲量	4,069† (H26年)		2,954 †			4,300† (毎年)	継続	179,500	247, 400	増額	23, 750	順調	を基に、既存施設の長寿命化 と機能保全を図るとともに、 各施設の機能向上(就労環境 改善、防災機能強化等)に取 り組んで行く。		改善、防災機能強化等)に取り組んで行く。 有害鳥獣に関する市民相談 は、イノシシ、サルだけでな くアライグマ、アナグマ、シ
の強化				を整備する。			達成率	68.7 %										が組ん(打て。		カ、カラスなど概ね安定傾向向になったので、継続して捕獲の強化や適切な市民啓発に努めていく。
			4 Wh	イノシシ・サルな どの野生鳥獣によ る市街地や農作物	:		目標	1,000 件	1,000	件 1,000 件	1,000件							有害鳥獣に関する市民相談 は、イノシシ、サルだけでな		農作物生産振興対策について、県・JA等と農業生産工程管理(GAP)に取り組んでいない農家、生産組織に対し必
	44	有害野生鳥獣 被害対策事業		被害に対応するため、わなや銃による捕獲や追払い、 市民相談や現地対	市民からの野生鳥 獣の相談件数	978件 (H26年 度)	実績	1,883 件			年以下 (毎年 度)		10,927	10,647	維持	9,300	遅れ	くアライグマ、アナグマ、シカ、カラスなど概ね安定傾向になったので、継続して捕獲の強化や適切な市民啓発に努		要性の理解を深める積極的な 取組を行い、農作物の安全性 の更なる向上を図っていく。 ため池防災事業について
				応、市民啓発等を 実施する。			達成率	11.7 %										めていく。		は、国による農業水路等長寿 命化・防災減災事業等の制度 の拡充を受け、これらの制度 を有効に活用し、ため池の安
				農業者が農薬に	農作物の安全・安		目標	60 %	60	% 60 %								令和3年度の成果指標の実 績で、GAPに取り組む生産組		全性の向上を図る。
	45 P	農作物生産振 興対策事業	農林課	関する正しい知識 を理解し、適正に 使用し、安全な農 産物を生産する状	心確保(GAP[農業生産工程管理]に取り組む生産組織の割合)	12% (H27年	実績	51.6 %			60% (R5年 度)	継続	1,101	1,049	維持	6, 150	順調	織の割合が、目標より若干下 回っているが、生産組織が GAPの重要性を理解してお り、今後も、この取組を継続		
				態にする。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		達成率	86.0 %										していく。		

産業経	./H /Q			[Plan]	計	画	/	[De	o】 実施	į						+		【Check】 評	·価 /	/ [Action】 改善
施策番号	SC	DGs 基本計画の施策 主要 事業	支票 取勿即五		事業	評価	の成果指	標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向け		R3年度	26.0 = + 1 1 +
・施策名	No. ゴ	を構成する 事業 主な事業・取組 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ę	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直した (課題に対する改善		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						目標	76	件	85 件	100 件							2				
				監視カメラや水位 計等の観測機器の 設置件数(累計)		実績	31	件			100件 (R5年 度)										
		D ため池防災事 農林 業	近年頻発するため池の老朽化等を			達成率	40.8	%				cole (c+	15/ 300	141 200	//L++	. 225	やや	国による農業水路	の制度の		
	40	業課	原因とする災害を 防止する。			目標	30	箇所	60 筋	90 箇 所		一、終稅	154, 900	161, 300	維持	6, 325	遅れ	拡充を受け、これらの 有効に活用し、ためが 性の向上を図る。			
				ため池劣化状況評 価の実施箇所数 (累計)	0箇所 (R2年 度)	実績	15	箇所			200件 (RI0年 度)										
						達成率	50.0	%													
N-3- (1)-① 中小企 対不足			地元企業情報の 提供・マッチング			目標	1,820	人	1,820 人	1,820 人								対面のみならずー つあるWEBを活用しな		順調	中小企業の人材不足に対応するため、新卒学生や就職氷河期世代など様々な世代の人材や市外からのU・Iターン希望者の地元企業との丁寧など、
への対応	47	合同会社説明 雇用 政策 会等開催事業 課	用支援を行い、市 内外の学生の地元 企業への就職と市	合同会社説明会 参加者数	I,682人 (H26年 度)		I,406	Д			I,820人 (R6年 度)	継続	29, 290	21,176	減額	11,200	順調	早期化する就職活動 市内企業の情報提供 社説明会・業界可 ことにより、引き続 業と求職者のマッチ	において や合同会 会を行う き市内企		マッチング支援に取り組むと ともに、外国人雇用を考える 企業の発掘や留学生等の市内 企業への就職支援も強化す る。 また、DX時代に対応した
			内定住の促進を図る。			達成率	77.3	%										会を創出する。			WEBを活用した企業の採用力向上を支援するほか、女性や高齢者の人材確保や定着を図るため、働きやすい職場環境の改善に取り組む企業支援に
			市内へのU・I ターン就職を希望 する者と即戦力人 材の確保を求める 市内企業とをつな			目標	480	Д	720 人	960 人								引き続きU・Iター フィスにおける伴走!			も引き続き取り組む。
	48	北九州で働こ う!U・Iター ン応援プロ ジェクト 課	ぐ本市独自のサービスとして、市内企業の求人情報の 提供に加えて、専 任コンサルタント	U・Iターン就職者 数(累計)	766人 (H27~ H30年 度)	実績	443	Д			I,200人 (R2~R6 年度)		24,511	24, 235	維持	7,875	順調	ング支援を行う。 全世代の優秀な人が企業のマッチングを ために、民間企業と 多様な求人開拓や、	材と市内 促進する 連携した 人材採用		
			によるカウンセリング、新規求人の発掘等を通して、 リ・Iターン就職支援を行う。			達成率	92.3	%										の提案を行うなど、「 援を行う。	1 學 4 文		

					[Plan]	計记	画	/ [[)o】 実施	<u> </u>								【Check】 評価	/ [Action】 改善
号 No	SDG	s 基本計画の施第 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)		-h-#n	成木の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	74.0 0 + 1.4 + +
名 110.	番号	を構成する ・主な事業・取組	所管 課名	李来 机阻帆叉	指標名等(現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等	局施第 評価	()mpr +1 + = =1 -4 + -1 + 1
				市内企業が全国 から優秀な人材を 獲得できるよう、 WEB等を活用した			目標	50 人	100 人	100 人								市内企業が優秀な人材を 得できるよう、DX時代に対 した人材採用力育成スクー	応	
49	8	DX時代に対応 した第二新卒 等採用力強化 事業	雇用	「人材採用力」の 育成統希望者がら、 を民間転職サイまで をトータルできました。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		21人 (H30年 度)	実績	191 人			100人 (毎年 度)	継続	20,000	19,000	維持	7,875	順調	や個別コンサルティングを 施することで、企業の採用 を強化する。加えて、求人 告の掲載までをトータルで 援することで、市内企業の	実力広支	
				するなど、U・I ターン転職を促進 する。			達成率	382.0 %										手不足の解消及びU・Iター 転職者の増加を図る。	ン 	
			雇用	外国人材就業サポートセンター運 営事業や海外の連 携大学等との交流	市内企業と留学生		目標	20 件	20 件	20 件	20件							外国人材の雇用を考える 内企業の発掘や支援、市内 業への就職を目指す留学生 抱える市内大学等でのガイ	企 を ダ	
50	8	外国人材就業 サポート事業	政策課	事業の実施により、市内企業への 就職を目指す留学 生や海大大学生等 の受け入れを支援	とのマッチング件数	_	実績達	22 件			(毎年度)	継続	13,200	12,800	維持	12,825	順調	ンス、マッチング登録会の 催に加え、市外大学の留学 の市内企業就職促進のため センターの外国人材雇用支 紹介を実施し、市内企業の	生 、 援	
				する。			成率	110.0 %										村確保支援を強化する。		
				市内就業支援施 設の就業相談カウンセラーや就職 マッチング支援員 を増員し、失業者			目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人								製造、介護等の業界にお		
51	8	人手不足企業 への早期再就 職・正規就職 支援事業	雇用 政策	の再就職や就職氷 河期世代の正る記 就職を支援する就 また、早期の就 に繋げるため、チャ 手不足業種へチャ	就業支援施設(若者ワークラザカーの高年齢者の大人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人	_	実績	2,069 人			2,000人 (毎年 度)	継続	35,000	38, 130	増額	7,875	順調	て人手不足が続いており、 期資格取得や企業とのママ ングを通して労働移動を するとともに、失業者を就 氷河期世代への集中的な支 を引き続き行う。	チ 進 職	
				レンジする求職者 には、短期の資格 取得支援等を実施 する。			達成率	103.5 %												
				市内をはじめ、	九州・山口一円の	106.4	目標	4,300 人	4,400 人	4,500 人										
				九州・山口一円の	学校からの市内企 4	,106人 (RI年 度)		4,147 人			4,600人 (R6年 度)							九州・山口一円の大学等 顔の見える関係性を維持す	る	
52	2	九州・山口ー 円の新卒者地 元就職強化事	雇用	援を目的に、合同 会社説明会や業界			達成率	96.4 %				継続	14,000	13,850	維持	7,400	_	とともに、同地域の学生と 市内企業が出会う機会や情 を提供するため、WEBを活用	報	
		元 就 赋 强 化 争 業	課	研究イベント、学 生と企業が出会う 機会を従来の対面	市外の学校から市	680人	目標	720 人	730 人	740 人	750人							した合同会社説明会や市公 就職支援サイト「しごま る。」による情報発信を行		
				型に加えて、オン ラインで提供す る。		680人 (H30年 度)	実績	1,050 人			(R6年 度)).		
				3 °			達													

			- 十		(Plan)			/	[Do		実施							人产费		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号 · 施策名	SDGs No. ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	尹朱	事業・取組概要	指標名等	現状値		の成果指 R3年度	1	目標・実 R4年原		R5年度	中期	成果の 方向性	予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直	した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
		土な事業・収組	課名	中小製造業・建 設業者が行う女性 専用設備の設置や 女性・高齢者の作	181% 27 4	(基準値)	目標	7	社	12	社	12	目標 土		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する	改善万法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
	E2 (5)	ものづくり中 小企業職場環 境改善支援事 業	企業	業をという。 業を表し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	助成金を活用する 企業数	13社 (H29~ H30年 度)	実績	7	社				12社 (毎年 度)	継続	6,000	6,000	維持	3,075	順調	企業ニーズを 引き続き効率的 ていく。			
				することで、人手 不足に苦しむ市内 中小企業の人材確 保・定着を支援す る。			達成率	100.0	%														
N-3- (1)-② 地域の ニーズっ に沿っ		11. ± 111 σ° 151. ⊃		市内へのU・I ターン就職を希望する者と即戦力の確保を求める 市内企業とをかなった本市独自のサー		R(()	目標	480	人	720	人	960 .								引き続きU・I フィスにおけるf ング支援を行う。	伴走型マッチ		地元企業のニーズは、高标生や大学生をはじめ、転職者や外国人材など幅広い範囲に及んでいる。 そこで、学生の地元企業の認知度を高めるため、地元1
た人が・一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の	54	北九州で働こ う!U・Iター ン応援プロ ジェクト		ビスとして、市内 企業の求人情報の 提供に加えてンサルタンセリ によるカウンセリ ング、新規求人の	U・Iターン就職者 数(累計)	766人 (H27~ H30年 度)	実績	443	人				I,200人 (R2~R6 年度)		24,511	24, 235	維持	7, 875	順調	全世代の優秀。 企業のマッチン ために、民間企 多様なま人開拓・ の提案を行うな 援を拡充する。	グを促進する 業と連携した や、人材採用		業に対する課題解決型イン ターンシップの実践支援を行うなどインターンシップが プラムの充実を図ることで、 企業の魅力向上と若者の地方 就職に繋げる。
				プリ、新規以入の 発掘等を通して、 U・Iターン就職支 援を行う。 若年ワークプラ			達成率	92.3	%											技を拡充する。			また、若者ワークプラザ(おいて、引き続き労働移動支援 はた、子子の就職活動支援 を行っていく。 さらに、外国人材の雇用
		若者ワークプ		ザ北九州(小倉・ 黒崎)において、 概ね40歳までの若 年者及び氷河期世 代の求職者を対象		1,360人		1,300		1,300	人	1,300	1,300人				4415			引き続き労働			考える企業の発掘と留学生 とのマッチングのほか、外[人材就業サポートセンターし よる就業支援を紹介するな 外国人材確保支援策の更な
	55 🔞	ラザ北九州運 営事業	政策課	に、就業相談、各種就業関連情報の 提供、セミナー、職場体験、職業紹	就職決定者数	(H30年 度)	績達	931	<u>۸</u>				(毎年 度) =	継続	80,410	83, 955	維持	8, 995	順調	伴走型の就職活! ていく。	動支援を行っ		強化を図る。
				介等により、若年 者の就業支援を実 施する。			成率	71.6	%														
		(), ()	- E	インターンシップ事業の充実や市内企業と学生の交流会の開発を出る。		222.4	標	360	人	375	人	390								地元就職促進(きインターンシ るほか、幅広い 業に対する課題)	ップに注力す 業種の地元企		
	56 8	インターン シップ等推進 事業		学生と企業の出会 いの場を提供する ことで、市内企業 への就職や地元定 着及び市内企業の	インターンシップ 参加者数	223人 (H30年 度)	持	346	人				400人 (R6年 度)	継続	9,000	12,814	増額	3, 200	順調	ターンシップの を通じて、学生 企業への認知を に企業における	実践支援など における地元 高めるととも インターン		
				人材確保を促進する。			達成率	96. I	%											シッププログラカ向上を図るもの			

			T	(Plan)		画	/	[D						l r -		人件事			評価		Action]	改善
号 No.	SDG	基本計画の施策 主要 ・ を構成する 主な事業・取組 課名	事業・取組概要			評価			目標・実績)		中期	成果の		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安)	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し		R3年度 局施策		F度に向けて ·見直した内容
名 100.	番号	主な事業・取組 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	E	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対するご		評価		対する改善方法
						目標	4,300	人	4,400 人	4,500 人												
			市内をはじめ、九州・山口一円の	業への新卒就職者	4,106人 (RI年 度)	実績	4, 147	人			4,600人 (R6年 度)							.	3の上光体と			
		九州・山口一 雇用 円の新卒者地	学生の就職支援と 市内企業の採用支 援を目的に、合同 会社説明会や業界			達成率	96.4	%				Call Cate	14 000	12.050	// / ++	E 400		九州・山口一円顔の見える関係性ともに、同地域である。	生を維持する 成の学生と本 j 機会や情報			
57	8	文策 元就職強化事 業	研究イベント、学 生と企業が出会う 機会を従来の対面 型に加えて、オン			目標	720	人	730 人	740 人		- 継続	14,000	13,850	維持	7, 400	_	を提供するため、 した合同会社説明 就職支援サイト「 る。」による情報	目会や市公式 「しごま			
			ラインで提供する。	市外の学校から市 内企業への新卒就 職者数	680人 (H30年 度)	実績	1,050	人			750人 (R6年 度)							う 。				
						達成率	145.8	%														
			市内企業が全国 から優秀な人材を 獲得できるよう、 WEB等を活用した			目標	50	人	100 人	100 人								市内企業が優秀 得できるよう、D)				
58	8	DX時代に対応 した第二新卒 母 等採用力強化 事業	FILLS TO I	市内企業への就職決定者数	21人 (H30年 度)	実績	191	人			100人 (毎年 度)	継続	20,000	19,000	維持	7,875	順調	した材採用力育 た人材コンとで、かままでは を強力している。で、かままでは したがある。で、かままで、 はなりますで、 はなりをもで、 はなりをもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	ーィングを実 ≧業の採用力 上て、求人広 、ータルで支			
			をトータルで支援 するなど、U・I ターン転職を促進 する。			達成率	382.0	%										手不足の解消及し転職者の増加を図	バU・Iターン			
			外国人材就業サ ポートセンター運			目標	20	件	20 件	20 件	:							外国人材の雇用 内企業の発掘や支				
59	8	外国人材就業 雇用 サポート事業 課	営事業や海外の連 携大学等との交流 事業の実施によ り、市内企業への 就職を目指す留学	とのマッチング件	_	実績	22	件			20件 (毎年 度)	継続	13,200	12,800	維持	12, 825	順調	業への就職を目指 抱える市内大学等 ンス、マッチンク 催に加え、市外大 の市内企業就職仮	旨す留学生を 手でのガイの開 で登録留学生 で学のため、 E進のため、			
			生や海外大学生等の受け入れを支援する。			達成率	110.0	%										センターの外国人 紹介を実施し、市 村確保支援を強化	5内企業の人			

					(Plan)	計	画	/	[Do	」 実を	ŧ						•		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号 · 施策名	No. 3'-1	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	指標名等	現状値	評価の	の成果指標 R3年度		目標・実績) 	R5年度	中期	成果の 方向性	予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直	した内容	R3年度 局施策	強化・見直した内容
		工化手来 似相	課名	市内就業支援施設の就業相談カウンセラーや就職員マッチング支援者	3818/0-0	(基準値)	目標	2,000		2,000 人	1.00	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等
	60 8	人手不足企業 への早期再就 職・正規就職 支援事業	雇用	を増成し、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では	就業支援施設 (若 者ワークラザ北 九州、高年齢者就 業支援センター) の就職決定者数	_	実績	2,069	人			2,000人 (毎年 度)	継続	35,000	38, 130	増額	7,875	順調	報理、 が設場 大子取得を通りでは 大子取得して 大子取得して 大子取得して 大子の 大子の 大子の 大子の 大子の 大子の 大子の 大子の	業とのマッチ 働移動を促進 失業者や就職 集中的な支援		
N/ 2				レンジする求職者 には、短期の資格 取得支援等を実施 する。			達成率	103.5	%												加至六田	せた老の地ニん巻での起
N-3- (2)-① 若年就 の 意 発 や			= n	若年ワークプラ ザ北九州(小倉・ 黒崎)において、 概ね40歳までの若 年者及び氷河期間			目標	1,300	人	1,300 人	人,300 人									40 - 1 - 10 14 1	順調	若年者の地元企業での就意識の啓発を図るため、地企業に対する課題解決型イターンシップの実践支援をうなどインターンシップでプラムの充実を図ることで
1能発職へ援 開就動支	61 8	若者ワークプ ラザ北九州運 営事業		種就業関連情報の 提供、セミナー、 職場体験、職業紹	就職決定者数	I,360人 (H30年 度)		931	人			1,300人 (毎年 度)	継続	80,410	83, 955	維持	8, 995	順調	引き続き労働 伴走型の就職活 ていく。	移動の促進と 動支援を行っ		企業の魅力向上と地元就職 識の醸成を図る。 また、製造や介護業界で 就職に繋がる短期資格の取得 支援に取り組むことで、失
				介等により、若年 者の就業支援を実施する。 市内へのU・I ターン就職を希望			成率目	71.6	%													者や就職氷河期世代の能力 発と再就職を促進する。 引き続き、民間企業と連 した多様な求人の開拓や市 式就職支援サイト「しごま
		北九州で働こ	雇用	する者と即戦力人 材の確保を求める 市内企業とをつな ぐ本市独自のサー ビスとして、市内		766人	標	480	<u>۸</u>	720 人	、 960 人	1,200人							引き続きU・] フィスにおける ング支援を行う 全世代の優秀	伴走型マッチ		る。」による求人情報の発信、WEBを活用した合同会社説明会など時代に即した求者支援に取り組む。
	62 8	う!U・Iター ン応援プロ ジェクト		企業のまく情報の 提供にかサルシャト によるカウンセリング、新規求人の	U・Iターン就職者 数(累計)	(H27~ H30年 度)	実績	443	人			(R2~R6 年度)	継続	24,511	24, 235	維持	7,875	順調	企業のマッ民間企 を対に、民間企 多様な求人開拓 の提案を行うな 援を拡充する。	グを促進する 業と連携した や、人材採用		
				発掘等を通して、 U・Iターン就職支援を行う。			達成率	92.3	%													
		インターン	雇用	インターンシップ事業の充実や市内企業と学生の交流会の開催など、 学生と企業の出会		223人	標	360	人	375 人	390 人	400人							きインターンシ るほか、幅広い 業に対する課題	業種の地元企 解決型イン		
	63 8			いの場を提供する ことで、市内企業 への就職や地元定 着及び市内企業の	インターンシップ 参加者数	(H30年 度)	実績達	346	+			(R6年 度)	継続	9,000	12,814	増額	3, 200	順調	ターンシップの を通じて、学生 企業への認知を に企業における シッププログラ	における地元 高めるととも インターン		
				人材確保を促進する。			成率	96. 1	%										力向上を図るも			

					[Plan]	計画	画	/	[D	o】 実施	i						+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No.	DGs 基本計画の施 '-ル を構成する 全な事業・取	第 事業	事業・取組概要	- 1		評価の			目標・実績)		Hz 世R	成果の	' 	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	1	主な事業・取	組課名		指標名等(基	現状値 基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	(千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	4,300	人	4,400 人	4,500 人											
				市内をはじめ、九州・山口一円の	美への新卒別順有数	106人 (RI年 度)	実績	4, 147	人			4,600人 (R6年 度)							九州・山口一	·円の大学等と		
	64	九州・山口 円の新卒者 元就職強化	一種用	学生の就職支援と市内企業の採用合同のでは、			達成率	96.4	%				継続	14,000	13,850	維持	7,400	_	顔の見える関係 とともに、同地 市内企業が出会 を提供するため	性を維持する 域の学生と本 う機会や情報		
		光 縣 域 独 化	課	研究イベント、学生と企業が出会う 機会を従来の対面 型に加えて、オンラインで提供す			目標	720	人	730 人	740	(した合同会社説 就職支援サイト る。」による情 う。	「しごま		
				る。	内企業への新卒就(I	580人 H30年 度)	実績	1,050	人			750人 (R6年 度)										
							達成率	145.8	%													
				市内就業支援施 設の就業相談カウンセラーや就職 マッチング支援者 を増員し、失業者			目標	2,000	人	2,000 人	2,000 人								製造、介護等	の業界におい		
	65	人手不足企 への早期再 職・正規就 支援事業	業就職雇用	の再就職や就職氷 河期世代の正社員 就職を支援する。	就業支援施設(若 者ワークプラザ北 九州、高年齢者就 業支援センター) の就職決定者数		実績	2,069	人			2,000人 (毎年 度)		35,000	38, 130	増額	7,875	順調	て人手不足が続 期資格取得や企 ングを通して労 するとともに、 氷河期世代への	いており、知業とのでは、 大なののででは、 大学を動きないでは、 大学をなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとな		
				テイル 実権ペテヤ レンジする求職者 には、短期の資格 取得支援等を実施 する。			達成率	103.5	%										を引き続き行う	•		
N-3- (2)-③ 能放かを た中高				高年齡者就業支			目標	700	人	700 人	700	(順調	引き続き、北九州市高年間者就業支援センターとシニア・ハローワーク戸畑が連打し、効果的・効率的なマッラし、効果を図り、中高年齢者の原業支援を行う。
年齢障あの人業の人業	66	③ 高年齢者就④ 支援センタ逐 運営事業	業 雇用 政策	援センターを拠点 として、高年齢者	中高年齢者の就職 者数	768人 H30年 度)	実績	837	人			3,500人 (R2~R6 年度)		32, 984	32, 422	維持	6, 170	順調	引き続き、新ルス感染症防止がら、シニア・ 戸畑等の関連機 て、中高年齢者 していく。	対策を講じな ハローワーク 関と連携し		セカンドキャリアプロジュクトについては、デジタルで活用して事業を推進する。令和5年度に向けては、シニア人材と人手不足企業のマッチングを図るイベントで
				3 .			達成率	119.6	%													開催することで、高年齢者の 就業率の更なる向上を図る。

					[Plan]	計	画	/ [[Oo】 実施	Ē							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDG:	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	(目標・実績)			.L. #n	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	所管課名	子来 机恒烷支	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				U・Iターン求人 支援員が、U・I			目標	200 件	200 件	200	件								セカンドキャ 企業の開拓に向	・リア事業賛同]け、北九州し		
	67 3 8	セカンドキャ リア支援プロ ジェクト	雇用政策課	ターン希望者を対象として、潜在的 を訪問し、潜在的 ニーズを発掘する など機能を強化す	首都圏等における セカンドキャリア 転職希望者と市内 企業が求める人材 との年間仲介件数	368件 (H30年 度)	実績	234 件			(200件 (毎年 度)	継続	7,000	7,000	維持	2,210	順調	ごとまるごと情 る。) 登録企業に 対してもセカン 材リストをメー など、デジタル	たのメール配 こ、賛同企業に ハドキャリア人 - ルで送付する		
				3.			達成率	117.0 %											業を進める。			
		<新>シニアと企業の出会		働く意欲のある シニア人材の就業 促進と市内企業の 人手不足の緩和を			目標			100	٨								深刻な人手不は、働く意欲の ニア人材の活用	ある元気なシ		
	68 3	では来の出事 いの場創出事 業〜シニア活 躍応援プロ ジェクト〜	雇用	目的に、企業向けのシニア活用セミナーと仕事体験付き合同会社説明会をセットにした	マッチングイベント参加者のうち就職が決定した人数	_	実績達					100人 (毎年 度)	_	_	6,400	_	3, 960	_	っため、働くだっため、 なシニア人材を チングを業り、 業及び企業の人 支援する。	欲のある元気 企業とのマッ 高年齢者の就		
				マッチングイベン トを開催する。			成率												又1友 9 る。			
IV-4- (3)-① 国内外 からの 観光 推進				キーパーソン等			目標	300 件	300 件	300	件								国際引きない は、変化 素統わの まの まの まの まの は、変的 なの まの まの は、変的 なの をの まの まの をの にの まの をの にの まの まの にの まの まの にの まの まの にの まの まの まの まの まの まの まの まの まの ま	た迅速かつ効		国際会議等MICE事業の推進は、引き続きコロナ海におかせた迅速かつ効果的な事業のを変化にあか実施が求められる。令和4年10月の人国制限の緩和を受け、海外での現地営業などの誘致方を全面再開した。また、需要が見なと乗らにおいても高い需率症対策への助及を延長でいると延長を変が見ないを延長するない。
	69 3	国際会議等 MICE事業の推 進	MICE 推進 課	マネーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマージーをPには一変をPには「大きなないでする」といるでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	MICE開催件数	183件 (H20年 度)	実績	117 件			(300件 (R5年 度)	継続	156, 520	162, 320	維持	12,400	遅れ	不る 緩業しい感る度力の の本年10月海 で、一年10日海 で、一年10日本 で、一年10日本 で 一年10日本 で 一年10日本	の大国国 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		でなど、MICE開催的成金の制力 をなど、MICE開催的成金の制度改正を効果的に行いて、「国際 力の強化を図ること引き続き 目指していく。 観光振興推進事業について は、市内に訪れた観光客が観 光情報について気軽に相談で きるようにするため、市内4 か所の観光案内所の運営を終
							達成率	39.0 %											MICE都市北九州 目指していく。	」を引き続き		がいいが北条内間の建立を経 続する。また、観光行くド ブックの制作や旅行会社への セールス、ブース出展活動を 行う。 インパウンド誘致強化事業 については、本市の観光ス ポットを安心して選んでいた だけるよう、観光情報の整備

産業経済局

				[Plan]				[Do		i						(評価	/ [Action]	改善
番号	S of	SDGs 基本計画の施策 主要 を構成する 事業	事業・取組概要			評価の)成果指	標(E	目標・実績)			成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向 強化・見直し		R3年度	26.41 5	きに向けて 見直した内容
策名	10.	事業 を構成する 主な事業・取組 課名	尹耒 、 収租 帆 女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する改		局施策 評価	Commercial Li	する改善方法
						175		万人	2,460 万人	単年度目標 設定なし											やPRを行うと ゲットとする 絞り込み、交 ションを行う	エリアや客 効果的なプロ
				観光客数	I,105.3 万人 (R3年)	実績	,105.3	万人			3,000万 人 (R7年)											
						達成率	44.9	%										市内に訪れた観	火 安 4 3 年 火			
			エージェント等 へのセールスや観 光プロモーション の実施、本市の特			目標		万人	130 万人	単年度目標 設定なし								情報について気軽 るようにするため 月に開設したジア	に相談でき 、令和4年4 ウトレット	.		
	70	翻光振興推進 観光事業 課	性を活かした「産 業観光」「夜景観 光」の推進、観光 案内所等でのおも	観光客数のうち宿 泊者数	124.6 万人 (R3年)	実績		万人			240万人 (R7年)	継続	81,828	91,108	増額	9, 150	やや 遅れ	北九州など市内47 案内所の運営を継 た、観光ガイドフ や旅行会社へのセ	続する。ま `ックの制作			
			まり、観光振興を 図る。			達成率	95.8	%										ブース出展などに 地として本市を選 けるよう効果的な ション活動を行う	んでいただ プロモー			
						目標		億円	976 億 円	単年度目標 設定なし) 1 / July 1 / J	•			
				観光消費額	399億円 (R3年)			億円			I,700億 円 (R7年)											
						達成率	40.8	%														
			外国人観光客数			目標		万人	70 万人	70 万人								コロナ禍で激減国人については、ロススである。	アフターコ 復が見込ま	!		
	71 (の本格的な回復に 向けて、周辺自治 体等と連携した多 種プロモーション で受入環境整備、 宿泊助成等の実施	外国人観光客数	69.1万 人 (H30年 次)	実績		万人			70万人 (R5年 度)	継続	15,000	42,000	増額	17, 400	やや 遅れ	れるこなでは、これでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、	を促進する と連携語は の出展な のコンや、 広	*		
			に取り組む。			達成率	1.4	%										報物多言語化等の 備に取り組むほか や割引クーポン配 成事業を強化する	、宿泊助成 布などの助			

生未和		_			(Plan)	計	画	/	[D	o】 実	施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No 7	EDGs 基本計画の施策 を構成する	争来	事業・取組概要			評価の	の成果指	ば標 (目標・実績	()		-h #0	成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	26.0 8 4 1 1 1 1 4
・施策名	1	まな事業・取組	所管 課名	子术 -八川川列文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	隻	R4年度		R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				遊休不動産をリ ノベーションの手	リノベーションま ちづくり事業を通 じての新規創業	277人 (H27~	目標実	120	人 人	120	人	180 人	300人以上							令和5年度か を発展させ、官 「商店街リノベ	民連携による		
	72	リノベーショ ③ ンまちづくり		法を活用して再生 させ、新規創業者 や新規雇用者を創 出する。今後は、	者·新規雇用者数 (累計)	H30 年 度)	績 達成率	51.7					(R2~R6 年度)	- 継続	15,414	3,500	その他	17, 950	順調	づくり推進事業 新規事業として た。令和5年度 施するまちづく	」に見直し、 別だてとし も継続して実 りエリア再生		
	72	推進事業	産業策課	他地区展開を行う ことにより、小倉 北区以外のまちな かのにぎわいを拡	リノベーションま	5件	目標実	5	件	5	件	5 件	5件	Nec NyL	13,414	3,300	CVIE	17, 750	risk diel	塾において、参 をより重視し、 実践できる人材 れる。また、事	まちづくりを 発掘に力を入 業化した案件		
				大させる取り組みを推進する。	ちづくりにおける 事業化件数	(H27年 度)	夫績 達成	160.0	件 %				(毎年 度)							については積極 域の更なる賑わ ることを目指す	い創出に繋げ		リノベーションまちづくり
							率目標				2	R3年度比 2ポイント 改善 (14.9%)	R3年度									_	推進事業については、まちづくりの新たな人材を発掘・支援することで、リノベーション物件の事業化に繋げ、事業者に寄り添った支援を行うことで賑わい創出も目指す。
IV-4- (3)-② にぎわ				商店街における	黒崎地区商店街エ リアの空き店舗率	16.9% (R3年 度)	実績						比2ポイ ント改 善 年度: 14.9%										商店街において、官民連携 でリノベーションまちづくり に取り組むことで、市内の商 業的エリア価値の向上を図 る。令和5年度については、
いりる交業充	73	<新>商店街 リノベーショ	商業サビス	民間事業者のリノ ベーションは自けた リ推進に向取組 を、イベント開催			達成率						以下)		_	6,000	_	6, 150	_	でリノベーショ で取り組むこと 業的で、 で和5年度 る。令和5年度 黒崎地区でリノ	で、市内の商 [の向上を図 こついては、	やや 遅れ	黒崎地区にてリノベーション まちづくりに取り組む事業者 と連携し、賑わいの創出や商 業的エリア価値の向上に注力 する。 日本新三大夜景都市ブラン
76		ジ ンまちづくり 推進事業	産業の課	などソフト面の支 援で後押しすも とで、官民・ はる中心を推進す たた推進す			目標				,	12,681 人				3,000		3,733		が、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 でできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい	向け拠点整備 事業者と連携 賑わいの創出		マポリニ人仅京都リンフンドを活用した夜型観光促進事業については、「日本新三大夜景都市」全国I位のブランドを活かし、市民・観光客向けの夜景イベントやブース出
				3 .	黑崎地区歩行者通 行量(人/日)	12,581 人(R3 年度)	実績						12,881 人(R7 年度)										Rなどのプロモーションス活動を行うことで、本市の夜型観光を推進し、更なる誘客及びPRを行う。
							達成率																
		日本新三大夜		夜型都市として の本市のブランド を活かした旅行会 社向けプロモー	夜景観賞クルー	7. 000 A	悰	13,000	人	13,000	人	13,000 人	13,000							国I位のブラン 市民・観光客向	けの夜景イベ		
	74	日本新二入役 景都市ブラン ドを活用した 夜型観光促進 事業	観光課	施することで、本 市の夜型観光を促	ズ・ツアー等の夜 景観光客数	7,000人 (H27年 度)	達	2,432	人				人 (R5年 度)	継続	10,000	10,000	維持	14, 150	遅れ	ントやブース出せて、本市の表表で、東なる誘客	」を行うこと !観光を推進		
				進し、更なる誘客を図る。			成率	18.7	%											う。 			

座 兼允					[Plan]	計i	画	/ [[o】 実績	沲						4		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			平価の)成果指標	(目標・実績)		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度		に向けて 直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事 未 · 权租 似 安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価		る改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
							尓	2,460 万人	2,460 Z												
					観光客数	I,105.3 万人 (R3年)	績	,105.3 万 人			3,000万 人 (R7年)										
				- > 107			達成率	44.9 %				-						市内に訪れ/	- 観光客が観光		
IV-4- (3)-③				エージェント等へのセールスや観光プロモーションの実施、本市の特			目標	130 万人	130	5 単年度目標 改定なし								情報について気 るようにするが 月に開設したう 北九州など市内	さめ、令和4年4 ブアウトレット		市内に訪れた観光客が観光 情報について気軽に相談でき るようにするため、市内4か
ホタリ ティの 向上	75 (1)	観光振興推進 事業	観光 課	性を活かした「産 業観光」「夜景観 光」の推進、観光 案内所等でのおも	観光客数のうち宿 泊者数	124.6 万人 (R3年)	実績達	124.6 万			240万人 (R7年)	継続	81,828	91,108	増額	9, 150	やや 遅れ	案内所の運営され、観光ガイト や旅行会社への ブース出展など	と継続する。ま ドブックの制作 ロセールス、	やや 遅れ	所の観光案内所の運営を継続する。また、観光ガイドブックの制作や旅行会社へのセールス、ブース出展などによ
13_				てなしの向上等により、観光振興を図る。			達成 率	95.8 %				-						地として本市をけるよう効果的ション活動を行	を選んでいただ りなプロモー		り、効果的なプロモーション 活動を行う。
							標	976 億 円		意 単年度目標 設定なし	1,700億										
					観光消費額	399億円 (R3年)		398.5 億円			円 (R7年)										
							成率	40.8 %		R3年度比											
						16.9%	目標			2ポイント 改善 (14.9%)	R3年度 比2ポイ ント改										
V-I- (2)-②			商	商店街における 民間事業者のリノ ベーションまちづ	黒崎地区商店街工 リアの空き店舗率	(R3年 度)	実績達				善(R7 年度: 14.9%							商店街におい でリノベーショ に取り組むこと			商店街において、官民連携 でリノベーションまちづくり に取り組み、賑わい創出や集
文文を居住を	76 8	<新>商店街 リノベーショ ンまちづくり	業サビ産	くり推進に向けた 拠点整備の取組 を、イベント開催 などソフト面の支			成率				以下)		_	6,000	_	6, 150	_	業的エリア価値 る。令和5年度 黒崎地区でリン ちづくり推進し	in向上を図 については、 バーションま	_	客力の向上を通して、地域交流の活性化を図る。令和5年度については、黒崎地区でリノベーションまちづくり推進
能しまれる。		推進事業	政策課	援で後押しすることで、官民連携による中心市街地の活性化を推進す		12 501	目標 /			12,681 人	12 001							を予定している し、黒崎地区の や商業的エリフ	る事業者と連携 り賑わいの創出		に向け拠点整備を予定している事業者と連携し、賑わいの 創出や商業的エリア価値の向 上に加え、地域交流の活性化
				3.	黒崎地区歩行者通 行量(人/日)	人 (R3 年度)	実績達				12,881 人(R7 年度)							目指す。			に注力する。
							達成率														

					[Plan]			/	[D									+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs No. ⊐' −ル	基本計画の施第を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(目標・実績))		-b #8	成果の	R4年度	R5年度	尹禾貝	人件費 (目安)	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取約	所管 課名	3 % (100)	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	RS	5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する改		戸価	(課題に対する改善方法等)
					リノベーションま	277人	目標	120	人	120 A	۱8	80 人	300人										
				遊休不動産をリノベーションの手	ちづくり事業を通 じての新規創業 者・新規雇用者数 (累計)		実績	62	人				以上 (R2~R6 年度)							令和5年度からを発展させ、官民 「商店街リノベー	⊰連携による −ションまち		
V-I- (2)-③ 未利用	77 🔞	リノベーショ ンまちづくり	ビス	法を活用して再生 させ、新規雇用者を創 出する。今後はし 他地区展開を行う			達成率	51.7	%					- 継続	15,414	3,500	その他	17, 950	順調	づくり推進事業」 新規事業として別 た。令和5年度も 施するまちづくり 塾において、参加	リだてとし 継続して実) エリア再生	順調	市内の遊休不動産を再生塾 の題材として発掘・支援する ことで、リノベーション物件 の事業化に繋げ、事業者に寄
地等の 活用		推進事業	産業 政策 課	ことにより、小倉 北区以外のまちな かのにぎわいを拡 大させる取り組み		- 11	標	5	件	5 4	# 5	5 件								をより重視し、ま 実践できる人材発 れる。また、事業 については積極的	きちづくりを 発掘に力を入 ぎ化した案件		り添った支援を行うことで賑わい創出も目指す。
				を推進する。	リノベーションま ちづくりにおける 事業化件数	5件 (H27年 度)	実績	8	件				5件 (毎年 度)							域の更なる賑わい ることを目指す。	\創出に繋げ		
							達成率	160.0	%														
V-I-			∧ ₩				目標	83	%	83 %	6 83	3 %	分譲率							残り区画の造成	式に着工でき		複数の企業から残り区画の 分譲時期等の問い合わせを受
(3)-② 産業拠 点の整 備	78 8	北九州空港跋 地産業団地整 備事業	企業主	北九州空港跡地 産業団地の整備を 行う。	分譲率	67% (H25年 度)	実績	78	%				100% (R6年 度)	継続	204,934	266, 200	増額	6, 550	順調	たことから、早期 め、近接工事等と り、造成工事の竣 す。	の調整を図	順調	カ 張時期寺の同い品がこれできずいており、産業基盤の充実を図るためのの重要エーズに合わせて造成工事を進めていく。
							達成率	94.0	%														
V-I- (3)-③ 物流拠 点の整 備				物流事業者や荷 主企業等、有識 者、行政の産学官			目標			60 촌	± 10	00 社								令和4年度に産 よる物流施策の指 て、「北九州市物 を立ち上げた。令 「北九州市物流彩	推進体制とし 加流懇話会」 ♪和5年度も 懇話会」にお		物流関係事業者、有識者等 から課題やニーズを聴取しつ 、本市の更なる物流拠点化 に向けて、事業を着実に進捗 させるとともに、既存制度の 拡充など取組の強化を図って いく。
	79 (1)	物流活性化推 進事業	拠点 推進	で構成する「北九州市物流懇話会」において、物流懇野における課題を	勉強会・シンポジウムへの参加企業等の数 ※中期目標改訂	-	実績						100社 (毎年 度)	継続	3,000	4,000	増額	7, 250	_	いて、勉強会・シを継続的に実施して期目標の変更本市の物流施策をより強固なもの	,ていく。 見内容】 ほの推進体制		
				ポジウムや勉強会 等を開催し、本市 の物流活性化を推 進する。			達成率													め、Web会議方式。 る非接触の場合を 画方法法係事性して 物流関係を進せる 標を変更する。	の併用によ を、多様な参いがら、市内 で中心に更な		

産業経済局

性果和	王/月	/PJ				[Plan]	計	画	/ [Do]	】 実施							4		【Check】 評価 /	/ [<i>I</i>	Action】 改善
施策番・施策名	No.	SDGs コール	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要業管名	事業・取組概要	指標名等	事業	評価	の成果指標(目: R3年度	標·実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
		g	→ № 次にかめ	物流点	本空を活た物せすて卸けしエて費るの援すれば、促州による一州内物を開送とを、点れて、のこれの主教の、表示の活性、本取。北市の活性、本取。北市農力場産都輸要部で拠る、大市組第九場産都輸要部で拠る、大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	取組みにより本市に集積した発貨物の量(㎡)	(基準値)	目標 実績 達成率		7,000 m²	8,400 m ²	26,000 ㎡ (R6年 度)	継続	34,000	31,000	滅額	7,250	_	(課題に対する改善方法等) 令和4年度に引き続き、九、 州産農産物をターゲットに、本フェリー輸送への制度拡張が変換を支となる輸送先地域を拡張するを表して、九州産産の制度拡充を下本市への更なる、大利のである。	評価	(課題に対する改善方法等)
V-I- (3)-(3) 広域拠点 の整備	81	8	門司港レトロリニューアル 事業		門司港レトロ地らにおいて向において向、上施客を推進し、光消費を推進を観光消費の増加を促進する。	有料観光施設の利 用者数	718,783 人 (H29年 度)	実	710,000 人 71 467,633 人	10,000 人	710,000 人	71万人 (毎度)	継続	665, 678	465, 864	滅額	38, 250	順調	策定した協設の老朽説と 一では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	順調	門司港レトロ地区の観光地としての新たな魅力づ層推進した施策をなりに向けた施策を安全にでいる。また、施設を安全に利用できるよう老朽化対策を計画的に進める。

座 耒稻	.// /9				[Plan]	計	画	/	[Do	」 実施						+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	主要事業	声 类 取织瓶西		事業	評価の	の成果指標	標(E	目標・実績)			成果の R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	26.0 0 - 1 - 1 - 1 - 1 -
・施策名	NO. 」-N	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ę	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予算部 (千円)		の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				森林は砂路では、 、災化など働いでは、 、災化など働いでは、 ない、 ないのでは、 ないのでは、 ないのでは、 ないのでは、 はいでは、 ないのでは、 はいでは、 ないのでは、 はいでは	平成30年度から令		目標	85	ha	100 ha	100 ha							引き続き広報み、森林170	に対する事業		
	82 (G) (B)	荒廃森林整備 事業	農林課	みし入荒えきない期間では、 ちし、ななたりしたで、 で、長さな森よし、ないのでは、 で、大なとし、 で、とないでは、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	和9年度の10年間 で公益的機能が発 揮できなくなる私の れのある私とノキ林 の整備面積 ※中期目標改訂	0ha (H29年 度)	実績	82.42	ha			I00ha (R5年 度)	継続 90,50	0 90,000	維持	5, 575	順調	の周知を整備を図像を図像を開かる。また、のの実施拡大をです。 ままり 関連を できまる できまる こう かいまん アン・マール はいまん アン・マール はいかい アン・マート はいかい アン・マール はいかい アン・マール はいかい アン・マール はいかい アン・マール はいかい アン・マール はいかい アン・マール はいかい アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	層進めてい への事業メ 提案す。 貝方容】		
VI-2- (1)-③ 総合的 な緑 化・森				懸念されている。 このため、平成20 年度に創県森林環荒 「福岡県森林の再生 が廃した森林の再生 を推進する。			達成率	97.0	%									累積目標から度目標値に変更		順調	荒廃森林整備事業については、引き続き「広取り組み、森林所有者に対する事業の周外を図るとともに、福剛県への事業がらめて、一大を提案として、一大を提案を一層進めていた。
林整備の実施				長期的な林業の 低迷等により森林 の管理が適切に行 われないため、災 害防止や地球共			目標	50	ha	50 ha	50 ha							制度の広報活 み、経営管理権			同じく、森林環境保全事業 についても、森林所有者への 事業の周知を強め、適切な森 林管理や木材生産を進めてい く。
	83 9 (3)	森林環境保全 事業	農林課	化公益的に対して、	経営管理権の設定 面積 ※中期目標改訂	_	実績	102	ha			50ha (毎年 度)	継続 110,29	72 112, 36	9 維持	5, 575	大変順調	化を図る。 また、引き続ための意向調査 管理権取得を支 【中期目標の変 累積目標から	等を実施し、 援する。 更内容】		
				短がわれている。 理が行かれている。 い森林の整備及び 木材の利用促進等 を行う。			達成率	204.0	%									に変更。			
VI-3- (3)-①				地球温暖化防止 や生物多様性保全			目標	90	ha	90 ha	90 ha							環境に配慮し			国は「みどりの食料システム戦略」を策定し、食料・農
環境に 配慮林 水産業	84 (3)		農林課	で生物を除性保全 に効果の高い営農 活動に取り組む農 業者に対して助成 する。	環境に配慮した農 業に取り組んだ面 積	0ha (H22年 度)	額	76.6	ha			90ha (毎年 度)	継続 15,58	2 15,468	8 維持	5, 400	順調	重要であるためし必要に応じた 今後 進、実施面積のす。	情報提供を行 も取組の推		林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指した取組を進めていくことしている。本市でも引き続き、環境の保全と農業の生産力確保とを両立
の推進							達成率	85. I	%												する取組を推進していく。

産業経済局

/9	手 秤	·여명				[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							4		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
	策番号施策名	No. SDGs コール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主事所課名	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価の)成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
V	I-2-				北九州市、ジェトロ北九州、(公社)北九州貿易協会の3機関で設置している「北九州貿			目標	20 件	20 件	20 件	P4 1/2/							ベトナムとの経済交流は、	27.14	
北発ン海シ)-3州ラのビス		国際競争力強 化支援事業 (販路開拓)	タトアプ進ー	易・投 プー・ファインス センター (KTI センター) 」 いまない にお 托、元 の に が 、	市内企業の海外ビジネス成約件数	I7件 (H23年 度)	実績	23 件			20件 (毎年 度)	継続	8,915	8, 325	減額	17, 300	順調	製造業を中心に現地企業との マッチング支援を行う。 加工食品販路開拓は、米国 で北九州フェアを開催するほ か、商社や海外パイヤーとの マッチング支援を行う。	順調	海外企業とのマッチング支 援をとおして市内企業の国際 協力強化に務める。
					推進を支援することにより、企業の 国際競争力の向上 を図る。			達成率	115.0 %												
	[-2-				海外企業の本市 進出や、地元企業 との事業連携等を			目標	件	件	I 件										
アカ市投	3)-①ア本のの込		国際競争力強 化支援事業 (対日投資)	タトアプ 進課	促進するため、 ジェトロや関係機 関と連携してス環極 でがいるででのPRを乗れている。 に行うととなり PRに必要なツール	本市への外国企 業・機関の拠点設 置・協業件数	I件 (H26年 度)	実績	l 件			I件 (毎年 度)	継続	4,133	4, 543	増額	6, 900	順調	スタートアップについては、海外展開支援を行うとともに、海外スタートアップの本市への拠点設置や地元企業との協業支援を行う。	順調	スタートアップ等海外企業 の拠点設置や協業支援し、対 日投資の促進を図る。
					の作成・整備を行う。			達成率	100.0 %												

					[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施	i						+		【Check】 評価 /	/ [A	action】 改善
施策番号	No. 3'-1	基本計画の施策 を構成する	尹未	事業・取組概要			評価の	の成果指標(目標・実績)			hy 実 (/)	R4年度	R5年度	一十八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	李米 机配侧安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
I -l-				整備にいて 身近にの単位ないに単位ないで開いて でででいてが関するでは、 でで関するでで関するでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			目標	16	16 園	16 園										
(地ど政携働るての)域との・に子支推)な行連協よ育援進		地域に役立つ公園づくり事業	り公を課	公とで、 は、	地域に役立つ公園 づくり事業による 整備公園数	_	実績	I8 公 園			_	継続	58,000	22,020	減額	6,825	順調	国庫補助(社会資本整備総合交付金(公園))を活用して、公園の再整備を行っており、令和5年度は、令和4年度から公園整備に着手した校区について、重点的に整備を進める。	順調	今後も継続して地域と行政が連携し、魅力ある公園づくりに取り組む。
V71任廷				動など公園利用の 活性化につなげ る。計画策定後 は、翌年から概ね 2ヵ年で再整備を行 う。			達成率	112.5 %												
I -3- (I)-②		【施策評価の		【施策の内容】 小学生を対象と	【施策の指標】		目標	_	_	_										
教育関 係施携 の連携	2 4	み】 到津の森公園 による学習プ ログラムの提	公園 管理 課	した、動物や自然 とのふれあいを通 して命の大切さや 自然環境の保護の	「市民環境力」を 高め、環境保全に 対する意識が高	_	実績	_			_	_	_	_	_	_	_	_	順調	今後も継続して小学生へ <i>の</i> 学習プログラムを提供する。
人材育成		供		必要性を学ぶプロ グラムの提供。	まった状態		達成率	_												
Ⅱ-I- (4)-④ 総災策の 推進				近年、ゲリラ豪 雨や都市化の進展			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	河川毎に計画してい								順調	今後も継続して治水事業の根幹となる河川整備を推進する。
JE ZE	3 •	河川改修事業 の推進	水環境課	に起因する浸水被害が増加しる。 浸水被害を抑制するため、治水の根幹となる河	浸水被害の低減	_	実績	_			る (150 で 70mm 度) で 変 に で で で り で り で り で り で り で り で り で り た り で り で	継続	2, 458, 400	2, 084, 000	減額	78, 250	順調	国庫補助金等の有利な財源 を活用し、市内河川の治水能 力向上を図るため、計画的な 治水整備事業を推進する。		
				川改修を推進する。			達成率	_			る状態 (RI5年 度)									

					(Plan)	計	画	/ [0	o】 実友	施						•		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標(中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	26.0
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
	4 1		神川過点	長年市民に親し市 まれている旦過とと ありたのに が場に 隣接す安全 の向上のため、 の向上のため、	神嶽川 (旦過地 区) の治水安全度	_	目標実績	単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	票 単年度目標 設定なし	旦区いね50年生産	継続	1,036,628	1,139,973	増額	117,800	順調	2度事業というでは 2度事業とかった 2度の表したことで 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の 2度の	の施またに、本場に、本場では、本場では、本場では、本場では、本場では、本場では、本場では、本場では		
			区整備室	川事業と一体となった旦過地区の 再整備を推進する。	向上		達成率	_			にもで あ状態 (RI3年 度)							年度は、複合連 事(立体換地業と 情契約を行い、 埋蔵文化財調査 で着実な事業進	業施設建築 建物工事 サイ、建物体 は物解体 を が で で で の で で の で の で の で の で の で の で の		
				普通河川等の流 下能力向上のため			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	票 単年度目標 設定なし	H30年豪 雨で被 災した										
	5	豪雨災害から 市民を守る緊 急対策事業	水環境課	の改修事業、護岸 の長寿命化を行 い、市民が安全を 安心を感じるまち づくりを推進す	浸水被害の低減	_	実績	_			河川の 浸がしる状 こる状	継続	490,000	500,000	維持	21,300	順調	普通河川等の 長寿命化事業を			
				る。			達成率	_			態 (R7年 度)										
Ⅱ-2- (3)-④				公園に高齢者の 健康増進に配慮し た健康遊具を設置 し、運動教室を開			目標	2 2 園	l 2												
個康 くする	6 (1)		緑政課	催して、利用者に 使い方を説明す る。 継続的にこの健	高齢者に配慮した 健康遊具の設置公 園数	累計 24公園 (R2年 度)	実績	2 2 園			累計 30公園 (R5年 度)	継続	11,000	10,000	減額	3, 650	順調	今後も継続し 備を進める。	て健康遊具整	順調	今後も継続して高齢者の傾 康づくりに資する環境整備に 取り組む。
環境の 整備				康遊具を利用する ことにより、高齢 者の体力増進に繋 げる。			達成率	100.0 %													
Ⅲ-I- (I)-③ まち美 化活動 の拡充				市が維持及び管 理する道路におい			目標	240 団	245 E	团 250 団 本 4										順調	今後も既存団体の支援や団体数の増加・維持に取り組 む。
	7	ボランティア ネットワーク の推進(道路 サポーター)	道路 計画 課	て、道路清掃・美 化などのボラン ティア活動を行う 地域の団体を対象 に、清掃用具や花	道路サポーター加 入団体数	_	実績	237 団体			250団体 (R5年 度)		17,046	16, 364	維持	9,400	順調	制度周知の方 政だよりやホー 掲載に加え、SN 広報を積極的に 層の団体数増加	ムページへの Sを活用した 行い、よりー		
				苗の支給などによ り支援する。			達成率	98.8 %													

					[Plan]	計	画	/	[D	o】 集	尾施							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号・施策名	No. コール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	争莱	事業・取組概要	指標名等(事業 現状値 (基準値)	評価の	の成果指 R3年度		目標・実績 R4年度		R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に 強化・見直 (課題に対する	した内容	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等
				10名程度の地域 住民で組織される ボランティア団体			目標	1,160	団体	1,160	団体	I, I60 位	l s										
	8	ボランティア ネットワーク の推進 (公園 愛護会)	公園	で、公園の美化活動・公園施設の連 検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくりな 民花壇づくりなど	公園愛護会の結成 数	_	実績	1,150	団体				I,160団 体 (毎年 度)		42,616	42,676	維持	18, 135	順調	ホームページ SNSを活用したが に行い、公園愛 やすい仕組みづ て取り組み、団 増加に努める。	広報を積極的 護会が活動し くりに継続し		
				を行い、活動面積 に応じて活動費を 助成している。			達成率	99.1	%														
				地域の住民で構 成する河川愛護 体に清掃等と の貴田 を交付するこ			目標	73	団体	67	団体	67 d								ホームページ SNSを活用したル に行い、引き続 民に河川に関心	な報を積極的 き、多くの市 を持ってもら		
	9	ボランティア ネットワーク の推進(河川 愛護団体)	水環	という。 という。 という。 という。 という。 という。 という。 という。	河川愛護団体数 ※中期目標改訂	_	実績	61	団体				67団体 (R5年 度)	継続	2,634	2,634	維持	440	順調	している現状を	更内容】 団体数が減少 踏まえ、事業		
				分たちの川として 愛着を持つような 啓発活動へとつな げる。			達成率	83.6	%											評価の成果指標 (コロナ禍前) 直すもの。 (H2 均:67団体)	の団体数に見		
I-I- 2)-① 魅力あ 6生活 E間ご				都市景観の向上 と潤いのある街で くりを目指し、花 壇(公共花壇)の			目標	628	団体	564	団体	564 설										順調	今後も継続して、公園整の際には、幅広い年齢層の見を反映するなど、多くの民に親しまれる公園・まちくりに取り組む。
	10	「花やみど り」による彩 りと潤いのあ るまちづくり		整備を行うと共 に、市民花壇やス ポンサー花壇、 うぇるっちゃ!花 壇といった、市民 ボランティアや企	巾氏化理沽虭団体	664団体 (R2年 度)	実績	587	団体				564団体 (R7年 度)		56, 560	56, 560	維持	23, 150	順調	今後も継続し 働による花やみ くりを推進する			
				業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。			達成率	93.5	%														

建設局

				(Plan)	計	画	/	[Do]	実施							-		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
子号 No. Si	iDGs =	基本計画の施策 主 事	要は事業・取組概要				iの成果指標			I	中期	成果の		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に向けて 局施策 強化・見直した内
支名 番	番号:	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組 課	官	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	目標	万向性	予算額 (千円)	7 昇領 (千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価(課題に対する改善方
11	0	め域に役立つ 公園づくり事 公職 業 整課	園を目指す。	づくり事業による 整備公園数	_	目標 実績 達成率	18 [公園	16 公園	16 公園	_	継続	58,000	88,000	増額	6, 825	順調	令和4年度と比較して、対象とする公園の整備内容が大規模であるため、令和5年度の事業費を増額している。	
12	1)	都市再生整備 緑計画(公園) 課	東18年大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大			目標 実績 達成率					_	継続	10,000	0		5, 400		現在、東田大通り公園の再整備を行うため、測量及び地元関係者等への意見聴取を行っている。令和5年集は令和4年度予算を一部等り越して実施設計を行う予定である。	

<u>' </u>				[Plan]	<u></u> ≩∔.;	舌.	/ [n	な】 字体	<u> </u>								【Chack】 証何	. /	′ T.	 Action】 改善
	#+41 = 0 # /	主要		[FIGH]								D// 任 庇	DE年亩		人件費	D2年度				R5年度に向けて
No. SDGs 和名	基本計画の他見 を構成する	事業	事業・取組概要	比		1 1 1 1			P5 年 度	中期		予算額	予算額	尹耒貝	金額	事業	強化・見直した内容	容		強化・見直した内容
	土な事業・収録	課名	享齢者や暗宝者	181% 4 4	(基準値)	В	10千度	八十八文	113千及	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する改善方)	去等)	評価	(課題に対する改善方法等)
			など、誰もが安全 で快適に通行でき るよう、バリアフ			標	100 %	100 %	100 %								国平均を大きく上回ると	ととも		
13 🕕			を進める。具体的 には、歩道の新設 や拡幅、段差解 消、視覚障害者誘	主要駅周辺地区の 主要経路の整備率	_	実績	95 %			100% (R7年 度)	継続	711,500	544, 300	減額	26, 150	順調	高く、急速に進んでいるのような状況のもと、ハフリー化の推進は必要であり、着実に取組を終	る。こ バリア 下可欠		
			導用ブロックの設 置などのバリアフ リー化を行う。			達成率	95.0 %										3 .		順調	今後も誰もが安全で快適に 通行できる道路環境の整備を 推進する。
			登下校中の児童 が交通事故に巻き 込まれず、安全に 安心して通学でき			目標	_	_	_											
14 🕦	通学路の安全 対策		め、教育委員会や 学校関係者、警察 と一体となって、	通学路の危険箇所 における対策完了 箇所数	_	実績	53 箇			-	継続	944, 500	761,000	減額	26, 150	順調	において最も重要な施策	きであ しょうしょう		
			安全対策を推進する。			達成率	_													
)¥ 77	中心市街地において、魅力的な都			目標	-	_	-	歩いて							の賑わいづくりを推進し いてみたくなる歩行空間	ン、歩 引を創		
15 🕦			ながる道路環境整 備を行い、まちの	歩いてみたくなる 歩行空間を創出	-	実績	_			なる歩 行空間	継続	646,000	566, 100	減額	61,500	順調	また、当事業は賑わいりを推進するものだが、	\づく 道路		
			3.			達成率	_													
			長年市民に親し まれている旦過市				1 1 1000	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	旦過地区に概							より事業区域内の一部が したことから、施工計画 直しを行った。	が焼損	順調	都心のにぎわいづくりに資する道路整備や旦過地区再整備について、今後とも計画的に事業を進める。
16 1	旦過地区再點 備事業		市場に隣接する神 嶽川の治水安全度 の向上のため、河 川事業と一体と なった旦過地区の	神嶽川(旦過地 区)の治水安全度 向上	_	実績	_			に発 る に を を も で た で き き も で き き き き き き き き き き き き き き き	継続	1,036,628	1, 139, 973	増額	117,800	順調	設店舗を設置することで 業推進を図るとともに、 機能の回復・維持を促む る。令和5年度は、複合 施設建築工事(立体換り	で、 市す 業 商建築		
			再整備を推進する。			達成率	_			る状態 (RI3年 度)							て、建物補償契約を行い 物解体及び埋蔵文化財記	、建 間査		
	13 10	No. Social 基本 計画の施名	No. Social	No. Social	14	13	13	Plan 計画 [C	13	Plan 計画 [Do] 実施	13 ● 13 ● 10 東施 本東 10 東施 本東 10 東施 本東 10 東施 本東 10 東藤 本東 10 東東 10 東藤 東東 10 東東 東東	13 ● (10 実施 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大	13 ● 15 ● 20 2 乗施	13	13	(Plan) 計画	Plan 計画	14 日本 計画 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	Plan 計画 Do 実施 日本の Plan 計画 Do 実施 日本の Plan Plan	Plan 計画 Do 実施

					[Plan]				Do】 実施							+		【Check】 割	呼価	/ [A	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施賃を構成する	主要事業	事業・取組概要				の成果指標	(目標・実績)		l - #n	成果の	R4年度	R5年度		人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向け 強化・見直した		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取締	所管 課名	李采 机恒帆叉	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				港湾・空港・鉄 道ターミナルな ど、拠点間を結ぶ			目標	_	_	-											
	17			交通・物流ネット ワークの構築・交地 域間の連携・交流 促進を図るため、 環状放射型自動車	朝ピーク時の響灘 地区〜東田地区間 の所要時間	43分 (H2I年 度)	実績	_			13分 (R9年 度)	継続	1,646,000) 1,404,333	減額	69,000	順調	戸畑枝光線は、本 放射型自動車専用道 ワークを形成する であり、引き続き計 路環境整備を進める	路ネット 要な路線 画的に道		
V-2- (2)-① 広域物 流ネッ				専用道路ネット ワークの整備を推 進する。			達成率	_												- 順調	今後も計画的に道路ネット
トワー クの強 化				主要な街路・道路事業を重点的かったのはかりにあ			目標	_	_	-								本内 の連進計算	物法ラッ		ワークの整備を進める。
				つ速やかに整備内 ることがで、、物の 決滞トワーク連 化、・交流促進を図	州空港間の所要時	36分 (H21年 度)	実績	_			28分 (R7年 度)	継続	3,064,000	3,424,517	増額	217, 250	順調	市内の渋滞対策、 トワークの強化、地 携・交流促進を図る き続き計画的に道路 を進める。	域間の連 ため、引		
				透・文派促進で図 る。			達成率	_													
				港湾・空港・鉄 道ターミナルな ど、拠点間を結ぶ 交通・物流ネット			目標	_	_	-								戸畑枝光線は、本	士の理仏		
				ワークの構築や地 域間の連携・交流 促進を図るため、 環状放射型自動車		43分 (H21年 度)	実績	_			13分 (R9年 度)	継続	1,646,000	1,404,333	減額	69,000	順調	戸畑校元線は、本放射型自動車専用道 ワークを形成する重であり、引き続き計路環境整備を進める	路ネット 要な路線 画的に道		
V-2- (2)-② 市民の 交通利 便性の				専用道路ネット ワークの整備を推 進する。			達成率	_												- 順調	今後も計画的に道路環境の
向上と 産業活 動 援				主要な街路・道路事業を重点的か			目標	_	_	_									4L>+ >		整備を進める。
	20			つ速やかに整備することで、市内の 渋滞対策、物流 ネットワークの連 化、地域間の連	州空港間の所要時	36分 (H21年 度)	実績	_			28分 (R7年 度)	継続	3,064,000	3,424,517	増額	217, 250	順調	市内の渋滞対策、 トワークの強化、地 携・交流促進を図る き続き計画的に道路 を進める。	域間の連 ため、引		
				携・交流促進を図る。			達成率	_													

				(Plan)	計	画	<u>/ [</u> [o】 実施	Ē								【Check】 評	価	[Action]	改善
策番号 No.	SDGs 基本計画の施策 ・ゴール を構成する 音号 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標	(目標・実績)				R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向け 強化・見直した		7/1	5年度に向けて ン・見直した内容
	番号 主な事業・取組	所管課名	尹耒 · 权租侧安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善	方法等)	評価(課題に	対する改善方法
3- ②基施適維理			市内には、約 2,000の橋梁と39本			目標	_	_	健全性Ⅱ以 上										て長寿命	引き続き計画に? 化を推進すると? な橋梁、トンネ/ る。
7 理			のトンネル、総延ールがあり、高進レールがあり、高いとない。 も終行して、でいるに保全のは、で取り組みでいる。 は、で取り組みでいる。 は、でないない。 は、でないない。 は、でないない。 は、でないない。 は、でないない。 は、でないる。 は、でないる。 は、でないる。 は、でないる。 は、でないる。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	主要橋梁及びトン	_	実績	_			全橋びネ健Ⅱ(R度 要及ンの性上年)										
21		道路	る。 事業の実施にあ たっの実施にあ に個別施設手に回り 、5年に目 の定期点検に目 く計画的な維持管			達成率	_				- 継続	1. 965. 000	1, 956, 645	維持	157, 525	順調	引き続き、計画的 ³ 策及び耐震対策を実	施するこ		
21	化への計画的な取り組み		理を実施することで、 で、市民の安全ることでいる。 で、ででは、トーター で、いるでは、 で、のでは、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、			目標	_	_	_		- NAC NO.	1, 703, 000	1, 730, 043	が任 1-7	137, 323	기 <u>년</u> 라이	とにより、都市基盤 長寿命化を促進する。			
			る。 ・「北九州市橋梁 長寿命化修繕計 画」 ・「北九州市トン ネル長寿命化修繕 計画」 ・「北九州モノ	インフラ構造物の 長寿命化を実施す ることで、モノ レールの安全・安 心な運行を確保	_	実績	_			全フ造健Ⅲ(R8 以R8 (R8										
			レール長寿命化計画」			達成率	_													
			若戸大橋と若戸 トンネルは、若松 区と戸畑でます。			目標	_	_	-											
22	若戸大橋・若 門トンネル維 持管理事業	維持	や、有事発生時の 緊急対応など適切 な維持管理を実施	民の安全・安心の	_	実績	_			安 道 境 の 保 毎 度		100,000	100,000	維持	22, 000	順調	適切な維持管理をきことにより、市民がたいして通行できる環境する。	安全に安		
			することで、市民 が安全に安心して 通行できる環境を 確保する。			達成率	_													

) (注)					[Plan]	計画	画	/ [[)o] [実施							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	SDGs No. 3'-1	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			平価の)成果指標 ((目標・実	(績)			成果の R	4年度	R5年度	一手未具	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	, NO. 3 -76	主な事業・取組	所管 課名	事未· 収租佩女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	隻	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				若戸大橋は吊橋 構造、若戸トンネル は沈埋トンネ複北 構造といった複雑 な構造を有してい る。			目標	_	_		健全性Ⅱ以 上											
		若戸大橋・若 戸トンネル長 寿命化事業		この対し、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に	維持管理費のトータルコストの縮減や予算の平準化および予防保全型の維持管理		実績	_				健全性 II以上 (R9年 度)	継続 40	00,000	400,000	維持	22,000	順調	長期的な修繕立った事業を推	計画の視点に 進する。		
				め、長寿命化修繕 計画を策定すると ともに、長期的視 点に立った事業を 推進する。			達成率	_														
VI-I- (2)-②				計画地内に複数 の活動エリアを通して それぞれのエリア で有機農業栽培 理や花作りを体験			目標	2,000 人	2,000	人	2,000 人											
あるに環策参推りら主よ境へ加進	24 4	長野緑地を利 用した農業体 験教室		する限等の取ります。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 がでいるが、 でいるが、	農業体験教室への 参加者数	_	実績	886 人				2,000人 (毎年 度)	継続 2	2,750	2,750	維持	1,120		年間を通じた 者を増やしてい 参加を拡大する 開催していく。		順調	今後も継続して、農業体験 教室など、市民が自然に触れ 合う場や機会の提供を推進す る。
				を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。			達成率	44.3 %														
VI-2- (1)-3				都市景観の向上 潤いのある街、花 切を目指し、花 壇(公共花壇)の 整備を行うと共			目標	628 団体	564	団体	564 団体											
総合的	25	「花やみど り」による彩 りと潤いのあ るまちづくり	緑政課	に、市民花壇やスポンサー花壇、うぇるっちゃ!花壇といった、市民花壇といった。 市民 ボランティアや企業・団体と一体と	市民花壇活動団体 数	564団体 (R2年 度)	実績	587 団体				564団体 (R7年 度)	継続 5	6,560	56,560	維持	23, 150	順調	今後も継続し 働による花やみ くりを推進する	どりのまちづ	順調	今後も継続して、市民との 協働による街なかの緑化を推 進する。
				なって美しく快適なまちづくりを推進する。			達成率	93.5 %														

建設局

建設局																						
					(Plan)	計	画	/	[Do	」 実施							-		[Check]	評価	/ [A	Action】 改善
施策番号	No. 3	Gs 基本計画の施第 -ル を構成する 号 主な事業・取経	主要事業	事業・取組概要			評価			目標・実績)		中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番	考主な事業・取組	課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	目標	万冋性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
				都市景観の向上 と潤いのある街づくりを目指し、花 壇(公共で)			目標	628	団体	564 団体	564 団 体											
	26	「花やみど り」による彩 りと潤いのあ るまちづくり	課	壇といった、市民 ボランティアや企	市民花壇活動団体数	564団体 (R2年 度)		587	団体			564団体 (R7年 度)		56, 560	56, 560	維持	23, 150	順調	今後も継続し 働による花やみ くりを推進する			
VI-4- (1)-③				業・団体と一体と なって美しく快適 なまちづくりを推 進する。			達成率	93.5	%													
「市自のあ推 」 民然ふい進 」 ととれの				計画地内に複数数の活動工年を通りです。それ代表では、大きなのでは、大きなのでは、大きないでは、たらないではないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないでは、たらないではないではないでは、たらないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは			目標	2,000	٨	2,000 人	2,000 人										順調	今後も継続して、街かどの 花壇整備や農業体験教室な ど、市民が自然に触れ合う場 や機会の提供を推進する。
	27	長野緑地を利 ・ 用した農業体験教室	管理課	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	農業体験教室への参加者数	_	実績	886	٨			2,000人 (毎年 度)	継続	2,750	2,750	維持	1,120		年間を通じた 者を増やしてい 参加を拡大する 開催していく。			
				を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。			達成率	44.3	%													
VII-3-		【施策評価の					目標	_		_	_	******										
(2)-① 東九州 地域と の連携	28	み】 東九州自動車 道建設促進協 議会の要望活	道路計画課	【施策の内容】 東九州自動車道 建設促進協議会の 要望活動	【施策の指標】 東九州自動車道の 建設促進	_	実績	_				東九州 自動車 道の建 設促進	継続	_	_	_	_	_	_	-	順調	今後も沿線自治体と協力・ 連携して要望活動に取り組 む。
		±4/J					達成率	-														

建築都	क्ष व	句																				
					(Plan)	計	画	/	[D	o】 実カ	拖							+		【Check】 評価 /	/ [/	Action】 改善
施策番号	. N	SDGs 基本計画の施第	主要事業	事業・取組概要		事業	評価	の成果指	標(目標・実績))			成果の		R5年度	一手未只	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO.	SDGS 基本計画の施策 ジェルを構成する 音号 主な事業・取組	所管 課名	争乗・収組恢安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年月	隻	R4年度	R53	年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
Ⅱ-I- (I)-③ 子育				本市では現在、 約32,000戸の市では 住宅を管理してお り、老朽化の著し い市営住宅の集約			目標	38	%	39 %	6 40	%								公共施設マネジメント実行 計画に基づき建替を行うとと		
て齢な混るミニ・世ど在コュニー	I	● 市営住宅整備 事業	整備課住宅	建クリカラでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなでは、大きながらない。これでは、大きないのでは、ためいのでは、ためのでは、ためいのでは、ためいでは、ためいのでは、ためいのでは、ためいでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ため	市営住宅のバリア フリー住戸の供給 率(累計)	_	実績	38	%				42% (R7年 度)	継続	1,716,233	1,450,438	3 減額	108, 150	順調	もに、既存住戸の改善によるパリアフリー化を着実に進めていく。 既存住宅のパリアフリー化 は、空き家を重点的に工事を進め、効率的に事業を実施し	順調	子育で・高齢者世帯などが 混在するコミュニティづくり を推進するため、引き続き 質な住宅の整備を計画的に身 施する。
ティづくり				に住宅を供給する ことにより、多世 代共生の住まいづ くりを推進する。			達成率	100.0	%											ている。今後も引き続き計画 的に進めていく。		
							目標	38	%	39 %	6 40	%								公共施設マネジメント実行		
				本市では現在、 約32,000戸の市営 住宅を管理してお り、老朽化の著し	市営住宅のバリア フリー住戸の供給 率(累計)	_	実績	38	%				42% (R7年 度)							計画に基づき建替を行うとと もに、既存住戸の改善による バリアフリー化を着実に進め ていく。 既存住宅のバリアフリー化		
	2	市営住宅整備・管理事業	整備課	い市営住宅の集約 建替や既存ストッ クの有効活用を図 りながら、住宅に			達成率	100.0	%					- 継続	2, 350, 388	2, 080, 521	減額	245, 400	順調	は、空き家を重点的に工事を 進め、効率的に事業を実施し ている。今後も引き続き計画 的に進めていく。		低額所得者や高齢者等が安心して暮らせるよう、市営信
		州· 官 庄 尹 未	任モ	困窮する低所得者 及び高齢者、障害 者、子育て世帯等 に住宅を出する			目標	_		-		_	単身高 齢者が 市営住							令和3年度から訪問対象者である65歳以上の単身高齢者数は横ばいに転じている。当面は現状の人員により実施している。		宅の整備を引き続き実施していく。 令和3年度から訪問対象者 である65歳以上の単身高齢者 数は横ばいに転じている。当
Ⅱ-I- (I)-④ 居住支 援の充 実				ことにより、市民 の居住安定の確保 を図る。	高齢者ふれあい巡 回員の活動	_	実績	_					宅にてしる							ていき、新たに令和5年度から地域包括支援センターと連携した取組を開始するなど、よりきめ細かい見守り活動の充実を図っていく。	順調	面は現状の人員により実施していき、新たに令和5年度から地域包括支援センターと連携した取組を開始するなど、
X							達成率	_					る環境 づくり							7322 2 7 7 7 8		よりきめ細かい見守り活動の 充実を図っていく。 「優良賃貸住宅供給支援号 業」については、継続的なた 住支援を行うため、今後も侵
				一定の基準を満 たす良質な賃貸住 宅 (特定優良賃貸			目標	88	%	88 %	6 88	%								優良賃貸住宅供給について		は支援を行うため、今後もで 良賃貸住宅の家賃補助及びP 活動を行っていく。
	3	● 優良賃貸住宅供給支援事業	住宅計画課		特優賃及び高優賃 の入居率	80% (H26年 度)	実績	92.2	%				80%以 上 (毎年 度)		137,500	120,000	減額	11,075	順調	は、特優賃及び高優賃の入居率の目標達成率が共に100%を超えており、引き続き、家賃補助及び同住宅のPR活動を行っていく。		
				促進し、入居者の 居住の安定確保を 図る。			達成率	104.8	%											11.0 (, , , ,		

~*	神中/	-3				[Plan]	計	画	/ [)o】 実i	施						+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策看	号。	SDGs	基本計画の施策	主要	声型 · 取 4 4 m 平		事業	評価の	の成果指標	〔目標・実績)		成果の			事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	
・施領	名 No.	番号	墨平計画の施泉 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					民間建築物の耐			目標	50 件	50 1	件 108 件								耐震をはいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。	こ市民や業界 よいのでは、 おいるでは、 このでは、 このでは、 は、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でいるでいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 では、 でいるでは、 でし。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは とっと。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 とっと。 でいる。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と		耐震化の選択肢を増やすため、令和4年度に市民や業界にアンケートによる意識調査を行い、把握した所有者のニーズに対応するため、省エネ改修、除却助成などの新規
Ⅱ-1-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)-(4)	5 施 ど 4 震	① A	民間建築物耐 震改修費等補 助事業		震が、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	とした耐震改修費	50件 (H26年 度)	実績	18 件			108件 (毎年 度)	拡大	84, 150	107, 750) 增額	9,700	遅れ	るなな者会な税のチ掲じう。などに等で、税の、取りる事情知シの通、配の助は名業報書。、及の助いのが、配の助いののが、のの助いののが、ののがのが、ののが、ののが、ののが、のののののののののの	、説や献ののい政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		事業を に取りきた。 を主にのする。 を主にのする。 を主にのの主になり、 のでは、 のがは、 のがれる、 のがは、 のが
								達成率	36.0 %										【中期目標の変 既存制度の次 様々なニーズに め、令和5年度が 件数を合算した 108件)	直しを行い、 対応するた \ら各事業の		掲載等の普及啓発活動を通 じ、補助制度の周知などを行 う。
Ⅲ-I・ (I)-I・ 快適 住環の形	① な 境				近年増加傾向に ある空き ななななか			目標	300 件	300 1	件 300 件										大変順調	「空き家等活用推進事業」 について学生では、根準では、 できるでは、根準では、 できるでは、 でできるでは、 でできるでは、 でできるでは、 でできるでは、 でででは、 でででは、 でできるでは、 ででは、 でででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、
	5		空き家等活用 惟進事業	家活 用推	し安めの流進「画の流進」「画の流進に空」な主義に空」なが、未通に空」な進いでする発い、一個で変にを変い、一個で変にでする。		_	実績	404 件			300件(毎年度)	継続	1,800	1,800	維持	6,400	大変順調	空き家に関す 相談会を開催し 動を推進する。			し、 大田 は は に な に な に な に な に な に な に な に な に な
					3 Proce 7 00 0			達成率	134.7 %													「老朽空き家等対策推進事業」については、市民の安 全・安心を確保するため、空 き家保健にであるまでの空き 等の促進に至るまでの空き家 対策を推進する。 「老朽空き家等除却促進事 業」については、今後も増加

					[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施	į						•		[Check]	評価	/ [Action】 改善
策番号 施策名	lo.	基本計画の放 を構成する	主要事業所管	事業・取組概要	此馬力於	事業現状値	評価	の成果指標 R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期	_成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向 強化・見直し	た内容	R3年度 局施策	強化・見直した内
		主な事業・月	X組 課名	市が取得した空 き家情報を家所権 できるの元うを間事を同いた。 の売うえ、橋渡しをで 者へとで、住宅の	指標名等	(基準値)		単年度目標		単年度目標設定なし	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する改 空き家等面的対 において、令和3	・策推進事業 手度から全	T I Im	が見込まれる老朽空き。 除却促進に引き続き取む。 「マンション管理適の 事業」にマンションでは、 年度から、マンションび要支持 はし診断事業及び要支持ション伴走支援事業を
	6	官民連携空 家再生総合 略	空家用推課	建替ョ便はのよいは境 シ利にのある。まないのある。まないのある。まないり、進い住与するにのもにはいた。 はいはいきではいる。まないのある。まないい類のある。まないり類のでは、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	家の解消、空き家 問題の予防啓発や 総合相談を行うこ とによる空き家の	_	実績	_			_	継続	16,000	12,100	その他	32,700	順調	市市情報のでは、できません。 受性 大阪 に は ない に は ない に せ 意	けてされたてきれた。全体事のでは、まれたでででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	1	し、マンション管理の に向けた取組を積極的 う。
				同類の子的格子を 行うともに、 行うともに、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を			達成率	_										れ包括的に空き家指す。	の解消を目		
				人口減少や高齢 化等が進む本市に おいては、今後 も、適正に管理されず、周辺の居住			目標	500 件	500 件	500 件											
	7	● 老朽空き家対策推進事	等 家活 業 用推	から、平成26年に 制定した「空家等 の適切な管理等に 関する条例」及び	老朽空き家に関す る相談・通報件数	167件 (H26年 度)		823 件			500件 (毎年 度)	継続	19,161 2	24,561	増額	23, 450	大変順調	市民の安全・安 るため、空き家等 から、除却等の促 での空き家対策を	発生の防止 進に至るま	:	
				同年策定した「空 家等対策計画」に 基づき、老朽空き 家等対策の強化を 図る。			達成率	164.6 %													

				↓ ≖.		[Plan]			/		o】 実施	i			ı				, pt 48		[Check]	評価		Action]	
施策番号 · 施策名	No. 3'-	基本を	計画の施策 構成する 事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	指標名等	事業現状値	評価	の成果指 R3年月		(目標・実績) R4年度	R5年	庇	中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費の増減		R3年度 事業	R5年度に 強化・見直	した内容	R3年度 局施策	強化	年度に向けて ・見直した内容
		1 王な	事業・収組	課名	倒壊や部材の落 下のおそれがある	担係力寸	(基準値)	目標	260		290 戸	300		目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する) 今後も増加が	見込まれる老		(課題に	対する改善方法等)
	8 1	老朽除却	5空き家等 P促進事業	用推	なきないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	老朽空き家等除却 促進事業の実施件 数 ※中期目標改訂	202戸 (H26年 度)	実績	339	戸				300戸 (毎年 度)	継続	100,000	100,000) 維持	23, 450	大変順調	朽空き家等の除 続き取り目標の除 中期対果根標の 上限額の区域の 上限額の区域の	更内容】 老朽空き家等 るため、補助	÷		
					な居住環境の形成を図る。			達成率	130.4	%											い、目標数を変				
					北九州市マン ション管理適正化 推進計画に基づ			目標				60	%								今後、老朽化 担い手不足が顕 ンションが急増 応するため、「 管理の適正化に	著な高経年マ する課題に対 マンションの 関する法律」	· -		
	9 0	ショ	f>マン a ン管理適 ご推進事業		き、ヨマでは問ンでは、ショでではいる。では、ションではいる。これではいいますが、ションではいいますが、ションでは、カールのでは、カーのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールので	マンション管理組合の管理運営状況の把握率	47% (R2年 度)	実績						70% (R7年 度)	_	_	2,300	_	22,875	_	が改正、令和4年 れた。 本市も、法に 州市マンション 進計画」を令和 したため、令和	基づく「北九 管理適正化推 5年1月に策定			
					組を行い、マンション管理適正化の推進を図る。			達成率													に、マンション 断事業及び要支 伴走支援事業を ション管理の適 取組を積極的に	管理お試し診 援マンション 開始し、マン 正化に向けた			
								目標	120	世帯	120 世帯	140	世帯												
						賃貸住宅補助世帯数 ※中期目標改訂	14世帯 (R 年 度)	'王	Ш	世帯				140世帯 (毎年 度)							本市への定住 するため、引き 進する。 令和5年度中に	続き事業を推			
Ⅲ-I- (I)-② 定住や地 域活性	10 1	住む州	なら北九定住・移	住宅計画	移住 た住 の 世 の 世 の 世 の 世 の 世 の 世 の で す の で す の で す の で す の で ま な ひ け 信 を 在 で な ひ け 信 を 在 で な ひ け 信 か を ひ か け の 便			達成率	92.5	%					- 拡大	72,800	75,000	維持	22, 875	順調	メニューの募集 要件等を拡大し を図る。また、 ニューのさらな	枠や対象者の 、支援の強化 新生活応援メ る利用増に向	川直調	けて、本 一層推進 援メニュ	態プラスの達成に向 市への定住・移住で するため、子育でル ーの募集枠や対象を
化のた めの環 り		住推み	E進の取組	課	満たす街なかの賃借 宅を取得又は賃借 する費用の一部を 補助する。			目標	110	世帯	120 世	120	世帯			, = 1				- 9 CMCI	けて、関連部局 を積極的に行う 【中期目標の変 令和5年度に子	。 更内容】		制度の拡	を拡大し、引き続き 充や要件の緩和等と 主促進のための環境 進める。
						住宅取得補助世帯数 ※中期目標改訂	118世帯 (RI年 度)		125	世帯				120世帯 (毎年 度)							ニューの募集枠 100世帯に拡大す 期目標を変更す	を80世帯から するため、中			
								達成率	113.6	%															

建築者	h th	/eJ					[Plan]	計	画	/	[D	o】 実	逐施							4		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号		SDGs	基本計画の	施策	主要事業			事業	評価	の成果排	旨標(目標・実績	漬)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No	コール	を構成す。 主な事業・1	Ten /rm	事業 所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値(基準値)		R3年)	度	R4年度		R5年度	中期目標	方向性		予算額 (千円)	の増減		事業 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						本事業は、個性 的で魅力的な都市 景観の形成を目指			目標	70	%	70	%	70	%									
	11	0 3	魅力ある街 み形成	1亚	都市 景観 課	し、景観アドバイ ザー制度の活用に よる公共施設等の魅 型民間施設等の魅 力向上を図り、市	個性的で魅力的な 都市景観の向上 (景観が良くなっ たと思う人の割 合)	70% (H26年 度)	実績	70	%				70% (毎年 度)	継続	2,985	3,341	増額	5, 150	順調	景観アドバイザー制度の周知・活用を図ることで、個性的で魅力的な都市景観の形成を目指し、地域特性を活かした風格のある景観づくりを推進する。		「魅力ある街並み形成」に ついては、引き続き景観アト
Ⅲ-I- (2)-② 風格の						民が誇りと愛着を 持てる街並みづく りを推進する。			達成率	100.0	%											2,30	— 順調	バイザー制度の周知・活用を 図ることで、個性的で魅力と な都市景観の形成を目指もし、 も る景観づくりを推進する。 また、「景観資源の保全・
ある都 市景観 づくり						地域の民間事業 者等の夜間景観づ くりへの意識向			目標	50	%	50	%	50	%							夜間景観の魅力創出を図る		活用」については、夜間景観の魅力創出を図るため、小倉あかり倶楽部を活用し、民間事業者による夜間景観づくり、への意識向上・活動を促進す
	12	0	景観資源の全・活用 全・活用 倉都心地∑ 間景観))保 (小 辽夜	景観課	1. 公工。 の地質		48.9% (H29年 度)	実績	60. I	%				50% (毎年 度)	継続	3,600	3,600	維持	2,900	大変順調	ため、小倉あかり倶楽者によるを活用し、民間事業者によるを活開し、民間事業者によるを活動を促進するため、啓発活動を促進するため、啓発活動を実施する。	1	るため、啓発活動を実施する。
						取組を実施するもの。			達成率	120.2	%													
									目標	120	世帯	120	世帯		世 节									
						44.026	賃貸住宅補助世帯数 ※中期目標改訂	II4世帯 (RI年 度)	実績	111	世帯				140世帯 (毎年度)	-						本市への定住・移住を支援 するため、引き続き事業を推 進する。 令和5年度中に子育て応援		
IV-I- (3)-③ 人材供 給、住	13	o :	住むなら1 州 定住・	比九,移		を住った住 を は か す し 満 空 を ひ は け と ひ は す ら な ひ け に で で の で で で で で で で で で で で で で で で で			達成率	92.5	%					拡大	72,800	75, 000	維持	22, 875	順調	メニューの募集枠や対象者の 要件等を拡大し、支援の強化 を図る。また、新生活応援メ ニューのさらなる利用増に向	間調	社会動態プラスの達成にたけて、本市への定住・移住を 一層推進するため、子育てな 援メニューの募集枠や対象者
環境整 備な立地 支援			住推進の耶 み	又組		満たす街なかの賃借 宅を取得又は賃借 する費用の一部を 補助する。			目標	110	世帯	120	世帯		世 节	JIA	, 2, 333	, , , , ,	11223	22,000	700,049	けて、関連部局と連携したPFを積極的に行う。 【中期目標の変更内容】	(の要件等を拡大し、引き続き制度の拡充や要件の緩和等といった定住促進のための環境づくりを進める。
							住宅取得補助世帯数 ※中期目標改訂	II8世帯 (RI年 度)	実績	125	世帯				120世帯 (毎年 度)							令和5年度に子育て応援メニューの募集枠を80世帯から100世帯に拡大するため、中期目標を変更する。		
									達成率	113.6	%													

						[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							-		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
施策番号 ・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主事所課	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価	の成果指標(R3年度	目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
IV-2- (2)-① 高齢者					自ら居住し、既 存住宅を取得する 方を対象に、エコ			目標	100 件	100 件	100 件								現行制度について、複雑な 補助メニューをわかりやすく		現行制度について、複雑な 補助メニューをわかりやすく
同をと健生援 留中し康活ビ ないた・支ジ		®	北九州市空き 家リノベー ション促進事 業	家活		エコ化対応にかか るリノベーション の実施件数	_	実績	108 件			100件 (毎年 度)	継続	40,000	38,000	維持	10,900	順調	するため、エコ事業を軸に整理し、簡略化する。 また、スタートアップ支援 等の試みとして、新たに多用 途への活用モデルプロジェク	順調	するため、エコ事業を軸に整理し、簡略化する。 また、スタートアップ支援 等の試みとして、新たに多用途への活用モデルプロジェク
族にソ ネスの 推進					ボンシティの実現 に向けた住宅の脱 炭素化を目指す。			達成率	108.0 %										トも実施し、空き家の流通促 進を図る。		トも実施し、空き家の流通仮 進を図る。
V-I- (I)-① 生活支 援施設 の立地					住宅市街地整備 計画を策定し、こ の計画に位置づけ			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2,271戸 (累積)								事業者に対し、計画した事	順調	「住宅市街地総合整備事業」については、令和5年度 事業完了に向けて着実な取組 を行う。 「折尾地区総合整備事業」
誘導 が が が が が が が に の に る に の に 。 に 。 に る に 。 に る に る に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に に る に に る に る に る に に る 。 に る 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る 。 に 。 に る 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。	15		住宅市街地総 合整備事業	事業 推進課	られた事業を行う 事業者に等の調 街地住宅等の調 設計計画費や共同 施設整備費等の一	住宅市街地総合整 備事業における住 宅供給支援戸数 (累積)	I,760戸 (H26年 度)	実績	1,898 戸			2,271戸 (R5年 度)	継続	63, 906	63, 906	維持	6,900	順調	業スケジュールに遅れがないよう、積極的に指導・助言等を行い調整することで、着実に事業の推進を図る。		については、令和5年度は南側駅前広場へのアクセス道路の整備、東側・鉄道跡地地区の宅地整備、南側駅前広場居
進					部を補助し、事業の進捗を図る。			達成率	_											-	辺の賑わいづくりを進め、着 実に推進を図る。 「住むなら北九州 定住・ 移住推進」の取組について は、子育て応援メニューの募
					折尾駅周辺のより 道の立体化によする 踏切を除一帯や 線道路を含む土地区 ないまする。			目標	_	_	_										は、チョミに放っ 一コ いっぱ 集枠や対象者の要件等を拡成に 向けて、本市の街なかの住達 のの定住・移住を一層度のがあるため、引き続き制度の や要件の緩和等といった街な
	16	9	折尾地区総合 整備事業	折総合 事所	画敷理車業等の面	学園都市にふさわ しい地域拠点の形 成	_	実績	_			事業完 了 (RIO年 度)	継続	4,586,800	3, 989, 809	減額	238, 000	順調	令和5年度は南側駅前広場 へのアクセス道路の整備、東 側・鉄道跡地地区の宅地整 備、南側駅前広場周辺の賑わ いづくりを進め、着実に推進 を図る。		か居住促進のための支援を 行っていく。
					は、 でを 魅して を を を を を を を を を を を を と し で で を を と し で で を と は で で を と に 、 で で も に 、 で で も に も も に も も に も も に も も も も も も も も も も も も も			達成率	_												

						(Plan)	計	画	/ [Do】 実施							—		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
番号	SDO	as 基本	本計画の施録 を構成する な事業・取約	主要事業	事業・取組概要			評価	あの成果指標	(目標・実績)	1	l l- Hn	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
策名 100	番	主な	な事業・取約	A 所管課名	事業 - 収組帆安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
								目標	市街化区域 から市街化 調整区域へ の編入手続 き	から市街化 調整区域へ	区域区分の 見直し										
15	7 ()ン	害に強くこ パクトなま づくり推進 業	部巾	平成30年所成30年所成30年所成30年所で1月後年で1月後年で1日本地位なが、り区切等にはいませいでは、1年で1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは、1年に1日本のでは1日本のでは、1年に1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは1日本のでは11日本の	区域区分の見直し の基準を策定する	_	実績	6区(八幡の 区を除く) 地権者を 等車 乗 の会 等車 候 を を し し を を を を し を を を し を を を を を し る で る で も し る で る も し る で る も と る を る を る を る を る を る を る を る を る を る			区域の見 のし (R5年)	継続	16,000	4,000	減額	18,650		今後も引き続き、地域や関 等者の方々との合意形成にお り、都市計画手続き中にお ても、本市が。今、直面している る課題を将来に向けて感を せないよう、スピード感を 持って取り組んでいく。		
					E O E ÆW Ø o			達成率	80.0 %												
						賃貸住宅補助世帯		目標	120 世	120 世帯	140 世帯								本市への定住・移住を支援するため、引き続き事業を推		
					本市への定住・	数	114世帯 (RI年 度)	実績	111 世帯			140世帯 (毎年 度)							進する。 令和5年度中に子育て応援 メニューの募集枠や対象者の		
16		住。州	むなら北カ 定住・科 推進の取刹	住宅	移住を推進するため、市外から移住する世帯等に対し、一定の要件を	※中期目標改訂		達成率	92.5 %				#+	72 900	75,000	維持	22,875	順調	要件等を拡大し、支援の強化を図る。また、新生活応援メニューのさらなる利用増に向		
10	y v	住担み	推進の取約	課	満たす街なかの住 宅を取得又は賃借 する費用の一部を	()		目標	110 世	120 世帯	120 世帯		- 1/4人	72,800	75,000	水压1寸	22, 873	川兵司미	けて、関連部局と連携したPR を積極的に行う。		
					補助する。	住宅取得補助世帯数	118世帯 (RI年 度)	実績	125 世帯			120世帯 (毎年 度)	;						【中期目標の変更内容】 令和5年度に子育て応援メ ニューの募集枠を80世帯から		
						※中期目標改訂		達成率	113.6 %										100世帯に拡大するため、中 期目標を変更する。		
					都市再生特別措 置法に基づき、北			目標	誘導施策の 評価	立地適正化 計画の見直 し	立地適正化 計画の見直 し								立地適正化計画の見直しに あたり、平成29年4月の公表 後、最初の国勢調査(令和2 年度に実施)の結果を用い て、これまでの施策の評価を		
14	9	〕 立址 ③ 画!	地適正化言 見直し業務	都市 計画 課	九州市立地適正化 計画について概ね5 年毎に分析・評価 を行い、施策の見	立地適正化計画の見直しを行う	_	実績	_			計画の 見直し (R5年 度)		8,000	0	その他	9,400		行うこととしている。 また、令和2年9月施行の都 市再生特別措置法改正に基づ き、立地適正化計画に防災指 針を策定することになったた		
					直しや防災指針を検討する。			達成率	_										め、見直しに合わせて、災害 リスクの分析、災害ハザード に対する取組方針、取組施策 などを取りまとめることとし ている。		

廷宋即					[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施						+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	No.	50Gs 基本計画の施策 で構成する 量号 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指標([目標・実績)			成果の R4年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	₩O. 3	#号 主な事業・取組	所管 課名	学 未 "	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)		金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
					市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標廃止	基準値 80%	目標 実績 達成率	単年度目標 設定なし 一 ー	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)									
					市内の公共交通分 担率 ※指標廃止	基準値 20% (HI7年 度)	標 実績 達成率	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)									
				環境首都総合交 通戦略は、本市で の望ましいで 気を構 でるた 既存の公共交		基準値 69.7万 +-C02 (HI7年 度)	目標 実績 達成率	単年度目標設定なし ―	単年度目標 設定なし		計画改 定 (R3年 度末)						令和4年3月に 九州市環境市地域 (北九州に基地域 画)) 連携強化や	公共交通計 、交通事業者		「北九州市環境首都総合交
V()まく連た機活ー。②づとし業の化	20	8 ^{環現自都総合} 交通戦略の推 進	都 交 政 課	通や徒歩・自転車 への利用転換を図	市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標追加	基準値 86% (R3年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	86% (R8年 度)	継続 213,423	208,89	73 維持	16, 150	順調	おつないでのでは、これでは、これでのでは、これでのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	充実など、7 中に変にない。 一定にを変える。 を持続でいる。 を対してない。 を図る。	順調	通戦略(北九州市地域交通を 通計画)」に基づがらMaaSを 推進していくなで、まち可めい など、大続いでいるでは りと一体となで保を行いるでくない。 など、大続いたが、まち可めい。 でいくなで保を行いるでいた。 など、大変通の利用促進にないたけた 取組を継続して実施する。
				り、市民の多様な 移動手段が確保を構 発することを目指 す。	人口10万人あたり の公共交通利用者 数 ※指標追加	3.8万人 /I0万人 (RI年	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	3.8万人 /10万人 (R8年 度)							:「北九州市環 戦略」を改訂 8年度までの		
					公共交通に対する 満足度 ※指標追加		目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	70% (R8年 度)									
					運輸部門CO ₂ 排出 削減率 ※指標追加	- IE	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	104万†- C02 (R12年 度) 40%削減									

					[Plan]	計	画	/ [0	0 実施							+		[Check]	評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	主要	事業・取組概要			評価の	成果指標(目標・実績)	_		成木の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	
・施策名	番号	基本計画の他界 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	尹耒	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
V-I-	8 21 11	コクラ・クロ サキリビテー ション	事業	小倉はいる 小宮にの誘進をかいます。 小宮にの誘進をかいます。 がにの誘進をがいる がの収るを発生する。 がないないます。 では、 がないでする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	民間開発の誘導	_	目標 実績 達成		民間開発の誘導	民間開発の誘導	民間開 発の誘 導	継続	150,000	470,000	増額	14,800	_	事業者に対し 業スケジュール よう、積極的に を行い調整する に事業の推進を	に遅れがない 指導・助言等 ことで、着実		事業者に対し、計画した事
(2)-① 都にいり	22 1	<新>旧小倉跡 >同庁事業	再生 企画	小倉都心部に位 置する当該地にお いて、にぎわいを 創出するためのイ	イベント広場の利用回数	_	率目標実績			既存建築物の解体設計	20回/年 (R8年 度)	_	_	8,000	_	13, 075	_	令和4年度、 舎等跡地を取得 は既存建築物の	。令和5年度 解体設計を行		事業者に対し、計画した事業スケジュールに遅れがない よう、積極的に指導・助言等を行い調整することで、 着実 に事業の推進を図る。
			課	ベント広場を整備する。			達成率											い、早期整備に	努める。		
V-I- (3)-② 産点の 生点の	23 9	長野津田土地区画整理事業	事業進課	小倉東ICに野田 している表表では、 地区区に野で、よいにおいているが流狭される。 物流狭った。 が変行の整理和 土る関い 大地区画整理組合	物流拠点用地として整備された宅地面積	_	目標実績	0 ha	9.1 ha	10 ha	18.4ha (R6年 度)	継続	220,000	126,700	減額	15, 375	順調	引き続き組合 費の一部を補助 捗を図る。			引き続き組合に対して事業 費の一部を補助し、事業の進 捗を図る。
備				に対して事業費の 一部を補助し、事 業の推進を図る。			達成率	_													
				観光交流拠点と して位置付けてい る東田地区の魅力			目標	人 I,356 / 日	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								東田大通り公より分断され、 設間の徒歩での	公園と周辺施		東田大通り公園は、道路に より分断され、公園と周辺施 設間の徒歩でのアクセスがし
V-I- (3)-④ 広域観 光拠 の整備	24 🕕	東田地区魅力向上事業	再生 企画	を高め、更なる来 街者の増加を図 ため、スペース ワールド駅も中 に、居心地よく歩	歩行者通行量	II,356 人/日 (R2年 度)	実績	_			13,000 人/日 (R7年 度)	継続	5,000	4,800	維持	13,650	順調	づらいことが、 な公共空間形成 ている。 東田大通り公 たび博物館等の	ウォーカブル の課題となっ 園といのちの 敷地を一体的	順調	づらいことが、ウォーカブル な公共空間形成の課題となっ ている。 東田大通り公園といのちの たび博物館等の敷地を一体的
				きたくなる環境を整備する。			達成率	_										で連続性のある計を実施する。	空間再編の設		で連続性のある空間再編の設計を実施する。

廷宋部	•				[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							4		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	. 8	SDGs 基本計画の施策	主要	事业 取如柳		事業	評価の	の成果指標(目標・実績)			成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	50Gs 基本計画の施策 ィール を構成する 番号 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	強化・見直 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標廃止	基準値 80% (HI7年 度)		単年度目標 設定なし 一 一	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)										
					市内の公共交通分 担率 ※指標廃止	基準値 20% (HI7年 度)	標 実績 達成率	単年度目標 設定なし 一 ー	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)										
				環境首都総合交 通戦略は、い交通 の望ましいで 系を構設するた め、既存の公共交	自家用車CO2排出 量の削減(HI7年度 比) ※指標廃止	基準値 69.7万 +-C02 (HI7年 度)	目標 実績 達成率	単年度目標 設定なし ― ― ―	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)							令和4年3月に 九州市環境市地域 (北九州に基地域 画) の連携強化や	公共交通計 、交通事業者		「北九州市環境首都総合交 通戦略(北九州市地域公共交 通計画)」に基づき、交通事
V-2- (3)-① 公共の 便性 向上	25	8 ^{環現自都総合} 交通戦略の推 進	都 交 政 課	通し実 利に通っている では でいま	市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標追加	基準値 86% (R3年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	86% (R8年 度)	継続	213, 423	208, 893	3 維持	16, 150	順調	間がでいる。	か充実など、7 で中心に取組める ・体となって ・体と持続可能な ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	順調	職者は大きなが、まない。 選者をと連携しない。 大きなが、まない。 大きなが、まない。 大きなが、まない。 大きなが、までいるない。 大きなが、までいるが、 大きなが、までいるが、 大きなが、までいるが、 大きなが、までいるが、 大きなが、またい。 大きなが、またいが、またいが、またいが、またいが、またいが、またいが、またいが、またい
				り、市民の多様な 移動手段が確保を構 れ築することを目指 す。	人口10万人あたり の公共交通利用者 数 ※指標追加	基準値 3.8万人 /10万人 (RI年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	3.8万人 /10万人 (R8年 度)								:「北九州市環 連戦略」を改訂 18年度までの		もが利用しやすい公共交通の実現を目指す。
					公共交通に対する 満足度 ※指標追加	基準値 66.1% (R2年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	70% (R8年 度)										
					運輸部門CO ₂ 排出 削減率 ※指標追加	基準値 172万 † -C02 (H25年 度)	目標 実績 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	104万†- C02 (R12年 度) 40%削減										

廷采印	•	_			[Plan]	計	画	/	[D	o】 実友	拖							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号		50Gs 基本計画の施策 を構成する	主要事業	古光 四如柳西		事業	評価	の成果指	標(目標・実績)			成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	まな事業・取組		事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	隻	R4年度	R5年	度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直(課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
V-2-				おでかけ交通事空 業は、公共交通事空 自地域の中で一域 の需要がある地域 において、地域住			目標	8	ケ所	8 Å		ケ所								おで交通事業で対す、組事業で対す、通事業で対す。	が主体的に取 るが、市は交 る側面支援を 、新たに要望		おでかけ交通事業は、地
(3)-② かでしい手確 の	26	③ ⑦ 地域の生活交 ⑧ 通を確保する 『おでかけ交 ・動支援事業』 ③	交通 政策	民の交通手段を確保するため、 性の確保を前提と、 で通事が、提民、 で通事がそれぞれの	既運行地区におけ るおでかけ交通の 維持 ※中期目標改訂	8ヶ所 (H25年 度)	実績	9	ケ所				10ヶ所 (R5年 度)	継続	213, 423	208, 893	維持	16, 150	順調	ついては、定路	もしていく。 で更内容】 近の実施箇所に S線型に加え、	順調	域・交通事業者が主体的に取り組む事業であるが、市は交通事業者に対する側面支援を強化することで、新たに要分したのある地区において、等人といるいよう支援していく。
				役割分担のもとで 連携して、ジャン ボタクシー等を運 行する。			達成率	112.5	%											自由経路型(あ シー)の導入を め、新たに令和 目標として、8 所に変更する。	:開始したた 15年度までの		
					市営住宅のバリア		目標	5,200	戸	5,400 F	5,600) 戸								既存住宅のパ	「リアフリー化		
				既存の市営住宅の居住水準および	フリー化工事(すこやか改善事業) 累計戸数 ※中期目標改訂	_	実績	5,035	戸				5,600戸 (R5年 度)							は、空き家のエ 進め、効率的に ている。今後も 的にバリアフリ	事業を実施し 引き続き計画		
V-3- (2)-① 都市基 盤・施	27	● ストック整備		安全性を確保する為、住戸のバリアフリー化(すこやか改善事業)や耐	水 千 州 日 1 示(又 6)		達成率	96.8	%					- 継続	1,017,842	1, 293, 414	増額	95, 250	順調	いく。 市営住宅を耐 効に活用するた 保を引き続き推		順調	市営住宅の有効活用を図る ため、引き続き住戸のバリア フリー化や耐震改修工事を計
設の有 効活用		事業	課	震性の低い住棟の 耐震改修等を行い、既存ストック の有効活用を図			目標	9,586	戸	9,696 F	10,08	0 戸	10,432							【中期目標の変 市営住宅のハ エ事(すこやから 施については、	バリアフリー化 改善事業)の実		画的に実施する。
				3.	耐震改修工事累計 戸数	6,605戸 (H27年 度)	実績	9,219	戸				P (R7年 度)							中間目標年度(グロスカライン) 迎えたため、新度までの目標と アから5,600戸	令和4年度)を fたに令和5年 こして、5,400		
							達成率	96.2	%														
V-3- (2)-②				「北九州市公共 施設マネジメント		モデル プロ	目標	複合公共 設の整備 推進	睛の	複合公共施設の整備の 推進		を備の	複合公 共施設							公共施設マネ	・ジメントの基		
公共施	28	⑧⑨●●○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		実行計画」に基づ	複合公共施設の整 備	ジェク ド再配 策定 (H27年	夫	複合公共 設の整備 推進	前の				共の の が と 作 を 推 進 度 整 備 整 構 を 着 を 着 り を う を う も う も う る も う を う る も う も う も う も う も う も う も う も う も う		33,100	1, 122, 347	増額	46,500	順調	本方針や施設分等を踏まと対記またがままと対記き続きプロジェ推進を図る。	b域住民や施設 もしながら、引	順調	プロジェクトに関して、再配置計画の具体化に向けた検討・調整等を進めていく。
討				みを進める。		度)	達成率	_					定)							11年度で図る。			

				~ =		[Plan]				[Do								//- 485		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	No.	SOGs 基本計画の で構成す 主な事業・	施策る	主要事業	事業・取組概要			評価		₹ (E	目標・実績)	ı	-t+#B	成果の		R5年度	1 年 未 目	(目安)	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	74 /1. 日十1 4 上中
・施策名		番号 主な事業・	取組	所管 課名	7 77 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	7 昇領 (千円)	の増減	金額(千円)	評価	(課題に対する		評価	(課題に対する改善方法等)
					ル乗っていました。 は消生なくいないません。 は消生をしていました。 をできるでいまりでする。 は消生なくいないました。 をできるできる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、			目標	15 1	件	15 件	15 件											
	29	民間建築物 指導業務	多等 打言	建築 等	対し、建築大 の取を担任 LABBEE LABBEE 地域 大で、州 ・総 が は は に の で は に の に が に が に が に が に が に が に が に が に が が が が が が が が が が が が が	北九州市建築物総 合環境性能評価制 度(CASBEE北九州) の届出件数	15件 (H26年 度)	実績	19 1	件			I5件 (毎年 度)	継続	260	260	維持	990	大変順調	引き続き、届(活動を実施する。			「民間建築物指導業務」に
VI-2- (I)-① 環境に 配慮し					★環価し、居内 東境性、居け、 にはり、 にはり、 におり、 の世配慮型を でのもの、 を を のもの、 を のもの、 でのもの、 を を のもの、 を を のもの、 を を のもの、 を を のもの、 を のもの、 を のもの、 のもの、 を のもの、 を のもの、 のもの、 を のもの、 を のもの、 を のもの、 を のもの、 のもの、 を のもの、 のもの。 のも。 のも			達成率	126.7 9	%													ついては引き続き環境に配慮した良質な住宅ストックの形成のため、北九州市建築物総合環境性能制度と実施する。「北九州市空等家すノバーション促進事業」にてて、後、現行制度について、複数は、現行制度について、雑数メニューをわかりない。
たな宅築トック					自ら居住し、既 存住宅を取得する 方を対象に、エコ に資するリノベー			目標	100 1	件	100 件	100 件								現行制度につい補助メニューを?	わかりやすく		くするため、エコ事業を軸に整理し、簡略化する。また、スタートアップ支援等の試みとして、新たに多用途への活用モデルプロジェクトも実施
の形成	30	北九州市3 ⑧ 家リノベー ション促発 業	- 第	京活 用推 進課	ション費用の一部 を補助することに		_	実績	108 1	件			100件 (毎年 度)	継続	40,000	38,000	維持	10, 900	順調	理し、簡略化ター等の試みとして、途への活用モデルトも実施し、空	る。 トアップ支援 新たに多用 ルプロジェク	<u> </u>	し、空き家の流通促進を図 る。 また、「住宅の脱炭素化推 進事業」については、住宅の 脱炭素化を図るため、健康・
					に向けた住宅の脱炭素化を目指す。			達成率	108.0	%										進を図る。	C SV V MILE IN	_	省エネ・トータルコスト面で メリットを享受できる省エネ 住宅の建設を促進する。
								目標			70 %	70 %								令和4年度に行ミナーにおいて、 研修に対する事	技術力向上 業者からの		
	31	● 住宅の脱炭③ 化推進事業	素言言	十画果	脱炭素住宅の音を見います。 脱炭素 住宅事業 自生である。 はいの はいの はいの はいい まい に 関知を図る。	技術力向上セミナー受講者の満足度	_	実績達					_	継続	1,000	1,700	増額	5,900	_	ニーズ項目が容と 5年度はした。 5年度はした。 5年度はした。 6年代化で事また。 6年代で事また。 6年代が独立。 7年代の 7年代の 7年代の 7年代の 7年代の 7年代の 7年代の 7年代の	できた。令和中的なにのでいる。 でかないないがないではないない。 でのないではないでいる。 できないでいる。 できないでいる。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできないできないできないできない。 できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない		
								達成率															

建架 都巾向																				
		1 2 7		[Plan]			00】 実施	ļ						() () () () ()		[Check]	評価		Action]	改善
施策番号 No. 3'-	s 基本計画の施 を構成する	主要 業 所	事業・取組概要		事業評価現状値	西の成果指標		1	中期	成果の		R5年度 予算額	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	76.0	度に向けて 見直した内容
・施策名	を構成する 主な事業・取	組課名		指標名等	(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	目標	方向性	(千円)	(千円)	の増減	(千円)	評価	(課題に対する	改善方法等)	評価		する改善方法等)
				市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標廃止	基準値 80% (HI7年 度) 達成率	世年度目標設定なし	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)											
				市内の公共交通分 担率 ※指標廃止	基準値 20% (HI7年 度) 達成率	単年度目標 設定なし 一	単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)											
VI-2-			環境首都総合合交で 通戦略は、本本市の望ましいするた を構築存の公共を め、既存の公共交	自家用車CO2排出量の削減(HI7年度比) ※指標廃止	基準値 69.7万 +-C02 (H17年 度) 達成率		単年度目標設定なし		計画改 定 (R3年 度末)							令和4年3月に 九州市環境首都 (北九州市地域 画)」に基づき	総合交通戦略 公共交通計 、交通事業者		通戦略(北方	市環境首都総合交 九州市地域公共交
施設の 整備・ 維持管	環境首都総で 交通戦略の打 進	おかり かりまた かりまた かりまた かりまた かりまた かりまた かりまた かり	にやさしい公共交 通や徒歩・自転車 への利用転換を図	市内の公共交通人 ロカバー率 ※指標追加	基準値 86% (R3年 度) 違成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	86% (R8年 度)	継続	213, 423	208,893	維持	16, 150	順調	間の連携は強強である。 連携は大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	充実など、7 中居住をない を は を は を は を は を は を は る 、 で き る の で う の う の う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、	順調	業者等と連打 推進していた 市民のの 公共を継続し な知れまた、カー	こちなっている。 まりないななななななななななななななななないま続うにすっていま続うにすっていまにでにないまだが、ま続うにすっていまでいまがない。 ラーキー かいかい ラーキー かいかい ラーキー かいかい ラーキー かいかい カーキー かいかい カーキー かいかい カーキー かいかい カーキー かいかい カーギー かいかい かいかい かいかい カーギー かいかい カーギー かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい か
理			り、市民の多様な 移動手段が確保された交通体系を構築することを目指 す。	人口10万人あたり の公共交通利用者 数 ※指標追加	基準值 3.8万人 (RI年度) 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	3.8万人 /10万人 (R8年 度)							令和4年3月に 境首都総合交通 し、新たに令和 計画目標を設定	「北九州市環 戦略」を改訂 8年度までの			型モビリティの導
				公共交通に対する 満足度 ※指標追加	基準値 66.1% (R2年 度) 達成率		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	70% (R8年 度)											
				運輸部門CO ₂ 排出 削減率 ※指標追加	基準値 172万† -C02 (H25年 度) 度)		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	104万†- C02 (R12年 度) 40%削減											

建築都市局

姓米 即	112 /14/																•			
					[Plan]	計	画	/ [1	Do】 実施	i						+		【Check】 評価 /	/ [A	Action】 改善
施策番号	SD No. 3	ss 基本計画の施 を構成する 全な事業・取	第 主要	事業・取組概要				の成果指標	(目標・実績)	1		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安) 金額	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番	主な事業・取	組 評名	; 事来 - 权胜现安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
VII-3- (2)-4				【施策の内容】 地域連携に資す			目標	l 回	I 回	I 回										
広携す会の にた域にる基整向取連資社盤備け組		【施策評価のみ】 下関北九州)))))))))))))))))))	都市 交通 政策		要望活動を共同で	I回 (H28年 度)	実績	2 回			回 (毎年 度)	継続	-	_	_	_	_	_		下関北九州道路の早期実実に向け、関係団体と協働で望活動や調査研究活動に取組んでいく。
の推進				室・焼茶店割を美施する。			達成率	200.0 %												

港湾空港局

							(Plan)	計	画	/ [0	o】 実施							+		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	No	SDGs	基本計を構	画の施策 成する 業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標(目標・実績)	I		成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名		番号	主な事	業・取組	所管 課名	子术 小胆帆女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
						災害に強い都市 づくりの一環とし			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	a. 1 3##							本市の高潮対策の重要性を		
	I		海岸(事業	(高潮)	整備課	て、高潮等の災害 から市民の生め に、変命におい に、護岸整備を行	新門司北地区北護 岸整備による後背 地防護面積	_	実績	_			防護面 積 74ha (R6年 度)	継続	30,000	26,000	減額	5, 650	順調	継続して国に伝え、予算の確保に努めている。 高潮災害の予防対策として、引き続き護岸整備を進め、早期完成を目指す。		
Ⅱ-I- (4)-④ 総合的 な災害						(護岸登禰を行う。			達成率	_										(X)、平期元成を日指り。	順調	新門司北地区は、過去に 潮の被害を受けている地区 ある。市民や立地企業の安 全・安心を確保するために
対策の推進						老朽化が進む北九州港の海岸保全			目標		単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	14. No. 46									も、本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、予算で確保し、早期完成を目指す。
	2	0	海岸メンス事	ンテナ 業	港営課	施設について、地 域の安全・安心を 守るため計画的に 維持管理を行い、 施設の機能維持を	海岸保全施設の機 能維持	_	実績				施設背 後地の 安全性 確保	継続	34,000	30,000	減額	5, 650	_	点検結果を踏まえ、早急に 対応が必要な施設から補修・ 改修を進める。		
						図る。			達成率													
									目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								事業主体である国は令和3 年度に工事着手して以降も毎	-	本市では耐震強化岸壁を5 箇所整備する計画である。3
Ⅱ-I- (4)-⑤ 公共な耐の 化進 (4)-⑥施ど震推)	w	国直轄 担金(化岸壁	爭業負 (耐震強 整備)	計画課	大規模震災時に も物資等の海上輸 送機能を確保する ため、耐震強化岸 壁を整備する。	臨海部防災拠点を 構成する耐震強化 岸壁の整備 (西海 岸地区)	_	実績	_			耐震強 化 岸壁の 整備 (R7年 度)	継続	325,000	0	減額	2, 900	順調	年予算要求しているものの、 令和5年度当初については予 算の配分がなかった。 市としては国に対して、補 予算を積極的に活用した予 算確保など、事業の早期完了 を要望するとともに、国との	,	在、砂津地区、新門司地区の整備が完了している。残る3箇所のうち、西海岸地区、ででコンテナターミナルにでいては、国が事業主で、早期完了、早期等の要望を引き続き行い、「
									達成率	_										連携を密にし、事業の進捗を 図っていく。		との連携を密にし、事業の 捗を図る。

					[Plan]	計	画	/ [0	Oo】 実施	Ē.								【Check】 評価	/_[Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要				の成果指標((目標・実績)	1	l l- Hn		R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	76.0 0 - 1 1 1 1 -
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	事未 机恒烷安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	()mpr +1 + = =1 -+ + -1 + hr)
				港湾空港局で は、響灘地区のポ テンシャルを活か			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								SEE WAY NO.		
				し、平成23年度より風力発電関連産業の集積を図る 『グリーンエネルギーポートひび	響灘地区総合拠点 の産業用地利用率	31.7% (R2年 度)		31.7 %			80% (R6年 度)							響灘洋上ウインドファーム 事業については、着実に事業 が進むよう、引き続き、事業 者等との連絡、調整、協議。 行う。	ŧ	
	7 8	響灘洋上風力 発電拠点化推 進事業	-1	マラック できょう できょう できょう できょう できまり できま できま できま できま でき でき できる できる できる できる できる できる できる できる で			達成率	_				継続	1. 758. 900	1,722,450	維持	129,500	順調	また、国と市が行っている 基地港湾の整備については、 響灘洋上ウインドファーム 業に間に合うよう、確実にこ 事を進めていく。	<u>=</u>	風力発電関連産業の総合拠 点形成に向けては、まず、響 灘洋上ウインドファーム事業 と基地港湾整備を着実に進 め、西日本地域のウインド
IV-I- (3)-① 成長	(3)	是 子未	化推	カ発電に対応した 環境整備が急務で ある。 そこで、響灘洋 上ウインドファー			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	案件		WEEL MYL	1, 730, 700	1, 722, 430	, WE 141	127, 300	rijet gjelj	さらに令和5年度において も、国内の洋上風力事業の報及拡大に合わせて、基地港派 を継続して利用してもらえる よう西日本地域の洋上ウイン	ちょう	ファーム事業を確実に取り込むことで、基地港湾の将来に向けた継続的な利用、関連産業の定着を図る必要がある。 また、産業拠点化を進める
成性済効高業の経験の産動				ー・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・ボー・イン・ボー・イン・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール	響灘地区総合拠点 利用ファーム数 (予定含む)	I案件 (R2年 度)	実績	上 案 上 件			5案件 (R6年 度)							ドファームの市場開拓を継続するとともに、産業拠点化に向け、企業誘致や地元企業のサプライチェーンへの参入3援などに取り組む。) 順調	ことで、更なる港湾の活性化 や雇用促進を図ることができ るため、積極的に取り組んで いく。 加えて、企業誘致及び埋立
点的誘 致				総合拠点"の形成を目指す。			達成率	_												地整備事業については、効果 的な企業立地活動を継続する と共に、残りの分譲地が少な くなっていることから、マリ ナクロス新門司については、
				臨海部産業団地 の分譲を促進する ため、充実した港 湾インフラや「環			目標	42 件	43 件	49 件	:							外部環境に成果が左右されるが、本市の港湾を利用する企業に絞り込んだ効率のよい企業立地活動を行う。	5	新たな分譲地の確保に向け整備を行う。 その他、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。
	5 8	企業誘致及び 埋立地整備事 業		境未来都が リーンで 戦略総合特区」な がすことのできる	臨海部産業用地へ の企業立地件数 (H26年度以降の 累計)	4件 (H26年 度)	実績	47 件			件増 (毎年 度)	継続	431,721	4, 837, 941	増額	28, 450	順調	また、マリナクロス新門電については企業の誘致が順記であり、旺盛な土地需要による為に整備が急がれる。 製 灘地区については、企業のこ	司公聖	
			かすこと 企業に対 的に誘致				達成率	111.9 %										地需要に応えるため、未利月の国有地の有効活用を進める。		
IV-4-	-① 内外 5の 光の 6 3 クルーズ船の 次 数			コンベンション への出展や、代理 店や船社への情報		年間寄	目標	40 回	20 回	20 E	1							令和5年3月から欧米系ク ルーズ船の受入が再開し、『	a	クルーズ船の寄港回数を増 やすため、船会社への個別営
(3)-① 国内外 からの 観光の			クルズ交課	提供により、国内 外のクルーズ船の 寄港を促進する。 また、クルーズ船	クルーズ船の寄港 数	港 回数: 12回 (H28年	実績	4 回			45回 (R7年 度)	継続	18,800	39,600	増額	27, 100	遅れ	年5月から新型コロナウイルス感染症が5類へ移行する。 今後は、中国発着のクルース 船再開を見据え、日本船社及	やや び 遅れ と	業のほか、他港と連携してセミナー等を実施する。また、 寄港地ツアーを実施する旅行 会社へFAMを実施し、市内ツ
推進				寄港時にはおもて なしイベント等を 実施する。		度)	達成率	10.0 %										び外国船社に対して積極的な 誘致活動を行う。	•	アー造成に向けた提案を行う。

港湾空	·/2/	미				[Plan]	】計	画	/	[D	o】 実施	i						4		【Check】 評価 /	/ [Action】 改善
		coc-	基本計画の施策	主要						- 標(目標・実績)			-12 PE -0	R4年度	R5年度	主业井	人件費	R3年度	R5年度に向けて	R3年度	R5年度に向けて
施策番号 · 施策名	No.		を構成する 主な事業・取組		事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年月	隻	R4年度	R5年度	中期目標	_成果の 方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	事業費の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
IV-4- (3)-(2)				DA 2	市民に港や海に		Cab I Nasy	目標	90	% 以 上	% 90 以 上	% 90 以 上	口1张		(113)	(113)		(113)	BT IM	「みなと」を核としたにぎ わいづくりや地域づくりによ り、市民が「みなとまち」を	<u>87 JW</u>	関門海峡花火大会実行委員
(にいりる交業) わくよ客産拡	7	8		クルズ交課 マル・流	親しんでもらい、 北九州港の賑わい を創出するため、 北九州港内で各種 イベントを実施す る。	イベント参加者の 満足度	80%以 上 (H26年 度)	実	97	%			イベン ト参加 者の満 足度 90%	継続	28,449	29,013	維持	22, 350	順調	再認識し、シビックプライドの醸成につながる取組を行う。また、市制60周年記用した業として、帆船等を利用したイベントを実施し、本市除水文化の構築、海や港の仕事へ	順調	会や、みなとオアシス門司港などの地元関係団体と連携して、みなとや海辺のにぎわいづくりを進める。また、SNS等のネットワークを活用し北九州港の周知・PRを行う。
充								達成率	107.8	%										の理解促進、興味喚起に繋げる。	 	
					臨海部産業団地 の分譲を促進する ため、充実した港 湾インフラや「環			目標	42	件	43 件	49 件								外部環境に成果が左右されるが、本市の港湾を利用する 企業に絞り込んだ効率のよい 企業立地活動を行う。	ı	効果的な企業立地活動を継 続すると共に、残りの分譲地
V-I- (3)-② 産業拠 点の整 備	8	® 9	企業誘致及び 埋立地整備事 業	物流 振興 課	境未来都市」「グ リーンアジア国際 戦略総合特区」な ど本市の強みを活 かすことのできる	臨海部産業用地へ の企業立地件数 (H26年度以降の 累計)	4件 (H26年 度)	実績	47	件				継続	431,721	4, 837, 941	増額	28, 450	順調	また、マリナクロス新門司 については企業の誘致が順調 であり、旺盛な土地需要に応 える為に整備が急がれる。響 灘地区については、企業の土	順調	が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。 また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活
					企業に対し、積極 的に誘致活動を行 う。			達成率	111.9	%										地需要に応えるため、未利用 の国有地の有効活用を進め る。	ı	用を進める。
V-I- (3)-③ 物流拠 点の整 備					北九州空港の柱の 来ごジョイ、九 一つ、東九州・の高 月 明 3 方向か い 点 の 経 優 位 性 を し の 東 九 明 ら り の に の の も の の も の ら ら の ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら			目標	30,000	t	30,000 †	30,000 t								北九州空港の貨物事業が大 きく進展した一方で新たな課 題として、空港内での通関体 制構築やエプロン・スポット	順調	航空貨物については、北美の 州空港の貨物事業なまり、 展した一方内で新の通界をは関係して、 で港のカーで、 で港のカーで、 で港のカーで、 で光の通子整備、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 後関して、 を、 後関と、 を、 を、 後関と、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 後関と、 を、 を、 を、 を、 後関と、 を、 を、 を、 を、 を、 後関と、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 後関と、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を
	9	9	北九州空港物 流拠点化推進 事業		し、広域的な物流 拠点。 また、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	航空貨物取扱量	_	実績	21,819	t			42,000t (R6年 度)	継続	441,900	690, 367	増額	40, 400	順調	の拡充、貨物上屋の整備など も顕在化しているため、今 後、国をめめとする関係機関 と連携して取り組んでいく課題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ まで以上に広域的な集貨や更		して取り組んでいく。 令和5年度においては、課題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ まで以上に広域的な集貨、取り なる需要の掘り起こしに取り 組み、物流拠点化を積極的に 進める。
					り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加を構築させる 循環を物流拠点と で、現化を図る。			達成率	72.7	%										なる需要の掘り起こしに取り 組み、物流拠点化を積極的に 進める。	I	港湾施設の整備については、老朽化した港湾施設の安全性確保を図るほか、引き続き、物流拠点化の進展を図るため、選択と集中を進めつつ、港湾機能の維持・強化を行う。

	工心问				[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施						([Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	5DG	基本計画の施第	主要事業	古米 75/0 107 75		事業	評価の	の成果指標((目標・実績)			成果の R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	Z No. ゴー番を	を構成する 主な事業・取組		事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減		事業 評価	強化・見直し		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
		港湾施設整備	整備	岸壁や道路等の 老朽化した港湾施 設について、適切			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施設利用					21 100	老朽化した施診	设の改良を経	D) Im	北九州港港湾計画については、令和5年度での改訂を目指し、改訂計画の案を策定し、国や関係者と協議を行
	10 0	事業(岸壁、 物揚場、道	課	な改良を加え、機 能の維持・強化を 行うことにより、 施設利用者の安全	港湾施設利用者の 安全性確保及び利 便性向上	_	実績	_			者の安 全性 保及 利便性	継続 340,27	869,670	増額	5, 150	やや 遅れ	済的かつ効率的に 緊急性の高い施設 位をつけて予算要 ていく。	に図るため、 设から優先順		う 。
				性確保及び利便性向上を図る。			達成率	_			向上								-	
	(7) (8)			港湾を取り巻く 社会経済情勢の変			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾計画の 改訂	A 1. F/r						A 1.5 (* *** *** *** *** *** *** *** *** ***	** 流斗 エル		
	11 (2)	北九州港港湾 計画改訂事業	計画課	化に対応するため、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる発	港湾計画の改訂	_	実績	_			令和5年 度での 港湾計 画改訂	継続 110,00	25,600	減額	48,000	順調	令和5年度での 訂を目指し、改言 策定し、国や関係 行う。	丁計画の案を		
	(<u>4</u>			展を目指す。			達成率	_												
		*** 7 1 - + 7	港営	老朽化が進む北 九州港の港湾施設 について、維持管			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施設の安						老朽化した港湾	質施設につい		
	12 1	競争力のある 港づくり関連 事業(維持管 理等)	課	理を効果的かつ効率的に行うことで、物流基盤の機能を維持し、北九	確保及び利便性の	_	実績	_			全性確 保及で 利便性 の維	継続 430,42	515, 580	増額	115,075	順調	て、点検結果、利まえて、緊急度の ら補修を行うこと 湾施設の安全性研	川用状況を踏)高い施設か こにより、港		
			D/A	州港の競争力確保を図る。			達成率	_			持・向 上						7与他战07 文 至 江明	± IA С [Д 9 0		
V-I- (4)-② 再生可 能エネ				港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成23年度よ			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし							響灘洋上ウイン		順調	風力発電関連産業の総合 点形成に向けては、まず、製 選洋上ウインドファーム事業 と基地港湾整備を着実に進
ル ギー・ 基幹エ ネ				り風力発電関連産業の集積を図る 『グリーンエネルギーポートひび	響灘地区総合拠点 の産業用地利用率	31.7% (R2年 度)		31.7 %			80% (R6年 度)						事業については、 が進むよう、引き 者等との連絡、訓 行う。	を続き、事業 周整、協議を		め、西日本地域のウインドファーム事業を確実に取りまむことで、基地港湾の将来に向けた継続的な利用、関連通
ギーの 創出拠 点の形 成	·	響灘洋上風力	エネルギー	き』事業を進めて おり、本事業の更 なる推進にあたっ			達成率	_									また、国と市が 基地港湾の整備に 響灘洋上ウイント 業に間に合うよう	こついては、 、ファーム事 う、確実にエ		業の定着を図る必要がある。 また、産業拠点化を進めることで、更なる港湾の活性化や雇用促進を図ることがで、
	13 ®	音	産業	見込まれる洋上風								継続 1,758,90	0 1,722,450	維持	129,500	順調	事を進めていく。 さらに令和5年			るため、積極的に取り組んでいく。
	(3	進事 未	化推	カ発電に対応した 環境整備が急務で ある。 そこで、響灘洋			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	l 案 件							も、国内の洋上風及拡大に合わせて を継続して利用し よう西日本地域の	て、基地港湾 してもらえる		
				上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、		I案件 (R2年 度)	実績	上 案 件			5案件 (R6年 度)						ドファームの市場 するとともに、盾向け、企業誘致やサプライチェーン	陽開拓を継続 産業拠点化に ウ地元企業の		
				国内における "風 力発電関連産業の 総合拠点"の形成 を目指す。			達成率	_									援などに取り組む			

						[Plan]	計	画	/ [[Do]	実施	i						+		【Check】 評価 /	< [/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の	施策 事	E要 事業	事業・取組概要				の成果指標	(目標・	実績)		1 1-45	成果の	R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成す	取組 部	f管 果名	尹未	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年	F度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
	9	カーボン ニュート ポート推 業	シル 計	画!	北、温 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	令和5年度中の港 湾脱炭素化推進計 画の策定	_	目標 実績 達成率				港湾脱炭素 化推進計画 の策定	令度港炭推画 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	_	_	18,600	_	20, 950	_	本市が掲げる「ゼロカーボンシティ」を達成するために経 は、輸出入貨物の99.6%が経 由する国際サプライチェ量の 拠点であり、CO2排出量の 拠点である、港湾におけ 拠点でもある、港湾におけ 拠点である、港湾におけ である。港湾におけ である、本事業では、港湾脱 炭素化に向けた取はが連済 である、大海のは、大田はが である、大海のは、大田はが である、大海のは、大田はが である、大海のは、大田はが である、大海のは、大田はが 大田は、大田は、大田は、大田が 大田は、大田は、大田が 大田が 大田が 大田が 大田が 大田が 大田が 大田が		
V-2- (I)-① 北九州 空機能拡 充					北九州空港の柱の 来ビジとして、西の 大小・東九から点に 田国3路の位地である。 が節を生か が節を生か が成して では は が が が に は は が が が に と は が り に は が り ら は に り に が り ら に が り ら に ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら			目標	30,000 t	30,00	00 t	30,000 †								北九州空港の貨物事業が大 きく進展した一方で新たな課 題として、空港内での通関体 制構築やエプロン・スポット の拡充、貨物上屋の整備など	やや遅れ	航空貨物に可能では、北大 州空港の貨物事業が大きり 展した一方でが通関体制をでいる。 で、空港のイの通関体のが で、工貨物上屋の整備なども 完しているとめ、会関と を始めとする関係機関していいく。 して取り組んでいく。
	15 9	北九州空河流拠点化打事業		港 画 !	拠点では 変素を ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 はい、 ない、 はい、 はい、 ない、 はい、 はい、 ない、 はい、 はい、 はい、 ない、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 は	航空貨物取扱量	_	実績	21,819 †	•			42,000† (R6年 度)		441,900	690, 367	増額	40,400	順調	も顕在化しているため、今 後、国を始めとする関係機関 と連携して取り組んでいく。 令和5年度においては、課 題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ		令和5年度においては、課題の解決とともに、国際貨物を定化のため、これまで以上に広域的な集貨や見なる需要の掘り起こしに取り組み、物流拠点化を積極的に
					り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加速させるる 循環を物流拠点と で、現化を図る。			達成率	72.7 %	6										まで以上に広域的な集貨や更なる需要の掘り起こしに取り組み、物流拠点化を積極的に進める。		進める。 港湾施設の整備については、老朽化した港湾施設の皇 全性確保を図るほか、引き終 き、物流拠点化の進展を図 ため、選択と集中を進めつ 、港湾機能の維持・強化
								目標	3 路		路線											行う。 北九州港港湾計画につい ⁻ は、令和5年度での改訂を目 指し、改訂計画の案を策定
						国際定期路線の維 持・拡大	_	実績	0 路				3路線 (R6年 度)							新型コロナウイルス感染症		し、国や関係者と協議を行う。
	8	北九州空河 規路線就 進事業	新空		北九州市民の利 便性向上のため、 国内・国際定期便 の新規就航及び既			達成率	0.0 %	6				纵线	2// 830	238 301	地好	28 130	湿丸	の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、 定期便化に繋がるチャーター 便の運航を積極的に誘致する		
	10	進事業	課		存路線の定着を図ることを目標に、 路線誘致・利用促 進活動を行う。			目標	3 路		路線			和企物记	24,030	230, 341	卢 百钦	20, 130	遅れ	とともに、航空会社に対する 運航経費の助成や、ターゲッ トを明確にした広報など効果		
						国内定期路線の維 持・拡大	_	実績	2 路				2路線 (R6年 度)							的な集客を行う。		
								達成率	66.7 %	6												

					(Plan	】計	画	/ [[o】 実施	i						—		【Check】 🖹	平価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策 を構成する	主要事業	事業・取組概要				の成果指標((目標・実績)			成果の	R4年度			人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向け 強化・見直した		R3年度	26.0 0 - 1 1 1 1 -
・施策名	番号	基本計画の施泉 を構成する 主な事業・取組	所管 課名	学 来:	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
				北九州空港の利 用促進のため、エ			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								新型コロナウイル			
	17	北九州空港 アクセス推進 事業	企画	アポートバスの安 定的な運行では 等、空港アクセス 利便性の維持・向	北九州空港利用者 数の増	_	実績	481,505 人			200万人 (R6年 度)	継続	244, 400	267,800	増額	22, 040	遅れ	の影響により一部の 運休となっているか の回復基調を想定し 合わせてエアポート	、航空便 ハ、それに		
				上を図る。			達成率	_										行する。			
V-2- (I)-② 港湾の 国際競 争力の 強化				国内外の荷動き や物流事業につい て、企業訪問など により情報収集を			目標	前年 (8,845万†) 比増加	前年比増加	前年比増加										順調	引き続き官民一体となって 船会社や物流事業者、荷主な 業等に対してPRを行い、新打 航路誘致や集貨・創貨を推 するとともに、他港との競っ において魅力ある仕組みを
	8 9 10	北九州港集貨航路誘致事業	+= 490	行うとともに、や ミナーの媒体を利用 し一体となった活動な トセールス	北九州港海上出入 貨物取扱量	9,998万 † (H23年)	夫	9,636 万 †			10,900 万† (R6年)	継続	123,088	107, 505	減額	50, 500	順調	官民一体となっ セールス活動等を選 路誘致や集貨・創り よる北九州港の利用 続する。	通じて、航 貞の推進に		くることで、更なる北九州: の利用促進を図る。 また、北九州港とアジア: 域や国内他港とを結ぶ国際 国内RORO航路の誘致による なる物流拠点化を推進する
				どを通じて、北九 州港への集貨・航 路誘致を行う。			達成率	108.9 %													そのほか、荷役作業の安 性確保と効率化を図るため 引き続きコンテナヤード等 整備を実施するほか、老朽 の著しいコンテナクレーン
				完成自動車の輸 出や自動車部品輸 入等のシームレス 物流に必要な国際			目標	7 航 7 路	7 航 7 路												更新を行う。 加えて、北九州港港湾計 については、令和5年度での 改訂を目指し、改訂計画の を策定し、国や関係者と協 を行う。
	(8) (19) (1)		物流振興課	RORO航路を誘致するとともに、 る内航RORO航路を 変とともに、 の充実を図ることに より、 に は る自動車関連産	RORO航路数	4航路 (RI年)		5 航 5 路			8航路 (R6年)	継続	11,309	10,853	維持	7,550	順調	自動車流通拠点形別図るため、北九州港の更北九州港の東北九州港の東北九州港の東北九州港で国内RORO航車・国内RORO航車推進する。	流拠点化を 巻とアジア を結ぶ新た		
				業等の物流拠点化 の促進及び北九州 港の取扱量拡大を 図る。			達成率	71.4 %													
				太刀浦コンテナ ターミナル内の舗			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	コンテナ ヤードの整 備	コンテ							荷役作業の安全確 化を図り、本港の競			
	20 🕦	太刀浦埠頭用 地整備事業	港営課	装の損傷が著しい 箇所について補修 を行うことで、荷 役作業の安全性確 保と効率化を図	荷役作業の安全性 確保と効率化	_	実績	_			ナヤー ド等の 整備 (R5年 度)	継続	123,000	105,000	減額	3,650	順調	なげるため、コンテ 等の整備を行う。 令和5年度は引きれ の損傷が著しく、利 整備要望の高い第2	続き舗装 用者から		
				3.			達成率	_										ターミナルの整備を			

港湾空	心心																			
					[Plan	】計	画	/ [[00】 実施	i .						+		【Check】 評価	/	Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施	主要事業	車架 职如棚馬				の成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度		人件費 (目安)	R3年度		R3年度	20.0 0 - 1 6 6 -
・施策名	NO. 3 -1	基本計画の他 を構成する 主な事業・取	A 所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等	局施第 評価	
				耐用年数を超 え、老朽化、劣化			目標	基目着手	基目竣工	2基目着手								太刀浦第2コンテナター ナルは、昭和62年に供用開 し、更新対象のクレーンも 運から耐用な多を大幅にこ え、老朽化が著しい。この め、安全かつ安定した設備	始 設 た を	
	8	太刀浦第2コンテナター:ナルコンテナクレーン更新	_ 心呂	が顕著なため、安 全、安定した設備		0基		基目製作中(令和4年度完成予定)			2基目完 成 (R7年 度)	継続	819,000	154, 700	減額	12,300	順調	提供することを目的とし、 レーン3基の更新を行う、 らに近年のコンテナ船ターミルの利用促進を踏まえ、、建立の大きないの利用促進を付いるできる。 かっかの大型化も行う基目のレーンの大型のでは、これます。 からの2基目のレーンには、またり2箇年 対当面していたが、材料やも部	化ナク。更一て	
							達成率目	— 単年度目標	単年度目標	港湾計画の								調達が困難になっておりクレーンの納期が長期化するめ3箇年工事となることか計画の見直しを行った。	te	
	⑦ ⑧ ⑨		計画	港湾を取り巻く 社会経済情勢の変 化に対応するた	****		標実	設定なし	設定なし	改訂	令和5年 度での			25 (00	*\d\$	49,000	WE Aro	令和5年度での港湾計画で 訂を目指し、改訂計画の案		
		計画改訂事業		が、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる発 展を目指す。	港湾計画の改訂	_	績達	_			港湾計画改訂	継続	110,000	25,600	減額	48,000	順調	策定し、国や関係者と協議 行う。	を	
							成率	_												
				国内外の荷動き や物流事業につい て、企業訪問など により情報収集を			目標	前年 (8,845万†) 比増加	前年比増加	前年比増加										引き続き官民一体となって
V-2- (I)-③ 環境型物 流の推 進	23 9	北九州港集員航路誘致事業	物流興	行うとともに、セミナーの開催や利用といるでは、 はななななながれるでは、 でのPR及びによったようには、 ではなったポートセールス活動な	其初4000里	9,998万 † (H23年)	実績	9,636 万			10,900 万† (R6年)	継続	123,088	107, 505	減額	50, 500	順調	官民一体となったポーセールス活動等を通じて、 お誘致や集貨・創貨の推進よる北九州港の利用促進を があるとともに、モーダルフトを推進する。	航に 順調	船会社や物流事業者、荷主企業等に対してPRを行い、新規 航路誘致や集貨・創貨を推競するとともに、他港との競力 において魅力ある仕組みをいくることで、更なる北九州港 の利用促進を図る。
				どを通じて、北九 州港への集貨・航 路誘致を行う。			達成率	108.9 %												

					[Plan]	】計i	画	/ [Do】 実	施						+		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号	SDGs No 3'-1	基本計画の施策 を構成する	争来	事業・取組概要			評価の	の成果指標	(目標・実績	t)	I _L #n	_ 风朱の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	No. ゴール 番号	主な事業・取組	所管 課名	子来 机恒弧反	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
							目標	3 路線		路 線 3 線	!										
				北九州市民の利	国際定期路線の維 持・拡大	_	実績	0 線			3路線 (R6年 度)							新型コロナウィ の影響により運作			
	24 8	規路線就航促		便性向上のため、 国内・国際定期便 の新規就航及び既 存路線の定着を図			達成率	0.0 %				継続	24,830	238, 391	増額	28, 130	遅れ	る路線の就航再 定期便化に繋が 便の運航を積極的	開に向けて、 るチャーター		空港については、新型コロ
	Ð	進事業	課	け路線の定復を図ることを目標に、 路線誘致・利用促進活動を行う。			目標	3 線		路 線 2 線	2路線							とともに、航空な 運航経費の助成な トを明確にしたが 的な集客を行う。	や、ターゲッ 広報など効果		ナウイルス感染症の影響によ り運休となっている路線の就 航再開に向けて、定期便化に 繋がるチャーター便の運航を
V-3- (2)-(Ī)					国内定期路線の維 持・拡大	_	実績達	2 線			(R6年 度)							的な来谷を1」)。			積極的に誘致するとともに、 航空会社に対する運航経費の 助成や、ターゲットを明確に
都市基 盤・施 設の有							達成 率	66.7 %												やや 遅れ	した広報など効果的な集客を 行う。 海上貨物については、引き 続き官民一体となって船会社
効活用				国内外の荷動き や物流事業につい て、企業訪問など により情報収集を			目標	前年 (8,845万†) 比増加	前年比增加	加 前年比增加								官民一体とな	こったポート		や物流事業者、荷主企業等に 対してPRを行い、新規航路誘 致や集貨・創貨を推進すると ともに、他港との競争におい て魅力ある仕組みづくりに取
	25 9		tE IBI	行うとともに、セミナーの開催を利用してのPR及びポートセールス活動な	北九州港海上出入 貨物取扱量	9,998万 † (H23年)	夫	9,636 方			10,900 万† (R6年)		123,088	107, 505	減額	50,500	順調	セールス活動等: 路誘致九州港の: 続するとともに、フトを推進する。	を通じて、航 創貨の推進に 利用促進を継 、モーダルシ		り組むことで、更なる北九州 港の利用促進を図る。
				どを通じて、北九 州港への集貨・航 路誘致を行う。			達成率	108.9 %													
VI-2- (2)-① 市民 企業な どによ	26 (1)	カーボン ニュート ポート 非進事		るため、港湾脱炭	令和5年度中の港 - 湾脱炭素化推進計 画の策定	_	目標実績			港湾脱炭素 化推進計画 の策定	- 令和5年 度神の 港湾 炭素 推進計		_	18,600	_	20, 950	_	本市が掲げる ンシテ輸出国际 は は する は する は する に ない がってい	成するために の99.6%が経 ライチェーン 502排出量の 海部産業ける 港湾におす重要 た取組が重要	_	本市が掲げる「ゼロカーボンシティ」を達成するためには、輸出入貨物の99.6%が経由する国際サプライチェーンの拠点であり、CO2排出量の約6割を占める臨海部産業の拠点でもある、港湾における脱炭素化に向けた取組が重要
るC02 削減	9(4)			素化推進計画の策 定・更新を行うと ともにCNP形成に向 けた各取組の具体 的検討を行う。	3		達成率				画の策							である。本事業 炭素化推進計画の を行うとともに、 CNP形成に向けた 組の調査、検討等	の策定・更新 北九州港の 具体的な取		である。本事業では、港湾脱炭素化推進計画の策定・更新を行うとともに、北九州港のCNP形成に向けた具体的な取組の調査、検討等を行う。

港湾空	., ., .	<u>-</u>			[Plan]	計	画	/ [D	o】 実施							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号	. s	DGs 基本計画の施策	主要事業	古₩ 100 /01 /01 /01		事業	評価	の成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	DGs 基本計画の施策 '-ル を構成する 主な事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直(課題に対する)		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
							目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	廃棄物		(114)	(110)		(110)	U IM			U III	
				北九州港内の航 路・泊地の整備及 び維持から発生す	廃棄物処分場の確 保	_	実績	_			の受入 開始 (R5年										
VI-3- (I)-② 適正な		9 響灘東地区処		る浚渫土砂、市民 生活や市内中小企 業の産業活動から			達成率				度)	継続	1, 361, 000	2,101,000	増額	39,500	順調	引き続き目標4 成を目指し、計画		順調	市民生活に不可欠な廃棄物 処分場の整備事業であり、確
廃棄物の処理		分場整備事業	課	発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場(響			目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	浚渫土	Net N/L	,,,	2, 101, 000	74 07	07,000	Not bud	進捗を図る。	31,67 KV	rige and	実に事業を進めていく。
				灘東地区処分場) を整備する。	土砂処分場の確保	_	実績達	_			砂の受 入開始 (R5年 度)										
				北九州空港の将			建成率	_			/Q /										
				来ビジョンの柱の 一つとして、九 州・東九州・西中 国3方向からの高速			目標	30,000 †	30,000 †	30,000 †								北九州空港の1きく進展した一	方で新たな課		航空貨物については、北九 州空港の貨物事業が大きく進
				道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流 拠点空港を目指														題として、空港に制構築やエプロスの拡充、貨物上別も顕在化している。	ン・スポット 星の整備など るため、今		展した一方で新たな課題として、空港内での通関体制構築やエプロン・スポットの拡充、貨物上屋の整備なども顕
	28	⑧ 北九州空港物 河流拠点化推進 事業		す。 また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を	航空貨物取扱量	_	実績	21,819 †			42,000† (R6年 度)		441,900	690, 367	増額	40,400	順調	後、国を始めとで と連携して取りが 令和5年度にお 題の解決とともい 定期便の安定化の	組んでいく。 いては、課 こ、国際貨物		在化しているため、今後、国 を始めとする関係機関と連携 して取り組んでいく。 令和5年度においては、課
VII-2- (2)-① 充実し た物流				推進することによ り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加速させる好			達											まで以上に広域的なる需要の掘りが 組み、物流拠点の	的な集貨や更 起こしに取り		題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ まで以上に広域的な集貨や更 なる需要の掘り起こしに取り
基盤を 活用し た物流				循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。			成率	72.7 %										進める。		順調	組み、物流拠点化を積極的に 進める。 港湾施設の整備について
振興				国内外の荷動き や物流事業につい て、企業訪問など により情報収集を			目標	前年 (8,845万†) 比増加	前年比增加	前年比増加								49.00	. 4 10 .		は、老朽化した港湾施設の安全性確保を図るほか、引き続き、物流拠点化の進進を図るため、選択性・企業を図るため、選択性・企業を発した。
	29	B X X X X E X	物流 振興	行うとともに、セミナーの開催や 様々な媒体を利用	北九州港海上出入 貨物取扱量	9,998万 †	夫	9,636 万			10,900 万†	継続	123,088	107, 505	減額	50,500	順調	官民一体とな セールス活動等 路誘致や集貨・ よる北九州港の	を通じて、航 創貨の推進に		つ、港湾機能の維持・強化を 行う。 北九州港港湾計画について は、令和5年度での改訂を目
	(① 加姆的双手来	課	してのPR及び官民 一体となったポー トセールス活動な	其初40次里	T (H23年)	達	'			(R6年)							続するとともに、フトを推進する。	、モーダルシ		指し、改訂計画の案を策定し、国や関係者と協議を行う。
				どを通じて、北九 州港への集貨・航 路誘致を行う。			足成率	108.9 %													
VII-3- (2)-③		【施策評価の	do th	【施策の内容】 北九州空港の集			目標	_	_	_											アフターコロナを見据え、
九州地 域の空 港の連	30	3 み】 ① 九州地域の空 港の連携	空港	客力と来訪者の回 遊性を向上させる ため、九州地域の 各空港との連携強	_	_	実績 達	_			_	継続	_	_	_	_	_	_			引き続き近隣の他空港と連携 して、北九州空港の利用促進 活動を行っていく。
携				各空港との連携強 化を図る。			達成率	_													

					[Plan]	計	画	/ [0)o】 実施							+		【Check】 評価		Action】 改善
施策番号・施策名	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業管課名	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)	評価の	の成果指標(R3年度	(目標・実績) R4年度	R5年度	中期目標	成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
				市民の救命効果			目標	40,000 人	30,000 人	30,000 人								新型コロナウイルス感染症対策のため、1回の受講定員を半数に制限する。 一方、応急手当の必要性をより多くの市、誤習で使用する。 ただくよう、講習で使用する		
	I 3 4	応急手当の普 及啓発活動の 推進	救急課	の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推	応急手当講習の受 講者数 ※中期目標改訂	4,632人 (R2年 度)		川,405 人			30,000 人(毎 年度)	継続	2,287	976	減額	20, 370	遅れ	資器材のデジタル化及び講習のオンライン化を行う。 【中期目標の変更内容】		
Ⅱ-I- (2)-① 医救制 の を を を を を の た				進する。			達成率	28.5 %										新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、受請者数を管理した上で実施するよう「応急手当講習の受講数の増加」から「30,000人」へ変更した。	加直調	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含め た応急手当の普及啓発活動を 推進するとともに、計画的に 救急救命士を養成する。
				質の高い救急救			目標	_	_	_	高度かつ安全									
	2	救急体制の充 実強化	救急課	命処置を提供できる体制に向け、計画的に救急救命士を養成する。	高度かつ安全で確 実・迅速な救命処 置	_	実績	_			で確 実・な ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	継続	15, 157	14,735	維持	20, 370	大変順調	計画的に救急救命士を養成 し、救急体制の充実強化を図 る。		
				と食成りる。			達成率	_			(毎年度)									
Ⅱ-I- (4)-③ 総消災の が別体 は				地域防災力の向	全193地区におけ る市民防災推進行 事への年1回以上		目標	地 193 · 回 地	地 193 · 回	地 192 · 回	全192地 区・回 (毎年							市民防災会を対象に防災 リーダー研修を実施するな ど、地域防災力の向上のため	順調	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援 や訓練指導等を行う。 高齢者世帯等に対して住宅 用火災警報器の設置促進や適
制の構築	3	自主防災活動 の推進	予防 課	上を目的として、 市民防災会の活動 支援と訓練指導等 を行う。	の参加 *令和4年4月から 192地区	_	実績	193 · 回			度) *令和4 年4月か ら192地	継続	6, 596	6, 596	維持	6,675	順調	の支援・指導を行う。 【中期目標の変更内容】 小学校区が令和4年4月に合		切な維持管理の広報を行い、 火災による被害の軽減を図る。 地域防災の拠点となる消防
					※中期目標改訂		達成率	100.0 %			区 区							併し、地区が193区から192区となったため、変更した。		施設の耐震化を計画的に進めるとともに、魅力を感じる消防団づくりを推進し、入団促進を図る。
				高齢者・障害者		毎年度 算出さ	日 標	全国の平均 設置率と同 程度	全国の平均 設置率と同 程度	全国の平均 設置率と同 程度	住宅用							近年の焼死事故の状況を踏まえ、高齢者等を含む世帯に対して防火指導を継続するとともに、住宅用火災警報器の設置促進を図る。	•	
	4	住宅防火対策 の推進	予防課	等の世帯への訪問 を行い、防火・防 災啓発に努めると ともに、火災や焼 死事な	住宅用火災警報器 の設置率	れ 国 る 知 る の 設 ン 来 R3:		87 %			火報 設 向 年 次 第 の 率	継続	852	781	減額	22,400	順調	また、住宅用火災警報器の設置義務化から10年以上が組 過し、今後、電池切れの増加が見込まれることから、警報 器本体の交換と定期が	1	
				努める。		83.1%	達成率	104.7 %			度)							検・清掃の維持管理について 啓発を強化する。併せて「無 線式連動型」等の住宅用火災 警報器の普及に向けた啓発を 行う。	ŧ i	

消防局					[Plan]	計	画	/	[D	o] 3	実施							—		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
施策番号・施策名	SDGs No. ⊐′-/L	基本計画の施策 を構成する	主要事業所管	事業・取組概要	此馬力於		評価の			目標・実		DE左曲	中期	成果の	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	26.0 0 - 1 1 1 1 -
363/43	雷亏	を構成する主な事業・取組	課名		指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年原		R5年度	目標	761	(千円)	(千円)	○ / / / I / I / I / I	(千円)	評価	(課題に対する	改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
					消防団施設整備に		標	3	施設		施設	I 旅											
				老朽化した消防 団施設の建替えを 計画的に進めると	よる地域防災力の向上	_	実績達	3	施設				向上 (毎年 度)							老朽化した消費 替えを計画的に関 もに、仕様変更	実施するとと		
	5	消防団の充実 強化	消防 団課	ともに、消防団の 装備の充実強化を 図る。			成率	100.0	%					- 継続	101,852	95, 101	減額	5, 470	順調	計画的に配布する			
		7虫1七		また、消防団員 の活動を積極的に PRするなど、消防			目標	96.0	%	96.0	%	政令指定都市6 平均充足率以」	」 政令指 定都市							政令指定都市の 較対象とするたる 「96.0%」から	め、 「政令指定都		
				団への入団促進を 図る。	消防団員の充足率 ※中期目標改訂	89.1% (R4.4.1	実績	89. I	%				の平均充足率以上							市の平均充足率はした。	以上」へ変更		
							達成率	92.8	%				■ (毎年 度)										
				健康上特に注意やが 健康をなり、 をなり、 をなり、 をなり、 でる。 でる。 でる。 でる。 でいり、 でいりいり、 でいり、 でいりいり、 でいりいり、 でいり、 、			目標	_		_		_											
	6 3	あんしん通報 システム		装置を設急事業対 設急事業な対している。 を行うた。、系民間を ま対している。 まずす。 を対し、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	高齢者等の安全・ 安心な生活の実現	_	実績	_					高等全心活現年	継続	53, 522	48,779	減額	9,050	順調	利用者全員が ビスを利用できな 変運営を推進する	るよう安定的		あんしん通報システム設置 については、利用促進を図る
Ⅱ-2- (1)-③ 住みたで はたで を を を が を が を が を が を が り で り で り で り で り で り た り た り た り た り た				療・福祉スタッフ の24時間の相談が 応によりてはないしている。 できるよう支援 できるよう支援 る。			達成率	_														やや 遅れ	とともにサービスの安定的な 運営を推進する。 いきいきの説問について は、防火・防災に関する指導 を強化するとともに、住宅用 火災警報器の設置を促進し、 高齢者の安全・安心の向上を
援				介護職員初任者 研修を修りした消防団員が中心とし り、一人等を り、一人等を がいませばり			目標	2,464	世帯	2,464	世帯	2,240 世	火災や										図る。新型コロナウイルス感染症感染拡大が継続した場合 は、非対面式による広報活動 の検討を行う。
	7	いきいき 安 心 訪問	団課	し、防火・防災や家庭内での事故防止の指導、簡単なまりのお世話を行うといる。	消防団員による年 間訪問世帯数	_	実績	0	世帯				重大発生 の防 (安)	継続	8,840	8,736	維持	990	遅れ	住宅用火災警報 取り換えを促進 焼死事故防止を[し、高齢者の		
				福祉に関する相談 を関係機関につな ぐなど、高齢者の 安全・安心の向上 を図る。			達成率	0.0	%				度)										

消防局)				[Plan]	】計	画	/ [[Oo】 実が	<u> </u>						4		[Check]	評価	/_[Action】 改善
施策番号	No. 3 -N	基本計画の施策	主要事業		L				(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に	向けて	R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No. ゴール 番号	を構成する 主な事業・取組		事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	強化・見画 (課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
П-3-	4			【施策の内容】		アジア	目標	受入	受入	受入	アジア 地域か										アジア地域(海外)から研
1(4)-② 国力 流進 が進	8 (3) (4) (5)	み】 アジアの消防 リーダーとし	研修セン	アジア地域の消 防関係者を受け入 れ、北九州市消防 局の消防・防災に 関する技術移転を	【施策の指標】 アジア地域からの 研修員受け入れ継 続	地域か らの研	実績	0 名			で い い い ら り り り と 総 毎 り 継 毎 日 し に も し に も り し に も り し に も り し も り し し り し り し り し り し り し り り り り	継続	_	_	_	_	_	_	_	遅れ	が、引き続き国際協力機構 (JICA)と連携し、事業を進
~	0			行う。		76-176	達成率	0.0 %			度)										めていく。
				市主催の式典や 消防の各種行民会 に出演し、役割を 加向上の役割・音を かっとともに、 家の演奏やカラー			目標	95,000 人	95,000 人	. 95,000 人								令和4年度に した小編成での 令和5年度から			小編成での演奏活動など、 新型コロナウイルス感染症の
Ⅲ-2- (2)-② 市文代活 の で で で に 活 り の に り の に り の に り の り り り り り り り り り	q (4) (6) (6)		研修セン	ガード隊の演技を活動や防力でで、小・防動を実施する。 は他のなる。	消防音楽隊出演の 聴衆者数	91,895 人 (RI年 度)	宇	6,145 人			95,000 人 (毎年 度)	継続	6,546	6, 284	維持	4,615	遅れ	る。また、新製物では、新製物では、新製物では、新製物では、大変では、できないでは、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変	ーク北九州で ート」は、新 ンス感染症の拡	遅れ	加工 拡大防止対策を徹底した上 で、今まで休止してた活動が を再開し、消防の広報に努める。 また、九州地区消防音楽隊 合同演奏会を本市で開催する
				健全な育成等に寄 与するででは を を を を を を を を を を を を を を を を を を			達成率	6.5 %										天防止対策をも 再開し、防火・ を推進する。			予定である。
VII-I- (3)-② 上下水	4			【施策の内容】		アジア	目標	受入	受入	受入	アジア										アジア地域(海外)から研
道防通のにる消交ど野け際	10 🗓	み】 アジアの消防 リーダーとし	訓練の研修シー	アジア地域の消 防関係者を受け入れ、北九州市消防 局の消防・防災に 関する技術移転を 行う。	【施策の指標】 アジア地域からの 研修員受け入れ継 続	地域か らの研	実績	0 名			ら 修 り り り り り り 続 兵 続 兵 兵 兵 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年	継続	_	_	_	_	_	_	-	遅れ	修員を受け入れる性質上、新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい事業であるが、引き続き国際協力機構 (JICA)と連携し、事業を進めていく。
協力の推進	9			11) 0			達成率	0.0 %			度)										a) (v , / °

上下水道局

上下水	坦尼	٦																			
						(Plan)	】計	画	/ [D	o】 実施							+		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号	No. 3	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	5の成果指標(目標・実績)			放来の	年度		事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO. ∃	番号	主な事業・取組	所管 課名	事 未 · 权租 似 安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性 予 (4	算額 ·円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
II-I- (4)-(4)					近年、集中的な 豪雨に起因する浸 水被害が増加して			目標	1 地区	3 地区	5 地 区	重点整備地区									今後も整備箇所ごとの現場
総合的 な災害 対策の	1	6 1 (3)	浸水対策事業	下水 道計 画課	いる。 浸水被害を抑制 するため、公共下 水道の整備を進	浸水被害の抑制 (累計)	_	実績	l 地 区			(9地区) の雨水 整備 (R7年	継続 2,85	0,000	2, 930, 000	維持	165, 200	順調	引き続き、計画的に整備を 進める。	順調	ラ俊も登禰固所ことの現場の状況に応じた最も経済的かつ効率的な方法を検討し、整備を行っていく。
推進					め、流域全体の浸水に対する安全度 の向上を図る。			達成率	100.0 %			度)									
					大規模な地震が		浄水施 設耐震 化率 33.2%	目標	浄水 59.2% 配水池 55.7%	浄水 59.2% 配水池 55.7%	浄水 59.2% 配水池 57.7%	浄水施 設耐震 化率 77.5%									
	2		地震対策事業 (水道施設)	計画課	の耐震化を実施す	浄水施設耐震化率 配水池耐震施設率	(RI年 度) 配水池 耐震施 設率	実績	浄水 59.2% 配水池 55.7%			(RI0年 度) 配水池 耐震施 設率	継続 78	964	258,001	増額	4,610	順調	耐震化計画に基づき、計画 どおり耐震化を実施してい く。	Ū	
Ⅱ-I- (4)-⑤ 公共施					るもの。		54.1% (RI年 度)	達成率	100.0 %			60.1% (R7年 度)								uit Ara	水道施設及び下水道施設に
設など の耐震 化の推 進					大規模な地震が 発生した場合にお いても、最低限の 下水処理が行える ように下水道施設			目標	20.0 %	46.7 %	53.3 %	重要な								一順調	ついて、引き続き、計画どお り耐震化を実施していく。
	3		地震対策事業 (下水道施 設)	施設課		重要な15ポンプ場 の耐震化率	_	実績	20.0 %			15ポンプ 場の耐 震化率 73.3% (R7年	継続 190	,000	150,000	減額	10,690	順調	引き続き浄化センターに近接するポンプ場や災害拠点病院などからの排水を受ける重要な15ポンプ場の耐震化を優先的に進める。	i i	
					どから排水を受ける重要な15ポンプ場の耐震化に取り組む。			達成率	100.0 %			度)									

	卜小 玑	色内				[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施						4		[Check]	評価	/ [Action】 改善
			基本計画の旋等	主要		[F Tull]					目標・実績)			_{は思の} R4年度	R5年度		人件費	R3年度			R3年度	R5年度に向けて
	養番号 施策名	SDGs O. ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	事業所管	事業・取組概要	指標名等	現状値	.ы пш ч	R3年度		R4年度	R5年度	中期	方向性 予算額	予算額	事業費 の増減	金額	事業	強化・見直(課題に対する	した内容	局施策	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
			107X W	課名	アジアを中心(とカンボジアフを地域(トナカンボジアフつ取談のイナカなど)を強いる。 できない 海外などに 後員受人などに また かんじん かんじん かんじん かんじん かんじん かんじん かんじん かんしん かんし	James 4	(基準値)	目標		A	380 人	100 人	目標	(千円)	(千円)		(千円)	評価	引き続きアジ た国や地域への 海外からの研修	アを中心とし 職員派遣や、	評価	(沐超に対する以音ガルです)
国际力	·3- ·-② 祭協 · ・ が推	(1) (3) (6) (8) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	上下水道技術 の国際協力		り術では、 ・本本の対域を ・本本の ・大変を ・大変を ・大変を ・大変を ・大変を ・大変を ・大変を ・大変を	海外からの研修員 受入人数	_	実績	28	Д			海技の世水改貢外術育・界環善献の者成の境に	継続 72,982	61,094	減額	27, 030	遅れ	て成まなでは、 対象はでは、 対象では、 対象では、 はないでは、 とはないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とないでは、 はないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とないでは、 とない。 とない。 とないと。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない	術協力を通り 一クの構築技 一の間の目のは のすする ラープリ、 でより によりに がある。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 で	遅れ	日明浄化センター(ビジターセンター)などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。
					に貢献する。国際技術は力を承している。国際技術のを通じ、関連を通じまり、のののでは、ののでは、のののでは、できないでは、できないでは、できないできない。			達成率	7.4	%									の研修員受入人 令和5年度の目標 た。			
	· - -① 全で				老朽化した配水管を計画的に更新			目標	38.5	km	77 km	113.0 km										
安てしめ	定し おい く飲 る水	5 (9) (1) (3)		計画課	することにより、 漏水、赤水、不出 水の解消や管破損 事故を防止し、安 全で安定的な給水	配水管の効率的・ 計画的な更新 (累計)	_	実績	31.6	km			185km (R7年 度)	継続 5,615,056	5, 242, 727	7 減額	296, 125	順調	アセットマネ 法を取り入れた 更新計画に基づ 施する。	第六期配水管	順調	配水管更新事業について、 第六期配水管更新計画に基づ き、計画どおり更新を実施し ていく。
道(備	の整				を確保する。			達成率	82. I	%												
III - (3)	· - -3				合流式下水道で 整備された地区 は、大雨時に雨水 で帯れる			目標	84.0	%	93.0 %	100.0 %	人法北									
快速	意質な 質な環つ下	6 (3)	合流式下水道 改善事業	下水 道計 画課	荷を分流式下水道 並みに軽減するた	良好な水環境の実現(合流改善達成率 R5:100%)	_	実績	84.0	%			合流改 善成 (100%) (R5年 度)	継続 1,600,000	1,600,000	維持	121,150	順調	引き続き、計進める。	画的に整備を		今後も整備箇所ごとの現場 の状況に応じた最も経済的な 方法を検討し、整備を行って いく。
整化					め、合流式下水道 の改善に努め、良 好な水環境をつく る。			達成率	100.0	%												

上下水	. 理	回				(Plan)	計	画	/	[D	o】 実カ								4		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
		coc-	基本計画の施賃	主要事業							目標・実績)				-1- PI -	R4年度	R5年度	士业排	人件費	R3年度	R5年度に向		R3年度	R5年度に向けて
施策番号 · 施策名	No.	SDGs ゴール 番号	を構成する主な事業・取締	事業 所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年/		R4年度	R5年	度	中期目標	_成果の 方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	事業費の増減		事業評価	強化・見直し (課題に対するさ		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
VI-3- (3)-④ 下水な汚 の循環 利用		9			下水汚泥のバイ オマスエネルギー としての燃料化 や、さまざまな資 源の有効利用を行 う。	下水汚泥の有効利 用率	I00% (RI年 度)	目標 実績達成	100.0	%	100.0 %	6 100.0	%	100% (毎年度)	継続	1, 906, 447		維持	127, 275		引き続き、下水効利用していく。	ば資源を有	順調	引き続き、下水道資源を7 効利用していく。
					アジアを中心(カナ した国や地域ペトナム国ンボンイスの職員研 を登り海外などに海外などにあるどのでは、 でかった。 であるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 でもいるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるできるでは、 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで			率目標	380	人	380 人	. 100	A								引き続きアジア た国や地域への職 海外からの研修員	員派遣や、 受入によっ		
	8	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	上下水道技術 の国際協力	海外事業課	り 術で技術を 本市の 浄な 本市の 浄水 でが 大の でが でが でが でが でが でが でが でが でが でが	海外からの研修員 受入人数	_	実績	28	Д				海技の 世水改 外術育・界環善献 の 境に		72, 982	61,094	減額	27, 030	遅れ	て、にまたり、 対象地域の技 が貢献、主人りなる。技術 で、にまたりなるで、 ないるで、 で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	が協力を構築を が関連を が関連を がある。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		
VII-1- (3)-② 上下水					に貢献する。国際技技術協力を通じ、通じ、通じ、通じ、通じ、通じ、不通じ、不通に大変を対した。			達成率	7.4	%											の研修員受入人数 令和5年度の目標 た。			国際協力事業については、 日明浄化センター(ビジタ・センター)などの国際戦略 点を活用しながら、技術研 や視察などを受け入れ、効: 的な国際技術協力事業を実
道防通のにる協推、、な分お国力進消交ど野け際の					下水道分野な 大海外後化ののは、 大海外後化ののは、 や都市市まにが見れている。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			目標	6	件	6 44	‡ 6	件								国際技術協力で	*培った信頼	やや遅れ	する。 海外水ビジネスにについて ネスにのいて ジネスなが、 大加州市の連邦 がら、本市保証 がら、本市保証 を は がら、本に係る技術を製品 を で を は で と し た と し た と と と と と と と と と と と と と と
	q		海外水ビジネ スの推進	海外事業課	されている。本市 では、平成22年に 「北九州市海外水 ビジネス推進協議	市が関与するビジ ネス案件数	_	実績	6	件				海ビスじ元のと貢外ジをた企振国献水ネ通地業興際	紅松	114,075	115, 108	維持	49,870	順調	関ウ海をスが上でいる。は、集ネ元極ビネ、集ネ元極ビネ、国民併どを・信でいる。は、集ネ元極ビネ、国民併どを・信がいる。は、東京の一般のでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	の技術の が が が が が が が が が が が が が		つつ、受注拡大を目指す。
					は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は			達成率	100.0	%														

上下水道局

_	- 下水坦	问																				
						[Plan]	計画	i /	[0	o】 実施							([Check]	評価	/ [Action】 改善
抢	策番号	SDGs 基本計	画の施策	主要事業	* # # # # # # # # # # # # # # # # # # #		事業評	価の成界	早指標 (目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度		に向けて	R3年度	
•	施策名 No.	SDGs ゴール を構 番号 主な事	禁・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	R3:	年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価		直した内容 る改善方法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
(ア但化タ杉たイラネ	炭素 ピセン ピーを ほとし	① ③ ⑥ ⑥ 海外2 の 対 ② ⑦	#:#	毎事 業 課	どス増展大のてイ輪さで「ビ会がノしら持まよ件でせプ活ス進んのはかにが成も、フをて、九ネをすい計画で、不受業「ザし向る下海、やよ見長、フをて、九ネをすい計画で、不受業「ザし向る水外今都り込戦水ラ推い平州ス設るウ画、、地ビ注をウ北、け。が生も化場に野スす。22海進。術結く設業企本目開ー州ビ取分ビも化場に野スす。22海進。術結く設業企本目開ー州ビ取野ジ人のの、お等テる本年外協官力集り、運業ス指。タ」ジ組野ジ人のの、お等テる本年外協官力集り、運業ス指。タ」ジ組野ジ人のの、お等テる本年外協官力集り、運業ス指。タ」ジ組野ジ人のの、お等テる本年外協官力集り、運業ス指。タージ系は関係するの事では、	市が関与するビジ ネス案件数	7	 100.	件 件 0 %	6 件	6 件	海ビスじ元のと貢外ジをた企振国献水ネ通地業興際	継続	114,075	115, 108	維持	49,870	順調	関係のかない。 関係の力をは、 を動いでは、 を動いまでは、 をでいる。 は、 をでいる。 は、 をでいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	力官しス企業の大きなでは、一個では、大きないでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きない、大きなでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないかでは、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、はいいでは、大きないでは、は、はいいは、はいいくないでは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいは、はいは、はいいは、はいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいいは、はいは、はいは、はいは、はいいは、はいいは、はいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいは、はいは、はいいは、はいは、はいいは、はいいは、はいは、はいいは、はいはいはいは、はいはいは、はいはいは、はいは、はいはいはいは、はいは、はい	順直調	北九州市海外水ビジネスス 推協議会との機構を活下上で深めなり、 本市外の投援の大学のでは、 本市係の投援のでは、 本市係のとするとして、 本市係のとするとのでは、 本市係のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、

						(Plan)	計	画	/ [D	o】 実施							•		【Check】 評価 /	/ [I	Action】 改善
番号 No	SC	iDGs 基	基本計画の施策	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
策名 "	番	野主	を構成する主な事業・取組	所管 課名	学来:	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
- ②なとをさ					【施策の内容】 「小Iプロブレム」や「中Iギャッ プ」といった課題 に対応するととも			目標	65.0 %	70.0 %	80.0 %									順調	「北九州市学力・体力 アクション第2スラ ジ延長版」に沿った取組 施することで、教員活習 向上や家庭での生活習慣の充実などを 庭学習習慣の充実などを
*教 ***********************************	1	8 2 9 3	【施策評価の み】 35人以下学級 編制の実施	教職	に、教員が子ども と向き合う時間を 確保するため、小 学校全学年及び中 学校1年生において	【施策の指標】 子どもと向き合う 時間を確保できる いると感じている 教員の割合	(H30年	実績	58.4 %			80.0% (R5年 度)	継続	_	_	_	_	_	_		及子自自頃の元美なとして り、子どもたち一人と 力向上につなげていいて に、運動の好き子どもを育 体力の向上と豊かなスポ
					35人以下学級編制 を実施。その他の 学年は校長裁量に よって一部実施。			達成率	89.8 %												ライフの実現を図る。 「全国学力・学習状況 査」、「北九州市学力・ 状況調査」、「全国体力 動能力、運動習慣等調査
					確かな学力の水 着と全を目指属成 育課程の開発を 習数で で で で で で で を を を を を を を を を を の に の に の に の に り の に り の り の り り の り り の り り の り り の り り を を を を			目標	小6:100% 中3:100%	小6:100% 中3:100%	小6:100% 中3:100%								「北九州市学力・学習状況 調査」を実施し、児童生徒の		中核として、指導方法さいためのサイクルをも読書を立つまたが、して、指導方法さいたがのサイクルをも読いたが、といて、などもを中核施設に、地域などをいて子どもの読書が、となって子どものできたが、となって子どものできた。
2	2 (0	4 8 9 9 1 1 1	比九州スタン ダード推進事 業	づ 支援 選課	るとともに、全 小、中学校がス クールプランを作	全国学力・学習状 況調査の結果 (対 全国平均)	中3.97%	実	小6:98% 中3:97%			小6 :100% 中3 :100% (R5年 度)	継続	54, 938	53,057	維持	4, 150	順調	学習や生活の状況を把握する で指導の充実・改善に努 める。 また、各学校が各種学力等 査の結果を授業改善や学校を 査に活用見きなよううは おいました。		推進していく。 「子どもひまわり学については、令和4年度 規模程度の学校で実施
				情報 化推	一人の課題や施策 の効果を明らかに するとともに 学年の指導を行 工夫・改善を行 う。			達成率	小6:98.0% 中3:97.0%										分析研修の実施等の支援を行う。		
						授業以外で(月~	58. I% (H30年	目標	全国平均 (62.5%) 以 上	全国平均以 上	全国平均以 上	全国									
						金)I時間以上勉強している児童の割合(小学校6年生)	度) (参考: RI全国 平均	実績	58.0 %			平 以上 (R5年 度)									
3		4 8 9 3	子どもひまわ り学習塾		礎的・基本的な学力の確実な定着を図るため、小学校3年生から6年生及び中学校3年生ませ		66. 1%)	達成率	92.8 %				- 継続	89,250	78, 965	減額	7,800	順調	「子どもひまわり学習塾」 を令和4年度と同規模程度で 実施し、児童生徒の学習習慣		
	(7.子白堃	1友正	ドチ3年生を対象 に、放課後等を活用した学習機会を 提供する「子ども	授業以外で(月~	59.3% (H30年 度)	目標	全国平均 (75.9%) 以 上	全国平均以 上	全国平均以 上	全国							の定着と基礎的・基本的な学 カの定着を目指す。		
					ひまわり学習塾」 を実施。	金) 時間以上勉強している生徒の割合(中学校3年生)	度) (参考: RI全国 平均	実績	71.4 %			平均 以上 (R5年 度)									
							69.8%)	達成率	94.1 %												

					[Plan]	計	画	/ [[Do】 実施						-		【Check】 評価	/ [/	Action】 改善
番号 No	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)			成果の R4年度		_	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	学 来:"似粒'M.安	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性 予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法
				子ども読書プラ ンに基づき「すべ	平日に授業時間以	小:	目標	全国平均 (小:24.0% 中:37.4%) 以下	全国平均 以下	全国平均 以下									
				マの子どもが、 日々の生活の中で すすんで本を手に 取って読み、子ど	外で全く読書をし ない児童生徒の割 合(小学校6年 生・中学校3年	20.7% 中: 39.6% (RI年	実績	小:15.3% 中:28.7%			全国平 均以下 (R7年 度)								
			学車	も同士や家族など と楽しく語り合う 日常」を目指す。 「学校における読 書活動推進事業」	生)	度)	達成率	小:136.3% 中:123.3%									「北九州市子ども読書プラン(第4次計画)(令和3~7年度)」に基づき、子ども図書		
			授業づくり支	の充実を図り、各 学校の学校図書館 の整備充実を一 推進する。また 指定中学校区を拡			目標	80 件	80 件	80 件							館を中核施設として、家庭、 学校、図書館、地域などが- 体となって子どもの読書活動 を一層推進する。	- b	
4	4	学校における 読書活動の推 進	援画 中國 中國	充し、学校図書館 の開館時間の延長 や読書冊数等の観 点で、適正な担当	読み聞かせボラン ティアバンクから の派遣件数 ※中期目標改訂	82件 (RI年 度)	実績	12 件			160件 (R7年 度)	継続 384,34	7 381,400) 維持	5,400	順調	また、今後は授業において 学校図書館や資料を利用する 機会が増えるよう、一学をが増報を ター・情報センターを 機能をより一層充実させる。	5	
			^毘 仕課 子で	校区数なども含め た事業の効果を書館 める。学校図書館 主任に学校図書館 教育講習会を実施			達成率	15.0 %									【中期目標の変更内容】 「北九州市子ども読書プラン(第4次計画)(令和3~7年度)」における成果指標の令		
			書館	し、読書活動の活 性化への意識と、 学校図書館運営の 中核としてリー ダーシップをとる			目標	50 人	50 人	50 人							及りにおいる版本指標のマ 和7年度目標値に合わせるため変更する。		
				ことについての意 識を高めるととも に、「学校におけ る読書活動推進事	子ども司書養成講 座認定証授与数 ※中期目標改訂	51件 (RI年 度)	実績	36 人		_	70人 (R7年 度)								
				業」の効果につい ての周知を図る。			達成率	72.0 %											

					[Plan]	計	画	/ [[)o】 実施							+		[Check]	評価	/ [A	ction】 改善
策番号 No	SDG:	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価	iの成果指標((目標・実績)	T		成果の	R4年度	R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	李朱 "小姐"说文	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する		局 他 東 評 価	(課題に対する改善方法等
						小5男子 :7/8項 目 小5女子	棕	全項目につ いて全国平 均値以上	全項目につ いて全国平 均値以上	全項目につ いて全国平 均値以上											
					全国体力・運動能 力、運動報 質の実技結果全国 平均値以上の項目 数	:7/8項 目 中2男子 :8/9項 目 中2女子	績	— (実技 未実施)			全にて平 以 (R5 度) (R5 度)										
						:7/9項 目 (H30年 度)	達成率	_										子どもたちが むとともに、体 けて日常的に運 に取り組む資質	力の向上に向 動やスポーツ		
	3		学教課 授	育基の子向中が大大大 を支ている体、でというできる。 一中が大大大大をでいてものだいでもでいた。 ででは、からないでは、では、 では、では、では、では、 では、では、では、 では、 では、 では		小男 92.9校: 学子,9校: 92.9学子,5% 中男,5%	目標	全 国工上学3.8% 小子:93.8% 小子:89.校9.校9.校9.校9.校9.校9. 中子:89.1% 少学:89.1%	全国平均以上	全国平均以上								すての組 のるム動ど、こ取て 学し外の運 やしかのに、 たいのでは、 はいのでは、 はいのでは、 はいのでは、 はいのでは、 は、 は	組引 校運向授業動を校り ほすっぽい で 重生進の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で		
5	4	体力アップ推 進事業	り援画 学保課支企課 校健	て、まが値をない。 も、自認生けるの。 も、自認生けるの。 も、自認生けるの。 も、自認生はでや図い。 は、と、の。 は、と、の。 は、と、の。 は、と、の。 は、、の、と、の。 は、、の、と、の。 は、、の、と、の。 は、、の、と、の。 は、、の、と、の。 は、、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の。 は、の、と、の、の、と、の、の、と、の、の、と、の、の、と、の、と、の、の、と、の	体育・保健体育が 楽しいと思う児童 生徒の割合	中女 85.4%年	実績	小子:94.6% 小子:94.6% 小子:89.29 中子:92.校 中学:92.校 中子:86.2%			全国平 均以上 (R5年 度)	継続	43,000	76,058	増額	3, 150		もる。児ない度健し化防を。本童かっに康たにでに「つ。洗歯の引え校り計のが、 おの引え校り計のが、 おの引えをに推画が、 おの引えをに推画をでたにつる合続受が進いが、	むが、まないが、またいでは、 が、最では、 でをはいる。 は、る歯ができます。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、		
				を図る。		小女?1.3% 中男?.4% 中男。4% 中女女? 83.6%)	達成率	小学校男子:100.9% 小学校女子:100.0% 中学校2.100.0% 中学校2.7% 中学时校2.7% 中学103.7%										図では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の促進、保護 等の取組を複 子どもの歯と		
							目標	58.7 %	59.5 %	60.3 %		1									
					う歯のない生徒の 割合(中学校1年 生)	55.5% (H29年 度)	実績達	58.7 %			60.3% (R5年 度)										
							莲成率	100.0 %													

秋月女					[Plan]	計	画 / 【[Do】 実施	į						+		【Check】 評価	/ [Action】 改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の成果指標((目標・実績)			风木の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	子术 似脏似女	指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等)
	, (3)	【施策評価のみ】	学校	「施策の内容」 子どもが発達の 段階に応じこさな知識でする に関する知識択する 力を身にこつける ともに、	【施策の指標】 「食育に関する授	小: 68.0% 中:	目 小:80.0 % 中:27.0 %	Ψ.27.0	小:80.0 中:30.0 %	小: 80.0% 中:	Gall G±				_				
	6 0	学校における 食育推進事業	教育 課	「食事の重要性」「心身の健康」	業を栄養教諭等が行った」と回答し	22.0% (H29年	利用 十・10・1			30.0% (R5年	継続						_		
		及日准延于未		「食品を選択する 能力」「感謝の	た学校の割合	度)				度)									
				心」「社会性」 「食文化」の観点 から食育を推進す る。			達 小:98.9 %中:59.6												
I-I- (2)-③ 心の教 育の推 進						小6: 82.7% 中3: 78.4%	全国平均 目 (小6:76.9% 標 中3:76.2%) 以上	全国平均以 上	全国平均以 上									順調	北九州道德郷土資料のさらなる活用や「特別の教科 道徳」などを通して、一層の道徳教育の充実を図るとともに、中学生芸術鑑賞教室など
					「自分にはよいと ころがある」と回 答した児童生徒の 割合	(H30年 度) (参考: RI	実 小6:76.1% 中3:75.3%			全国平 均以上 (R5年 度)									を通して、子どもたちのシ ビックプライド醸成に努め る。 人権尊重の視点に立った学
			学校育課		히 a	全国平均 小: 81.2% 中: 74.1%)	達成率 小6:99.0% 中3:98.8%			(支)									校づくりのため、個別人権課題を取り上げた人権研修を各校で行い、人権教育を推進する。
	4		指導 課	伝統文化や異年 ・地域交流の通り ・地域験を重要を ・の生き方にの ・の考えを深める		小6: 94.7% 中3: 94.4% (H30年	全国平均 (小6:95.5% 標 中3:95.0%) 以上	全国平均以上	全国平均以上								伝統文化体験学習や総合6 な学習の時間等を通して地 交流を実施する。	或	
	7 (5) (6) (7)	心の教育推進 事業	情報 化推 進課	道徳教育を教育活 動全般を通じて推 進。また、感受性 の豊かな中学生に	人の役に立つ人間 になりたいと思う 児童生徒の割合	度) (参考: RI 全国平均	実 小6:95.4%			全国平 均以上 (R5年 度)	継続	27,793	28,045	維持	3, 150		また、道徳教育についてい 「考え、議論する」道徳の 践を推進する。 中学生芸術鑑賞教室の内? については、中学生が感受し	¥	
			課授業づく	対して、芸術性の 高い演劇・音楽・ 美術等の鑑賞を通 して、豊かな情操 を養う。		小6: 95.2% 中3: 94.3%)	達 成 中3:100.3%										を働かせて鑑賞できる演目: 選定するなど、工夫する。		
			り 援 重 課			小5:	前年度 目 (小5:91.1% 標 中2:85.7%) 以上		前年度以上										
					住んでいる地域や 北九州市が好きと 回答した児童生徒 の割合	75. 89.7% 中2: 87.3% (RI年 度)	実 小5:92.6%			前年度 以上 (毎年 度)									
							達 成 中2:103.5%												

秋月女					[Plan]					実施							+		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号 · 施策名	SDGs No. ⊐' −1.		争莱	事業・取組概要	指標名等	事業記現状値	評価の	成果指標 R3年度	(目標・実 R4年度		 R5年度	中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に 強化・見重	に向けて 直した内容	R3年度 局施策	74.4 8 4 4 4 4 4
	4 (5) (8) (9) (9)	人権教育推進 事業	# / #	が的と切が権さを 地を がのと切が権さを がのと切が権さを がのと切が権さを がのと切が権さを がのと切が権き がのと切が権き がのと切が権き がのと切が権き がのと切が権き がのと切が権き がる	人権教育視聴覚教 材の活用(学校平 均活用回数)	(基準値)	目標実績	20 回	20	回	20 🗉	20回(毎年度)	継続	22, 144	22,144	維持	(千円)	順調	人権尊重の向い 校和問題、LGBTQ 手での大政指育を を が政治す が政治す が政治す が政治を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	、ハンセン病 果題を取り上げ 尾施する。人権 旨を踏まえた人 手についての指		(課題に対する改善方法等)
				6 施。 そのため、 教師で見りている。 教師で見りての理りで、 教師では関しての理解を 関して 層深 が を れるよう、 研修を 行う。			達成率	00.0 %											る課題解決に能 れならではのする を推進助成する	可けて、サーク f効な実践研究		
	4		44. 	「SDGs未来都市」への選定を受け、SDGs環境アクティブ・ラーニングとして小学校4年			目標	129 校	129	校	126 校	全小学 校 (126校)							「環境アクラング」を体験に で、自ら問題意 り主体的に問題	意識をもち、よ		
		環境教育推進 事業	情報 化推	生を対象とし、環境ミュージアムや サミュージアの体験的な で関わるが環境な で関する研究を で関する研究を	環境学習の実施校 ※中期目標改訂	129校 (RI年 度)	実績	28 校				(R5年 度) (休校 中の学 校を除	継続	14,629	13, 142	減額	9, 150	遅れ	とするため、限なる連携を図り施設の増加や充っム開発を進め	閉係施設との更 リ、見学できる む実したプログ ける。		
I -I- (2)-④				推進することにより、環境教育の充実を目指す。			達成率	21.7 %				()							【中期目標の変統廃合等によ			「環境アクティブラーニ」 グ」については、関係施設 の更なる連携を図り、見学
比市性か教充 外特活たの				【施策の内容】 学校生円滑い 会生活へように で中学・中学・児童生 の発達の段階に の発達の段階に応	【施策の指標】			小:129校 中:62校	小:129 中:62ホ	., .	小:126校 中:62校	全小中 学校 (小126									遅れ	きる施設の増加や充実した。 ログラム開発を進め、環境 育の充実を目指す。 地元企業を知る体験活動。 引き続き全校で実施し、発 段階に応じたキャリア教育。 推進する。
	10 8 9 10	み』 発達段階に応	学校 教育	じた支援を有別を を支活り、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	学、職場体験、企			小:129校 中:0校				校 (R5年 (R5年 (中のを (中のを (中のを	継続	_	_	_	_	_	-	_		
				能力を育成する。また、地元企業を地元企う方を知っても、大いても、大いても、大いの職場を充実していく。				v:100.0% 中:0.0%				<) ·										

					(Plan)	計	画	/	[Do	】 実施							•		【Check】 評価 /	/ 【Action】 改善
策番号 No	SD:	Gs 基本計画の施策 を構成する 号 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	指標名等	事業 現状値 (基準値)		の成果指標 R3年度		目標・実績) R4年度	R5年度	中期	成果の 方向性		R5年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額	R3年度 事業	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 R5年度に向けて 局施策 強化・見直した内容
-1-⑤も性ば育実		, 王な事業・収組	課名	小学校・中学 校・高等学校を図 高きたかに学校・・高等を図 をか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	担係力寸	(基準値)	目標	50	%	50 %	50 %	目標		(千円)	(千円)		(千円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価 (課題に対する改善方法順調 英語教育リーディング クール指定校6校においては、ALTを解駐とし、本市語教育を推進するリーダとして、小中9年間を見通た授業実践を行っていく、令和2年4月から施行しる「北九州市部活動の在
1	ı Q) 外国語教育の) 推進	学教課 教員 職課	学財に外域では、 学校手の国語語では、 学校手の外面では、 学校手の外面では、 学校手の外面では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	中学校卒業段階 で、英検3級程度 以上の生徒の割合	48.6% (RI年 度)	実績	46.8	%			50% (R5年 度)	継続	489,071 3	325,812	減額	9, 150	順調	英語教育リーディングス クール指定校(小3校、中3 校においては、ALTを常駐 配置し、その他の学校におい ても外国人ALTを活用して、 「やり取り・即興性」に特化 した授業づくりを継続的に行 う。	に関するガイドライン」: 学校において遵守される 徹底し、適正な部活動運 ための体制の構築に取り; む。 学校の要望に応じてIC 用に関する校内研修や授 くりへの支援を行い、IC
				を配置する。効果 的な活用を図り、 小学校外国語教育 を推進する。			達成率	93.6	%											積極的な活用や学校の教 動全体を通した情報教育 進する。 学校部活動の地域移行 け、モデル校での実践検 行い、在り方を検討する。
						67.5% (H30年	目標	全国平 ^均 (75.3% 以上		全国平均以上	全国平均以上	4.5								
				各教科等の目標 を効果的に達成す	ICTを活用した授 業ができる教員の 割合	度) (参考: H30全国 平均	実績	65.7	%			全国 平均上 (R5年 度)							GIGAスクール構想に伴って整備したGIGA端末の活用を推進するため、小学校・中学校・特別支援学校へのGIGA端	
ı	2 8) の 情報教育の推 が進	教育 情報 化推	るため、ICTの積極 的な活用を推進。 また、児童生徒 に必要な情報活用		69.7%)	達成率	87.3	%				継続	1,464,885 1,	, 693, 457	増額	9,900	順調	末活用支援訪問を行う。 GIGA端末を活用した協働型 かつ双方向型の学習環境の実 現を目指す。	
	C		進課	能力を育成するため、学校の教育活動全体を通した情報教育を推進する。	「児童生徒のICT		目標	69.8	%	75.0 %	80.0 %								【中期目標の変更内容】 「GIGAスクール構想の実現 に向けた計画」にて設定した 目標値のうち、数値の公表が	
				•	活用を指導する能力がある」とする教員の割合※中期目標改訂	_	実績	69.	%			80% (R5年 度)							遅い「全国平均以上」から実 数である「80%」に変更す る。	
					次 中期 日 惊 叹 刮		達成率	99.0	%											

教育安			-		[Plan]	計	画	/	[D	o] §	実施								+		[Check]	評価		Action】 改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策を構成する	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	標(目標・実	績)		+ +		以木の し	R4年度	R5年度	尹未貝	(目安)	R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号	を構成する主な事業・取組	所管 課名	1 20 2012 1902	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	Ę	R4年度	E	R5年度	中期 目標		方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	争果 評価	(課題に対する		戸 施東 評価	(課題に対する改善方法等)
				部活動計算の 充実と数目のの を実と図るたりのの を関いました。 をいまが動外に でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。			目標	100	%	100	%	100	%								「部活動外部 活用や、いて があるで があるで で ると屋の で 実と の 一 で の で の た に と と の た に に に に に に に に に に に に に に に に に に	動の振興を図 活動指導体制		
	3 4 ⑦	可		わって指導や引率 等導列を記置等では、 で行う」を配置を を記している。 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのできる。 でのでのできる。 でのでも。 とっと。 で。 と。 でのでも。 と。 でのでも。 とっと。 でっと。 で。 と。 でので。 と。 でので。 と。 でので。 と。 でので。 と。 と。 でので。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	部活動休養日を平 均して週当たり2 日以上取得してい る部活動の割合	-	実績	100	%				100g (毎 ⁴ 度)	¥	継続	103,905	88,521	減額	9,200	順調	減を図るため、 の「部活動指導 増やしていく。	週 時間勤務 員」の割合を ら施行の在りを 活動のとしてい方 活動イン」が各		
				品の購入など、生 徒が充実した部活 動を行える環境を 整備する。			達成率	100.0	%												徹底し、適正なための体制の構む。	部活動運営の		
I-I- (2)-⑥ 特別支 援教育 の充実					特別支援教育相談		目標	196	校	196	校	192	校								就学相談の申加、管害の程度	や状態の多様	順調	「北九州市特別支援教育推進プラン」の見直しを行い、同プランに示された5つの視点に基づく取組を、より現状の課題に則したものとするとともに、これらを関係各課と連携して確実に実施し、特別
					センターまたは、 特別支援学校のセンター的機能を活用した相談支援の 実施校数 ※中期目標改訂	164校 (H25年 度)		178	校				1924 (毎 ³ 度)	¥							化に伴い、マルマルでは、中国のは、中国のでは、中国のは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国のでは、中国	的に活用しな や関係部局と 期からの相 助言等によ		支援教育の一層の充実を図る。 小池特別支援学校の第2期 改築工事等については、現地 建替えのため、児童生徒の安 全性及び学校運営に配慮しな がら工事を実施する。
	4	を推進する全	支援 教育	特別を整備しています。 特別を整備しています。 一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、			達成率	90.8	%						継続	44,047	44,401	維持	56, 500	順調	ンターに引き続 や言語聴覚士を 後のな指導であ 援の充実を図る	配置し、就学 見据えた具体 を行う等、支		かっ土事と大売りる。 小舎北特別支援学校及び北 九州中央害等学園の移転改築 に係る実施設計については、 児童生徒が利用しやすい学校 施設となるよう配慮するとと もに、過大な費用を生じない
	Ø		セン	会の実現に向けて、所書の有無にかかわらず住みやすい北九州市を目指す。			目標	95.5	%	98.0	%	100.0	%								を図り、通常の ず特別支援学級 を行うことでい けられた教師支 助言を行う。	学級のみなら への相談支援 専門性に裏付		ような設計を検討する。 また、「特別支援教室」に ついては、小学校は、引き続き全市的に実施さととも に、中学校でも全市的に実施 に取り組む。 また、令和5年度から特別
					個別の教育支援計 画を作成した幼児 児童生徒の割合 (文科省「特別支援教育体制整備状 況調査」)	88.7% (H30年 度)		81.7	%				1000 (R55 度)	¥.							相談支援を活用関との連携を図 軟できめ細やかる切れ目ない支 を目指す。	りながら、柔 な対応ができ		支援学校に通うスクールバス に乗れない医療的ケア児につ いて、福祉タクシーに看護師 を同乗させて通学を支援する 取組を開始する。
							達成率	85. 5	%												【中期目標の変 統廃合等によ			また、医療的ケア児支援法 の施行に伴う医療的ケア児支援へ の支援体制の強化をはじめ、 特別支援教育を推進するため の人の配置を適切に行い、子 どもや学校の状況に応じて学 習や生活への支援を効果的に

						(Plan)	計	画	/	[D	o】 実施							-		[Check]	評価	<u> </u>	Action】 改善
番号	lo 3	DGs 基本計i	画の施策	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指	標(目標・実績)		_L #n	成果の		R5年度	尹未貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に 強化・見直		R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内
策名 "	₹ 1	きまな事	業・取組	所管 課名	李朱 祝祖城女	指標名等	現状値 (基準値)		R3年原	隻	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額 (千円)	事業 評価	(課題に対する		局施策 評価	(課題に対する改善方
								目標	-		_	_	特別な 支援が							小池特別支援等	学校の第2期		行う。 進路アドバイザーや 援コーディネーターを 用し、高等部生徒の就
						特別な教育的支援 が必要な児童生徒 の教育環境の改善	-	実績	_				必要な 児童生 後環境							改築工事等につい 建替えのため、り 全性及び学校運	児童生徒の安 営に配慮しな		を推進する。 市民・学校・企業とによる教材・教具・作
				44.00	障害のある児童 生徒がきめ細かで			達成率	_				の改善							がら工事を実施で 小倉北特別支持 九州中央高等学園	援学校及び北 園の移転改築		りを通して、障害種や 性に合わせた活動を展 更なる障害者理解の推
			- w	特別 支教 課	適切な指導と必要な支援を受けるために、少人数の指	居住地の校区外の		目標	11.8	%	11.0 %	10.0 %								に係る実施設計に 児童生徒が利用 施設となるよう配 もに、過大な費用	しやすい学校 配慮するとと		3 .
I	15	◆ 特別支⑩ を行う⑰ 備	援教育 場の整	施設	導や個別の指導を 中心に行う特別支 援学級の設置や生 活や学習上の困難	特別支援学級に通 学している対象児 童の割合(小学	14.2% (H30年 度)	実績	9.3	%			10.0% (R5年 度)	継続	1, 256, 150	3, 428, 485	増額	31,500	順調	ような設計を検討 令和4年度に引 障害、情緒障害、	討する。 き続き言語		
				学事 課	ないます。 を改善克服するための自立活動を行う通級指導教室を	12)		達成率	121.2	%										どの障害のある! 他校の通級指導! 通うことなく、!	教室設置校に 自校の通常の		
					整備する。	居住地の校区外の	01.5%	目標	17.6	%	16.3 %	15.0 %	15.0%							学級で教育を受り要な時間に特別なる「特別支援教室」については全市で	な指導を受け 室」を小学校		
						特別支援学級に通 学している対象生 徒の割合(中学 校)	21.5% (H30年 度)	実績	17.9	%			15.0% (R5年 度)							中学校は、令和5「特別支援教室」施する予定である。	5年度から 」を全市で実		
						100		達成率	98.3	%													
								目標	_		_	_	***							特確員ングに見 を接りなする な支援教特によ別の 別処法に見 に併育する さど後教をは、 で と と と と と と と と と と と と と と と と と と	接教育の関連を選択をを置慮をを変えのを変えのを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変えるを変える<		
ı	16	特別支を推進の配置	する人	支援 教育	生な切り支援の 生徒にびずり をするです場での でがでするで がでするで を で が で が で が の で が の で の で の で の で の で の	特別支援教育支援 員の配置や外部人 材の活用	_	実績	_				■ 教特支要幼童へ育別援す児生の 主なをる児徒適	継続	410,381	463, 759	増額	2,580	順調	士、言語は、通り 言語し任と連じた。 は近れば、 はた、 と連じた。 とで を が に を を を を を を を を を を を を を を を を を	型当(教員)や ながら、個々 援を行ってい ア児支援法の		
					育支援員の配置や 外部人材の積極的 な活用を行う。								切な支 援が図 れる状 態							応するため、特別 護師を増員配置す 域の小中学校に通 児に対応するため	⁻ る。さらに地 負う医療的ケア O、小中学校に		
								達成率	_											常勤の看護師をとし が療師をとし が病がの がでのかの構作 がでのかの構作 をを がでいる。 でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でのののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでは でののでのできまます。 でののでは でのでのでは でのでのでは でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	、て特別支援学 可するなど、医 的に支援する ら。 特別支援学校 バスに乗れない いいて、福祉タ		

						[Plan]			/	[D								+		【Check】 評価 /	 [A	ction】 改善
食番号 No	SDG	基本計画の を構成す 主な事業・	施策る	主要事業	事業・取組概要			評価	の成果指	ば標(目標・実績)	J	成果の	R4年度	R5年度	尹禾貝	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度 局施策	R5年度に向けて 強化・見直した内容
拖策名 "	番号	主な事業・	取組	所管 課名	3 %	指標名等	現状値(基準値)		R3年原	隻	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	(課題に対する改善方法等)	戸価東	(課題に対する改善方法等
						就労支援コーディ		目標	860	社	875 ネ	± 950 ሕ	±							進路アドバイザー、就労支		
					障害のある幼児 児童生徒の自立と	規企業開拓(累計)	815社 (H30年 度)	実績	938	社			950社 (R5年 度)							援コーディネーター、就労支 援専門家を有効に活用し、 大な就職先の開拓、就労に関 する情報の収集及び共有、併せ 習支援等の充実を図る。併せ		
ı	4 8 7 9		<u>*</u>	寺別 支援	社会参かな取組を 主体的、早期から 援及び地域や関係 機関と連携した進	※中期目標改訂		達成率	109.1	%				- 継続	10,005	9,066	減額	5, 900	順調	マスティック では、 で、特別支援学校雇用促進センミナーへの企業の参加を促し、障害者雇用の受入の拡大を図る。 また、特別支援学校高等部		
	(I))	季	果	路指導の充実を図 る。また、特別 援学校高等部卒や 生の社会参加や 業的な自立を推進			目標	46.8	%	48.4 9	6 50.0 9	6	,,_,,		,,,,,,	7,72	,,,,,,		において、令和3年度から本 実施となった「技能検定」を 引き続き実施し、就労に必要 な知識・技能・態度を学ばせ る等、卒業後の就労に向けた		
					する。	高等部卒業生の一 般就労率	42.0% (H30年 度)	実績	25. 9	%			50% (R5年 度)							支援をさらに強化していく。 【中期目標の変更理由】 すでに目標を達成したため。		
								達成率	55.3	%												
								目標	97.0	%	99.0 9	6 100.0 9	6							特別支援学級に配置する専		
				寺別		特別支援学校の教 諭免許状保有率	96.0% (H30年 度)	実績	99.8	%			100% (R5年 度)							門家(臨床心理士等)を有効 活用し、専門的見地からの指 施し、専門的見地かで、学級 導・助言を得ることで、学級 担任の専門性と授業力の向上		
1	4	教職員の!	孝言		特別な支援を要する児童生徒に専適と対した。			達成率	102.9	%				- 継続	10,516	9,692	減額	8,080	順調	を目指す。 また、読み書きが苦手な児 童生徒が障害の有無に関係な く適切に教育を受けることが		
	(7)	性の向上	孝七	具課	切な指導ができる 教職員の育成を目 指す。			目標	90	人	120	150								できるよう、音声教材やICT を活用し、児童生徒の障害の 状態や特性を踏まえた効果的 な活用と指導が行えるよう、 教員に対する指導及び助言を		
						特別支援教育にお けるミドルリー ダー研修修了者数 (累計)	-	実績	49	٨			150人 (R5年 度)							行っていく。 さらに、一人一台のタプ レット端末整備に伴い、児童 生徒の実態に応じてICT活用 の充実を図っていく。		
								達成率	54.4	%												

						[Plan]	計记	画	/	[Do]	実が	Ē						+		【Check】 評価 /	\ [A	Action】 改善
施策番号,	S S	SDGs J	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業	事業・取組概要			評価の	の成果指	i標(目	票・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
施策名	10.	番号	主な事業・取組	所管 課名	事来 机植帆女	指標名等(現状値 (基準値)		R3年度	ŧ	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
					障害のある子ど もと障害のない子 ども、あるいは			目標	_		_	_	障害が あって							教材・教具づくりの実施校 において、市民ボランティア の作品づくりを通じて、障害 種や地域特性に合わせた活動 を展開し、更なる障害者理解		
		4 p	障害者理解の 足進	支援	様々な年齢層のの 流機の方び共を の所が共生の 計画的で、 部画的で、 部世ので、 を ・ ・ ・ ・ に も に の に の に の に の に の に の に の に れ に れ に れ	市民の方の「合理的配慮」に関する理解を促進し、障害者理解の推進	_	実績	_	l			もて自し活る社のと、ら生き域の	継続	1,000	660	減額	5,400	順調	の促進を図る。 心のパリアフリーについて は、文部科学省の委託が終 ら特別・大学を見い中高等が 校の児童生徒が互いに交流が る機会を提供し、実際の交流		
					一層の促進につなげる。			達成率	_				実現							の中で互いの個性や多様性を 認め、尊重する意識の高揚が 図れるよう、引き続き既存の 経費の中で取り組む。		
-I-⑦さ学園の			Falls delte New York		【施策の内容】 「小!プロブレム」や「中!ギャップ」といった課題 に対応することとも	【施策の指標】		目標	65.0	% 5	70.0 %	80.0 %									順調	教職員研修の充実についは、「ki taQせんせいチャネル」をより分かりやすくしいものにするそとで、明日に+オンの情報取集、
進	20	® 3			に、教員が子ども と向き合う時間を 確保するため、小 学校全学年及び中 学校1年生において		48.7% (H30年 度)	実績	58.4	%			80.0% (R5年 度)	継続	_	_	_	_	_	_		議を通して、教員の指導、 上を目指す。 防災・減災教育の推進いては、引き続き、関係が や地域・保護者との連携
					35人以下学級編制 を実施。その他の 学年は校長裁量に よって一部実施。			達成率	89.8	%												視しながら各学校の災害 クなどを考慮し、実情に た実践的な避難訓練を実 る。
						7 164 144 4 5 7		目標	65.0	% 5	70.0 %	80.0 %										また、避難訓練の際にに 「北九州市防災プログラス を活用することを学校安全 画に位置付け、効果的な記
				教職員課	校務支援システ ムや校納金会計シ ステムを活用し		48.7% (H30年 度)	実績	58.4	%			80.0% (R5年 度)							令和5年2月策定の「学校に		訓練が実施できるようにする。
	21 ((R)	学校における 事務処理の効	学事 課	て、小・中・特別 支援学校及び幼稚 園における事務処 理の効率化、見直			達成率	89.8	%				- 継続	143,840	213, 131	増額	69,050	大変	おける業務改善プログラム< 第3版>」に基づき、より一 層教職員が子どもと向き合う 時間の確保やワーク・ライ		
	((7) E	率化・負担の 軽減	教育 情報 化推	し・縮減を行い、 業務の負担軽減を 行うことで、教職 員が子どもと向き	小学校、中学校、		目標	10	٨	5 人	. 0 人							順調	フ・バランスの充実を図ることができるよう、学校、教育委員会及び保護者が一体となって取組を進める。		
				進課	合う時間を確保する。	務時間外における(104人 (H29年 度)	実績	I	٨			0人 (R5年 度)							WATER CASE OF DO		
								達成率	190.0	%												

						[Plan]	計画	画	/ [0)o】 実施							+		【Check】 評価 /	 [A	ction】 改善
番号 No	SDI	Gs 基本	本計画の施策を構成する		事業・取組概要			評価	の成果指標((目標・実績)				R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容
東名 Nu	番	号主7	を構成する な事業・取組	所管 課名	事 未 ・収租似女	指標名等(基	見状値 基準値)		R3年度	R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
						振り返りシートに	_	目標	3.8	3.8	3.8								「北九州教師養成オンラインみらい塾」「みらい塾出前		
					社会の変化に伴	おける、研修に対(ト	3.88 H30年 度)	実績	3.8			3.8 (毎年 度)							講座」「新採教員応援講座 (FT*)」それぞれの接続を 意識した講座内容について検 討し、より効果的に教職員の		
2:	2 8	- 1 <i>7</i> (7)	職員研修の	教育セン	う新たな教育に対 応して、教職員の 資質能力の向上を 図るための基本的			達成率	100.0 %				継続	8, 207	8, 688	増額	16, 150	順調	力量を高め、質の高い新規採用者の確保を目指す。 「kitaQせんせいチャンネ		
	C	充	美	9-	な研修に加え、教 職員のニーズに応 じた専門的な研修 を行う。	新採教諭研修にお いて、教員になっ		目標	100 %	100 %	100 %			,	ŕ		,		ル」については、より分かり やすく、使いやすいものに し、SD動画や教材などを充実 させ、教員の指導力向上につ		
					213 7 .	て「よかった」 「どちらかといえ ばよかった」と回		実績	96.8 %			100% (毎年 度)							なげる。 「明日に+オンライン」では、短時間での情報取集、協 議を通して、教員の指導力向		
						答した教員の割合		達成率	96.8 %										上を目指す。		
					【施策の内容】 小中学校が義務 教育9年間の教育課 程や教育活動を一 体的に捉え、学力			目標	_	_	_	各中学									
2) み)	施策評価の 】 中一貫・連 教育の推進	学校 教育 課	向上、体力向上、 中Iギャップの解状 など中学校区教育 目標を設定し、 貫した考えを共有	【施策の指標】 各中学校区の課題 解決による教育的 効果		実績	_			F校課決き がる態 がる態	継続	_	_		_	_	_		
					しながら連携を行う「小中一貫・連 携教育」を推進する。			達成率	_												
				学校	【施策の内容】 児童生徒が、日 常生活の安全確保	./!		目標	小:100% 中:100%	小:100% 中:100%	小:100% 中:100%	小学校									
24	4 () み. D 防:	施策評価の 】 災・減災教 の推進		のために必要事項 を理解し、適切に 行動できるよう、 学校安全計画に基	【施策の指標】 9 各校の実情に応じ た避難訓練を学期 3 に1回以上実施 (H	10.7% P学校	実績	小:100% 中:100%			100% 中学校 100% (毎年	継続	_	_	_	_	_	_		
				課	づいた安全教育や 各校の状況に応じ た避難訓練等の取 組を推進する。			達成率	小:100.0% 中:100.0%			度)									

教育多						[Plan]	計	画	/	[D	o】 実施	į							+		[Check]	評価	/ [/	Action】 改善
施策番号		SDGs 基本	k計画の施策	主要事業	事業 取如棚 西		事業	評価	の成果指	標(目標・実績)				成果の		R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に「		R3年度	R5年度に向けて
・施策名	No.	番号主な	本計画の施第を構成するよ事業・取組	所管 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	隻	R4年度	R5年度		中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業評価	強化・見直(課題に対する		局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
								目標	q	校	8 校	7	校								児童生徒の安全			
I-I- (2)-⑧ 教育環 境の充 実	25		交施設老朽 対策事業	施設課	既存の学校施設 を安全で安心な状態で維持管理しいくために、計画 的に老朽化対策を 行う。	大規模改修工事実 施校数	_	実績	9	校			(~10校 (毎年 度)	継続	834, 900	1,877,100	増額	82, 100	順調	習環境を確保する 施設の適切な維持 るとと寿命化、「1 施設長再のに大き き、社改修)、外	寺保全に努め 比九州市学校 画」に基づ 見模改修(長	順調	平成30年3月に策定した 「北九州市学校施設長寿命化計画」の方針に基づき、学校 施設の老朽化対策を進める。
								達成率	100.0	%											の老朽化対策を達	進める。		
					「コミュニ ティ・スクール (学校運営協議会	地域学校協働活動		目標	90	%	前年度以上	前年度以	人上											
	26	4 ティ () ル、	ミュニ ィ・スクー 地域学校 動活動事業	教育	制度)」と「地域 学校協働本部」を	事業実施校に対し て行ったアンケー トの結果「教育的 効果が得られた」 と回答した学校の	_	実績	63	%			(前年度 以上 (毎年 度)	継続	48, 900	45, 554	減額	3, 825	順調	引き続き、コミスクールと地域等事業の一体的なかめに、推進員対象証校の実践校発表行う。	学校協働活動 推進を図るた 象の研修や検		
					域の更なる連携・協働を推進する。	한 a		達成率	70.0	%														「コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)」と
I-I- (3)-① 学校の						経済界との連携に		目標	129	校	128 校	126		È小学 校 26校)									順調	「地域学校協働本部」を一体的に機能させ、学校と地域の 更なる連携・協働を推進する。
カの発 揮					企業が持つ人材 や経営のノウハウ	ただける よる学校支援対象 校数 ※中期目標改訂	13校 (H25年 度)	実績	129	校				(R6年 度) (休校 中の学										経済界との連携による学校 支援事業については、引き続き、全小学校を対象校として 実施し、ため、学校教育につなげるため、学校教育に取り
	27		斉界との連 こよる学校		などを学校教育に 生かすため、地元			達成率	100.0	%				交を除 く)	継続	5,500	5,500	維持	5, 825	順調	これまでと同村接団事務局と連打験活動を推進する	隽しながら体		入れる。
			缓事業	課	による小学校応援 団」と連携しなが ら、学校支援を行 う仕組みづくりを	各実施校に対して 行ったアンケート		目標	100	%	100 %	100	%								【中期目標の変動 統廃合等による			
					実施する。	の結果「本事業が 順調に進んだ」 「ある程度うまく いった」と回答し	_	実績	95	%			(00% (毎年 度)										
						た学校の割合		達成率	95.0	%														

				(Plan)	計画	i / (1	o】 実施	į						-		【Check】 評価		【Action】 改善
策番号 N.	SDGs 基本計画の施策	3 21	事業・取組概要			価の成果指標	(目標・実績)			成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年	76.4 日十.6 6十
■策名 N	o. ゴール を構成する 番号 主な事業・取組	所管 課名	争来" 収租 帆 安	指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	中期目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等	D ILL	ま (課題に対する改善方法等
1-3全教支社実						全国平均 (70.1%) 以上	全国平均以上	全国平均以 上									順訴	近年のインターネット? の変化により、ネットパロールのみでは検知できい 問題事象が増えてい該でいるでは 電話やメールの相談のかければ 相談が伸びないことから、 SNSを活用した専門家によ
			インターネット 上のウェブサイト 等において、児童 生徒の不適切な書	スマホの利用について家庭内でのルールがある児童 生徒の割合 (小学校5年生)	度) (参 考:H30 全国平 均	実 64.7 %			全国 平均 以上 (R5年 度)							近年、児童生徒が使用し いるSNSのツールが学校掲 板やTwitterなどの不特定 数が書き込みを閲覧できる のから、LINEやTikTokなと	示 多 も	相談体制を引き続き維持 る。 「コミュニティ・スク (学校運営協議会制度) 「地域学校協働本部」を 的に機能させ、学校と地
2	8 O SNS相談事業	生徒指導	込等を把握し問題 の未然を図録してと対った を関係を可している。 でするに、研りでするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 でするに、 のるに、 のるに、 のるに、 のるに、 のるに、 のるに、 のるに、 の			達				- 継続	15, 300	13,500	減額	3,880	_	定の人からしか閲覧できな ものへと変化していました。 見童生徒の友達との電き 手段も変化しており、電 手段もり取りより、LINEな チャット機能でコミュニケ	い 絡 で の	更なる連携・協働を推進 る。 経済界との連携による 支援事業については、引き、全小学校を対象校と 実施し、学校の力の発揮
	V	課	また、児童フィウンの所持ている。 児童フィウンの所持でいるスマーをいるスマーをいるスマーをいるスマーでは、現までは、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 いまれば、 にもいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまれば、 ともいまな。 ともいまな。 ともいまな。 ともい。 ともいまな。 ともいまな。 ともいまる。 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、 とも、			全国平均 (67.9%) 以上	全国平均以 上	全国平均以 上								ションをとることが多くな ている。 そのため、ネットパトロルのみでは検知できない門事象が増えていることや間 やメールの相談窓口では相	- 題 話 談	なげるため、学校教育に入れる。
			て児童生徒や保護 者への啓発に取り 組む。	スマホの利用につ いて家庭内での ルールがある児童 生徒の割合 (中学校2年生)	度) (参 考:H30 全国平 均	実 64.6 %			全国 平均 以上 (R5年 度)							が伸びないことから、事ず 見直し、SNSを活用した専 家による相談体制を構築す る。		
					ı	達 成 95.1 % 率												
			中学校の学校部 活動は、生徒数が 減少し、部活動の 持続が難しく、ま			目票		80% 以上										
2	(9 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	生徒指導課	対が、 大大ならのとは、 大ならのとは、 大ならのとは、 大ならのとは、 が動したとない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	モデル校の生徒の満足度	1	実債			80% 以上 (R5年 度)	_	_	6,600	_	9,200	_	学校部活動の課題と成見整理し、児童生徒が、スカ 党理し、児童生徒が、スカ かことができる機会と確保 るため、有識者会議を立て げ、部活動の地域移行を追 ていく。	ー し す 上	
			業を行い、検証を 行い、推進してい く。		ı	達 成 率												

) ж		[Plan]			/			施							人件事		[Check]	評価		Action]	
施策番号 N	SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事業所管	事業・取組概要	11-17-11	事業	評価の			目標・実績		05 45 -	中期	成果の 方向性	R4年度 予算額	R5年度 予算額	事業費の増減		R3年度 事業	R5年度に 強化・見直		R3年度 局施策	7/- //	F度に向けて 見直した内容
他来石	番号	主な事業・取組	課名		指標名等	(基準値)		R3年/	芰	R4年度		R5年度	目標	力问任	(千円)	(千円)	の追減	(千円)	評価	(課題に対する	改善方法等)	評価		付する改善方法
				「コミュニ ティ・スクール (学校運営協議会	地域学校協働活動		目標	90	%	前年度以	上前	前年度以上												
3		コミュニ ティ・スクー ル、地域学校 協働活動事業		制度)」と「地域 学校協働本部」を 一体的に機能させ ることで、目標・ ビジョンの共有を	事業実施校に対し て行ったアンケートの結果「教育的 効果が得られた」 と回答した学校の	_	実績	63	%				前年度 以上 (毎年 度)	継続	48,900	45, 554	減額	3, 825	順調	引き続き、コスクールと地域 事業の一体的なめに、推進員対 証校の実践校発行う。	学校協働活動 推進を図るた 象の研修や検	1		
				通じて、学校と地域の更なる連携・協働を推進する。	割合		達成率	70.0	%															
					経済界との連携に		目標	129	校	128	校	126 校	全小学 校 (126校)											
				企業が持つ人材 や経営のノウハウ	よる学校支援対象 校数 ※中期目標改訂	13校 (H25年 度)	実績	129	校				(R6年 度) (休校 中の学											
3	31 4	経済界との連 携による学校		などを学校教育に 生かすため、地元 企業を中心とした 「北九州の企業人			達成率	100.0	%				校を除 く)	継続	5,500	5,500	維持	5, 825	順調	これまでと同 援団事務局と連 験活動を推進す	携しながら体			
			課	による小学校応援 団」と連携しなが ら、学校支援を行	各実施校に対して 行ったアンケート		目標	100	%	100	%	100 %	5					,		【中期目標の変 統廃合等によ				
				実施する。	の結果「本事業が順調に進んだ」 「ある程度うまくいった」と回答し	_	実績	95	%				100% (毎年 度)											
					た学校の割合		達成率	95.0	%															
-I-)-①				北九州市いじ め・非行防止連絡 会議において、い じめや非行防止等			目標	128	件	123	件	118 件								近年、児童生 化から、補導活				
少年	32 4	非行防止活動 の推進	生徒 指導課	に関係する機関係する機関係するの連携との連絡性のもにととも協協、 でよる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	暴力行為発生件数	148.3件 (H27~ H29年度 の平均 数値)	実	212	件				118件 以下 (R5年 度)	継続	650	650	維持	10,875	順調	中学生のような状校警察連絡協議:5年度より、62回数を4回から2回数を4回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回数を4回から2回から2回から2回から2回から2回から2回から2回から2回から2回から2	,かけることか :った。 :況を鑑み、学 :会では、令和 導活動実施回	! 順調	と連携を図	・、関係部局・]りながら、学 F防止活動を展
では、				規範意識育成事業 等の実施により、 児童生徒の健全な 育成を図る。			達成率	34. 4	%											数を4回から2世 行った。	11〜元旦して			

			[Plan	】計	画	/	[Do	】 実施	i						-		【Check】 評価	/ [Action】 改善
拖策番号 No	SDGs 基本計画の施策 主 を構成する 事				評価	の成果指標	票(目	目標・実績)		+#n	成果の	R4年度	R5年度	事業費	人件費 (目安)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容	R3年度	76.0 0 + 1 6 6 +
・施策名 "	SDGs 基本計画の施策 ・ を構成する ・ 主な事業・取組 ・ 課	'B'	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度	R5年度	中期 目標	方向性	予算額 (千円)	予算額 (千円)	の増減	金額(千円)	事業 評価	(課題に対する改善方法等)	局施策 評価	(課題に対する改善方法等
(4)-② いじめ や不登					目標	67.9	%	68.4 %	68.9 %	5								順調	長期欠席・不登校児童生: や不登校兆候にある児童生: ヘステップアップルームの: 習支援体制やオンライン学:
交は問えど の問えど を子の		児童生徒の人間 関係づくりや小中 連携による取組を	不登校児童生徒の 好転率(小学校)	63.9% (H29年 度)	実績	92.0 9	%			68.9% (R5年 度)									の充実を図るとともに、学 支援講師の配置や不登校対 リーダー研修会を実施する ど、校内支援体制の強化を る。
を援		推進することにより、長期欠席・不 登校の未然防止を 図るとともに、関			達成率	135.5	%										長期欠席・不登校児童生徒 や不登校兆候にある児童生徒 ヘステップアップルームの学 習支援体制やオンライン学習		る。 また、スクールソーシャワーカー、スクールカウン ラー等の専門家や不登校等 援センター、教育支援室、
		係機関やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携			目標	54.8	%	55.3 %	55.8 %	5							の充実を図るとともに、学校 支援講師の配置や不登校するな リーダー研修会を実施するな ど、校内支援体制の強化を図		リースクール等民間団体な 関係機関と連携を図りなが 不登校対策の充実に努める 特に、不登校等支援センタ
3	◆ 不登校等の総 生3 ⑩ 合的な対策の 指		不登校児童生徒の 好転率(中学校)	48.8% (H29年 度)	実績	92.3 9	%			55.8% (R5年 度)	継続	303, 627	358,717	7 増額	8,825	やや	る。 また、スクールソーシャル ワーカー、スクールカウンセ ラー等の専門家や不登校等支		では、市内4か所の教育支持室の施設設備の整備、「未へのとびらオンライン教育援室」における、学校との
	1 推進 課	不登校等支援センターにおいて、4 カ所の教育支援室 を統括するととも	1		達成率	168.4 9	%				74.176	,			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	遅れ	援センター、教育支援室、フ リースクール等民間団体など 関係機関と連携を図りながら 不登校対策の充実に努める。 特に、不登校等支援センター		報共有を密にした細かな支 を行うなど、更なる充実を 図っていく。 令和2年3月に改定された 「北九州市いじめ防止基本
		に、関係機関との 連携、広報活動、 電話相談対応、 GIGA端末を活用し た多様な学びの機 会の提供等を行う		小: 15.7人 中: 54.9人	目標	全国平均以	人下全	全国平均以下	全国平均以一	F							では、市内4か所の教育支援 室の施設設備の整備、「未来 へのとびらオンライン教育支援 選室」における、学校との情 報共有を密にした細かな支援		針」に基づき、各学校で定た「学校いじめ防止基本方針」を通して未然防止、早解決に向け、様々な取組をう。併せて、「北九州市い
		こ童生ならいたで、 でがいてがが送ばれていた。 では、がが送ばれていた。 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ではいいでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、ここでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	長期欠席児童生徒 数(1,000人あた り)	(H29年 度) (参考: R3全国平 均	績	小:34.3 中:88.6				全国 平均 以下 (R5年 度)							を行うなど、更なる充実を 図っていく。		め問題専門委員会」を運営し、いじめの防止等のため 調査研究等、有効な対策を 討していく。 各学校におけるいじめの
				小: 22.02人 中: 66.27人)	達成率	小:44.2% 中:66.3%													確な認知について、継続し 周知を図り、的確に実態を 握するとともに、未然防止 早期対応に取り組んでいく 「北九州子どもつながった
					目標	100	%	100 %	100 %	5									ログラム」の各学校での有な活用に向けて、研修を推する。 スクールカウンセラーに
		北九州市いじめ	いじめの解消率 (年度間)(小学 校)	98.0% (H30年 度)	実績	97.3	%			100% (R5年 度)									いては、未然防止・早期対 に注力し、組織的な相談体 の構築のため、定期的な評 や見直しを行うとともに、
3	4 (III) 生 14 (III) か対策の 5 (12) か対策の 15 (13) が 15 (13)	防止基本方針に基づき、いじめを適切に把握するととの			達成率	97.3	%				- 継続	264, 942	281,055	1 増額	8, 825	順調	引き続き、いじめ問題専門 委員会を定期的に開催し、本 市のいじめ防止対策や取組中		員拡充も含め教育相談体制 さらなる充実を図っていく アンケートや報告書を分析
	充実課	もに、児童生徒や 学校・関係機関に よるいじめ防止の 取組を推進する。	いじめの解消率	96.3%	目標	100	%	100 %	100 %	100%							の事案について助言を頂き、 いじめ防止対策の充実を図 る。		ることで、効果的な事業実 に向けて取り組むとともに 研修の実施や経験豊富なス
		- PVIII C JEAC 7 000	(年度間)(中学 校)	96.3% (H30年 度)	実績達	97.3	%			(R5年 度)									クールカウンセラーによる 導助言の仕組みづくりを行い、組織的な相談体制の確
					達成率	97.3	%												を図る。 スクールソーシャルワー カーについては、令和5年度

教育委	貝。	<u> </u>					[Plan]	計	画	/	[D	6】 実	施							4		【Check】 評価	/ [Action】 改善
炼 第釆早	施策番号 No. 50Gs 基本計画の施策 事 所がまる を構成する 所 課		主要			の成果指標(目標・実績)						R4年度	R5年	度事業	人件費	R3年度		R3年度						
・施策名	No.	. ゴール を構成する ^{番号} 主な事業・取組		双組	所管	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		R3年度		R4年度 R5年		R5年度	中期目標			予算3	予算額 (千円)	金額(千円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	局施第 評価	i 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
	35			4	三徒道	スクールカウン セラーを活用し て、児 最力行為な 登校や裏力行為な	スクーガールカウンセス クーボート機能 るにいて 活動して 「新して 「動して 「動して しなく 活動 回答して たき しなる」と		目標	100	%	100	%	100 %		<u> </u>				(113)		令和5年度においても対応でいた。 令和5年度防止生足の発見、 をき、未見動の見見、小やとは は対か5年をに対するでは、 を対し、るでは、 を対して、 を対し、 を対して、 を対し、 を対し、 を対し、 を対し、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	で面早学	においても引き強きという。 早期等け においり、 見き生徒の間き生徒の間を当りである。 またいの はいい という はい はい という はい という はい はい という はい
		③ 7.	スクールカワ ンセラーの配 選	配料	· 別 支育 果	どの未然防止や早期発見、早期解したのまれ、早期解しために、「心の専門家」であるスクールカランセラーを配置す			実績	100	%					毎年 継続	147,086	6 152,0	047 維持	6,850			取書なと豊	
						ే .			達成率	100.0	%												IJ	
	36 4	Φ.	D スクールソ- シャルワー カー活用事		生徒	を生力に問 ・ 関をこ等図 ・ 大阪では、 ・ 関をこ等図 ・ 大阪では、 ・ 関をこ等図 ・ 大阪では、 ・ 関をこり、 ・ 関係強にに解 ・ 関係強にに解 ・ 大阪では、 ・ 関係強にに解 ・ 大阪では、 ・ 関係強にの。 ・ 関係強にの。	スクールソーシャ ルワーカー等によ る解決・好転率	40.49% (H29年 度)	目標	46.0	%	48.0	%	50.0 %	%						順調		あ 系	
		<u>ق</u> پ		業業支	持別 泛援 女育				実績	54.3	%				50% (R54 度)	F 継続	88,70)	300 増額	7, 425			改よるツ	
									達成率	118.0	%													
	37 C					まけ問し促目様応人実ト座 まけ問し促目様応人実ト座 まけ問し収目様応人実ト座 まけ問し収目を際よする を			目標	90	%	90	%	90 %	ó						順調	市民の多様な学習ニーズに応えるべく、様々な機会とらえ人権学習と実施していく。テース指導者に対けい、市で、指導各を拡大でいる。 お事者の人権学者の人権学者の人権学者の人権場合会拡大を実施していく。		市民の人権教育の機会拡大 につながる効果的な研修を実 施するたし、講師選・テー プローチし、講師選エ夫して ・開催方法などを工夫して いく。
II-3- (1)-① すのの人 のの のの のの り		④ ⑤ 人相 ⑰	潅学習講	座調	企画課				実績	97.8	%				90% (毎 ⁴ 度)	F 継続	658	620	0 減額	3, 225			夫 シ 順調 民	
									達成率	108.7	%													